平成31年 第1回定例会

青木村議会会議録

平成31年3月6日 開会

平成31年3月19日 閉会

青木村議会

平成31年第1回青木村議会定例会会議録目次

第 1 号 (3月6日)

○議事日程	1
○出席議員	2
○欠席議員	2
○地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名	2
○事務局職員出席者	3
○開会の宣告	4
○議事録署名議員の指名	4
○会期決定	4
○村長挨拶	5
○報告第1号の上程、説明	12
○議案第1号の上程、説明	13
○議案第2号の上程、説明	16
○議案第3号の上程、説明	17
○議案第4号の上程、説明	18
○議案第5号の上程、説明	20
○議案第6号の上程、説明	21
○議案第7号の上程、説明	22
○議案第8号の上程、説明	27
○議案第9号の上程、説明	28
○議案第10号の上程、説明	29
○議案第11号の上程、説明	57
○議案第12号の上程、説明	59
○議案第13号の上程、説明	62
○議案第14号の上程、説明	64
○議案第15号の上程、説明	66
○議案第16号の上程、説明	69
○請願第1号の上程、説明	70

○平成31年度青木村社会福祉協議会会計予算の説明	7 1
○散会の宣告	7 3

第 2 号 (3月8日)

○議事日程	7 5
○出席議員	7 5
○欠席議員	7 5
○地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名	7 5
○事務局職員出席者	7 6
○開議の宣告	7 7
○議事日程の報告	7 7
○一般質問	7 7
堀内富治君	7 7
小林和雄君	9 5
宮下壽章君	1 0 7
松澤正登君	1 2 2
居鶴貞美君	1 3 2
山本悟君	1 4 3
坂井弘君	1 5 5
宮入隆通君	1 8 3
○会議時間の延長	1 9 3
○総括質疑	1 9 7
○委員会付託	1 9 7
○散会の宣告	1 9 9

第 3 号 (3月19日)

○議事日程	2 0 1
○出席議員	2 0 1
○欠席議員	2 0 2
○地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名	2 0 2

○事務局職員出席者	202
○開議の宣告	203
○議事日程の報告	203
○委員長審査報告	203
○報告第1号の質疑、討論、採決	207
○議案第1号の質疑、討論、採決	207
○議案第2号の質疑、討論、採決	216
○議案第3号の質疑、討論、採決	217
○議案第4号の質疑、討論、採決	219
○議案第5号の質疑、討論、採決	219
○議案第6号の質疑、討論、採決	220
○議案第7号の質疑、討論、採決	224
○議案第8号の質疑、討論、採決	229
○議案第9号の質疑、討論、採決	231
○議案第10号の質疑、討論、採決	234
○議案第11号の質疑、討論、採決	238
○議案第12号の質疑、討論、採決	239
○議案第13号の質疑、討論、採決	240
○議案第14号の質疑、討論、採決	240
○議案第15号の質疑、討論、採決	241
○議案第16号の質疑、討論、採決	242
○請願第1号の質疑、討論、採決	243
○閉会の宣告	245
○署名議員	247

平成 3 1 年 3 月 6 日（水曜日）

（第 1 号）

平成31年第1回青木村議会定例会会議録

議事日程(第1号)

平成31年3月6日(水曜日)午前9時開会

- 日程第 1 議事録署名議員指名
- 日程第 2 会期決定
- 日程第 3 報告第 1号 専決処分の承認を求めることについて
- 日程第 4 議案第 1号 青木村美しい村づくり条例について
- 日程第 5 議案第 2号 特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について
- 日程第 6 議案第 3号 職員の勤務時間及び休暇等に関する条例の一部を改正する条例について
- 日程第 7 議案第 4号 五島慶太翁顕彰事業基金条例について
- 日程第 8 議案第 5号 寄附採納について
- 日程第 9 議案第 6号 上田地域広域連合ふるさと基金に係る権利の一部を放棄することについて
- 日程第10 議案第 7号 平成30年度青木村一般会計補正予算について
- 日程第11 議案第 8号 平成30年度青木村別荘事業特別会計補正予算について
- 日程第12 議案第 9号 平成30年度青木村介護保険特別会計補正予算について
- 日程第13 議案第10号 平成31年度青木村一般会計予算について
- 日程第14 議案第11号 平成31年度青木村国民健康保険特別会計予算について
- 日程第15 議案第12号 平成31年度青木村簡易水道特別会計予算について
- 日程第16 議案第13号 平成31年度青木村別荘事業特別会計予算について
- 日程第17 議案第14号 平成31年度青木村特定環境保全公共下水道事業特別会計予算について
- 日程第18 議案第15号 平成31年度青木村介護保険特別会計予算について
- 日程第19 議案第16号 平成31年度青木村後期高齢者医療特別会計予算について
- 日程第20 請願第 1号 長野県の子ども・障がい者等の医療費窓口完全無料化を求める請願について

出席議員（10名）

1番	宮入隆通君	2番	坂井弘君
3番	松澤正登君	4番	金井とも子君
5番	宮下壽章君	6番	杳掛計三君
7番	居鶴貞美君	8番	小林和雄君
9番	堀内富治君	10番	山本悟君

欠席議員（なし）

地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名

村長	北村政夫君	教育長	杳掛英明君
総務企画課長兼事業推進室長	片田幸男君	参事兼建設農林課長兼農業振興係長	花見陽一君
住民福祉課長兼保健衛生係長	小宮山俊樹君	教育次長兼公民館長	横田孝君
保育園長	若林喜信君	会計管理者兼税務会計課長	多田治由君
建設農林課長兼建設係長	宮下剛男君	商工観光移住課長	新津俊二君
建設農林課長兼上下水道係長	横沢幸哉君	住民福祉課長兼補佐支援長兼地域包括センター長	宮澤章子君
住民福祉課長兼住民福祉係長	上原博信君	総務企画課長兼補佐係長	稲垣和美君
総務企画課長兼企画財政係長	小林利行君	総務企画課室長	塩澤和宏君
建設農林課長兼国土調査係長	小林義昌君	総務企画課長	小林宏記君
代表監査委員	内藤賢二君		

事務局職員出席者

事務局長 片田 幸 男

事務局員 稲垣 和 美

開会 午前 9時00分

◎開会の宣告

○議長（沓掛計三君） 皆さん、おはようございます。

定刻になりましたので、ただいまから平成31年第1回青木村議会定例会を開催します。

ここで、本年2月5日に90歳で御逝去されました、名誉村民、青木診療所長、故、小川原辰雄先生に心から哀悼の意を表し、これまでの長年にわたる御功績に敬意と感謝を申し上げますとともに、故人の御冥福をお祈りするため、黙祷を捧げたいと思います。

御起立ください。

黙祷。

[黙 祷]

○議長（沓掛計三君） お直りください。

御着席ください。

◎議事録署名議員の指名

○議長（沓掛計三君） 日程第1、議事録署名議員の指名を行います。

会議規則第115条の規定により、1番、宮入隆通議員、5番、宮下壽章議員を指名いたします。

◎会期決定

○議長（沓掛計三君） 日程第2、会期の決定についてを議題とします。

お諮りします。

去る2月22日、議会運営委員会において、本定例会の会期は本日6日から20日までの15日間と決定されましたが、これに御異議ございませんか。

[「異議なし」の声あり]

○議長（沓掛計三君） 異議なしと認めます。

よって、会期は3月20日までの15日間と決定いたしました。

日程について、事務局より別紙、日程表をお配りいたします。

〔日程表配付〕

○議長（沓掛計三君） 日程について申し上げます。

本日6日開会、議案説明のみで散会といたします。7日は議案審議のため休会、8日金曜日は一般質問と平成31年度一般会計及び特別会計予算の総括質疑と委員会付託を行います。9日土曜日と10日日曜日は休日のため休会、11日月曜日は総務建設産業委員会の委員会審議、12日は議案審議のため休会、13日水曜日は社会文教委員会の委員会審議、14日と15日は議案審査のため休会、16日土曜日と17日日曜日は休日のため休会、18日は議案審査のため休会、19日火曜日は委員長報告・審議・採決、20日は審議・採決といたします。

◎村長挨拶

○議長（沓掛計三君） ここで村長より挨拶があります。

北村村長。

○村長（北村政夫君） 皆さん、おはようございます。

本日、平成31年第1回青木村議会3月定例会を招集いたしましたところ、全議員の皆様方に御出席をいただきまして、まことにありがとうございます。

日ごろ、議員の皆さんには、村政の運営に御理解と御協力をいただいておりますこと、お礼を申し上げたいと存じます。

青木診療所で、58年間、村民の医療に携わり、村民が敬愛してやまない小川原辰雄先生が、2月5日夜、御逝去されました。先生の長年の御恩に報いるため、議会の決議をいただきまして、村民葬をもってお送りさせていただきました。2月17日、この御葬儀の日には、1,000人を超えるたくさんの方々にお別れをいただきまして、先生がいかに村民の皆さんから厚い信頼を受けていたかを改めて実感した次第でございます。村民の皆さんとともに、謹んで小川原辰雄先生の御冥福をお祈りしたいと思います。

さて、ことし5月に皇位の継承が行われ、平成の時代が終わり、新時代へ移行することになります。

平成31年のこの間で、村にとりまして最も大きな転機となったのは、平成の大合併ではな

かったでしょうか。約3,200あった市町村は、現在1,724となりました。結果といたしまして、私どもの村はこれにくみせず、自主自立の道を選択して歩んでまいりました。そのために、村民の皆さん、議会議員の皆さん、そして行政の私たちも精いっぱい努力をしてまいりました。

小さい村だからこそ、国道143号青木峠新トンネルの整備促進や道の駅あおき・ふるさと公園あおきの整備、そして水道5カ年事業、また福祉・医療・教育等、村独自の事業において、村民の皆さんの思いが早期に実現できたのではないかと考えております。合併の道を選んだ周辺の町村の皆さんからは、その選択が正しかったと賛美されております。

最近、「満州分村移民を拒否した村長」という本を読みました。その粗筋を御紹介申し上げますと、戦前、中国東北部への満州移民は国策として進められた。全国各地から32万人余の移民者が海を渡った。終戦時の移住者約27万人のうち約8万人は、二度と故国の土を踏むことはなかった。満州移民は、国や県が市町村に対して移民させる数を割り当て、半ば強制的なものであったが、この国策をみずからの良心に基づいて拒んだ村長がいた。その人物が佐々木忠綱である。下伊那郡大下条村の村長として、満州への分村移民を迫られた佐々木は、苦渋の末、これを拒む道を選ぶ。この決断は、結果として、仮に分村していたら不可避だった敗戦に伴う悲惨な犠牲から、多くの村民を救うことになった。

この本を読みながら江戸時代の義民のリーダーたちを思い、そして平成の合併にくみしなかった現代の青木村にオーバーラップして、胸が熱くなりました。また、この国策に、当時の青木村も積極的には参画しておりませんでした。このことを念頭に、今後も世の中の流れに身を任すことなく、自分の立ち位置をしっかりと確認しながら、村政を担当していかなければならないとも思いました。

内閣府の2月21日付、月例経済報告によりますと、「景気は、緩やかに回復している。先行きについては、雇用・所得環境の改善が続く中で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、通商問題の動向が世界経済に与える影響や、中国経済の先行き、海外経済の動向と政策に関する不確実性、金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある」とのことです。

青木村の今年度の出生数は、2月8日現在17人で、今後出産予定の方を含めると20人から22人となり、昨年度の22人とほぼ同数になります。また、第3子以降の出産をされる方は、一昨年はゼロ人でございましたが、昨年度は6人、ことしも5人と、喜ばしい状況が続いております。子は村の宝であるとの信念のもと、今後も出産祝い金、保育料の軽減など、

子育て支援策を積極的に進めてまいります。

続きまして、さきの12月定例議会閉会後の今日までの主な行政報告をさせていただきます。

1月2日、青木村成人式が行われました。ことし、成人になられた方は、男性17人、女性20人の計37名でありました。恩師やクラスメートとの久しぶりの再会を喜び、落ちついた和やかな雰囲気の中での式典となりました。新成人の代表から、家族や青木村への教育への感謝とともに、新たな決意が述べられました。また、祝賀会では、「村に帰って地域に貢献したい」など、頼もしい言葉を聞くことができました。

1月13日、新春恒例の青木村消防団出初め式が盛大かつ厳粛に行われました。女性消防団と小学生によるあおきっ子消防応援団も参加しての行進・観閲・式典が行われ、伝統ある青木村消防団のますますの発展を誓いました。

1月18日、五島慶太翁の御縁によりまして、東京都市大学との包括連携協定を締結させていただきました。本協定によりまして、地域の産業、環境保全並びに人材育成等のため、産業振興、地域づくり等の分野におきまして相互に協力することになりました。

1月27日、東京都市大学の角田光男氏を講師に、「青木村の偉人 五島慶太翁の軌跡を振り返る」と題しまして、「誇らしきわが郷土再発見事業記念講演会」が青木村文化会館で開催されました。実業家としてのみならず、教育者としても、そのスケールの大きさに感銘を受けました。村外の方も含めまして、予想以上の大勢の方に御参加をいただき、翁に対する関心の高さを感じました。

また、参加者の中に、松本市にお住まいの元東京都市大学教授の方から、翁は、これからは原子力の平和利用の時代だと言って、大学は、昭和35年、他に先駆けて原子力研究所を開設し、米国から教育研究用小型原子炉を購入し、設置したというお話を伺いました。初めて知る翁の一面でありました。

2月3日、26回目の青木村大節分祭を盛大に行うことができました。どんぶりの会などを中心とする実行委員会の皆さんには感謝を申し上げます。毎年、子供さんたちには大変喜んでいただいております。

2月4日、3年目となります青木村青年農業者グループ「若人の会」座談会・懇談会に出席し、皆さんの悩みや自慢話などを伺うとともに、関係する村の状況をお話しし、激励をいたしました。約30人のメンバーは、月1回の定例会を通しまして仲間づくりや情報交換を行っているとのことで、今後ますます元気で活躍してくれることを期待しております。

2月9日、東京急行電鉄株式会社社長、高橋和夫氏をお迎えし、五島慶太翁生誕の地大型

看板の完成式典を挙げていただきました。これを契機に、東急さんと深い御交誼をいただけますようお願いをいたしました。

大型看板に書かれているように、「未来を見据え、都市を拓き、人を育てた」翁の顕彰活動をしっかりする中で、子供たちが大きな夢や希望を持つきっかけになってほしいと思いました。

2月24日から3月1日にかけて、青木村地域自然エネルギー研究協議会の皆さんと、ミライズあおき設置セレモニーに出席するために、ラオス国シェンクワン県を訪問いたしました。

26日は、ビエンチャンでラオス日本大使館、JICAラオス事務所を訪問した後、シェンクワンに移動し、県庁でセレモニーの打ち合わせや現地確認を行いました。

翌27日、設置地のクワイオ村の集会所へ移動し、ミライズあおきの完成式典を行い、現地の皆さんには大変喜んでいただきました。このエネルギー供給システムが、国の援助を得て、民間の力でさらに発展することを期待しております。

3月3日、宝暦義民祭に出席してまいりました。1761年の宝暦騒動から258年を経て、なお義民の徳を偲ぶ地元の皆さんの高邁な精神に感動しました。

3月5日、昨日でございますけれども、長野県消防防災航空隊殉職者二周年追悼式に出席してきました。県消防防災ヘリコプター、アルプスの事故から2年目を迎えました。身命を賭して数多くの人命を救い、山林火災から県土を守った消防防災航空隊員の功績を偲び、二度と事故を起こさない誓いをしてまいりました。

以上、主な行政報告をさせていただきました。

さて、次に、今年度の主な事業の進捗状況について申し上げます。

まず、総務企画課関係でございますが、役場庁舎空調設備改修設計、これは達成いたしました。役場庁舎電話設備機器等の更新、達成、地域おこし協力隊の新規採用者の報償、1名採用、防犯灯新規設置工事、達成、Jアラート機器更新、90%、これは年度末には完成をいたします。消防団員出動手当、これは年度末に支給の予定でございます。地方創生プロジェクト推進交付金採択2事業、これにつきましては達成をいたしました。

飛びまして、税務会計課関係、固定資産台帳等基礎資料整備、達成。

次に、住民福祉課関係、健康寿命延伸プロジェクトの取り組みについて、健康寿命延伸計画アンケート調査、達成。

次に、ページを移りまして、建設農林課関係でございますが、農業支援センターミニバス

クホーの購入、達成、農業次世代人材投資事業補助金、達成、村道村松国道北2号線の道路改良、繰り越し、田沢温泉バイパス道路新設工事、繰り越し、中村区向山2号線、それから下奈区滝山1号橋橋梁修繕工事、達成。

商工観光移住課関係であります、民間賃貸住宅家賃補助事業、達成、五島慶太翁顕彰事業、達成。

ページを移りまして、教育委員会関係であります。小中学校施設空調設備設置工事、繰り越し、小学校給食調理室ガス炊飯器の交換工事、達成、中学校ICT教育設備整備、達成、遠距離児童生徒の通学援助、達成、保育所の給食調理室の回転釜交換工事、3月の春休みに交換いたします。

次に、一般会計補正予算、専決につきまして申し上げます。

名誉村民であった小川原辰雄先生の御逝去に伴いまして、村民葬としてお別れをさせていただきました。その費用といたしまして、歳入歳出それぞれ285万2,000円を追加いたしまして、総額29億2,084万8,000円とする専決をさせていただきました。

平成30年度一般会計補正予算（第6号）につきまして、主なものを御説明申し上げます。

一般会計補正予算（第6号）は、歳入歳出それぞれ2,291万6,000円を追加いたしまして、総額を29億4,376万4,000円とするものでございます。

歳入の主なもの、総務企画課関係につきましては、寄附金一般寄附金、2社、1名の方から、五島慶太翁顕彰事業に60万円、総務管理費の寄附金として1,000万円、御寄附をいただきました。

次に、建設農林課関係でありますけれども、社会資本整備総合交付金事業、国の内示の減によりまして、三角といたしまして814万7,000円の減をいたしました。

次に、歳出の主なものについて申し上げます。

総務企画課関係でありますけれども、財産管理費、リフレッシュパークみやぶちの修繕154万円、役場庁舎空調設備修繕179万8,000円、義民太鼓保存会こまゆみ会国際交流事業補助金1,000万円。

住民福祉課関係につきまして、老人福祉費、くつろぎの湯燃料費が灯油の高騰のため252万円の増。

それから、建設農林課関係、社会資本整備交付金事業、村道国道北2号線道路改良工事費200万円。

教育委員会関係につきましては、児童福祉費、保育所費、賃金、未満児のアレルギー給食

対応職員として405万円、小学校工事請負費、プロジェクター型の電子黒板設置工事152万7,000円、小中学校空調設備設置工事費につきまして、第3号補正予算で議決いただきましたが、関係機関との協議によりまして、教育総務費、学校施設環境改善事業費に事業費を振りかえました。

さて、今議会では、平成31年度当初予算を御審議いただくことになっております。第5次青木村長期振興計画後期基本計画の3年目となります地方創生総合戦略とあわせまして、日本一住みたい村づくりの実現に向けまして、4つの重点推進プロジェクト、6つの施策分野の目標達成に、さらなる事業の展開を図ってまいります。

31年度の目玉となります事業をまず御紹介いたしますと、国道143号青木峠新トンネルにつきまして、31年度は県からのルートの発表があるものと期待しております。この事業の促進のため、村では残土捨て場の選定について県に協力し、まず候補地の選定を行ってまいります。

次に、誇らしきわが郷土再発見、五島慶太翁顕彰プロジェクトの一環といたしまして、五島慶太未来創造館、仮称でございますけれども、建設をいたします。子供たちには、この館を通しまして、翁の苦難に満ちた人生から多くのものを学び、目標としていただきたいと思います。翁の関係する企業や団体など、多くの方が青木村を訪れてくれることを期待したいと思います。この財源は、国の補助と民間からの支援をいただきまして、なるべく村の一般財源は使わないで実施したいと考えております。

次に、障がい児教育早期支援施設を誘致いたします。青木村のインクルーシブ教育を支える早期支援は、上田市にあります児童発達支援センターと連携して行っているところでございますが、最近では、上田市の対象事業の増加によりまして、青木村の子供が受け入れてもらいにくくなってきたことから、民間のNPO法人による村内運営を実施していきます。

県内でのインフルエンザ感染者数は、2005年以降、最多となりました。学校や保育園などで学級閉鎖が拡大いたしまして、医療機関や高齢者施設でも集団感染が発生し、高齢者や小学生の死亡者も出るなど、猛威を振るいました。罹患すると重症化しやすいゼロ歳から3歳児及び高校受験期の中学3年生の予防接種代を補助いたします。

村の活性化や雇用の促進につながる工業団地造成事業のために、まず候補地の埋蔵文化財の調査に着手いたします。

次に、当村では松くい虫対策に長年苦慮してまいりましたが、これに強い松くい虫耐性松の苗木を植栽いたしまして、実証実験をしてまいります。

10ページ、歳出の主な新規事業につきまして御説明申し上げます。

まず、総務企画課関係についてでございますが、指定避難所の冷房設備工事324万円、住宅用太陽光の発電設備導入補助金の拡充、これは蓄電池設備にも補助するもので、80万円、エネルギーサービスプロバイダー委託料52万8,000円、消防団出動手当の拡充ということで、500円を1,000円にいたしまして45万円。

次に、税務会計課関係について申し上げます。評価がえに伴います標準宅地鑑定評価の委託料185万1,000円、地方税の共通納税システム導入費用126万4,000円。

次に、建設農林課関係では、農地利用状況調査システム259万2,000円、上小森林祭118万8,000円、新規農業者支援体制整備事業77万9,000円。

次に、住民福祉課関係につきましては、インフルエンザの予防接種補助金28万8,000円、妊娠出産包括支援事業の委託料19万7,000円、出生児の世帯おむつごみ補助金の事業といたしまして4万3,000円、日常生活圏域高齢者ニーズ調査137万5,000円、第4次男女共同参画計画策定19万6,000円。

次に、教育委員会関係についてでありますけれども、小学校のICT事業の更新537万1,000円、埋蔵文化財試掘調査委託料194万4,000円、図書館システム更新事業188万1,000円、児童センター空調設備設置工事18万1,000円。

次に、総務企画課と商工観光移住課の合同事業でございますが、五島慶太翁顕彰運動を進めてまいります。五島慶太未来創造館、仮称でございますが、この建設工事に1億6,600万円。財源といたしましては、地方創生拠点整備交付金8,300万円、企業版ふるさと応援寄附金8,300万円、五島慶太翁の顕彰イベントとして280万円でございます。

次に、教育委員会と住民福祉課の合同事業でございます。これは家庭、教育、福祉の連携プロジェクトでございます。障害児の早期支援事業の施設改修に216万円、障害児の早期支援事業運営費補助金400万円でございます。

特別会計につきましては、国民健康保険事業は、昨年4月から県と共同の保険者となり、新制度がスタートいたしました。財政運営主体が県に移行いたしました。保険料の決定、賦課徴収、給付等の事務は引き続き村で行っております。

簡易水道事業、特定環境保全公共下水道事業は、維持管理などの運営経費に加えまして、2020年からの公営企業会計の導入に向けて、資産台帳の整備やシステム導入を行う費用を見込みました。

また、簡易水道は、夫神区にあります夫神減圧槽の老朽化に伴います改修工事と渇水対策

といたしまして臼川ダムの水位計の設置工事を計上いたしました。

以上、提案いたしました議案のうち、主な内容を説明させていただきました。

この予算編成を通して、単年度の予算、そして会計制度の歳入歳出ということが整理されるというメリットはありますけれども、事業の面から見ますと、全体の流れが把握しにくく、事業のスクラップ・アンド・ビルドもしにくいものがありますが、今回の予算編成の中では、各担当はそのような課題を前提といたしまして編成作業をまいりました。

日本一少ない職員数、また限られた予算を有効に生かすべく、国からの補助を上手に受け、民間の力を活用させていただき、住民の皆さんの声を反映して、また将来を見据えつつ、職員の英知を結集した編成ができたと考えております。引き続き行財政改革を推進いたしまして、効率的で安定的な行財政運営に努めてまいります。

詳細につきましては、教育長並びに担当課長から説明いたしますので、御審議の上、御議決をいただきますようお願い申し上げます。冒頭の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○議長（沓掛計三君） 村長の挨拶が終わりました。

◎報告第1号の上程、説明

○議長（沓掛計三君） 日程第3、報告第1号 専決処分の承認を求めることについてを議題とし、提案者の説明を求めます。

片田総務企画課長。

○総務企画課長兼事業推進室長（片田幸男君） それでは、報告第1号 平成30年度青木村一般会計補正予算（第5号）について御説明を申し上げます。

平成30年度青木村一般会計補正予算は、次に定めるところによる。

第1条 歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ285万2,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ29億2,084万8,000円とする。

2 歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、「第1表 歳入歳出予算補正」による。

平成31年2月7日、地方自治法第179条の規定により専決した。青木村長、北村政夫。

今回の専決補正は、去る2月6日にお亡くなりになられました、名誉村民であります、故、

小川原辰雄先生の葬儀を2月17日に村民葬によりとり行うことに伴い、係る費用について専断させていただきますので、御報告するものでございます。

7ページから8ページをごらんいただきたいと存じます。

歳入について御説明申し上げます。

款18項1目1繰越金に285万2,000円を追加し、2億7,851万5,000円とするもので、前年度繰越金が見込みより増でございます。

続きまして、9ページ、10ページをお願いいたします。

歳出について御説明申し上げます。

款1項1目1議会費は、23万8,000円を追加し、4,079万2,000円とするもので、節10交際費は、先例に従いまして弔慰金20万円、弔花3万8,000円、合わせて23万8,000円の補正をお願いするものでございます。

款2総務費、項1総務管理費、目1一般管理費ですが、261万4,000円を追加し、1億9,037万円とするもので、節10交際費は、弔慰金30万円、弔花3万8,000円、合わせて33万8,000円をお願いするものでございます。

節11需用費の消耗品4万5,000円は、村民葬で掲示した額縁の購入に係る費用でございます。

節12役務費43万1,000円は、葬儀御案内はがきの郵送料として4,000円、各種新聞への告知広告料として42万7,000円でございます。

節13委託料180万円は、J A川西虹のホールへの村民葬に係る部分の委託料で、葬儀式、お斎に係る費用は小川原家の負担とし、その他、村と小川原家、双方で負担すべきものについては折半を原則に精算をすることとしました。

冒頭、私のほうで、お亡くなりになったのが2月6日というふうに申し上げてしまったようですが、2月5日ということでございますので、訂正させていただきます。

以上、平成30年度青木村一般会計補正予算（第5号）について御説明申し上げます。御審議いただき、御承認いただきますようお願い申し上げます。

◎議案第1号の上程、説明

○議長（沓掛計三君） 日程第4、議案第1号 青木村美しい村づくり条例についてを議題と

し、提案者の説明を求めます。

片田総務企画課長。

○総務企画課長兼事業推進室長（片田幸男君） 議案第1号 青木村美しい村づくり条例（案）
について

青木村美しい村づくり条例を次のように定める。

平成31年3月6日提出、青木村長、北村政夫。

6ページ以降に条例概要がございますので、ごらんいただきたいと存じます。

今議会に上程する議案につきましては、青木村美しい村づくり条例でございます。

また、附属の資料として、条例、また規則等の内容を含めた概要版をおつけしてございますので、御確認をいただければと存じます。

経過でございますが、条例（案）制定までに、無作為によりますアンケート調査を住民200名と村内の事業所10社を対象に実施をいたしました。その内容に対して、検討委員会においてさまざまな意見をいただきながら策定作業を進めてまいりました。

さらに、村のホームページによりますパブリックコメントもいただき、最終案として今回上程するものでございます。

初めに、条例（案）について御説明申し上げます。

本条例の構成につきましては、前文と第1章から第4章にわたり構成されております。

全体の内容につきましては、概要版で後ほど御説明を申し上げます。

前文につきましては、本条例の基本理念、基本方針等について記載されております。

青木村の悠久の歴史・文化織りなす美しい景観を村民共有の財産として継承していくとともに、将来の生活・産業基盤の整備と時代に移ろう開発需要に適切に対処しながら、村民が協働で美しい景観を守り育てていくために、この条例を定めて実践していくものでございます。

第1章 総則につきましては、第1条から第5条にわたり、目的、用語の定義、行政の責務、事業者の責務、村民等の責務が記載されております。

第2章 景観の保全・育成に関する施策等につきましては、第6条では、景観の特性を踏まえて村内を5つのエリアに区分し、各エリアの特徴と目指す景観の方向について記載されております。

第7条では、行為の届け出について記載されています。対象となる行為と適用としない行為について、種類別に記載されております。

第8条では、届け出の行為があったときに、必要に応じて助言または指導ができることが記載されています。

第9条では、景観上、所有地等の適正な管理がなされていない場合は、所有者に対して必要な改善を要請または勧告することができることになっております。

第10条では、前条の勧告に従わなかった場合の必要な措置について記載されております。

第11条では、美しい景観の保全・育成が特に重要と認める建造物、史跡、公園等については、所有者の同意を得た上で景観審議会に諮り、景観資産を指定することができるとなっております。

第12条では、11条の指定区域において行為を行う場合は、規模にかかわらず届け出が必要となり、その行為に対して助言または指導することができるとなっております。

第13条では、景観資産を保全・育成することが必要と認めたときは、技術的に支援もしくは費用の助成等を行うことができるとなっております。

第3章 景観審議会及びその他の組織につきましては、第14条から19条にわたり、青木村景観審議会の任務、組織構成、任期、役職、会議の内容について記載されています。

第4章は雑則となっております。

施行については、平成31年4月1日から施行し、第7条から13条までの運用規定は、条例の周知期間を考慮して、7月1日からの施行としてございます。

続いて、概要版をごらんいただきながら、規則等で定められた内容も踏まえて、全体の説明をさせていただきます。

条例の目的につきましては、美しい村条例は、基本理念に基づき、美しい景観の保全・育成・継承を目的に、長野県の景観条例と屋外広告物条例で担保されていない行為を新たな基準を定めて、さらに県の条例を補完する制度といたしました。

2の条例の対象エリアについては、条例の第6条において村内を5つのエリアに設定して、おのおのの特性を踏まえた景観の保全・育成を図ることといたしました。

エリアの区分につきましては、商工業・業務集積エリアということで143号沿線、公共施設、工場団地等の集積地、温泉街エリアとしまして田沢・沓掛温泉街、田園・里山環境エリアということで農地が中心となる地域、別荘地エリアということで青木の森別荘地一帯、それから森林環境エリアということで村の約7割を占める森林地域の以上のエリアとなります。

お開きをいただきまして、3、位置、規模、意匠、色彩等の基準内容でございますが、村条例に基づき届け出のあった行為は、条例第6条2項で定める目指す方向により、景観特性

を踏まえてエリアごとに設定した以下の基準への適合性を審査して、必要に応じて村から助言、指導を行います。

一覧表の構成につきましては、横軸が全エリア共通に加えた5つのエリア区分となっております。縦軸が行為の区分として4つに分類されています。さらに、行為の区分を幾つかの項目ごとに分けた基準内容となっております。おのおのの内容につきましては、説明を省略させていただきます。

続いて、次のページ、4、届出行為・規模の内容につきましては、条例第7条1項に規定する行為の規則で定める規模につきましては、以下の表となっております。

エリア区分は、基準内容と同様に5つに分類されております。ただし、田園・里山環境と別荘地と森林環境エリアにつきましては、同規模のため、一括して表記してございます。

表中の商工業・業務集積エリアにつきましては、県条例と同様の規模となっております。

また、行為の種類、名称につきましては、県及び他町村の事例を参考に項目を設定してございます。

5の手続きの流れにつきましては、今後は、村内で景観に及ぼす事業を行う場合は、事前に行為の種類、規模に応じて県条例または村の条例に照らして届け出の手続きが必要となります。

以上、議案第1号について御説明いたしました。御審議いただき、お認めいただきますようお願いいたします。

◎議案第2号の上程、説明

○議長（沓掛計三君） 日程第5、議案第2号 特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例についてを議題とし、提案者の説明を求めます。

片田総務企画課長。

○総務企画課長兼事業推進室長（片田幸男君） それでは、議案第2号について御説明申し上げます。

特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例（案）

平成31年3月6日提出、青木村長、北村政夫。

次ページをお願いいたします。

特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例

特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を次のように改める
ということで、別表を以下のとおり改正するものでございます。

附則としまして、この条例は、平成31年4月1日から施行する。

次のページに概要がございますので、ごらんください。

今回の一部改正のうち、「文化財保護指導委員の設置」につきましては、文化財保護法の一部改正により、それまで県のみを設置されてきた文化財保護指導委員について、市町村でも設置することができることによる改正でございます。

職名については「文化財保護指導委員」とし、報酬額については、文化財審議委員と同額の「日額7,300円」とさせていただきます。

職務内容は、文化財について随時巡視を行い、並びに所有者その他関係者に対し、文化財の保護に関する指導及び助言することを想定しており、詳細につきましては、別途、要綱を設置する予定でございます。

また、青木村文化財保護条例第4条との整合を図るため、「文化財審議委員」の名称を「文化財専門審議員」に変更するものでございます。

続いて、「景観審議委員の設置」につきましては、美しい村づくり条例中の「第3章 景観審議会及びその他の組織」において、青木村景観審議会を設置し、任命された委員に対する報酬を定めるため、一部改正するものです。

職名については「景観審議会委員」とし、報酬額については「日額7,300円」とさせていただきます。

職務内容は、青木村美しい村づくり条例において定める事項のほか、村長の諮問に応じて、村の景観保全・育成に関する重要な事項について調査及び審議していただくこととしており、委員人数は同条例において10人以内で組織すると規定してございます。

以上、議案第2号について御説明申し上げます。よろしく御審議の上、御決定くださいますようお願いいたします。

◎議案第3号の上程、説明

○議長（沓掛計三君） 日程第6、議案第3号 職員の勤務時間及び休暇等に関する条例の一

部を改正する条例についてを議題とし、提案者の説明を求めます。

片田総務企画課長。

○総務企画課長兼事業推進室長（片田幸男君） それでは、議案第3号 職員の勤務時間及び
休暇等に関する条例の一部を改正する条例（案）

平成31年3月6日提出、青木村長、北村政夫。

次ページをお願いいたします。

職員の勤務時間及び休暇等に関する条例の一部を改正する条例

職員の勤務時間及び休暇等に関する条例の一部を次のように改正する。

第5条の2に次の1項を加える。

3 前2項に規定するもののほか、正規の勤務時間以外の時間における勤務に関し必要な事項は、村長が規則で定める。

附則

この条例は、平成31年4月1日から施行する。

次のページに改正概要がございます。

人事院規則15-14の一部を改正する人事院規則が公布されるとともに、「職員の勤務時間、休日及び休暇の運用について」の一部を改正する通知及び「超過勤務を命ずるに当たっての留意点について」が発出され、平成31年4月1日から施行されることを受け、各地方公共団体においても、地方公務員法の趣旨に従い、これらの内容を踏まえ、超過勤務命令の上限時間等について平成31年4月より適用すべく、条例改正など所要の措置を講ずるよう、総務省から地方公務員法第59条及び地方自治法第245条の4に基づき通知があったことを踏まえ、当村においても条例を一部改正するものでございます。

こちらは一連の働き方改革によるものでございまして、まだ示されておられませんけれども、今後、県の規則の改正内容が示されたところで、それを踏まえて本村においても具体的に規則の改正等を行う予定としてございます。

以上、議案第3号について御説明申し上げます。よろしく御審議の上、御決定くださいますようお願いいたします。

◎議案第4号の上程、説明

○議長（沓掛計三君） 日程第7、議案第4号 五島慶太翁顕彰事業基金条例についてを議題とし、提案者の説明を求めます。

片田総務企画課長。

○総務企画課長兼事業推進室長（片田幸男君） それでは、議案第4号について御説明申し上げます。

五島慶太翁顕彰事業基金条例（案）

平成31年3月6日提出、青木村長、北村政夫。

次ページをお願いいたします。

五島慶太翁顕彰事業基金条例

第1条 青木村出身である五島慶太翁の未来を見据え都市を拓き人を育てた功績をたたえ、その顕彰事業を行うための運営資金として五島慶太翁顕彰事業基金（以下「基金」という。）を設置する。

第2条 毎年度基金として積み立てる額は、予算の範囲内で村長が定める額とする。

第3条 基金に属する現金は、金融機関への預金その他最も確実かつ有利な方法により、保管しなければならない。

2 基金に属する現金は、必要に応じ、最も確実かつ有利な有価証券に代えることができる。

第4条 基金の運用から生ずる収益は、一般会計歳入歳出予算に計上して、この基金に編入するものとする。

第5条 村長は、財政上の必要があると認めるときは、確実な繰戻しの方法、期間及び利率を定めて、基金に属する現金を歳入歳出現金に繰り替えて運用できる。

第6条 この条例に定めるもののほか、基金の管理に関して必要な事項は、村長が別に定める。

附則

この条例は、公布の日から施行する。

ということで、1つには、五島慶太翁の顕彰事業に対しまして、既に一般寄附、あるいはふるさと納税等を通じて、多くの皆様から御寄附をいただいているところでございます。御寄附いただいた皆様の意思を確実に事業に反映させていただくため、基金を設けて積み立てを行い、後の事業のために活用させていただくというものでございます。

よろしく御審議の上、御決定くださいますようお願い申し上げます。

◎議案第5号の上程、説明

○議長（沓掛計三君） 日程第8、議案第5号 寄附採納についてを議題とし、提案者の説明を求めます。

片田総務企画課長。

○総務企画課長兼事業推進室長（片田幸男君） それでは、議案第5号 寄附採納について御説明申し上げます。

次のとおり寄附の申し出があったので採納することについて議会の議決を求める。

記

1、寄附者、埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-7-5、株式会社ピーアンドディコンサルティング、代表取締役、溝口隆朗、寄附金額1,000万円、総務費寄附金として。

2、寄附者、青木村大字田沢3122番地、青木運輸倉庫株式会社、代表取締役、五味香氏、寄附金額25万円、一般寄附金として。

3、寄附者、青木村大字田沢3122番地、有限会社五味物産、代表取締役、五味香氏、寄附金額25万円、一般寄附金として。

4、寄附者、青木村大字田沢3737番地、岡崎宏圀氏、寄附金額10万円、一般寄附金として。

平成31年3月6日提出、青木村長、北村政夫。

1番目の1,000万円の御寄附でございますが、こちらにつきましては、義民太鼓保存会こまゆみ会の皆さんをアイルランドの文化交流に招待したいということで、その費用として御寄附をいただきました。

2番目の御寄附から4番目につきましては、いずれも五島慶太翁顕彰事業に役立ててほしいということで御寄附をいただいております。

以上、議案第5号について御説明申し上げます。御審議の上、御決定くださいますようよろしくお願いいたします。

◎議案第6号の上程、説明

○議長（沓掛計三君） 日程第9、議案第6号 上田地域広域連合ふるさと基金に係る権利の一部を放棄することについてを議題とし、提案者の説明を求めます。

片田総務企画課長。

○総務企画課長兼事業推進室長（片田幸男君） それでは、議案第6号について御説明申し上げます。

上田地域広域連合ふるさと基金に係る権利の一部を放棄することについて

下記のとおり権利を放棄したいので、地方自治法第96条第1項第10号の規定により、議会の議決を求める。

平成31年3月6日提出、青木村長、北村政夫。

記

1、放棄する権利の内容、上田地域広域連合ふるさと基金に対する出資総額4,545万円のうち、291万8,000円。

2、権利放棄に係る相手方、上田市上丸子1612番地、上田地域広域連合、広域連合長、土屋陽一。

3、権利放棄する理由、上田地域広域連合ふるさと基金の一部を平成31年度に実施する上小医療圏地域医療再生計画継続事業終了後の地域医療対策事業（信州上田医療センター初期研修医養成支援事業、医師研究資金貸与事業、医師就労支援給付金事業、看護師修学資金支援事業、病院群輪番制病院等救急搬送収容事業及び病院群輪番制病院後方支援事業）に充当するもの。

次のページをお願いいたします。

概要について御説明申し上げます。

広域連合のふるさと基金に係る権利の一部を放棄することにつきましては、理由にも記載されておりますが、平成26年度から平成30年度まで、上小医療圏地域医療再生計画に係る継続事業として、昨年の3月議会定例会におきましても、平成30年度分として232万4,000円を御議決いただきました。

今回は、平成31年度の継続事業終了後の地域医療対策事業に充当するために、一部放棄するものでございます。

今回、権利放棄の総額は9,410万9,000円。そのうち青木村の負担額は291万8,000円となります。

なお、事業別の青木村の財政支援額は、次のページ以降に記載されておりますので、ごらんください。

3、上小医療圏地域医療再生計画継続事業終了後の地域医療対策事業の財政支援についてということで、（1）信州上田医療センター初期研修医養成支援事業に113万5,000円、（2）医師研究資金貸与事業に44万2,000円、次のページへまいりまして、（3）医師就労支援給付金事業に2万7,000円、（4）看護師修学資金支援事業に15万9,000円、次のページへいきまして、（5）病院群輪番制病院等救急搬送収容事業に47万1,000円、（6）病院群輪番制病院後方支援事業に69万円となります。

以上、議案第6号について御説明申し上げました。御審議いただき、御決定いただきますようお願い申し上げます。

◎議案第7号の上程、説明

○議長（沓掛計三君） 日程第10、議案第7号 平成30年度青木村一般会計補正予算についてを議題とし、提案者の説明を求めます。

歳入については、片田総務企画課長より一括説明をいただき、歳出については、各担当課所長及び教育長よりお願いいたします。

片田総務企画課長。

○総務企画課長兼事業推進室長（片田幸男君） 議案第7号について御説明申し上げます。

平成30年度青木村一般会計補正予算（第6号）

平成30年度青木村一般会計補正予算は、次に定めるところによる。

第1条 歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ2,291万6,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ29億4,376万4,000円とする。

2 歳入歳出予算の補正の款項の区分及び該当区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、「第1表 歳入歳出予算補正」による。

第2条 地方自治法第213条第1項の規定により翌年度に繰り越して使用できる経費は、「第2表 繰越明許費」による。

平成31年3月6日提出、青木村長、北村政夫。

3ページをお願いいたします。

「第2表 繰越明許費」について御説明申し上げます。

款2総務費、項1総務管理費、事業名が義民太鼓こまゆみ会国際交流事業補助金、金額が1,000万円となります。寄附採納で御説明いたしましたが、御寄附いただいた1,000万円を原資としてアイルランドを訪問する事業で、訪問が8月ということでございまして、事業費全額を平成31年度に繰り越して執行するものでございます。

款7土木費、項2道路橋梁費、(国補)社会資本整備事業村道国道北2号線改良工事、金額が3,607万円となります。工法の決定に時間を要したことから、翌年度に繰り越して実施するものでございます。

同じく(村単)田沢温泉バイパス道路新設工事324万円ですが、現況測量、工法、地権者との調整等に時間を要したことから、翌年度に繰り越して実施するものでございます。

款9教育費、項1教育総務費、事業名が(国補)学校施設空調設備設置工事、金額7,716万6,000円ですが、工期が6月までとなっておりまして、支払いも翌年度となることから、工事費を翌年に繰り越すものでございます。

次に、7ページ、8ページをお願いいたします。

歳入につきましては、一括して御説明申し上げます。

款9項1目1地方交付税に626万7,000円を追加し、11億6,326万7,000円とするもので、節1で普通交付税が見込みより増となりました。

款13国庫支出金、項2国庫補助金、目4土木費国庫補助金から814万7,000円を減額し、1,149万9,000円とするもので、節1土木費補助金の社会資本整備総合交付金が内示額の減により減額となるものでございます。

目5教育費国庫補助金は、57万4,000円を追加し、1,530万1,000円とするもので、節1教育費補助金の001から015について、それぞれ見込みより増となりました。

款16項1寄附金、目1一般寄附金に60万円を追加し、1,593万1,000円とするもので、御寄附のあった3件について補正をするものでございます。

目3総務費寄附金は、新規に1,000万円を追加するもので、節1総務管理費補助金は義民太鼓のアイルランド訪問のために御寄附いただいたものでございます。

款18項1目1繰越金に1,362万2,000円を追加して、2億9,213万7,000円とするものです。節1前年度繰越金が見込みより増となりました。

次に、9ページ、10ページをお願いいたします。

3歳出については、各担当課より御説明を申し上げます。

初めに、総務企画課関係について申し上げます。

款2 総務費、項1 総務管理費、目5 財産管理費に344万6,000円を追加し、7,210万4,000円とするものです。節11需用費の修繕料333万8,000円は、庁舎の空調設備修理代とリフレッシュパークあおき食堂施設の給水管の修繕等により増額をお願いしております。節14使用料及び賃借料10万8,000円は、賃借料でレンタカーの借上料が見込みより増となったものでございます。

目7 諸費ですが、1,000万円を追加し、2,225万7,000円とするもので、節19負担金補助及び交付金の義民太鼓こまゆみ会国際交流事業補助金としていただいた寄附金全額を補助金に計上いたしました。

続きまして、目8 情報通信サービス事業費ですが、12万4,000円を追加し、3,611万8,000円とするもので、節13委託料の伝送路保守委託料が見込みより増となったものでございます。

次に、項2 村営バス運行管理費、目2 運行管理費に100万円を追加し、2,130万6,000円とするもので、節11需用費の修繕料でマイクロバスのエンジン交換が必要となり、増額となりました。

次に、11ページ、12ページをお願いいたします。

中段の款8 項1 消防費、目1 常備消防費から228万円を減額し、8,471万7,000円とするもので、節19負担金補助及び交付金の上田広域消防負担金が見込みより減となりました。

以上、議案第7号につきまして、歳入全般と総務企画課関係の歳出について御説明申し上げます。

御審議いただき、御決定いただきますようお願い申し上げます。

○議長（沓掛計三君） 多田税務会計課長。

○会計管理者兼税務会計課長（多田治由君） それでは、税務会計課関係の歳出について御説明を申し上げます。

9ページをお開きください。

款2 総務費、項3 徴税費、目1 税務総務費につきまして、33万4,000円を減額し、2,586万円とするものでございます。節7の賃金につきましては、臨時職員の賃金でございますが、実績に基づきまして40万円の減額。節23償還金利子及び割引料につきましては、住民税の還付金が見込みより増でございます。

目2 賦課徴収費は、10万円を減額し、2,823万5,000円とするものでございます。節11の需用費、印刷製本費で、各税の納付書等の印刷費でございますが、こちらにつきましても実

績に基づき10万円を減額するものでございます。

以上、税務会計課関係の歳出について御説明を申し上げます。よろしく御審議をいただき、お認めいただきますようお願いを申し上げます。

○議長（沓掛計三君） 小宮山住民福祉課長。

○住民福祉課長兼保健衛生係長（小宮山俊樹君） それでは、住民福祉課関係について御説明申し上げます。

9ページをお願いいたします。

款3民生費、項1社会福祉費、目1社会福祉総務費、3万5,000円を追加し、7,038万6,000円とするもので、節14使用料及び賃借料、有料道路使用料、見込みより増でございます。

目2障害者福祉費、9万9,000円を追加し、1億3,785万5,000円とするもので、節19負担金補助及び交付金の補助金でございますが、身体障害者自動車改造補助金で申請が1件あったことから、当該補助額を補正するものでございます。

目3老人福祉費、269万3,000円を追加し、2億7,439万8,000円とするもので、節11需用費はくつろぎの湯燃料代で、見込みより増でございます。節28繰出金は介護保険特別会計に繰り出すもので、その内容につきましては介護保険の特別会計にて御説明申し上げます。

以上、住民福祉課関係の補正予算について御説明申し上げます。よろしく御審議の上、御決定くださいますようお願いいたします。

○議長（沓掛計三君） 若林保育園長。

○保育園長（若林喜信君） それでは、保育園関係について御説明申し上げます。

9ページ、10ページをお願いします。

款3民生費、項2児童福祉費、目4保育所費は、457万円を追加し、1億2,485万9,000円とするもので、節7賃金405万円は、ふえる未満児への対応及び支援のための臨時保育士2人分300万円と、食物アレルギーへの対応による給食調理員1人分500万円をお願いするものです。節11需用費33万5,000円は、保育室、FF式の暖房機の修繕料です。

次のページをお願いします。

節18備品購入費18万5,000円は、新年度の未満児受け入れに伴いまして、未満児用の机1台と乳幼児用の椅子6台分をお願いするものです。

以上、保育園関係の補正予算について御説明いたしました。御審議をいただき、御決定くださいますようお願い申し上げます。

○議長（沓掛計三君） 花見建設農林課長。

○参事兼建設農林課長兼農業振興係長（花見陽一君） それでは、建設農林課関係について御説明申し上げます。

11ページをお願いします。

款5農林水産業費、目3農業振興費、47万5,000円を追加し、5,852万円とするものです。節19負担金補助及び交付金、農技連補助金では、ソバ焼酎タチアカネ製造に係る原材料費として1,284本分を見込んでおります。

款7土木費、目2道路新設改良費、205万4,000円を追加し、5,400万7,000円とするものです。節13委託料5万4,000円につきましては、村道国道北2号線の道路工事費の増に伴うものです。節15工事請負費200万円につきましては、国道北2号線の道路改良工事におきまして、路面水排水水路等の増工により計上させていただきました。

以上、補正予算を御説明いたしました。御審議いただき、御決定いただきますようよろしくお願いいたします。

○議長（沓掛計三君） 沓掛教育長。

○教育長（沓掛英明君） 教育委員会関係についてお願いします。

11ページをお開きください。

款9教育費、項1教育総務費、目3教育指導費でございますが、73万2,000円を増額いたしました。節19負担金補助及び交付金の増は、私立幼稚園就学奨励費補助金が見込みより増になったものであります。節20扶助費の増は、小・中学校の準要保護児童生徒の就学援助費の減と特別支援学級入級の児童生徒の就学奨励費の増によるものでございます。

続きまして、目4学校施設環境改善事業費ですが、新たに7,880万8,000円を補正いたしました。これは、12月議会でお認めいただいた小・中学校に設置するクーラーの設計管理料とクーラーの設備工事を、以前説明した中学校費ではなく、款9教育費、目1教育総務費の中に、新たに目4学校施設環境改善事業費と項を起こして説明したものです。小学校にもかわる工事であったので、新たな項を起こすことでわかりやすく修正をいたしました。

したがって、11ページから13ページにあります項3中学校費、目3学校建設費に書かれていたクーラーの設置に関する内容は、全て減額になります。

続きまして、項2小学校費、目1学校管理費ですが、9万3,000円を減額しました。内訳は、節15工事請負費の増は学校設備工事の増で、小学校のプロジェクター型の電子黒板5台とスクリーン5台、実物投影機を1台設置するものであります。節18備品購入費の減は、教

科用備品が見込みより162万円減になっております。

続いて、13ページをよろしくお願ひします。

項4 社会教育費、目3 文化会館費でございますが、49万5,000円を増額いたしました。節18 備品購入費の増で、文化会館の講堂に集音マイク一式と紙折り機を1台購入する費用でございます。

教育費は以上でございます。よろしく御審議の上、御決定いただきますようお願い申し上げます。

◎議案第8号の上程、説明

○議長（沓掛計三君） 日程第11、議案第8号 平成30年度青木村別荘事業特別会計補正予算についてを議題とし、提案者の説明を求めます。

片田総務企画課長。

○総務企画課長兼事業推進室長（片田幸男君） それでは、議案第8号について御説明申し上げます。

平成30年度青木村別荘事業特別会計補正予算（第3号）

平成30年度青木村別荘事業特別会計補正予算は、次に定めるところによる。

第1条 歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ50万円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ2,045万7,000円とする。

歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、「第1表 歳入歳出予算補正」による。

平成31年3月6日提出、青木村長、北村政夫。

7ページ、8ページをお願いいたします。

2 歳入について御説明申し上げます。

款2項1目1 繰越金に50万円を追加し、460万円とするもので、節1 前年度繰越金が見込みより増となりました。

続いて、9ページ、10ページをお願いいたします。

歳出について御説明申し上げます。

款1 事業費、項1目1 別荘事業費に50万円を追加し、1,995万7,000円とするもので、節

7 賃金に97万5,000円、その下の節13委託料が同額減となっておりますが、除雪作業を委託から賃金対応とさせていただいたことによる増減でございます。節15工事請負費140万円の減は、除雪用トラクターを格納する倉庫の建設を予定してございましたが、建設予定地に盛り土を行ったことから、地盤の安定を待って、次年度に建設を行うことといたしました。節18備品購入費50万円は、管理事務所のコピー機を購入する予算をお願いしてございます。節25積立金140万円は、基金への積み立てを行うもので、一部を次年度へ見送った倉庫の建設費に充当する予定でございます。

以上、議案第8号について御説明申し上げます。御審議いただき、御決定いただきますようお願い申し上げます。

◎議案第9号の上程、説明

○議長（沓掛計三君） 日程第12、議案第9号 平成30年度青木村介護保険特別会計補正予算についてを議題とし、提案者の説明を求めます。

小宮山住民福祉課長。

○住民福祉課長兼保健衛生係長（小宮山俊樹君） それでは、お願いいたします。

議案第9号 平成30年度青木村介護保険特別会計補正予算（第2号）

平成30年度青木村介護保険特別会計補正予算は、次に定めるところによる。

（歳入歳出予算の補正）

第1条 歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ67万4,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ5億5,095万3,000円とする。

2 歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、「第1表 歳入歳出予算補正」による。

平成31年3月6日提出、青木村長、北村政夫。

8ページをお願いいたします。

2 歳入

款3国庫支出金、項2国庫補助金に、目6保険者機能強化推進交付金を新たに起こし、50万1,000円とするものでございます。市町村の取り組みに対し、実績の評価に応じ補助されるもので、当村ではこの額が認められました。

款6繰入金、項1一般会計繰入金、目4その他一般会計繰入金、17万3,000円を追加し、1,822万1,000円とするもので、この後、歳出で御説明申し上げます支出に充てるものでございます。

10ページをお願いいたします。

3 歳出

款1総務費、項1総務管理費、目1一般管理費、17万3,000円を追加し、332万6,000円とするもので、電算システムの改修費でございます。

款5地域支援事業、項3包括的支援事業・任意事業費、目4任意事業費、50万1,000円を追加し、821万4,000円とするもので、節13委託料、介護保険・地域支え合い事業の増で、外出支援事業の強化に充てるものでございます。

以上、介護保険特別会計補正予算（第2号）について御説明申し上げました。慎重審議の上、御決定くださいますようお願いいたします。

○議長（沓掛計三君） ここで暫時休憩といたします。

再開を10時30分にいたします。

休憩 午前10時18分

再開 午前10時30分

○議長（沓掛計三君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

◎議案第10号の上程、説明

○議長（沓掛計三君） 日程第13、議案第10号 平成31年度青木村一般会計予算についてを議題とし、提案者の説明を求めます。

歳入については、片田総務企画課長より一括説明をいただき、歳出については、各担当課所長及び教育長よりお願いいたします。

片田総務企画課長。

○総務企画課長兼事業推進室長（片田幸男君） それでは、議案第10号 平成31年度青木村

一般会計予算について御説明申し上げます。

1 ページをごらんください。

平成31年度青木村一般会計予算は、次に定めるところによる。

(歳入歳出予算の補正)

第1条 歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ27億6,000万円と定める。

2 歳入歳出予算の款項の区分及び該当区分ごとの金額は、「第1表 歳入歳出予算」による。

(債務負担行為)

第2条 地方自治法第214条の規定により債務を負担する行為をすることができる事項、期間及び限度額は、「第2表 債務負担行為」による。

第3条 地方自治法第230条第1項の規定により起こすことができる地方債の起債の目的、限度額、起債の方法、利率及び償還の方法は、「第3表 地方債」による。

第4条 地方自治法第235条の3第2項の規定による一時借入金の借り入れの最高額は2億円と定める。

第5条 地方自治法第220条第2項ただし書きの規定により歳出予算の各項の経費の金額を流用することができる場合は、次のとおりと定める。

(1) 各項に計上した給料、職員手当及び共済費（賃金に係る共済費を除く。）に係る予算額に過不足を生じた場合における同一款内でのこれらの経費の各項間の流用。

平成31年3月6日提出、青木村長、北村政夫。

予算総額27億6,000万円は、前年度予算額に比べて1億1,000万円の増で、率にして4.2%増となります。

続いて、2ページから5ページまでの「第1表 歳入歳出予算」については省略をさせていただきます、6ページをお願いいたします。

「第2表 債務負担行為」について御説明申し上げます。

事項は固定資産課税客体調査業務及び基礎資料整備業務委託料、期間は平成30年から平成32年までの3年間、限度額が4,188万2,000円です。内容については、固定資産税課税台帳整備に係る委託業務となります。

7ページ、「第3表 地方債」について御説明申し上げます。

歳入予算の中では、30ページに記載されております。また、歳出については、それぞれの対象事業に充当して事業を実施するものでございます。

起債の目的、限度額、起債の方法、利率、償還の方法の順で御説明申し上げます。

目的は、まず地域活性化事業債で、循環型社会形成事業債を農業用水路工事に充当する起債です。限度額が410万円、方法は証券発行または証書借り入れにより、利率が3.0%以内。ただし、利率見直し方式で借り入れる政府資金等について、利率見直しを行った後においては、当該見直し後の利率となります。償還の方法は、政府資金についてはその融資条件により、銀行その他の場合にはその債権者と協定するものとする。ただし、財政の都合により繰上償還または償還年限の短縮もしくは借りかえができるものとする。

以下、起債の方法、利率、償還方法については同様となりますので、省略をさせていただきます。

続いて、緊急防災減災事業債、限度額320万円は、指定避難所空調設備整備工事に充当するものでございます。

臨時財政対策債、限度額6,200万円は、財政支援としての起債ですが、前年より減額となっております。

次に、9ページをお願いいたします。

9ページから11ページまで、歳入歳出予算事項別明細書の総括表となりますので、本年度予算額の構成割合について申し上げます。

歳入では、1、村税14%、地方譲与税1.0%、利子割交付金は構成割合が出てまいりません。配当割交付金も構成割合が出てきません。5、株式譲渡所得割交付金も構成割合が出てまいりません。6、地方消費税交付金2.6%、7、自動車取得税交付金0.1%、8、地方特例交付金0.1%、9、地方交付税42.5%、10、交通安全対策特別交付金については構成割合が出てまいりません。11、分担金及び負担金0.8%、12、使用料及び手数料2.9%、13、国庫支出金7.3%、14、県支出金4.8%、15、財産収入0.2%、16、寄附金3.5%、17、繰入金11.6%、18、繰越金4.7%、19、諸収入1.4%、20、村債2.5%。

続いて、10ページをお願いいたします。

歳出では、1、議会費が1.5%、2、総務費24.0%、民生費25.3%、衛生費7.5%、農林水産業費6.0%、商工費4.0%、土木費11.1%、8、消防費4.3%、9、教育費8.6%、10、災害復旧費は構成割合が出てまいりません。11、公債費7.6%、12、予備費0.1%。

以上となります。

続いて、12ページをお願いいたします。

なお、説明に当たりましては、歳入及び歳出の本年度の予算額については簡略化をさせて

いただきますので、よろしく願いいたします。

2 歳入については、一括して御説明を申し上げます。

款1村税、項1村民税、目1個人分は、前年、152万5,000円の増となっております。節1現年課税分については、前年と比較して均等割7,794万円は、人数で5人の増、金額で1万7,000円の増、所得割1億4,689万円は、人数で21人の増、金額で145万8,000円の増を見込んでおります。

目2法人分は24万円の増、節1現年課税分については、前年と比較して均等割677万円は同額、法人数合計も同数でございます。法人割483万円は、24万円の増を見込んでおります。

項2目1固定資産税は749万7,000円の増、節1現年課税分については、土地5,391万9,000円が315万8,000円の増、家屋8,458万7,000円が90万4,000円の減。

14・15ページのほうへまいりまして、償却資産3,670万9,000円は、519万3,000円の増を見込みました。

目2固定資産等所在市町村交付金につきましては、前年同額でございます。

項3目1軽自動車税は39万5,000円の増、節1現年課税分1,751万3,000円については、37万5,000円の増となっております。

16・17ページへまいりまして、台数合計で2,755台を見込んでおります。

項4目1村たばこ税49万5,000円の増、節1現年課税分2,159万3,000円については、49万5,000円の増。全体本数は減少しておりますけれども、税率の増に伴う増額を見込んでございます。

項5目1入湯税は8万2,000円の増、節1現年課税分180万2,000円につきましては、宿泊者が700人の増、金額で10万5,000円の増、日帰りが460人の減、金額で2万3,000円の減を見込んでおります。

18・19ページをお願いいたします。

款2地方譲与税、項1目1地方揮発油譲与税は31万2,000円の減。県の減収見込みにより減額といたしました。

項2目1自動車重量譲与税は49万円の増、款3項1目1利子割交付金27万9,000円の減、款4項1目1配当割交付金1,000円の減は、いずれも県に準じて実績見込みによるものでございます。

款5項1目1株式譲渡所得割交付金は11万3,000円の減、款6項1目1地方消費税交付金167万3,000円の減は、県に準じて減額といたしました。

款7項1目1自動車取得税交付金340万4,000円の減は、実績見込みによる減額でございます。

款8項1目1地方特例交付金39万9,000円の増は、国の見込みにより増額といたしました。

款9項1目1地方交付税1,202万円の増は、節1地方交付税の普通交付税については、国の見込みにより前年度予算の1.1%の増額の11億900万円といたしました。また、特別交付税につきましては、前年並みの6,002万円で見込みました。

款10項1目1節1交通安全対策特別交付金は、前年並みでございます。

款11分担金及び負担金、項1分担金、20・21ページのほうへまいります。目1農林水産業費分担金は32万5,000円の増で、節1農業費分担金は、循環型社会形成事業の当郷水路工事等に係る分担金でございます。

項2負担金、目1総務費負担金は前年同額で、節1高速情報通信サービス負担金については、通信サービス加入負担金、放送サービス加入負担金、いずれも前年同額を見込んでおります。節2地方創生推進交付金事業負担金は、長和町から共同推進事業として、ソバのPR費用に係る負担金をいただいております。

目2民生費負担金74万6,000円の減で、節1社会福祉費負担金の老人保護措置費入所者負担金が6人分で75万9,000円の減、節2児童福祉費負担金は1万3,000円の増で、保育料が93人、早朝保育料が65人、延長保育料が60人、一時的保育料が延べ165人分を見込んでございます。

目3衛生費負担金は同額で、未熟児養育医療受給者負担金です。

款12使用料及び手数料、項1使用料、目1総務使用料は115万6,000円の減で、節1総務使用料のバスターミナル喫茶店使用料と村営駐車場使用料は前年同額、村営バス運行収入は実績により6万4,000円の減額で見込みました。節2現年度高速情報通信サービス使用料は108万円の減で、通信サービス利用料と放送サービス利用料は前年調定額の90%で見込みました。節4光ケーブル使用料は同額で、固定使用料と加入数による使用料の合計となっております。

目2商工使用料は21万1,000円の増で、節1観光施設使用料で、キャンプ場で21万1,000円の増、昆虫資料館使用料は前年同額でございます。

目3土木使用料、前年同額で、節1住宅使用料の教員住宅使用料が9件分で同額、村営住宅使用料が98件分で前年同額を見込んでおります。

22・23ページへまいりまして、目4教育使用料は26万7,000円の減。こちらは、節1保健

体育使用料は15万3,000円の減、節2会館使用料は4万3,000円の増、節3美術館使用料は15万7,000円の減で、それぞれ実績をもとに計上いたしました。

項2手数料、目1総務手数料3万1,000円の減は、節1と節2は前年同額で、昨年計上しておりました総務手数料3万1,000円、情報センター広告手数料が減となっております。

目2衛生手数料は3万円の減で、節1保健衛生手数料のうち、犬新規登録手数料は昨年の20頭から10頭の減、注射済票交付手数料は300頭分を見込んでおります。

款13国庫支出金、項1国庫負担金、目1民生費国庫負担金は24万1,000円の減、節1社会福祉費負担金は25万9,000円の増で、いずれも2分の1の国庫負担、節2児童福祉費負担金は50万円の減で、3分の2の国庫負担、節3保険基盤安定負担金は同額で、2分の1の負担となります。

目2衛生費国庫負担金は20万9,000円の減で、節1保健衛生費負担金は未熟児療養医療事業負担金が2分の1の負担となっております。

項2国庫補助金、目1総務費国庫補助金は4,768万9,000円の増で、節1総務管理費補助金が4,783万3,000円の増で、社会保障・税番号システム整備費補助金が通知カード、個人カード関連事務の委託に係る交付金96万6,000円と、地方創生推進交付金としてタチアカネ蕎麦関係で590万円、地方創生拠点整備交付金では、五島慶太翁の顕彰事業の一環で、記念館の整備に係る費用の2分の1の補助となっております。節2村営バス運行管理費補助金は、内示に基づき19万4,000円の減額となっております。

目2民生費国庫補助金は前年同額で、節1社会福祉費補助金の障害者地域生活支援事業補助金が2分の1の補助となっております。節2児童福祉費補助金も同額で、児童クラブの運営費、3分の1の補助となっております。

目3民生費国庫補助金は13万2,000円の減で、節1保健衛生費補助金の合併処理浄化槽設置補助金は同額で、1基分を見込みました。疾病予防対策事業補助金は10万4,000円の減で、2分の1の補助となっております。

目4、24・25ページへいっています。済みません。土木費国庫補助金は2,317万6,000円の減で、昨年計上しておりました土木費補助金の社会資本整備総合交付金と防災・安全交付金が皆減となっております。節2住宅費補助金が22万6,000円の増で、住宅建築物耐震改修等事業補助金として2戸分、6万5,000円を、それからブロック塀除去に対する補助、6件分20万円を見込みました。

目5教育費国庫補助金は35万8,000円の増で、節1教育費補助金で特別支援教育就学奨励

費が16万1,000円の増、2分の1補助、私立幼稚園就園奨励費補助金は19万7,000円の増で、それぞれ今年度の実績をもとに計上いたしました。

項3委託金、目1総務費委託金は736万円の増で、節1戸籍住民基本台帳費委託金は同額、節2選挙費委託金で参議院議員選挙に伴う委託金736万円が改増となっております。

目2民生費委託金は10万4,000円の減で、節1基礎年金事務委託金が10万4,000円の減、節2児童福祉費委託料は特別児童扶養手当事務委託金として15人分で、前年同額となっております。

款14県支出金、項1県負担金、目1民生費県負担金は76万9,000円の減で、節1社会福祉費負担金は12万9,000円の増、いずれも4分の1の県負担となっております。節2児童福祉費負担金の児童手当負担金は、6分の1が県の負担となっています。節3保険基盤安定負担金については、保険基盤安定負担金国補分は同額で、県より保険料軽減分として3分の2、保険者支援分で4分の1負担となっています。また、保険基盤安定負担金後期高齢分は、4分の3が県の負担となっております。

目2衛生費県負担金は38万7,000円の減で、節1保健衛生費負担金については、県負担は保健事業費負担金が3分の2、未熟児療育医療事業負担金が4分の1となっております。

項2県補助金、目1民生費県補助金は221万6,000円の減で、節1社会福祉費補助金のうち、001障害者福祉医療費給付事業補助金は170万4,000円の減で、2分の1補助、006社会福祉法人による生活困窮者利用者減免事業補助金から039地域福祉総合助成金事業補助金までは、ほぼ前年同額となっております。節2児童福祉費補助金につきましては、001乳幼児児童医療費給付補助金と002母子父子家庭医療費給付補助金が2分の1の補助。

26・27ページへまいりまして、005児童クラブ運営補助金が3分の1補助となっております。011第3子以降の保育料減免事業補助金は、11人分を見込みました。

目2衛生費補助金は2万8,000円の減で、節1保健衛生費補助金の合併処理浄化槽補助金は、1基分、3分の1の補助です。006自殺対策緊急強化事業補助金は、前年同額でございます。

目3農林水産業費県補助金は169万7,000円の減、節1農業費補助金のうち、中山間地域等直接支払事業交付金は同額で、事業費の4分の3補助、028多面的機能支払事業交付金が86万7,000円の減で、4分の3補助、030新規就農経営継承総合支援事業補助金は前年同額で、4名分を見込んでおります。節2林業費補助金では、002松林健全化推進事業、伐倒除去がほぼ同額で、2分の1補助、005保全松林健全化整備事業補助金もほぼ同額で、70%の

補助、011樹幹注入事業補助金に30万円、034鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業は前年同額でございます。

項3委託金、目1総務費委託金は31万6,000円の減で、節1総務管理費委託金は前年とほぼ同額、節2徴収税委託金は納税義務者2,296人分に対するものでございます。節4統計調査委託金は116万2,000円の増で、学校基本調査、工業統計調査、2020年の国勢調査、2019年経済センサス、2020年農林業センサスに係るものでございます。節5選挙費委託金は、4月に予定されている県議会議員選挙に係る委託金です。

款15財産収入、項1財産運用収入、目1財産貸付収入は6万円の減で、節1土地建物貸付収入は村有地並びに駐在所貸地料、道路占用料等の収入でございます。

目2利子及び配当金は70万円の減、節1利子及び配当金で財政調整基金等の利子分でございます。

28・29ページへまいりまして、款16項1寄附金、目1一般寄附金は8,280万円の増で、節1一般寄附金で、青木村ふるさと応援寄附金に伴うものと、新たに企業版ふるさと納税寄附金8,300万円、クラウドファンディング寄附金280万円を見込んでおります。

目4教育費寄付金、節1図書館費寄附金は、雑誌サポート事業寄附金として2社を見込みました。

款7繰入金、項1目1基金繰入金は370万円の増で、節1基金繰入金のうち、001財政調整基金が200万円の減、003土地開発基金は280万円の減で、公有財産購入費に充当いたします。006公共施設整備基金が1,130万円の減、018青木診療所施設等整備基金を2,000万円、新たに計上してございます。

款18項1目1繰越金は同額で、節1前年度繰越金です。

款19雑収入、項1延滞金、加算金及び過料、目1延滞金は前年同額、項2村預金利子は18万円の減。

項3貸付金元利収入は、前年同額となっております。

項5目1雑入は146万5,000円の減で、主な要因は、節2消防団員退職報償金が17人から11人分となり、167万4,000円の減額となっております。

30・31ページへまいりまして、款20項1村債、目1地域活性化事業債は180万円の増で、節1循環型社会形成事業債として、当郷地区の農業用水路に充当するものでございます。

目2緊急防災減災事業債は30万円の減で、指定避難場所空調設備設置工事に充当するものです。

目3臨時財政対策債は1,600万円の減で、国に準じて減額をいたしました。また、辺地対策事業債は、本年度は皆減となっております。

続いて、3歳出について、各担当課より御説明申し上げます。

32・33ページ、説明については、昨年と比較して変更となった項目等を中心に御説明申し上げます。

初めに、総務企画課関係についてお願いいたします。

款1項1目1議会費6万2,000円の増となります。内容は、議員数10名分に係る予算となっております。節1報酬と節3職員手当等は前年同額で、議員10名分の報酬と手当、節4共済費につきましても、共済負担金率の改定で25万円の増額、節9旅費と節10公債費は同額、節11需用費が30万3,000円増となっております。議会報印刷製本費の増によるものでございます。

節12役務費から節19負担金補助及び交付金までは、ほぼ同額となっております。

款2総務費、項1総務管理費、目1一般管理費は553万2,000円の増となります。内容は、特別職と総務企画課関係職員に係る人件費と県から自治法派遣による費用、それからさらに事務全般に対する経費等が計上されてございます。

節1報酬は228万円の増で、前年度、賃金で見ていた職員が、嘱託職員となったことによるものでございます。

34・35ページ、節2給料は、村長と一般職員10名、再任用職員3名分を計上してございます。

節3職員手当等、節4共済費についても同様でございます。

節7賃金につきましても、臨時職員1名分でございます。

36・37ページへまいりまして、節9旅費、節10公債費は前年同額でございます。

節11需用費は36万2,000円の増で、主には2年に一度の村民運動会の開催に伴う食糧費の増が要因でございます。

節12役務費はほぼ前年同額、節13委託料は214万1,000円の増で、主な要因は、電算処理委託料のL G W A N系と情報系パソコン、ウインドウズ7のサポートの終了に伴いまして、更新及びアップデート作業の委託料の増によるものでございます。

節19負担金補助及び交付金については82万9,000円の増となっております。増の主な要因は、015その他負担金の長野県セキュリティクラウド負担金の増によるものでございます。

次のページへいきまして、38・39ページ、目2文書広報費は133万2,000円の減となりま

す。内容は、毎月発行している広報あおきと例規集等に係る経費となっております。

節11需用費の印刷製本費は年間の広報あおき印刷代に伴うもので、消費税率アップを見込み、微増となっております。

節13委託料は136万3,000円の減で、004例規集データ更新等委託料で、安全管理措置ガイドライン改定に伴う情報セキュリティポリシー及び安全管理措置等改定支援業務が計上されてございます。

目3 財政管理費は、予算書と決算附属資料の印刷代となっております。

40・41ページへまいりまして、目5 財産管理費は803万4,000円の減となります。内容は、庁舎を含めまして公共施設、公共用地、公用車、積立金等の管理に係る経費が計上されてございます。

節11需用費につきましては、消耗品、光熱水費が庁舎に係る費用、修繕料が公用車の修理、車検費用で、電気料金の見直しにより微減となっております。

節12役務費の保険料は61万5,000円の増、村有物件災害共済分担金の増によるものでございます。

節13委託料は47万4,000円の減で、主な要因は、電算機器設定委託料、庁舎空調設備設計委託料で427万円の減額と、雨量計サーバー更新委託料、エネルギーサービスプロバイダー委託料で374万7,000円を新規に計上してございます。

節14使用料及び賃借料はほぼ同額で、引き続き公用車2台分のリース料を計上いたしました。

節17公有財産購入費につきましては同額となっております。

節18備品購入費は56万4,000円の減となっております。

節19負担金補助及び交付金については2万8,000円の増で、共有財産組合負担金は同額ですが、番号制度で中間サーバー利用負担金が微増となっております。

42・43ページ、節22補償補填及び賠償金97万1,000円は、沓掛の天狗山地区の公有林で、官公造林として国が植樹をした造林地がございます。こちらの契約期間の満了に伴い、当該立木を村で買い取ってほしい旨の依頼がございまして、係る費用を計上いたしました。

節25積立金は、財政調整基金等、基金の利子を積み立てるものでございます。

目6 企画費については661万5,000円の減となります。内容については、主な内容は、継続事業としてふるさと応援寄附金、地域おこし協力隊の経費等が計上されてございます。

節8 報償費については264万3,000円の減で、ふるさと応援寄附者謝礼は、申し込み者へ

の謝礼を360万円と返礼品のサンプル代として3万円を見込みました。005報償費は、地域おこし協力隊活動報償費として2名分を計上いたしました。

節11需用費については15万4,000円の減で、002燃料費は、地域おこし協力隊使用車両に係る費用が計上されております。修繕料は、地域おこし協力隊の住宅修繕費を見込んでおります。

節12役務費は30万8,000円の増で、通信運搬費の002ふるさと納税謝礼品運搬料とありますが、紙ベースでの申し込み者に対する申込書等の郵送に係る経費を新たに別途計上いたしました。

節13委託料は189万2,000円の減で、001委託料で公共施設長寿命化実施計画の経費を見込んでおります。002ふるさと寄附金で、ふるさと寄附金ウェブサイトの運用業務と配送業務に係る委託料を計上してございます。

節14使用料及び賃借料は前年同額で、賃借料で地域おこし協力隊の年間の住宅借上料と使用車両のリース代を見込んでおります。

節16原材料費は、ふるさと公園の花壇に植栽する苗代を見込んでおります。

44・45ページへまいりまして、節18備品購入費は、地域おこし協力隊に係るパソコン等の備品代を計上いたしました。

節19負担金補助及び交付金、負担金で上田広域連合負担金と、補助金で001青木村活性化事業補助金として3件分を見込みました。

目7諸費は187万1,000円の増となりました。内容は、交通安全対策、防犯関係等の経費が計上されております。

節1報酬は、青少年補導員6名分の報酬です。

節7賃金から節9旅費まではほぼ同額、節11需用費もほぼ同額で、修繕料ではカーブミラー等の修繕費を計上してございます。

節13委託料は21万9,000円の増で、005太陽光発電設備の審査業務委託料を計上いたしました。

節14使用料及び賃借料は同額、節15工事請負費は、各地区の要望に応じて、防犯灯設置工事2基分、カーブミラー設置工事を10基分見込んでございます。

節19負担金補助及び交付金は240万4,000円の増で、次のページへまいりまして、補助金の015国際交流事業補助金は、中学生のオーストラリアとの交流で、隔年により今年度はオーストラリアへ送り出す年となっておりますので、増額の要因となっております。

目 8 情報通信サービス事業費222万3,000円の減となります。内容は、情報通信センター設備機器の管理及び保守等の経費が計上されております。

節 1 報酬は嘱託職員 1 名分、節 3 職員手当と節 4 共済費は嘱託職員 1 名と臨時 1 名に係る人件費です。

節 7 賃金は臨時職員 1 名分、節13委託料は80万5,000円の減で、002伝送路保守委託料は、共架設備の変更、移設に伴う委託業務料で同額、003サーバー保守委託料は、情報電話システム管理保守とセンターの設備保守料で77万7,000円の減額となっております。

48・49ページへまいりまして、節14使用料及び賃借料はほぼ同額でございます。使用料の電柱共架料がN T T、中電への使用料となっております。

節15工事請負費は304万1,000円の増で、新年度は、センター設備更新工事としてU P S という非常用電源装置、こちらの保証期間がもう経過しているということで、交換工事を予定しております。

節25積立金で、基金積立金として350万円を計上いたしました。

目 9 地方創生プロジェクト事業費 1 億938万4,000円の増となりました。今年度の事業は、主にタチアカネ蕎麦推進プロジェクト事業と五島慶太翁の未来創造館の建設事業を予定してございます。

節 8 報償費は23万6,000円の増で、第 2 期総合戦略策定委員の謝礼とエネ空あおきタワーの維持管理謝礼を計上しました。

節 9 旅費は 8 万円の増、節11需用費では37万5,000円の増で、キッチンカーに係る燃料費と修繕料で、車検代、光熱水費としてエネ空あおきタワーの電気料を新たに計上してございます。

節12役務費は、キッチンカーの保険料が新たに増となっております。

節13委託料については前年対比5,328万4,000円の減で、新年度は第 2 期総合戦略策定経費に242万円、タチアカネプロジェクトとして1,486万4,000円で、内容は、成長戦略策定調査研究費220万円、推進組織基盤強化として、キャラバン隊の育成等に198万円、広告費、イベント経費に436万円、ソバ品質向上・加工品開発等に330万円、長和町との共同推進事業費270万円、その他のイベントで32万4,000円を見込みました。また、五島慶太翁未来創造館、仮称の設計施工管理、測量委託、基本計画等の委託経費として1,565万2,000円を計上しました。

節15工事請負費は、五島慶太翁未来創造館、仮称の建設工事に係る工事費を新たに計上い

たしました。

50・51ページへまいりまして、備品購入費と節27公課費については、キッチンカーに係るものでございます。

項2村営バス運行管理費、目2運行管理費143万6,000円の増となりました。内容は、村営バスの運行管理費と地域路線バス等に係る経費が計上されてございます。

節1報酬から4共済費については、公共交通会議の委員報酬と運転手3名分の人件費が計上されております。

節11需用費と節14使用料及び賃借料は、村営バス及びバスターミナルに係る経常経費となっております。

節19負担金補助及び交付金は前年同額、次のページへまいりまして、負担金の地域路線バス維持対策負担金は、上田市と共同で実施しております運賃低減バス運行事業のために今年度は600万円を計上いたしました。

続きまして、58・59ページをお願いいたします。

款2項5選挙費、目1選挙管理委員会費につきましては、選挙管理委員4名に係る経費でございます。

目2選挙啓発費は同額、目3参議院選挙費につきましては、7月に予定されております選挙に係る経費となっておりますので、説明については省略させていただきます。

目4県会議員選挙につきましては、4月7日執行予定の県議会議員選挙に係る経費を計上してございます。

続いて、62・63ページへまいりまして、県知事選挙費については執行済みですので皆減となっております。

項6統計調査費、目1統計調査総務費は111万5,000円の増となります。平成31年度予定されている統計調査は、学校基本調査、工業統計調査、平成31年度経済センサス、その他2020年に予定されております国勢調査、農林業センサスの準備調査となっておりますので、説明は省略させていただきます。

項7目1監査委員費につきましては、監査委員2名分の活動経費で、ほぼ前年同額でございます。

ページが飛びますが、120・121ページをお願いいたします。

中段以降の款8項1消防費、目1常備消防費は114万3,000円の増。上田広域連合への負担金で、消防車両2台分の更新等に伴う増額となっております。

目2 非常備消防費は183万8,000円の減となります。内容は、消防団員に係る活動経費が主な内容になっております。なお、主な要因は、退職団員の人数減による報償金の減額によるものでございます。

節1 報酬の001消防団員手当は、基本消防団員と消防団協力団員、それから機能別消防団員の合計260人に対する報酬となっております。002自動車ポンプ班員は24人分、003消防委員は各種大会等への参加報酬となっております。

節3 職員手当は前年同額、節8 報償費の001退職団員報償金は11名分となっております。以下については、大会等の謝礼記念品代となっております。

122・123ページ、節11 需用費は26万8,000円の増で、消耗品費は、団員の安全確保のためのヘッドライトを購入するほか、キッチンカーを炊き出し車として使用する際に必要となる割り箸、あるいは紙皿等の消耗品、その他消防団員用の用品等が含まれてございます。

節19 負担金補助及び交付金は、ほぼ同額でございます。負担金は、005 損害補償掛金が300名分、006 退職報償金掛金は団員200人分となっております。補助金の地域商品券購入補助金は150人分となっております。

目3 消防施設費は273万7,000円の減となります。内容は、地区及び消防団の要望に対する消防設備等、全般にわたり計上されております。

なお、減額の要因は、備品購入費の減に伴うものとなっております。

節11 需用費はほぼ前年並みで、修繕料は、小型動力ポンプ修繕並びに積載車等の車検代や消火栓、防火水槽の修繕費等の経費が計上されております。

124・125ページの節15 工事請負費は、指定避難所となっております各地区の公民館に空調設備を設置する工事費を計上いたしました。各区の意向を確認する中で、2カ年で対応してまいり予定でございます。

節18 備品購入費は130万7,000円の減で、昨年は小型動力ポンプ1台を購入してございましたが、その分が減の要因となっております。消防用ホースの購入費、消火栓格納箱6基の購入を見込みました。

続きまして、158・159ページ、款11項1 公債費、目1 元金は165万7,000円の減、目2 利子は348万4,000円の減となっております。

款12項1 目1 予備費は、前年同額となっております。

次の160ページは給与費明細書になります。特別職については、比較の欄で職員数が152人の増となっておりますが、要因としましては、県議選、参院選の実施により増でございます。

います。その他の欄については記載のとおりでございます。

161ページの2の一般職、1、総括表については、比較の欄で職員数が10名の減、括弧内の数字は再任用の職員数で、1名の増となっております。

次に、(2)の給料及び職員手当の増減額の明細から169ページまでにつきましては、記載のとおりでございますので、説明は省略をさせていただきます。

以上、議案第10号 平成31年度一般会計予算について、歳入全般と歳出の総務企画課関係について御説明申し上げました。御審議いただき、御決定いただきますようよろしくお願い申し上げます。

○議長（沓掛計三君） 多田税務会計課長。

○会計管理者兼税務会計課長（多田治由君） それでは、税務会計課関係の歳出について御説明を申し上げます。

38ページをお開きください。

款2総務費、項1総務管理費、目4会計管理費1,867万4,000円は、前年比428万7,000円の増でございます。

節1の給料、節3職員手当等、節4共済費につきましては職員2名分、41ページへいきまして、節18の備品購入費につきましては、会計窓口のレジスターの買いかえに伴う支出でございます。

52ページをお開きください。

款2総務費、項3徴税费、目1税務総務費2,577万9,000円は、前年比69万9,000円の増でございます。

節2の給料から節4共済費までについては、職員3名分でございます。

節7賃金につきましては、通年での臨時職員1名、それから申告期間中の臨時職員1名分でございます。

54ページをお願いいたします。

目2の賦課徴収費3,277万6,000円は、前年比448万4,000円の増でございます。

節12役務費の004手数料は、地方税共通納税システムが稼働することによるもの、それから消費税が引き上げになることにより、11万7,000円の増でございます。

節13委託料の001委託料、それから015の評価がえに伴う標準宅地鑑定評価委託料について185万1,000円の増、56ページへいきまして、028のe L T A Xのルームス連携システムにつきましては、地方税共通納税システムの連携作業の分、それから保守分で66万4,000円の

増、038のe L T A X審査システム改修委託料178万2,000円、それから039のe L T A X地方税共通納税システムサービス11万6,000円の増でございます。

節14使用料及び賃借料については、家屋評価システムのリース料が5年の契約が終わり、再リースとなるため、17万5,000円の減でございます。

以上、税務会計課関連の歳出について御説明を申し上げます。よろしく御審議の上、お認めいただきますようお願いを申し上げます。

○議長（沓掛計三君） 小宮山住民福祉課長。

○住民福祉課長兼保健衛生係長（小宮山俊樹君） それでは、住民福祉課に係る歳出予算について御説明申し上げます。

説明に当たりましては、新たに計上した箇所、変更となった箇所、重要な箇所などを中心に説明させていただきます。

なお、10月から予定されております消費税の増税分につきましては、全て織り込んだ金額となっております。このことにより増額となった箇所の個別の説明は省略させていただきます。

57ページをお願いいたします。

款2総務費、項4戸籍住民基本台帳費では、給料、職員手当等につきまして、職員2名分でございます。

節13委託料、住基ネットワーク戸籍情報に係るシステム保守委託料でございます。

節14使用料及び賃借料、使用料では、全国町字ファイルシステムが今年度新規でございます。

59ページ、賃借料では、住基戸籍総合システムハードリース料でございます。

63ページをお願いいたします。

款3民生費、項1社会福祉費、目1社会福祉総務費では、節1報酬、委員報酬でございますが、民生委員17名のほか、改選の年に当たりますので、民生委員の推薦委員5名と、それから男女共同参画計画策定委員8名が新規でございます。嘱託職員報酬は皆減でございます。給料、職員手当等につきましては、職員3名分でございます。

65ページをお願いいたします。

節7賃金、臨時職員1名分でございます。

節8報償費、出産祝い金として19名分を計上いたしました。

節11需用費、消耗品費では、一、二歳児の紙おむつ処分手数料補助のためのごみ袋代、印

刷製本費では男女共同参画計画の製本費を計上しております。

67ページをお願いいたします。

節19負担金補助及び交付金、社会福祉協議会負担金では、当初予算で10万5,000円の減となっております。病児・病後児保育センター運営事業負担金は、新たに丸子中央病院でも開設となることから、23万5,000円の増となっております。

節28繰出金、国保特会分は284万8,000円の増でございます。

目2障害者福祉費、節13委託料では、国保連伝送システム設定委託料が新規で、ウインドウズ7から10への積みかえでございます。

節15工事請負費、障害児教育早期支援施設改修工事は新規でございます。早期に支援を要する障害児のための通所施設整備に係る改修費でございます。

69ページをお願いいたします。

節19負担金補助及び交付金、補助金ですが、障害児教育早期支援施設運営補助金も新規でございます。工事請負費で御説明した施設でございますが、実際に運営をお願いするNPO法人の当初必要とされる経費に対し、支出するものでございます。

節20扶助費、介護給付訓練等給付費の内訳は、訪問系サービスが2,196万円、日中活動支援5,176万6,800円が主なものでございます。

目3老人福祉費、節8報償費は、高齢者祝い金、59名分でございます。

71ページをお願いいたします。

節11需用費、燃料費884万円は、くつろぎの湯灯油代として84万円の増でございます。

節13委託料、くつろぎの湯管理委託料は74万6,000円の増。修繕費等の増によるものでございます。老人センター管理委託料は、24万4,000円の増でございます。高齢者生活福祉センター生活援助員設置事業・同運営委託料、それから配食サービス委託料は、ラポートあおきをお願いするものでございます。日常生活圏域高齢者ニーズ調査委託料は、本年度、新規でございます。

節19負担金補助及び交付金、長野県後期高齢者医療広域連合負担金は47万1,000円の減となっております。

節28繰出金では、介護保険特会が523万4,000円の増、後期高齢者医療特会は99万8,000円の減でございます。

目4地域包括支援センター費では、節1報酬、嘱託職員1名、節2給料、それから職員手当等でございますが、こちらは職員3名分を見込んでおります。

目5国民年金費、目6人権対策費、目7地域少子化対策強化事業費につきましては、特に申し上げることはございません。

75ページをお願いいたします。

項2児童福祉費、目2児童措置費、乳幼児児童医療給付費は276万8,000円の減、児童手当につきましては138万円の減でございます。

77ページをお願いいたします。

目3母子福祉費、節20扶助費、母子父子家庭医療給付費は1万8,000円の増を見込んでおります。

83ページをお願いいたします。

項3生活保護費、項4災害救助費につきましては、特に申し上げることはございません。

款4衛生費、項1保健衛生費、目1保健衛生総務費、節1報酬、委員報酬は衛生委員12名分、保健補導員42名、健康寿命延伸プロジェクト委員20名、嘱託職員1名、嘱託医師は30回分でございます。

節2から給料、職員手当等は3名分でございます。

85ページをお願いいたします。

節7賃金は、臨時職員分が皆減となっております。

節8報償費は、健康教室等講師謝礼ほかで24万2,000円の増でございます。

87ページをお願いいたします。

節13委託料、010妊婦・産婦・乳児健診委託料でございますが、今回から産婦健診も含めて、130万1,000円の増となっております。なお、前年度の026産婦健診委託料は、これと統合いたしました。024健康管理システム委託料は、前年度の健康カルテシステム機器更新が済んだことにより、324万4,000円の減となっております。028エネルギーサービスプロバイダー委託料は、総務費でも説明がありましたが、その保健センター分でございます。029妊娠出産包括支援事業委託料は新規でございます。産後ケア事業、産前産後サポート事業に係るものでございます。

節19負担金補助及び交付金、負担金では、未熟児養育医療給付費負担金が対象者の減により、半減となっております。補助金ですが、佐久医療センター救命救急センター運営事業補助金が皆減でございます。

89ページをお願いいたします。

青木診療所整備事業補助金でございますが、本年度は、内視鏡の導入と、これに伴い必要

となる水回りの工事、また診療所の床の張りかえを予定しております。財源といたしましては、30年度までに積み立てた基金を充てるものでございます。

目2予防費でございます。新規事業として、予防接種の機会を与えられなかった男性を対象にした風疹予防対策として、節11需用費の医薬材料費では、麻しん風しん混合ワクチン購入費335万243円、節13委託料では、002風しん予防健康診断委託料のほか、004予防接種委託料の中に麻しん風しん混合分として183万8,100円を計上しております。

節19負担金補助及び交付金、人間ドック等補助金は、日帰り25名、1泊5名、脳ドック1名分。インフルエンザ予防接種費用補助金は新規でございます。6カ月から3歳の幼児と中学3年生を対象に、1人当たり3,000円を補助するものでございます。

目3節環境衛生費、節13委託料、008合併浄化槽保守点検業務委託料は110基分を見込んでおります。

91ページをお願いいたします。

節19負担金補助及び交付金、生ごみ処理機設置補助金は10基分を見込んでおります。

項2清掃費、目1塵芥処理費につきましては、節18備品購入費、ごみステーション2基分でございます。

節19負担金補助及び交付金、001クリーンセンター負担金は22万円の増、ごみ処理広域化推進費負担金39万4,000円の増となっております。

目2し尿処理費、節19負担金補助及び交付金、し尿処理施設運営経費負担金は、長和町汚泥再生処理センターに委託するもので426万4,000円の減。遠隔地補助金は前年と同額でございます。

項3上水道費、目1上水道施設費につきましては、簡易水道特別会計へ繰り出すもので、1,222万5,000円の増となっております。

以上、住民福祉課関係の予算について御説明申し上げました。よろしく御審議いただき、お認めいただきますようお願いいたします。

○議長（沓掛計三君） 若林保育園長。

○保育園長（若林喜信君） それでは、保育園関係について御説明いたします。

76・77ページをお願いします。

款3民生費、項2児童福祉費、目4保育所費は、1億3,564万3,000円をお願いするものです。

節1報酬700万7,000円は、003嘱託職員報酬で3人分、004嘱託医師報酬は小児科医1人、

歯科医 1 人分です。

節 2 給料3,686万1,000円は、002一般職員11人分です。

節 3 職員手当等2,156万1,000円は、正規及び嘱託臨時職員に係るものです。

節 4 共済費1,582万7,000円は、002職員共済組合負担金、11人分です。

次のページをお願いします。

005嘱託職員等保険料は19人分です。

節 7 賃金3,449万円は、臨時保育士15人分と給食調理員 3 人分です。

節 8 報償費21万円は、講師謝礼です。

節 9 旅費 4 万8,000円は、研修会等の旅費です。

節11需用費1,554万1,000円は、001消耗品費として、保育に係る材料費126万6,000円が主なものです。002燃料費は、給食用ガス代及び暖房用灯油代等です。005光熱水費は、水道料及び電気料です。006修繕料は、F F 式暖房機33万円、トイレ及び水道修繕20万円、フェンス等です。007賄い材料費は、給食に係る材料130日分です。

節12役務費35万5,000円は、004手数料は、施設管理に係るものです。006保険料は、保育所の賠償保険、また自動車保険料です。

節13委託料170万3,000円は、001検査委託料は月 1 回の便検査及び食品検査料です。002電算委託料は、子ども・子育て支援システムに係るものです。

次のページをお願いします。

006清掃委託料は、厨房の清掃、それからあおきっ子広場草刈りに係るものです。002委託料は、子ども・子育て支援計画に係るものです。

節14使用料及び賃借料91万1,000円は、001使用料としては、複写機、下水道料使用料です。002賃借料は、親子遠足での自動車借上料です。

節15工事請負費35万2,000円は、003村単工事請負費として、保育室カーテンの取りかえ10万円、年長用トイレ配管工事18万8,000円、消防設備非常発信装置更新で6万5,000円です。

節18備品購入費20万6,000円は、給食用ワゴン 1 台、リズム室用冷風機、未満児用机 1 台分です。

節19負担金補助及び交付金57万1,000円は、001負担金として、通園バス負担金34万2,000円、研修会負担金 7 万5,000円、保育所運営協議会負担金 7 万2,000円が主なものです。

以上、保育園関係の予算について御説明いたしました。御審議いただき、御決定ください

ますようお願い申し上げます。

○議長（沓掛計三君） 花見建設農林課長。

○参事兼建設農林課長兼農業振興係長（花見陽一君） それでは、建設農林課に係る歳出予算について御説明させていただきます。

説明に当たりましては、新たに計上した箇所、重要な箇所などを中心に説明をさせていただきます。

92ページをお願いします。

款5農林水産業費、項1農業費、目1農業委員会費、節1報酬299万3,000円では、委員16名分の報酬となっております。

節13委託料では、001農地情報システム管理委託料365万3,000円のうち、農地利用状況調査タブレット型支援システムの導入に259万2,700円を見込んでおります。これは、毎年、農業委員さんが村内全域にわたり遊休農地の現況調査を実施する際に、手づくりの図面をもとに調査しておりましたが、タブレット端末によるGPS機能を活用し、入力することで、現地の確実性、状況の集約化にも効率的であり、また転作作物の現地確認にも活用が図られるものです。運用につきましては、順次進めてまいります。

目2農業総務費では、節1報酬は地域農業マネジャーの費用として、節2給料等につきましては、職員3名分を計上しております。

95ページをお願いします。

目3農業振興費、節7賃金、臨時雇人料では、農業支援センター職員1名分、臨時職員1名分を見込んでおります。

節13委託料、農業支援センター委託料では、農機具修繕が主なものです。

次のページをお願いします。

節14使用料及び賃借料、自動車借上料15万円では、農作業機械等の運搬に係る運送費を計上しております。入奈良本牧場土地借上料では、国有林野7.79ヘクタール分9万3,500円、入奈良本牧野組合分である17ヘクタール余り分が17万4,270円を計上しております。タチアカネ蕎麦の原種作付地として、またタチアカネ蕎麦の安定確保のために借り上げるものです。

節16原材料では、コンパラ原材料50万円を見込んでおります。

節19負担金補助及び交付金では、負担金、006新規就農者支援体制整備事業77万9,000円を見込んでおります。上田市、長和町、JA信州うえだと連携し、信州うえだファームが行う研修制度を活用して、県とともに新規就農者を確保、育成するものです。また、信州うえ

だファームが専属就農コーディネーターを設置し、人材誘致や就農者の相談等に対応するとともに、市町村や農業委員会との情報を共有し、きめ細やかな支援を行い、就農の後押しをするものでございます。補助金、046の水田営農推進機械施設等補助金では、農業機械の導入に伴う3割補助を予定しております。交付金、001中山間地域等直接支払事業交付金では、昨年と同額を見込んでおります。23集落分を計上しております。002有害鳥獣駆除対策協議会交付金では、有害鳥獣の駆除に関する獣害ネット等で、当郷地区を予定しております。005青年就農給付金600万円につきましては、次世代を担う農業者となることを目指します50歳未満の方に対しまして営農準備の支援をするもので、4名分を見込んでおります。

99ページをお願いします。

目5農地費、節13委託料59万7,000円、節15工事請負費460万円につきましては、村単土地改良事業として、循環型社会形成事業、当郷地区の水路改修を計画しております。

目8国土調査費、節1報酬268万1,000円につきましては嘱託職員1名分、節2給料等につきましては職員1名分を計上しております。

次のページをお願いします。

節7賃金163万4,000円につきましては、国土調査業務、臨時職員1名分を見込んでおります。

節13委託料、002一筆地測量委託料430万1,000円では、田沢7、8区境界設置業務等として、また015十箇年計画資料作成業務委託料68万2,000円では、地籍調査が国土調査促進特別措置法に基づき作成される国土調査事業十箇年計画に基づいて、計画的に行われております。今回、第7次分として、平成32年度からの10年分の更新を作成いたします。

次のページをお願いします。

節18備品購入費では、公図管理システム用パソコン1台、16万5,000円を計上しております。現在使用しているシステムが古いために、新しいバージョンのシステムに更新するものです。

項2林業費、目1林業総務費では、特に申し上げることはございません。

目2林業振興費、節11需用費、修繕料では、林道の補修、倒木処理などで100万円を見込んでおります。

次のページをお願いします。

節13委託料、002国補助事業委託料、松林健全化推進事業、抜倒駆除863万9,000円につきましては、5万3,000円の増。300立方メートルを計画しております。保全松林健全化整備

事業委託料では10万6,000円の増として、全体で800立方メートルを予定しております。004村単森林造成委託料222万4,000円では、平成31年度の上小植樹祭が青木村で開催の予定ですので、その準備として計上しております。また、松くい虫被害木の抑制、森林の保全として、松くい虫抵抗性アカマツの植樹を行うために、林地整備として50万円を計上しております。

節15工事請負費165万円につきましては、林道舗装工事を予定しております。

節16原材料、002植樹祭苗木代として、1,600本分、118万8,000円を見込んでおります。

節17公有財産購入費30万9,000円では、有害鳥獣残渣処理場の土地購入費用を見込んでおります。386坪の予定でございます。

節18備品購入費につきましては、くくりわな捕獲料を計上しております。

節19負担金補助及び交付金、森林造成事業補助金544万5,000円につきましては、合板・製材生産性強化対策交付金事業として、間伐材生産53.33ヘクタール、328万8,000円が主なものです。014自主転換事業補助金266万円につきましては、396万2,000円の減。3ヘクタール分を計画しております。

115ページをお願いします。

款7土木費、目1土木総務費、節2給料等、職員2名分を計上しております。

次のページをお願いします。

節7賃金230万8,000円につきましては、臨時職員1名分を見込んでおります。

節28繰出金、下水道事業特別会計繰出金1億9,655万3,000円につきましては、117万8,000円の増となっております。

項2道路橋梁費、目1道路維持費、節1需用費、修繕料1,471万5,000円では、11万5,000円の増となっております。各地区要望のもと、村道の道路修繕、舗装、排水修繕を計上しております。

次のページをお願いします。

節14使用料及び賃借料115万円につきましては、60万円の増となっております。各地区で御協力をいただいております材料支給事業等の重機使用を見込んでおります。

節15工事請負費2,341万円につきましては、391万円の増でございます。各地区要望の中の村道道路改良工事等を計上しております。

節16原材料費543万9,000円につきましても、94万8,000円の増となりまして、材料支給事業に伴います碎石、また生コン等が主なものでございます。

目2道路新設改良費、節2給料等につきましては、職員1名分でございます。

節13委託料165万円、節15工事請負費1,100万円につきましては、田沢温泉バイパス道路新設工事の経費でございます。およそ4年計画で、総延長405メートルの整備を計画しております。本年度分100メートルの延長、また幅員3メートルとして道路を計画しております。

節17公有財産購入費225万円では、田沢バイパスの用地費を見込んでおります。

節22補償補填及び賠償金500万円につきましては、田沢バイパスでの道路新設工事に伴い、消防施設の移転費等を見込んでおります。

次のページをお願いします。

節15工事請負費、村単事業工事請負費385万円ですが、会吉1号橋の修繕工事として床板の打ちかえ等を計画しております。

飛びますが、154ページをお願いします。

款10災害復旧費以降の災害に関しましては、特に申し上げることはございません。

以上、建設農林課関係の予算でございますが、御審議をいただき、お認めいただきますようお願いいたしまして、説明を終わらせていただきます。

○議長（沓掛計三君） 新津商工観光移住課長。

○商工観光移住課長（新津俊二君） それでは、商工観光移住課関係の歳出予算につきまして御説明申し上げます。

資料104ページをごらんください。

款6項1商工費、目1商工総務費でございます。2,132万8,000円とするもので、職員3人分の人件費等を計上してございます。主に手当の変動などを見込みまして、本年度に比べまして103万3,000円の増と計上させていただきました。

次に、1ページめくって、106ページをお願いいたします。

目2商工振興費3,245万6,000円でございます。主に商工振興に係る補助金、負担金等の計上でございます。前年比22万2,000円の増額となります。

主な変動でございますが、108ページに記載してあります節19補助金、地域消費券事業補助金でございますが、本年度は地域消費券を当初予算で4,000万円分発行いたしました。来年度は5,000万円分発行したいと思ひまして、その分、村の負担額、3%分ですが、補助金額といたしますと30万5,000円の増額となるものが主でございます。

そのまま108ページの左の欄をごらんください。

目3観光費でございます。1,692万5,000円。本年度に比して58万2,000円の増でございます。

す。

新たな取り組みといたしまして、節13委託料、イベント委託料でございますが、こちらはクラウドファンディングによりまして資金を集めまして、バーチャルリアリティーによる五島慶太翁の成果の復元の事業に取り組みたいと思っております。そちらの計上で280万円。その他、イベント経費としまして10万円の委託料で、新規290万円の計上がございます。

次に、110ページをごらんください。

110ページ、目4昆虫資料館費798万円でございます。本年に比して74万8,000円の増でございます。

主な要因ですけれども、新たに昆虫資料館の公用車をリース契約いたしまして、その計上をさせていただいています。節14賃借料が47万8,000円増額となったものでございます。

続いて、112ページをお願いいたします。

目5移住・定住促進費1,460万1,000円でございますが、本年度に比べ399万1,000円の増でございます。

主なものですけれども、115ページに記載してございますが、節19定住促進応援補助金でございますが、この補助金、居宅の新築購入等の場合に上限100万円補助を行うものですが、前年比300万円増とさせていただきたいと思っております。

次に、114ページの左側ですけれども、目6道の駅関連施設運営費1,608万円でございますが、51万1,000円の減でございます。

主な変動ですけれども、節11需用費、修繕料ですが、道の駅関連施設修繕料、こちらは工事が落ちつきましたので106万1,000円減といたしました。

次の節13委託料ですが、こちらは道の駅関連施設の管理委託料、こちらは冬の除雪機械のリース代を計上しておりませんでしたので、来年度は除雪のリース代を見込みまして、97万円増とさせていただきたいというものです。

120ページをお願いいたします。

款7土木費、項3住宅費、目1住宅管理費です。411万7,000円で、本年度に比べ5万6,000円の増でございます。こちらは、消費税の影響等を見込みまして微増と計上させていただきました。

その下の目2住宅建設費200万円でございますが、こちらは上限を20万円とする住宅リフォームの補助金の額でございます。本年と同額の額で計上させていただきたいという考えでございます。

以上、商工観光移住課関係の予算案について説明いたしました。よろしく御審議の上、御決定いただきますようお願いいたします。

○議長（沓掛計三君） 沓掛教育長。

○教育長（沓掛英明君） それでは、平成31年度の教育委員会関係の歳出予算について御説明申し上げます。

説明につきましては、前年度と変更になった点や重要な項目を主に説明させていただきます。

80ページをお願いいたします。

款3民生費、項2児童福祉費、目5児童福祉施設費は、児童センターの関係の予算でございますが、47万1,000円の増であります。

節8報償費では、水曜クラブとして13種類の講座の謝金を計上してあります。

83ページをお願いします。

節12役務費、006保険料は、児童センターで午前中に月2回行う母子相談事業、カンガルー教室の保険料であります。これは子供へのかかわり方に悩んでいる母親に対する相談事業であります。一昨年から取り組んでおります。

節15工事請負費は、図書室に新たにクーラーを設置する費用でございます。

飛びまして、124ページをお願いいたします。

款9教育費、項1教育総務費、目1教育委員会費でございますが、2万3,000円の増でございます。

節1報酬の教育委員につきましては、4名でございます。

目2事務局費でございますが、1,065万6,000円の減になっております。

これは主に、127ページにある節2給料、節3職員手当等の減によるもので、これは職員の退職による減でございます。

節8報償費、002講師謝礼は、臨床心理士の奥田健次氏の講師謝礼でございます。年6回程度、スーパーバイザーとしてお願いする予定であります。また、003障害児教育早期支援事業講師謝礼として、新たに3万円を計上してあります。早期支援事業を行っていただく専門性の高い指導者が保育園や小学校に指導に行っていただく計画でございます。

128ページ、目3教育指導費でございますが、108万円の増でございます。

節13の委託料は、ALTを保育園、小学校、中学校、児童センターに配置するものであります。昨年度から英語科の指導が移行期間に入っておりまして、ALTと担任との指導が連

携を密にして行われているところであります。

次に、131ページ、節20扶助費では、準要保護就学援助費は小学校23名分、中学校は11名分を見込んでございます。特別支援学級分では小学校で9名分、中学校3名分を見込んでございます。

次に、節28繰出金ですが、今年度は奨学資金として一応1,000円を計上していますが、今のところ、現状で運営ができるのではないかと考えております。

続きまして、132ページですが、項2小学校費、目1学校管理費でございまして、1,550万8,000円を増額いたしました。

節1の報酬ですが、来年度の新1年生が30名を超えたことから、1名の村費職員を配置します。これで一、二年とともに2学級で行うこととなります。また、四、五、六年の理科を指導していただく講師を配置する予定でおります。

135ページをお願いします。

節15工事請負費では、コンピューターの動画配信システム改修工事を行います。8年前の絆プロジェクトで設置したシステムが古くなったことによります。

続きまして、項3中学校費、目1学校管理費でございまして、1,504万円を減額いたしました。

節1報酬の嘱託教員は、来年度もことと同様な職員体制をとっていくつもりでございます。ただし、来年度は、中学校は1年、2年が2学級、3年が1学級となります。学級が1級ふえることから、専科として1名の先生が県費で対応できることになっています。英語の職員が県費負担になる計画で、村費負担は1名の減になります。

137ページの節11需用費、004の印刷製本費では、定期テストの印刷費代を計上してございます。

139ページの節15工事請負費では、129万6,000円を計上してあります。防火シャッターの修繕を計画しております。

項4社会教育費、目1社会教育総務費については、例年どおりでございます。

140ページ、目2公民館費は91万1,000円の増でございます。来年度は村民運動会の年に当たるため、節8報償費の各種大会賞品について増額してございます。

143ページの節19負担金補助及び交付金の014大学のグループの活動補助金として50万円を計上してございます。これは通学合宿や長泉サマーキャンプの補助や交通費の補助も含まれておりまして、子供たちがいつも楽しみにしている活動を支える費用になっております。

ここ数年、信大の学生さんだけではなくて、清泉女子大学、長野県立大学、長野大学の学生さんが参加していただくようになってきましたので、少し増額してございます。

目3文化会館費は、123万2,000円の増になっております。

節11需用費の増で、006修繕費として、玄関の自動ドアの交換工事を行う予定であります。

144ページの目4文化財保護費では、207万9,000円の増となっております。

節1報酬、002文化財保護指導委員が新規で計上してあります。平成31年度から市町村に文化財保護指導委員を置くことになったため、新たに新設したものです。村指定の文化財の保護活動を行っていただきます。

節13委託料ですが、埋蔵文化財試掘調査委託料として194万4,000円を計上いたしました。これは、村松地籍において、開発を視野に入れた試掘調査を依頼するものであります。

144ページ、目5青少年健全育成費は、75万円の増になっております。

節1報酬、001部活動指導員として、剣道部を指導する3名の先生方の報酬を見込んでおります。

次に、目6美術館費は114万9,000円の減になっております。これは149ページの節15工事請負費の減によるものであります。ちなみに、ことしは喫茶店のエアコン改修工事を行ったところであります。

失礼いたしました。先ほど村松地籍において開発を視野に入れた試掘調査を依頼すると申し上げましたが、村松及び当郷ほかの地籍というふうに考えております。修正をお願いします。

次に、148ページをお願いします。

目7の図書館費であります。396万円の増になっております。

151ページの節7賃金の増と節18備品購入費の増であります。図書館備品として新たに本棚を購入する予定であります。

152ページ、目8歴史文化資料館費でございますが、節7賃金を昨年度よりも減額してあります。

目9民俗資料館費ですが、特に申し上げることはございません。

項5保健体育費、目1保健体育総務費においても特にございません。

154ページの目2体育施設費ですが、172万5,000円の減になっております。ここも特に申し上げることはございません。

以上、一般会計の教育委員会関係の歳出予算の説明を申し上げます。よろしく御審議の

上、御決定いただきますようお願い申し上げます。

○議長（沓掛計三君） ここで暫時休憩といたします。

再開を1時15分をお願いします。

休憩 午後 零時05分

再開 午後 1時15分

○議長（沓掛計三君） それでは、休憩前に引き続き会議を再開します。

◎議案第11号の上程、説明

○議長（沓掛計三君） 日程第14、議案第11号 平成31年度青木村国民健康保険特別会計予算についてを議題とし、提案者の説明を求めます。

小宮山住民福祉課長。

○住民福祉課長兼保健衛生係長（小宮山俊樹君） 議案第11号 平成31年度青木村国民健康保険特別会計予算について御説明申し上げます。

171ページをお願いいたします。

平成31年度青木村国民健康保険特別会計予算は、次に定めるところによる。

（歳入歳出予算）

第1条 歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ5億4,685万3,000円と定める。

2 歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、「第1表 歳入歳出予算」による。

平成31年3月6日提出、青木村長、北村政夫。

179ページをお願いいたします。

2 歳入

款1 国民健康保険税ですが、全体では前年と比較して53万2,000円の減となっておりますが、現年度分に限りますと11万8,000円の増となっております。前年から財政運営主体が長野県に移管されましたが、青木村は医療費が高額となっており、これに基づき算定される事

業納付金を確保する上で、国保税の増税は不可避の状況にあります。このため、前年では、資産割を廃止するとともに所得割を増額したところがございますが、本年は、3年計画の2年目として、均等割の税率を医療給付費分、介護納付金分、後期高齢者支援分合わせて2万7,800円から3万8,700円へ増額させていただきました。

181ページをお願いいたします。

款6 県支出金、項1 県負担金及び補助金、節1 保険給付費交付金の普通交付金は2,081万5,000円の増、医療費に係る県からの交付金でございます。

節2 特別交付金は、保険者努力支援分が新規でございます。

款6 繰入金、項1 他会計繰入金の増は、保険基盤安定繰入金の保険税軽減分135万4,000円、同保険者支援分92万9,000円が主なものでございます。

款2 基金繰入金は、500万円の増でございます。

183ページをお願いいたします。

款8 諸収入、項2 目5 節1 雑入、健康診査料収入は前年と同額で、節目健診で無料の対象者を差し引いた、238人分でございます。

185ページをお願いいたします。

3 歳出につきまして御説明申し上げます。

款1 総務費、項1 総務管理費では、節13 委託料、国保連合会委託料は新規で、国保情報集約システム運用で20万円がございまして、電算委託料は27万円の減でございます。

款2 保険給付費、項1 療養給付費は、項全体で1,595万円の増、187ページ、項2 高額療養費は、項全体で90万5,000円の増となっております。

189ページをお願いいたします。

項4 出産育児諸費、目1 出産育児一時金は2件分、項5 葬祭諸費、目1 葬祭費では10件分を見込んでおります。

項7 結核精神諸費、目1 結核精神給付費の増は、前年度実績に基づくものでございます。

項3 国民健康保険事業納付金は、全体で1,150万6,000円の増でございますが、率では9.1%、かなりの増となっております。村の医療給付費の見込みを立て、財政運営主体である県に納める負担金でございます。

191ページをお願いいたします。

款5 保健事業費、項1 保健事業費、目1 保健衛生普及費、節19 負担金補助及び交付金、人間ドック健診補助金は、日帰り85名、1泊12名、脳ドック1名分を見込んでおります。

項2 特定健康診査等事業費では、節13委託料、特定健診委託料は420人分、特定保健指導6名を見込んでおります。

193ページの款5 諸支出金、それからその後の款6 予備費は、特に申し上げることはございません。

以上、国民健康保険特別会計予算について御説明申し上げました。よろしく御審議の上、お認めいただきますようお願いいたします。

◎議案第12号の上程、説明

○議長（沓掛計三君） 日程第15、議案第12号 平成31年度青木村簡易水道特別会計予算についてを議題とし、提案者の説明を求めます。

花見建設農林課長。

○参事兼建設農林課長兼農業振興係長（花見陽一君） 議案第12号 平成31年度青木村簡易水道特別会計予算について御説明申し上げます。

195ページをお願いします。

平成31年度青木村簡易水道特別会計予算は、次に定めるところによる。

（歳入歳出予算）

第1条 歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ1億8,759万9,000円と定める。

2 歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、「第1表 歳入歳出予算」による。

（地方債）

第2条 地方自治法第230条の第1項の規定により起こすことができる地方債の起債の目的、限度額、起債の方法、利率及び償還の方法は、「第2表 地方債」による。

（歳出予算の流用）

第3条 地方自治法第220条第2項ただし書きの規定により歳出予算の各項の経費の金額を流用することができる場合は、次のとおりと定める。

（1）各項に計上した給料、職員手当及び共済費（賃金に係る共済費を除く。）に係る予算額に過不足を生じた場合における同一款内でのこれらの経費の各項の間の流用。

平成31年3月6日提出、青木村長、北村政夫。

199ページをお願いします。

第2表 地方債

起債の目的、簡易水道事業債。

限度額、3,600万円。

起債の方法、証書借り入れ、または証券発行。

利率、年3%以内。

償還の方法、政府資金については、その融通条件により、銀行その他の場合には、その債権者と協定するものとする。ただし、財政の都合により繰上償還または償還年限の短縮もしくは借りかえができるものとする。

公営企業会計適用債480万円、起債の方法、利率、償還の方法につきましては同じでございます。

204ページをごらんください。

2 歳入

款1分担金及び交付金につきましては、節1新設分担金5件分を計上いたしました。

款2使用料及び手数料につきましては、節1現年度分水道料8,313万5,000円は、22万6,000円の減額でございます。使用料の減少によるものです。

款3繰入金、項1一般会計繰入金5,728万5,000円につきましては、1,222万5,000円の増額となります。

207ページをお願いします。

款6村債、節1簡易水道事業債3,600万円につきましては、夫神減圧槽更新工事に伴うものです。

節2公営企業会計適用債480万円につきましては、公営企業会計導入に伴うものです。

208ページをお願いします。

3 歳出

款1運営管理費、項1総務費、目1一般管理費では、給料、職員手当等については職員2名分です。

次のページをお願いします。

節13委託料、003公営企業会計システム委託料47万1,000円につきましては、企業会計システム導入に伴う保守委託料となります。

目1維持管理費では、節11需用費、005光熱水費804万円につきましては、34万1,000円の

増額となります。006修繕料596万4,000円は、8万8,000円の増額とし、本管、施設機器等の修繕を見込んでおります。

213ページをお願いします。

節12役務費、006クラウド情報配信料78万8,000円では、36万5,000円の増額とし、滝川浄水場、市ノ沢浄水場、配水池等の16カ所の配信となっております。

節13委託料、013水道公営企業会計適用業務委託料356万4,000円では、183万6,000円の減額としております。平成31年度までの計画で実施を計画しております。水道事業の経営、資産等の状況の正確な把握をし、合理的、能率的な経営を目指すものです。014村単工事設計業務委託料につきましては、夫神減圧槽更新事業の設計業務を計上しております。015水道企業会計システム導入委託料144万7,000円につきましては、109万7,000円の増額となります。平成32年度の新システム稼働に合わせて進めてまいります。

節15工事請負費、001村単水道管布設工事2,904万円につきましては、夫神減圧槽更新と配水池までの配水管布設がえ工事を計画しております。減圧槽は15立方メートルの築造となります。004村単事業工事請負費1,034万円につきましては、クラウドシステム導入として、立谷、中村浄水場への設置484万円、臼川ダム水位計設置工事550万円を計画しております。

款2公債費につきましては、節23償還金利子及び割引料6,030万7,000円、222万9,000円の増額。

次のページをお願いします。

目2利子1,798万3,000円につきましては、187万円の減額となっております。

216ページの給与費明細書につきましては、一般会計に準じて作成しておりますので、省略をさせていただきます。

223ページをお願いします。

地方債の前々年度末における現在高並びに前年度末及び当該年度末における現在高の見込みに関する調書につきましては、区分1、簡易水道債、前々年度末現在高11億9,852万3,000円、前年度末現在高見込み額11億6,764万6,000円、当該年度中起債見込み額3,600万円、当該年度中元金償還見込み額5,879万5,000円、当該年度末現在高見込み額11億4,485万1,000円。

区分2、辺地対策事業債、前々年度末現在高1,680万円、前年度末現在高見込み額1,680万円、当該年度中元金償還見込み額151万2,000円、当該年度末現在高見込み額1,528万8,000円。

区分3、公営企業会計適用債、前々年度末現在高540万円、前年度末現在高見込み額1,110万円、当該年度中起債見込み額480万円、当該年度末現在高見込み額1,590万円。

合計としまして、前々年度末現在高12億2,072万3,000円、前年度末現在高見込み額11億9,554万6,000円、当該年度中起債見込み額4,080万円、当該年度中元金償還見込み額6,030万7,000円、当該年度末現在高見込み額11億7,603万9,000円。

以上、御審議の上、お認めいただきますようお願いいたしまして、説明を終わらせていただきます。

◎議案第13号の上程、説明

○議長（沓掛計三君） 日程第16、議案第13号 平成31年度青木村別荘事業特別会計予算についてを議題とし、提案者の説明を求めます。

片田総務企画課長。

○総務企画課長兼事業推進室長（片田幸男君） それでは、議案第13号について御説明申し上げます。

225ページをお願いいたします。

平成31年度青木村別荘事業特別会計予算

平成31年度青木村別荘事業特別会計予算は、次に定めるところによる。

（歳入歳出予算）

第1条 歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ1,741万7,000円と定める。

2、歳入歳出予算の款項の区分及び該当区分ごとの金額は、「第1表 歳入歳出予算」による。

（歳出予算の流用）

第2条 地方自治法第220条第2項ただし書きの規定により歳出予算の各項の経費の金額を流用することができる場合は、次のとおりと定める。

1、各項に計上した給料、職員手当及び共済費（賃金に係る共済費を除く。）に係る予算額に過不足を生じた場合における同一款内でのこれらの経費の各項の間の流用。

平成31年3月6日提出、青木村長、北村政夫。

予算総額1,741万7,000円は、前年プラス106万円、6.5%の増となります。

次の226ページから231ページまでの説明は省略をさせていただき、232ページをお願いいたします。

2 歳入について御説明申し上げます。

款1財産収入、項1財産売払収入、目1不動産売払収入は前年同額。

款2項1目1繰越金50万円は同額で、前年度繰越金です。

款3項1目1別荘管理収入は3万円の増となっております。現年度分管理費の内容は、土地のみの区画が単価2万5,200円で121件、建築済みの区画が単価5万400円で212件を見込みました。これとはほかに、下草刈り分もあわせて見込んでおります。

款6繰入金、項1目1基金繰入金は、100万円を工事費に充当して使用するものでございます。

234・235ページ、3 歳出について御説明申し上げます。

款1事業費、項1目1別荘事業費は、106万円の増でございます。

節1報酬から節4共済費までは、嘱託職員と臨時職員それぞれ1名分に伴う人件費となっております。

節7賃金は、管理事務所臨時職員が1名分と、草刈り等の作業員、除雪作業員の賃金を見込みました。

節11需用費については、前年、13万7,000円の減。001消耗品から005光熱水費までは管理事務所の経費、006の修繕料は、道路修繕を含めた別荘管理に係るトラクター、草刈り機等に係る経費が計上されてございます。

節13委託料は、夜間のパトロールに伴う委託料を月3回分、計上しました。

節14使用料及び賃借料は前年同額でございます。

次のページへいきまして、節15工事請負費は、道路改修工事に54万円、除雪機用車庫に216万円を予定しております。

節16原材料費は、砕石、砂のほか、有害鳥獣予防策の資材300メートル分を見込みました。

節18備品購入費は25万3,000円の減。施設管理機器として、草刈り機、チェーンソー、ゴミステーション等の購入を予定しております。

節19負担金補助及び交付金は前年同額で、沓掛、入奈良本地区への区費及び協力金です。

節27公課費は、自動車重量税と別荘事業に伴う消費税納付金等でございます。

238ページは給与費明細書になります。内容については、一般会計に準じて作成してありますので、説明は省略させていただきます。

以上、議案第13号について御説明申し上げました。御審議いただき、御決定いただきますようお願いいたします。

◎議案第14号の上げ、説明

○議長（沓掛計三君） 日程第17、議案第14号 平成31年度青木村特定環境保全公共下水道事業特別会計予算についてを議題とし、提案者の説明を求めます。

花見建設農林課長。

○参事兼建設農林課長兼農業振興係長（花見陽一君） それでは、239ページをお願いします。

平成31年度青木村特定環境保全公共下水道事業特別会計予算は、次に定めるところによる。

（歳入歳出予算）

第1条 歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ2億7,777万2,000円と定める。

2 歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、「第1表 歳入歳出予算」による。

（地方債）

第2条 地方自治法第230条の第1項の規定により起こすことができる地方債の起債の目的、限度額、起債の方法、利率及び償還の方法は、「第2表 地方債」による。

（歳出予算の流用）

第3条 地方自治法第220条第2項ただし書きの規定により歳出予算の各項の経費の金額を流用することができる場合は、次のとおりと定める。

（1）各項に計上した給料、職員手当及び共済費（賃金に係る共済費を除く。）に係る予算額に過不足を生じた場合における同一款内でのこれらの経費の各項の間の流用。

平成31年3月6日提出、青木村長、北村政夫。

243ページをお願いします。

第2表 地方債

起債の目的、公営企業会計適用債。

限度額、620万円。

起債の方法、証書借り入れ、または証券発行。

利率、年3%以内。

償還の方法、政府資金については、その融通条件により、銀行その他の場合には、その債権者と協定するものとする。

ただし、財政の都合により繰上償還または償還年限短縮もしくは借りかえができるものとする。

248ページをごらんください。

2 歳入

款1分担金及び負担金、項1分担金、目1下水道費分担金、節1受益者分担金559万円として、13件分を計上しております。

款2使用料及び手数料につきましては、節1現年度分6,453万2,000円につきましては、41万4,000円の増となります。下水道加入者が増加していることによります。

款3繰入金、項1一般会計繰入金につきましては1億9,655万3,000円、117万8,000円の増額となっております。

次のページをお願いします。

款6村債、節1公営企業会計適用債620万円を計上しております。

次のページをお願いします。

3 歳出

款1下水道費、項1公共下水道建設費、目1公共下水道建設費、節19負担金補助及び交付金266万円では、宅内工事村負担金が5件分、水洗化改造資金利子補給金2件分、下水道区域外補助金5件分を計上しております。

項2公共下水道管理費、給料、職員手当等については、職員1名分です。

255ページをお願いします。

節11需用費、005光熱水費620万8,000円、5万6,000円の増額、006修繕料275万4,000円では、64万8,000円の増額です。浄化センター曝気装置機オーバーホール205万2,000円が主なものです。

節13委託料では、001処理場維持管理委託料1,012万円につきましては、消費税分を増額しております。026下水道公営企業会計適用業務委託料497万3,000円につきましては、165万4,000円の減額とし、平成31年度までの計画で実施しております。下水事業の経営、資産等の状況の正確な把握をし、効率的な経営を目指すものです。

次のページをお願いします。

款2公債費、目1元金償還金1億8,310万4,000円、512万5,000円の増額とし、目2利子

につきましては3,766万4,000円、507万7,000円の減額となります。

258ページ以降の給与費明細書につきましては、一般会計に準じておりますので省略をさせていただきます。

265ページをお願いします。

地方債の前々年度末における現在高並びに前年度末及び当該年度末における現在高の見込みに関する調書につきましては、区分1、下水道事業債、前々年度末現在高16億9,997万8,000円、前年度末現在高見込み額15億2,200万円、当該年度中元金償還見込み額1億8,310万4,000円、当該年度末現在高見込み額13億3,889万6,000円。

区分2、公営企業会計適用債、前々年度末現在高350万円、前年度末現在高見込み額1,040万円、当該年度中起債見込み額620万円、当該年度末現在高見込み額1,660万円。

合計、前々年度末現在高17億347万8,000円、前年度末現在高見込み額15億3,240万円、当該年度中起債見込み620万円、当該年度中元金償還見込み額1億8,310万4,000円、当該年度末現在高見込み額13億5,549万6,000円となります。

以上、御審議の上、お認めいただきますようお願いいたしまして、説明を終わらせていただきます。

◎議案第15号の上程、説明

○議長（沓掛計三君） 日程第18、議案第15号 平成31年度青木村介護保険特別会計予算についてを議題とし、提案者の説明を求めます。

小宮山住民福祉課長。

○住民福祉課長兼保健衛生係長（小宮山俊樹君） 議案第15号 平成31年度青木村介護保険特別会計予算について御説明申し上げます。

267ページをお願いいたします。

平成31年度青木村介護保険特別会計予算は、次に定めるところによる。

（歳入歳出予算）

第1条 歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ5億6,513万8,000円と定める。

2 歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、「第1表 歳入歳出予算」による。

平成31年 3月 6日提出、青木村長、北村政夫。

275ページをお願いいたします。

2 歳入

款 1 保険料、項 1 介護保険料、目 1 第 1 号被保険者保険料、節 1 現年度分特別徴収保険料及び節 2 現年度分普通徴収保険料につきましては、月額6,000円を基準額とし、所得等に応じ、10段階の確率で算定したものでございます。

款 3 国庫支出金、項 1 国庫負担金、目 1 介護給付費負担金は、給付費のうち施設分が15%、4,399万3,950円、居宅分が20%、4,608万8,800円でございます。

項 2 国庫補助金、項 4 保険者機能強化推進交付金は、30年度に50万ほどありましたが、31年度につきましては内示等が出ておりませんので、頭出しをお願いいたします。

款 4 支払基金交付金、目 1 介護給付費交付金は、給付費の27%相当でございます。

277ページをお願いいたします。

款 5 県支出金、項 1 県負担金、目 1 介護給付費負担金は、給付費のうち施設分が17.5%、5,132万6,275円、居宅分が12.5%、1,880万5,500円でございます。

款 6 繰入金、項 1 一般会計繰入金、目 1 介護給付費繰入金は、繰り入れ基準により介護保険給付費の12.5%を繰り入れるものでございます。あとは特に申し上げることはございません。

281ページをお願いいたします。

3 歳出

款 1 総務費、項 1 総務管理費、節 1 委託料、電算処理委託料は、前年のシステム改修委託料が皆減し、国保連とパソコン環境設定等49万8,300円が新規でございます。

項 2 介護認定審査会費、目 1 認定審査会共同設置等負担金は、上田地域広域連合に委託するもので、年間340人ほどを予定しております。

目 2 認定調査費等は、生活保護被保護者に係るものでございまして、広域のほうではこちらの処理はできないということで、村のほうで行うものでございます。

款 2 保険給付費、項 1 介護サービス等諸費、目 1 居宅介護サービス給付費は、要介護 1 から 5 の在宅サービス費で、デイサービス、ホームヘルプ、ショートステイ等に係るものでございます。

283ページをお願いいたします。

目 3 地域密着型介護サービス給付費は、認知症型グループホームと地域密着型通所サービ

ス費の上田市指定施設みなし利用分となっております。

目5施設介護サービス給付費は、老人福祉施設、老人保健施設、療養型医療施設分で、居宅から施設に移る傾向があり、増額となっております。

285ページをお願いいたします。

目9居宅介護サービス計画給付費の減は、実績等によるものでございます。

項2介護予防サービス等諸費、目1介護予防サービス給付費は、要支援1・2の在宅サービス費で、デイケア、福祉用具貸与、ショートステイ等に係るものでございます。

289ページをお願いいたします。

項4高額介護サービス等費、目1高額介護サービス費は、介護保険利用者の負担上限額を超えた場合に、所得に応じて給付されるサービスでございます。

項5特定入所者介護サービス等費、目1特定入所者介護サービス費は、要介護認定者のショートステイを含む施設の食事代、部屋代の減額分でございます。

ページが飛びます。293ページをお願いいたします。

款5地域支援事業、項1目1介護予防生活支援サービス事業費は、訪問通所サービス相当及び基準を緩和したサービスA型を運用するものでございます。

項2目1一般介護予防事業費、節8報償費は、介護予防事業のため、講座、講演会等の講師謝礼でございます。

295ページをお願いいたします。

節13委託料は、筋力アップ、脳と体のストレッチ等の運動指導でございます。

項3包括的支援事業・任意事業費、目2権利擁護事業費は、成年後見に係る経費、目4任意事業、節8報償費は、介護者の集い等、講師謝礼でございます。

節13委託料は、介護予防・地域支え合い事業として、外出支援サービス事業417万円、緊急通報体制等整備事業30件、70万6,320円、訪問理美容サービス事業10回、2万円でございます。

節19負担金補助及び交付金は、紙おむつ補助金30件分、節20扶助費は、寝たきり認知症老人介護慰労金で20名分を予定しております。

297ページをお願いします。

目5認知症総合支援事業は、認知症サポーター講座1回とフォローアップ講座1回を予定しております。

以上、介護保険特別会計予算について御説明申し上げます。よろしく御審議いただき、

御決定くださいますようお願いいたします。

◎議案第16号の上程、説明

○議長（沓掛計三君） 日程第19、議案第16号 平成31年度青木村後期高齢者医療特別会計予算についてを議題とし、提案者の説明を求めます。

小宮山住民福祉課長。

○住民福祉課長兼保健衛生係長（小宮山俊樹君） 議案第16号 平成31年度青木村後期高齢者医療特別会計予算について御説明申し上げます。

299ページをお願いいたします。

平成31年度青木村後期高齢者医療特別会計予算は、次に定めるところによる。

（歳入歳出予算）

第1条 歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ6,144万7,000円と定める。

2 歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、「第1表 歳入歳出予算」による。

平成31年3月6日提出、青木村長、北村政夫。

307ページをお願いいたします。

2 歳入

款1 後期高齢者医療保険料につきましては、年金から徴収する特別徴収保険料と窓口、口座等から徴収する普通徴収保険料となっております。

款3 繰入金、項1 一般会計繰入金ですが、保険者の支援分と保険料軽減分とに対して一般会計より繰り入れをするものでございます。

312ページをお願いいたします。

3 歳出

款1 後期高齢者医療広域連合負担金で、徴収した保険料と繰入金を合算して後期高齢者医療広域連合へ負担金として納付するものでございます。

[「議長、資料がわからない、ページがね」「ページ」「今のページ、312ページと言ったけれども、多分、ページが違うんだよね」の声あり]

○住民福祉課長兼保健衛生係長（小宮山俊樹君） 済みません。間違え、ちょっと私のほうで。済みませんでした。ページのほうを間違えておりました。309ページをお願いいたします。

3 歳出

款1 後期高齢者医療広域連合納付金で、徴収した保険料と繰入金を合算して、後期高齢者医療広域連合へ負担金として納付するものでございます。あとは特に申し上げることはございません。

以上、後期高齢者医療特別会計予算について御説明申し上げました。よろしく御審議の上、お認めいただきますようお願いいたします。

◎請願第1号の上程、説明

○議長（沓掛計三君） 日程第20、請願第1号 長野県の子ども・障がい者等の医療費窓口完全無料化を求める請願についてを議題としますが、平成30年第4回議会定例会において社会文教委員会へ委員会付託をし、閉会中の継続審査となっている案件でありますので、社会文教委員長より報告をお願いします。

居鶴社会文教委員長。

○社会文教委員長（居鶴貞美君） それでは、委員会におけました審査結果の報告につきまして御説明を申し上げます。

青木村議会議長、沓掛計三殿、社会文教委員長、居鶴貞美。

社会文教委員会審査結果報告書

本委員会は、平成30年12月18日に付託された下記事件を審査の結果、次のとおり議決すべきものと決定しましたので、会議規則第74条の規定により御報告をいたします。

請願第1号 長野県の子ども・障がい者等の医療費窓口完全無料化を求める請願についてです。

審査結果につきましては、採択すべきものと決定をいたしました。

審査の結果及び決定の理由について申し上げます。

付託された事件を審査するため、平成31年1月21日に第1回、平成31年2月19日に第2回委員会を開催いたしました。

福祉医療費制度における現状等に対する質疑は住民福祉課職員より応答させ、本請願の趣

旨、効果等に係る質疑については請願の紹介議員である委員より応答を求めました。

レセプト500円を撤廃した場合の村負担及び国からのペナルティー、長野県福祉医療費給付事業検討会の意見、実施する場合の医療機関等の調整、近隣市町村の動向等の質疑がありました。

反対討論なく、賛成討論では、長野県福祉医療費給付事業検討会の意見は生活者の視点に立ったものでないこと、付託された請願は、福祉医療制度において県にも一定の負担を求める内容のものであり、18歳に達する年度の子供及び障害者等まで窓口完全無料化を拡大しても、村に過大な負担がかからないはずのものであるとの意見がありました。

以上でございます。

◎平成31年度青木村社会福祉協議会会計予算の説明

○議長（沓掛計三君） 続きまして、日程には議案はありませんが、平成31年度青木村社会福祉協議会会計予算について報告をお願いします。

小宮山住民福祉課長。

○住民福祉課長兼保健衛生係長（小宮山俊樹君） それでは、平成31年度青木村社会福祉協議会会計予算について御説明申し上げます。

平成31年度青木村社会福祉協議会会計予算は、次に定めるところによる。

（歳入歳出予算）

第1条 歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ3,125万8,000円と定める。

2 歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、「第1表 歳入歳出予算」による。

（歳出予算の流用）

第2条 地方自治法第220条第2項ただし書きの規定により歳出予算の各項の経費の金額を流用することができる場合は、次のとおりと定める。

各項に計上した給料、職員手当及び共済費（賃金に係る共済費を除く。）に係る予算額に過不足を生じた場合における同一款内でのこれらの経費の各項の間の流用。

平成31年3月6日提出、社会福祉法人青木村社会福祉協議会会長、三澤二男。

8ページをお願いいたします。

2 歳入

款1 補助金、項2 村補助金につきましては、10万5,000円の減となっております。

款2 配分金ですが、赤い羽根及び共同募金より80%配分されるものでございます。

款3 事業委託金、項1 村委託金、老人センター分は24万4,000円、くつろぎの湯分は74万6,000円の増となっております。

款4 使用料及び手数料では、くつろぎの湯使用料が25万7,000円の減となっております。

10ページをお願いいたします。

3 歳出

款1 項1 事務費、節1 報酬は、会長1名と理事4名、評議員12名と嘱託職員1名でございます。

12ページをお願いいたします。

款2 事業費、項1 目1 援護費、節20 扶助費は、両親片親のない家庭慰問金26世帯分、項3 目1 助成金は、高齢者クラブほか4団体に対して、昨年と同額でございます。

項4 目1 心配ごと相談事業費、節1 報酬は、心配ごと相談員3名、法律相談員として司法書士4回分。

項5 目1 老人センター費、職員手当等共済費、14ページの賃金、こちらは臨時職員2名分と非常勤職員50日分を計上しております。

項8 目1 くつろぎの湯運営費報酬、職員手当等、次の16ページの共済費、賃金は、嘱託職員1名分、非常勤職員月当たり8日分でございます。

節11 需用費、修繕費は40万円の増で、ろ過器、ボイラー等、機械設備の修繕に充てるものでございます。

節18 備品購入費は、湯茶提供機を予定しているところでございます。

18ページをお願いいたします。

項5 地域支え合い福祉計画事業費、節19 負担金補助及び交付金、地域支え合い事業補助金は、既存の9地区に見込みの1地区を合わせ、10地区分の計上をしております。

項10 結婚推進事業費、節1 報酬は、結婚相談員4名分でございます。あとは特に申し上げることはございません。

以上、社会福祉協議会会計予算の説明を終わらせていただきます。

◎散会の宣告

○議長（沓掛計三君） 以上で本日の日程は全て終了しました。

本日はこれにて散会といたします。

この後、全員協議会を議員控室で行いますので、議員の皆様はご移動をお願いします。

散会 午後 2時00分

平成 3 1 年 3 月 8 日 (金 曜 日)

(第 2 号)

平成31年第1回青木村議会定例会会議録

議事日程(第2号)

平成31年3月8日(金曜日)午前9時開議

日程第1 一般質問

出席議員(10名)

1番	宮入隆通君	2番	坂井弘君
3番	松澤正登君	4番	金井とも子君
5番	宮下壽章君	6番	沓掛計三君
7番	居鶴貞美君	8番	小林和雄君
9番	堀内富治君	10番	山本悟君

欠席議員(なし)

地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名

村長	北村政夫君	教育長	沓掛英明君
総務企画課長兼事業推進室長	片田幸男君	参事兼建設農林課長兼農業振興係	花見陽一君
住民福祉課長兼保健衛生係	小宮山俊樹君	教育次長兼公民館長	横田孝君
保育園長	若林喜信君	会計管理者兼税務会計課長	多田治由君
建設農林課長補佐兼建設係	宮下剛男君	商工観光移住課	新津俊二君
建設農林課長補佐兼上下水道係	横沢幸哉君	住民福祉課長補佐兼地域包括支援センター	宮澤章子君
住民福祉課長補佐兼住民福祉係	上原博信君	総務企画課長補佐兼総務係	稲垣和美君

總務企画課
企画財政係長

小林利行君

總務企画課
業務推進室長

塩澤和宏君

建設農林課
国土調査係長

小林義昌君

總務企画課
庶務係長

小林宏記君

事務局職員出席者

事務局長

片田幸男

事務局員

稲垣和美

開議 午前 9時00分

◎開議の宣告

- 議長（沓掛計三君） 皆さん、おはようございます。
定刻になりましたので、本日の会議を開きます。
-

◎議事日程の報告

- 議長（沓掛計三君） 本日は、平成31年第1回青木村議会定例会の中で、一般質問日となっております。8人の議員が一般質問を行い、終了後、総括審議、委員会付託を行い、散会いたします。
-

◎一般質問

- 議長（沓掛計三君） 質問の方法は、質問者の希望により一括質疑方式及び一問一答方式で行ってください。

質問者並びに答弁者をお願いします。質問、答弁ともに簡潔明瞭に行い、議論を深めてください。また、一問一答方式の際は、必ず議長の指名を受けてから発言してください。質問時間は40分を超えることはできませんので、御承知おきください。

それでは、質問に入ります。

通告順に登壇をお願いします。

◇ 堀内富治君

- 議長（沓掛計三君） 9番、堀内富治議員。

堀内議員。

〔9番 堀内富治君 登壇〕

○9番（堀内富治君） おはようございます。9番、堀内富治でございます。

きょうは、3件について質問をしております。村長並びに教育長、それから担当課長の答弁、よろしくお願いを申し上げます。

まず初めに、青木村高速情報通信センター事業について質問をしております。

青木村有線放送電話協会より平成23年4月に引き継ぎまして、青木村高速情報センターに移行したわけでございますが、非常に機能も強化をされ、今、立派に業務を続けておるわけでございます。

既に8年も経過しております。私もJAの理事の頃協会の副会長として6年間担当してまいったわけでございますが、大変懐かしく思いますし、貴重な施設であったというふうにごえておるわけでございます。

青木村民に、村あるいはJAの情報を統一的に徹底する方式で、当時は注目されてまいったわけであります。ほとんど全戸が加入をしまして、担当職員は番組編成等、本当に御苦労されたかというふうにごえておるわけでございます。

今、運営内容をお考えますと若干変わっておるわけでございますが、通信放送サービスという内容が主かなというふうにごえておるわけであります。

村長にお伺いをしたいと思います。稼働内容も非常に順調のようございまして、人口も減少はしております。それから、携帯の電話はふえておりますけれども、この運営状況について若干お伺いをしたいと思います。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） おはようございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

青木村の情報通信センターの状況についてでありますけれども、正しい情報を早く必要なときにタイムリーにお届けする、それが私どものモットーとしております。

お話にありましたように、携帯電話等の普及によりまして、さまざまなツールが情報化の時代に日進月歩で進歩しておりますけれども、やはり基本的には、村民の皆さんには、役場のこと、行政のこと、地区のこと等々は、この情報電話を通じてお伝えをしていく大変重要なツールであるというふうにごえております。

運営状況でありますけれども、経過については今、堀内議員がおっしゃいましたとおりでありますけれども、この間、機器の大きな故障もなく、トラブルもなく運用している状況でございます。

現在の加入の状況でありますけれども、通信サービスが1,537件、放送サービスが1,604

件、アバウトでありますけれども、村全体の9割の世帯が加入している状況でございます。

○議長（沓掛計三君） 堀内議員。

○9番（堀内富治君） 村長から今答弁がありましたように、内容的には若干の変化はあるよう
うでございますけれども、順調に運営がされておると、こういうことでございまして、うれ
しく思っておるわけであります。

平成25年からのデータもお聞きをしておるわけでございます。ちょっと古いわけござい
ますけれども、課題も若干あるかというふうに思いますけれども、内容的には、通信サー
ビス、それから光が入っておるわけでございます。あるいは放送サービスということござ
いますけれども、非常に積立金も堅実に貯金されておるようでありまして、非常に堅実な対
応をされておるかな、こんなふうに考えておるところでございます。

聞くとおるところによりますと、設備更新は今後10年間はしなくてもいいだろうと、こういうよ
うなお話も聞いておるわけでございますが、この辺の内容はいかがでしょう。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） たくさん活用していただいているというふうに思っておりますし、上
手にいろいろな方々が、もう8年も経過したわけでありまして、なれた使い方をされてい
るというふうに思います。

基金をつくりまして、積み立てをしております。絶対数がこれで足りるかというのと、大き
な交換をすると多額な費用がかかりますので、なかなか全額というわけにいかないかと思
いますけれども、今、体力のあるうちに大きな機器の更新のために、基金の積み立てを計画的
にやっているわけであります。

今後、こういった大きな基本となる、基幹となる機器の交換のために、今後も堅実な財政
運営をしてみたいというふうに思っております。

○議長（沓掛計三君） 堀内議員。

○9番（堀内富治君） 非常に私どもも心配をしておるわけでございますけれども、金銭的な
問題はいいわけでございますが、この施設を有効にこれから利用していくためには、どうし
たらいいだろうかと、こんなことについて私は関心を持っておるところでございます。

将来への対応はどんなふうにお考えであるか、お伺いをしたいと思います。

いろいろの話を伺っておるわけでございますが、上田ケーブルビジョンとの関係、あるい
はまた指定管理方式というような、こんなような御意見もあつたり、もっと変わった形で利
用方法を考えたらどうだというような意見もあるわけでございますが、その辺のお考えがあ

りましたらお伺いをします。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） 当面は、今の状況で足りるといいでしょうか、情報もお出しできておりますし、必要な情報を提供させていただいているというふうに思っております。先ほど冒頭申し上げましたように、情報化の時代でいろいろ機器が日進月歩したり、あるいは災害の際の対応をもう少ししなければならないとか、そういう課題も持っております。

近隣の市町を見ますと、FMだとかケーブルテレビだとか、そういうことの活用をしているところも出てまいりましたので、そういった近隣の状況を見ながら、私どもも今すぐというわけにはいきませんが、機器の更新時期には、そんなことも考えていかなければならないというふうに思っております。

一番心配なのは、大規模災害の際に、この情報電話が使えなかった場合どうするかという話でありますけれども、これは総務省の信越通信局と臨時のラジオ放送基地を開設することで協定を結んでおりますので、一時的にはそれでしのげるかなと、こんなふうに思っております。

○議長（沓掛計三君） 堀内議員。

○9番（堀内富治君） 先ほどもちょっと触れましたけれども、ケーブルビジョンとの関係は、特別現状考えておるかどうか、お伺いします。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） 上田ケーブルテレビは、この議会の冒頭の日にも取材していただきましたように、青木村の情報は結構上田の中で流していただいております。

青木村内で見えるのは当郷の一部のみでありますけれども、テレビとしての情報をいただけるような、たまたま立派な光ケーブルが敷設されておりますので、そういったことを使って村内にできないかなというのが、向こうも私どもも思っているところでありますけれども、いずれにしても行政の負担、あるいは個人の負担もかかりますことですから、何か大きな機器の交換の際にそういったことを考えていくというようなことで、お互いに少し勉強といたしましょうか、意思疎通といたしましょうか、まだそんな段階ではありますけれども、頭の中にはそういうことも想定しております。

○議長（沓掛計三君） 堀内議員。

○9番（堀内富治君） 上田ケーブルビジョンとの関係につきましては、当初いろいろ課題がありました、それから当郷の一部だけだというようなこともありまして、全体的に考えた

らどうだというような御意見もあったわけでございまして、私も承知はしておるわけでございますけれども、もし考えられるとするならば、その辺の範囲まで広げながら検討していったらどうかというふうに考えておりますが、もう一度お考えをお願いします。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） 情報はたくさん、そして早く知ることが私どもの生活にとりましても大変大事なことであります。

課題は、かかる費用をどういうふうに負担していくかでありますけれども、そういうことを含めながら、ケーブルテレビとは、災害の際のこともありますので、今後も意見交換、研究を重ねてまいりたいと思っております。

○議長（沓掛計三君） 堀内議員。

○9番（堀内富治君） 先ほど村長も触れられましたけれども、一番心配しておりますことは災害の問題だと思うんですね。この災害対策をどうするか、それからまた、現状、停電になって電源をどうするかというようなことも出てくるかと思っておりますけれども、その辺は具体的なお考えがありましたら、お願いします。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） 公的なところには蓄電池がありまして、しばらくの間はその蓄電池で対応できるようにはなっております。

情報電話だけに、災害の際には頼ることなくて、いろんな情報の発信の方法を考えておりますし、今後も村民の皆さんにはPRしていきたいというふうに思っております。

○議長（沓掛計三君） 堀内議員。

○9番（堀内富治君） 高齢化社会に今もう移行しつつあるわけでございますけれども、非常に私が心配になりますことは、耳の悪い人、それから非常に体の動きの悪い人、なかなか歩けない人、こういうような、どこか不自由な皆さんがふえてくる時代にもうなったわけでございますけれども、そういう面で、このセンターの事業を有効に活用できるような考えはないか、こういうふうに私は考えておるんですけれども、氾濫情報の調査とか、そういうようなものが、こういうような施設の中で有効に活用されればというふうに考えておりますが、その辺はどんなふうにお考えですか。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） 災害の際に、確かに御質問いただきましたように、足の悪い人、耳の悪い人、いわゆる災害弱者というんでしょうか、そういう方々への対応というのは、率先し

すべき事項であるというふうに思っております。

担当課、あるいは担当者、あるいは民生児童委員の皆さん、あるいは社会福祉協議会等々、災害弱者の名簿づくりとか、まずそういうものを今つくりつつありますし、もうできた地区もあるわけでありましてけれども、そういったものの、さまざまなこういった情報を共有していくということが大事であろうと思っております。

御質問の情報通信センターとこれを絡めてというのは、いろいろあるかと思っておりますけれども、ほかにもツールがありますので、そういうところと総合的に考えていくことになるとういうふうに思っております。

○議長（沓掛計三君） 堀内議員。

○9番（堀内富治君） それから、村長も十分に承知をされておられると思うし、先ほども答弁の中でそんなような回答があったわけですが、私も宮原村長さんのときに、野外施設ですね、これをとにかくどうか考えられないかという提案を何回も申し上げたことがあったんですけども、とてもお金がかかって、そんなことはできないと、こういうふうな回答でございました。

全くそのとおりだというふうに私は思うんですけども、災害というのは、どういうときに、どういうふうに発生してくるかというような問題が明確でないところに問題があるかというふうに私は思いますけれども、いまだに村長は野外施設につきましては考えていないというようなお考えですかね。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） 災害の際に、いろいろ人が避難したり物資を集積したり、あるいは病院的な施設にしたりという野外施設というふうに理解しましたけれども、その後、御案内のとおり、ふるさと公園あおきができました。ヘリポートもありますし、広場もありますし、貯水槽もありますし、それから小さいですけども、避難するときのテントを張る施設もあります。かまどベンチもあります。そういったことを、まず一義的に活用してもらうのかなと。マンホールホールトイレもありますね。あそこを一つの野外施設の基地にしていきたいと。一番国道の端にもありまして、物質とか人とかの流れの中にも一番いいし、道の駅も対岸にありますので、そういった活用を一帯で災害の際には活用していくことになると思います。

○議長（沓掛計三君） 堀内議員。

○9番（堀内富治君） それから、もう一つお伺いをしてみますと、あの業務を2人の方が担

当されておるわけでございます。非常に御苦労だというふうには考えておるわけでございますけれども、その辺はどんなふうにお考えであるのか、お伺いをします。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） 現在、アナウンスと料金徴収する嘱託職員1名、それから修理など専門的な知識、技能を持った臨時の職員1名、2名で業務を担当させていただいております。大きな事故とか修理がなければ、この2名体制で、ぎりぎりではありますけれども、大丈夫かなというふうに思っております。

そういう中でありますけれども、特に専門的な技術とか機器の癖というのでしょうか、そういうようなものを熟知した職員の育成というのはすぐできないので、こういったことが人的なところでは課題であるというふうに認識しております。

○議長（沓掛計三君） 堀内議員。

○9番（堀内富治君） いろいろと災害時の問題と課題はあるかというふうには私は思いますけれども、どうか有効に活用されるような方策をしっかりと取り組んでいただきたいというふうに考えておるわけでございます。よろしくお伺いをします。

次は、2点目でございます。少子高齢化対応の推進と検証ということで、検証なんという言葉を使わせてもらいましたけれども、御了解をお願いをしたいと思います。

大変難しい業務でございまして、どこまでやればいいのか先が見えないと、こういうような状況かなというふうに考えておるわけでございます。専任の担当が配置されてもいいではないかというような感じもしておるわけでございます。

住民福祉課長の名刺の肩書きには、兼少子高齢化対策担当と、こういう一言が入っておるわけでございますが、前村長さんのときからだというふうには私は思いますけれども、非常に業務自体が難しい中で非常に大変だなと、こんなように考えておるわけでございます。

この辺のことを、まず先に村長にお伺いをしておきたいと思いますが、どうでしょうか。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） 6年間、この村長という重責を担当させていただいておりまして、少子高齢化というのは、最も重要な課題の一つであるというふうに思っております。私は、少子高齢化を超少子、超高齢というふうに認識しております。大変重いことであります。

専任の職業をというお話もございましたけれども、専任の職員ということではなくて、役場の、行政の総力を挙げてやらないと、これはなかなか解決しないなというふうに思っております。

いずれにしても、トップは村長でありますので、いろいろな方策、あるいは国の流れ等々の中で、こういったことをうまく乗せていきたい、最重要課題であるというふうに思って取り組んでいるところでございます。

○議長（沓掛計三君） 堀内議員。

○9番（堀内富治君） 人事問題は村長の専決ですから、いろいろ私が言うことはないですけども、考えてみますと、今、少子高齢化対策というのは、非常に私は重要な課題だと思うんです。そういう面から、どうか村長を筆頭にしっかりと対応ができるように、体制固めをお願いをしておきたいというふうに考えております。

今、この業務自体は、見渡してみますと非常に幅広いものがございまして。人材も必要かというふうに私は考えておるわけですが、考えてみますと、婚活から、それから結婚、それから子育て、ずっと亡くなっていくまで、いろいろとチェックをしてまいらなければいけないと、こういうような重要な業務になるわけですが、そんなことから、総合的にとにかく対応をお願いをしていきたい、こういうふうに考えておるわけですが。

青木村長期計画、後期計画に基づきまして、業務も順調に進められておるか、こんなふうに私は考えておるわけですが、この超少子高齢化対策、あるいは課題等もいろいろあるわけですが、この進捗状況等について、もしお考えがございましたらお願いをしたいと思っております。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） 5カ年計画、2年を終わろうとしているわけでありましてけれども、それぞれ今の御質問の中にありましたように、少子化、高齢化というのは幅広く、総合的に対応しなければならないという業務でございます。

一つ一つ挙げてという答弁はできませんけれども、それぞれのところで、今お話がありましたように、婚活から始まりまして墓場までの、この間の幅広く、そして総合的な事業につきまして、それぞれできているというふうに思っております。

自然増減につきましては、残念ながらマイナスでありますけれども、社会動態につきましてはプラスということでありまして、わずかではありますが、人口全体から見れば、ほかの自治体と比べて誇るべきプラスになっているかなというふうに思っております。

○議長（沓掛計三君） 堀内議員。

○9番（堀内富治君） この少子高齢化の課題につきましては、いろいろ切りがないわけですが、小さい村だけにしっかりした取り組みもできるかなと、こんなふうに私

は期待をしておるわけでありませう。

今、進捗状況の中では、順次進めていきたいと、こういうような決意があったわけでございますけれども、どうかしっかりと方向づけをし、立派に仕事を進めてほしいというふうにご考慮をしておるわけでありませう。

2007年から8年ごろ、こういうような少子化に関する単行本等が発刊されまして、私も勉強してきたわけでございますが、4冊ほど見ても非常にいろいろな考え方があるわけでございますが、基本的な内容については、最終的に人が足りない、こういうことに今来ておるわけございまして、将来的にも本当に大変であるという実感を今しておるわけございませう。

2013年には、増田寛也さんの「地方消滅」と、こういうような本も発刊されました。私は、きょうのために関係する本を4冊ほどずっと目を通してきたわけでございますけれども、非常にこれは大変な状況で、一体解決できる問題があるかな、こんなことも頭の中で考えておったわけございませう。

今、中国も一人っ子政策から課題がふえてきてまして、どうしようもないような状況になっておるようございませうが、これも産業を含めた業務展開の問題があるだろうというふうにご考慮をしておるわけございませう。

村長にお伺いしたいと思います、こういう面から少子高齢化にかかわる最近の社会情勢というふうなことで、これは大変なことだと思ひますが、お考えがありましたらお伺いします。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） 「地方消滅」は大変ショッキングな言葉とデータを示されたわけでありませう。幸いにして、青木村はこの候補都市の一つに入っていないというのは、先輩の皆さん、先人の皆さんの御努力の結果だろうと大変ありがたく思ひておひませう。

その流れの一環として、地方創生という考え方が出てきました。東京にどうしても若い人たちがストロー現象で吸収してしまう、それを地方に割り振ると、戻すと、あるいは地方から上がってこないようなことを考えるという中で、いろいろな諸施策が安倍総理大臣によりましてできておひませう。こういった中で、私どもも幾つかの事業、補助金、交付金等をいただひているわけでありませう。

社会情勢ということでありませうけれども、どうしても小さいパイを1,718の市町村が、言葉は悪いんですけども、適切でないかもしれませうけれども、奪ひ合ひているというのが

私は実態じゃないかというふうに思います。そういう中で、少しでも青木村が特徴を出して若い人を呼び込むということを、いろいろな施策を通して今考えて実施しているところでございます。

何回も同じことを申し上げますけれども、青木村の利点というのは、東京に比較的近いと、あるいは自然災害が少ないとか、晴天日数が多いとか、人が優しいとか、いろいろこういった利点を外に情報発信をして若い人たちを呼び込みたいと、あるいは青木村の若い人たちが出ていかないようにしたい。

もう一つ、やっぱり働く場のことだろうというふうに思っております。この雇用の場の確保というのは、大変重要なポイントだろうということで、来年度から工業団地の造成に入りたいということで、今回予算を提案させていただいているところでございます。

○議長（沓掛計三君） 堀内議員。

○9番（堀内富治君） 非常に大変な状況でありますし、産業振興にも大きく影響する事項でもあるわけございまして、しっかりとお願いをしておきたいというふうに考えております。

青木村の人口動向につきまして、先ほど村長から触れられた点もありましたけれども、ちょっと整理をしてみたいと思いますが、青木村の出生人口と、それから死亡人口でございます。20年から29年まで10年間のデータを調べてみますと、出生人口が年に23.6人、死亡が74.7人、こういうことございまして、この差が50人余り、こういうことになるわけございまして、先ほども村長はちょっと触れられましたけれども、こういう統計数字からですと、こういう数字が出てくるわけございまして、50人余りがとにかく減少している。もうこれは明確ございまして、余り変化はないだろうと。

私も何年前前から調べておるわけございしますが、ほぼ変わりはないような数字が出てくるわけございまして、これも非常に残念なことございまして。

あと、移住等の人が増減すると、こういうことになってくるわけございまして。

それから、将来を背負って立つ小中学生の動向も調べてみました。これは私が言うまでもなく、教育長さんは承知をされておるところだと思いますけれども、40人に達しない、こういうようなクラスが多くなってきております。小学校の場合には、1年は2組で、2年、3年、4年が1組、それから5年が2組、それから6年が2組。中学校は、1年は50人ということでございまして、これは2組のようございまして。2年、3年は1組と、こういうふうなことございまして、非常に残念でございますが、もっとふえないかなと、こんな気持ちでいっぱいございまして。

小学校の先生と話してみましても、現状、総生徒数は219人だそうでございますけれども、五、六年後には200人になってしまうと、こういうような考えを持っておられる方もおります。こういうことでございます。中学校の場合には117人というようなことございまして、こういうような状況から考えましても、非常に私は深刻に考えておるわけでございます。

先ほども村長は心配しておったわけでございますが、この辺からお考えがありましたらお伺いをしたいと思います。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） 数字的なことは、堀内議員が綿密に調査していただきました。その数字のとおりでございます。

今、一番私が危惧しておりますのは、課題だなと思っておりますのは、高齢者の人口が、老人人口が減に昨年度あたりからしてきてしまいました。ここは大変厳しいことになりつつあるなというふうに思います。全体の人口が減るということはあったんですけども、高齢者のところが山が少しおり始めてしまったというのが課題だというふうに思います。

これをどういうふうにふやしていくかというのは、いろいろ議会でも、いろいろ委員会でも出てきましたので、繰り返しになりますから割愛しますけれども、与えられたことを精いっぱいやる、チャンスを生かしていくということに尽きるというふうに思います。

もう一方では、こういった現実をちゃんと受けとめて、一生懸命これをふやす、超少子化、超高齢化に対応してふやすという努力と同時に、これを現実の問題として受け入れて諸政策も今後検討していくことも大事なことでないかと、勇気を持って言わないと言えない言葉なんですけれども、そんな時代に入ってしまったかなというふうに思います。

そうはいいながらも、社会増がふえているというのは、この近隣の市町村を見ても大きな工場があって外国人が来るというのは別ですけども、こういった状況でふえているというのは大変希有なことでもありますので、こういった利点を、今後も努力を重ねてまいりたいというふうに思います。

○議長（沓掛計三君） 堀内議員。

○9番（堀内富治君） 沓掛教育長さんに前にもお伺いしたことはあったんですけども、こういうような中で、いろいろテレビに出てまいりますと、小学校が廃校になったとか中学校が廃校になったとか、そういうような写真が出てくるわけでございますけれども、青木もなかなか大変だというふうには考えておりますが、浦里ですね、あのような学校もあるわけございまして、こういうことについては、青木と浦里と、とにかく合併をすると、こういう

ようなことはなかなかできないものですかね。行政の問題があつたりしていろいろ考えられるようですが、私はとにかく、もうそういうところがどんどん出てきているわけですから、前向きにやっぱり取り組む必要があるんじゃないかと思うんですが、どうでしょうか。

○議長（沓掛計三君） 沓掛教育長。

○教育長（沓掛英明君） この前も、以前にもそのお話がありまして、私どもとしては、いつでもウエルカムでいるというふうに思っておりまして、さまざまところで浦里の人に会ったりすれば、そういうことはどうかなみたいなことは言うことも、実は私もあるんですけれども、なかなかそうはいっても、きょう行って、あしたなるということではないと思いますので、いつでも私どもは歓迎するという、そういう姿勢では、私はおります。

○議長（沓掛計三君） 堀内議員。

○9番（堀内富治君） 小さい市町村はどんどんと畳んでいくというような姿も見えるんですけれども、やっぱり市町村の枠があるということが、なかなか大変だというふうに思っておりますけれども、やはりその辺の問題は、もっと大きな目で方向づけをしていく必要が私はあると思うんですが、頑張ってもらってもどうしようもないですか。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） 合併というお話もありましたので、私のほうから答弁させていただきますけれども、今、旧川西村、その前の旧浦里村の皆さんとは、特に浦野地区、越戸地区の皆さんは、思いのほかたくさん交流があるわけでありまして。

特に道の駅では、お客さんとして来ていただけるだけではなくて、出荷もたくさん来ていただいておりますし、浦野の旧道の方は、赤ちゃんにんにくも栽培していただくなど、そういった交流をしているところであります。

それから、一度、川西、浦野の地区を中心とした皆さんが青木の行政について聞きたいということで、自治会の皆さんが来られましたり、それから、大きな災害、ある程度の災害があつたらお互いに、これは行政界があるわけでありましてけれども、この間の先日の室賀の火事もそうでしたように、災害の際にはお互いに援助し合える関係にあるんじゃないかと、そんなことを私も思っておりますし、向こうからも立場のある方々からも提案をいただいているところでございます。

上田市と青木村という行政界はありますけれども、近隣ということで、この垣根といいましょうか、一線は越えて、いろいろ交流、今、小学校のお話がありましたけれども、義務教育のお話がありましたけれども、住民同士の交流とかそういう面では、今後、私は積極的に

受けたり提案をしたり、働きかけを向こうにもしていきたいというふうに思っております。

そうはいいながらも、上田市という市がありますから、そこに失礼にならないような方法を考えなければならぬとは思っております。

○議長（沓掛計三君） 堀内議員。

○9番（堀内富治君） わかりました。頑張ってくださいと思います。よろしくお願いいたします。

それから、人口問題につきましては、村長も前から苦勞されてきましたけれども、結婚の問題がございます。私も時々、三澤会長のところへ行って話をしてくるわけでございますけれども、そうすると必ず結婚相談員の話になるわけでございます。

現状、青木村には結婚相談員が4人おります。それはこの人とこの人とこの人です。毎月1回は必ずやっております。そのほかに、青木、東御、あるいは長和、こういうようなところとも広域的に、一月に1回は交流会をやっております。そういうことをしながら、いろいろと検討しておるわけでございますが、なかなか前へ進んでいく事項ではないと、こういうふうに私は聞いておるわけでございますけれども、それでもどうにかならぬかなと、こんなような会話をするわけでございますが、非常に難しいようでございます。

村長も大変、今日まで御苦勞されてきた大きな問題だというふうに私は思いますけれども、この辺から、やはり人口問題も改革をしていかないと、なかなか前へ進むことはできないというふうに考えておるわけでありませう。

先日、村長のほうからもお話がございましたけれども、結婚マッチングシステムですね、こういうような組織も今できておるわけでありませう。特に商工会関係とかJAの関係とか、こういうようなところが入っております、それで交流会をやっておるようでございますけれども、この状況をJA信州うえだの担当にちょっと聞いてみますと、ここもなかなか実績は上がっていないと。もうこれはどうにもならないですねと、こんな言葉もあるわけでございます。

それから前へ進めないと、こういう状況でもありますが、この辺をもっと見方を変えて別の取り組みを進めるような、そんなお考えはありますか、村長。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） 社会福祉協議会の結婚相談員の皆さんのお話が出ました。

私はあの方々に本当に感謝しております。自分の時間を割いて、身銭を切って、本当にボランティア活動を一生懸命やっただくことに感謝しております。

毎年、何をもって皆さんの成果というかという、私は結婚をこの人たちだけに任せるとするのは大変酷なことで、失礼なことだというふうに思います。とにかくお見合いまでやっていたとことまで、もうできる最高のことで、あとは本人同士の話でありますので、皆さんには心から感謝をしております。毎年1ないし2、いいときは3人が結婚をしている、それを成果と言うならば、されておられます。

青木村でも、社会福祉協議会の皆さんが、あるいは農協とか消防団とか企業の皆さんとか、あるいは警察の共催とか、こういったことで連携のとれるところ、お話にありました長和、東御も含めてやっているわけであります。

別の見方ということで大変難しい話ですが、今お話にもありましたように、長野県が数年前から、ながの結婚マッチングシステムというのを稼働を始めました。青木村でも社会福祉協議会が入っております。県全体で65の団体が入っておりまして、行政は38というふうに伺っておりますけれども、こういうところで、これは個人個人が登録するというシステムなので、ぜひパイが広がる、可能性が広がることで、対象が広がるということで結婚のチャンスも広がるというふうに思いますので、ぜひこういったところに社協の登録をしている方は、このマッチングシステムにも登録してもらえればなというふうに思います。

なお、このカップリング率というのだそうですけども、結婚に至った率というのは1.8割から2割ぐらいが結婚しているというふうに、データ上は出ておりました。

○議長（沓掛計三君） 堀内議員。

○9番（堀内富治君） この辺から突破口を考えていかないと、とにかく前へは進んでいかないとというふうに私は考えております。

これは近隣の市町村も同様だと思いますけれども、別の見方をして考えて、何か方向づけがあったら実行していくべきじゃないかというふうに私は思いますが、その辺しっかりと村長、決意をして、新しい感覚で考えていったらどうでしょうか。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） この2割弱という率は非常に高い、いろいろなデータから見ると高いというふうに思っております。

ここの課題は、専用のパソコンがあるとか、部屋があるとかということで、それはもう社協でそういう体制を整えました。まだ青木村からは、残念ながら誰も登録していないんです。この課題は何かというと、1人当たり5,000円の登録料が2カ年にかかるということなので、これも何か考えていかなければならない、課題の解決の一つの方法かなというふうにも思っ

ております。

○議長（沓掛計三君） 堀内議員。

○9番（堀内富治君） 論議すれば切りがないわけでございますけれども、何らかの形でとにかく方向づけをきちんとしていかなければいけないというふうに肝に銘じておるところでございます。

金銭的な問題につきましては、新聞、テレビでいろいろと発表されておるわけでございます。青木村も出産祝い金を中心として、しっかりと対応はしているというふうに私は考えておりますけれども、さらに内容の検討をしてみなければいけないというふうに思うわけでございます。

次に、高齢者対策でございますけれども、3点ほど申し上げたいと思いますが、1つは地域支え合い事業の関係でございます。

これは、村内何カ所かできておるわけでございますが、着々と区単位によっては前へ住んでおるところもあるわけでございますが、ほとんど名前だけで前へ進むこともできないと、こういうようなところもあるわけでございます。この辺をしっかりと村としても指導をしていただきたいというふうに思います。

もう一つは、シルバー人材センターの問題、年をとりましてから、少しはそれでも小遣いは欲しいと、少しは仕事もしてみたいと、こういうようなことでございまして、人材センターで仕事をするほうに入る方も多いかと思いますし、また、仕事をやってもらう方もいるわけございまして、この辺は、将来的にシルバー人材センターについては、保護してやりながらしっかりと仕事をしてもらう方を具体的に考えていくべきではないかというふうに私は考えておるわけでありまして。

それからもう一つ、地域包括支援センターの関係でございますけれども、宮澤課長補佐が中心となって非常に御苦労願っておるわけでありまして、保健師もおるわけでございますが、非常にきめ細かな仕事をされておるということをお認識をしております。どうか問題のないように、人的な体制についても十分な配慮をお願いをしたいというふうに考えております。

この辺について、村長、一言ございましたらお願いします。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） 高齢者対策として3つの事業、施設についての御質問をいただきました。

地域支え合い事業は、中挾がスタートを切っていただいて、今でも一番活躍しておられることに敬意を表したいというふうに思っております。村でも指導をとという話でありますけども、社会福祉協議会を中心として交換会を年にやっております。そこで、そんなアイデアがあったのか、こんなこともできるのか、こうすれば少し費用的には安くいくねと、そんな情報交換をやりながら激励をしております。できていない地区も、老人会を中心に、例えば一部のお茶飲み会とか、そういうふうなことはできていない中でもされているというのが実態でございます。

シルバー人材センター、これは村からも理事を出して、そして村も補助をさせていただいているわけでありまして、仕事をする意欲のある方が、ここに出てくるというのは大変いいことだなというふうに思っております。

何よりも、ほかのシルバー人材センターと比べて仕事量がある、特に民間の仕事をたくさん獲得してくるといふ、皆さんの事務局の御努力には敬意を表したい、ありがたく思っております。

地域包括支援センターはお褒めをいただきまして、ありがとうございました。本当に私も遅くまで残業する時があるんですけども、皆さんはいつでも遅くまで住民対応をしたり、夜電話したりしているところを見ますと、住民の皆さんに入ってきめ細かくやっていただいているなというふうに思います。

引き続き、この3つの事業は一生懸命やっていきたいと思っております。

○議長（沓掛計三君） 堀内議員。

○9番（堀内富治君） 少子化対策等で支援金等の問題も、国会で通ったものもあるようでございますが、暫時、明確になってくるかと思っておりますけれども、村としても、しっかりと金銭的な支援も含めてお願いをしておきたいというふうに思います。

あと、障害者対策も申し上げたいわけですが、時間の問題もありますので省略をさせていただきます。

次に、野生の鳥獣害対策、それから処理後の問題をお伺いをしたいと思います。

村内の鳥獣害被害状況、あるいは対策、このことについては承知されておるかというふうに思いますけれども、内容についてちょっとお伺いをしたいと思います。

現状、被害状況でございますが、それからまた年間の捕獲頭数ですね、どんなような状況か、おわかりでしたらお伺いをします。

○議長（沓掛計三君） 花見建設農林課長。

○参事兼建設農林課長兼農業振興係長（花見陽一君） 鹿などの問題で被害が出ているということは承知しております。

以前に比べまして、各地区の御協力をいただきまして、防護柵の設置をかなり広範囲にわたって設置していただいております。村内の防護ネットも42キロメートル余りが実施され、まだ今年度も継続して実施を進めさせていただいておりますので、なかなか防護柵の効果もある中で、被害は少し少な目になってきているのかなというふうに感じております。

捕獲頭数につきましては、昨年の資料でございますが、鹿につきましては148頭、イノシシ14頭ほか、いろいろなものがございます。

深刻化する野生鳥獣による農林業被害や自然環境保護に対応するために、やはり今後も集落単位での防護柵の設置、また猟友会の皆さんの御協力をいただきまして、いろいろ前向きに進めさせていただきたいと考えております。

以上です。

○議長（沓掛計三君） 堀内議員。

○9番（堀内富治君） 防護柵については、あと何キロぐらい、未実施地区がありますかね。

○議長（沓掛計三君） 花見建設農林課長。

○参事兼建設農林課長兼農業振興係長（花見陽一君） 各地区の稜線上で話し合いの上で進めているところでございますが、あと総計で50キロメートルほどは必要かなというふうに感じておりますので、あと10キロ程度もしお願いできればというふうに考えております。

○議長（沓掛計三君） 堀内議員。

○9番（堀内富治君） もう既に張って10年近くなるところもありますし、どこから入ってきて被害を加えているか、その辺もちょっとわからなくなってきました。

そういう点から考えて、やはりこれは入られないようにチェックをしなくちゃいけない、そういう面での点検だとか、そういうことについて考えている点はありますか。

○議長（沓掛計三君） 花見建設農林課長。

○参事兼建設農林課長兼農業振興係長（花見陽一君） 防護柵のネットにつきましては、これにつきましては毎年、各地区で点検などを行っていただいているかなというふうに感じております。どうしても、青木村の場合は主要国道、県道の関係もございまして、そういう道路上につきましては、なかなかネットを張るわけにはいきませんので、やはりそういうところの防除が、今後どのように対応すればいいのかが少し課題かなというふうに感じております。

また、先日もほかの地区でもございましたが、ネットを張ってあるにもかかわらず、鹿の

ふんがあつたりという現状を見ておまして、鹿もその状況によりましては、ネットを飛び越えてくるのか、どこかすき間があるからということが考えられますので、今後もしろいろ広報などを通じまして、鹿のネットの点検などを行っていただければというふうに考えております。

○議長（沓掛計三君） 堀内議員。

○9番（堀内富治君） それから、現状まで電気柵の使用状況なんかはわかりますか。

○議長（沓掛計三君） 花見建設農林課長。

○参事兼建設農林課長兼農業振興係長（花見陽一君） すみません、手持ちでそちらのほうは資料を用意してございませんが、毎年電気柵につきましては1件、2件の申請がございまして助成をしているところでございます。

○議長（沓掛計三君） 堀内議員。

○9番（堀内富治君） それから、村長にもよくお願いしてありますけれども、猟友会のメンバーから強い要請がございまして、もう残渣の捨て場がなくなっちゃったと、もういっぱいになっちゃって、とにかく夏になればおいは出てくるし非常に大変だと、こういう要請が私のところに何回もあつたわけでございます。

村としても、場所の問題で非常に苦労されたかというふうに思うわけでございます。これは、においの問題があるかというふうに私は思います。

そんな点も考えて、ぜひ猟友会のメンバーの考えに沿つた捨て場、場所の対応ができればというふうに考えておりますが、いい案がもう整理できましたかね、お伺いします。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） 猟友会の皆さんの活動には本当に感謝をしているところでございます。

残渣を、せつかくとっても、その後の処理についていろいろ課題があるわけでありましてけれども、1つ、においというお話がありました。私も、このにおいは何とかならないということで、民間の製薬会社とか県、国はもちろんですけれども、いろいろ当たりましたけれども、基本的にこれを解消するというものは今、日本には残念ながらないようですね。

竹チップがありますので、竹チップを皆さんに少し提供していただいて、今はおがくずでやっているんですけれども、これを入れてどういうふうになるかという実証を今後検証していきたいというふうに思います。

捨て場については、やっぱりにおいとか、イメージとかいろいろありまして、なかなか決まらないんですが、今2カ所の候補地を選んで、猟友会の皆さん、関係の皆さん、今後、基

本的な了解がとれば、住民の皆さんにも御了解いただいて設置していきたいと考えております。

○議長（沓掛計三君） 堀内議員。

○9番（堀内富治君） これから捕獲頭数もふえるようになるかと思えますけれども、どうぞ問題のないように対応をお願いしたいと思います。

猟友会には猟友会のお考えもあるようですし、猟友会は猟友会なりに、やっぱり協力をしてもらわなくちゃいけませんから、そういうこともしっかりと指導しながら対応をお願いしたいというふうに考えておるわけでありませう。

以上でありますけれども、ちょっとあっちへ飛んだりこっちへ飛んだりして失礼な点があったかと思えますが、以上で終わりたいと思えます。ありがとうございました。

○議長（沓掛計三君） 9番、堀内富治議員の一般質問は終了しました。

◇ 小 林 和 雄 君

○議長（沓掛計三君） 続いて、8番、小林和雄議員の登壇を願います。

小林議員。

〔8番 小林和雄君 登壇〕

○8番（小林和雄君） 8番、小林和雄です。

通告に従いまして、2点について一般質問をいたします。

最初に、企業誘致と工場団地の造成について質問いたします。

国道143号青木峠新トンネルの建設に伴い、上田地域と松本地域を結ぶ幹線道路が完成すると、上田駅から松本中心地までの通行時間が58分となり、現在まで21分の時間短縮になります。松本地域が通勤圏、通学圏になり、また経済圏になります。これからは、この新トンネルを見据えた村づくりが求められます。

阿部知事も調査を始めるときに、トンネルができて喜んでいいるのではなく、それに合わせて青木村がどのように進むのか計画を立てるようと言われております。事業所も現在は上田方面には584事業所、従業者数が2万840人、製造品出荷額は5,950億円。一方、松本方面は、818事業所、従業者数が3万5,070人、製造品出荷額は1兆7,110億円となっています。そのため、通勤の拡大や人の交流、製造の連携で新たな産業集積圏となります。

また、観光面でも上田方面で観光地利用者数は860万人、観光消費額は180億円。松本方面の観光地利用者数が1,120万人、観光消費額は350億円と言われており、国道143号の整備効果が期待されます。

青木村では、農村地域工業促進法施行に基づき、昭和56年、青木村長期振興計画企画委員会設置要綱を定めて、優良企業の誘致を促進し始めました。これにより、昭和56年以降、殿戸地区、村松地区にそれぞれ工業団地が造成されました。平成元年には、製造品出荷額は200億円を超えていましたが、平成15年からは、その中の一番大きな企業の撤退により146億円に減少しました。

平成20年まで150億円内外で推移していましたが、平成20年の163億円の出荷額がリーマン・ショックにより、平成21年には66億円まで落ち込みました。その後、上向いてはきましたが、平成27年には72億円と、リーマン・ショック前にはほど遠い状況であります。最近は、また回復傾向ではあります。

青木村では、殿戸、村松の工場団地ができてから三十数年たっており、その間ほとんど工業誘致はしてこなかったと思います。そこで伺いますが、青木峠新トンネルの建設に伴って、工場進出に既に引き合いがあるとのことですが、何社ぐらいあるのか。また、どのような会社で、どのくらいの規模の会社なのか、お伺いいたします。

○議長（沓掛計三君） 新津商工観光移住課長。

○商工観光移住課長（新津俊二君） お答えいたします。

まず工業誘致に関する引き合いのある会社はどのような会社で、どのくらいの規模かということでございますけれども、これまで具体的な企業名ですとか数は申し上げられないんですが、幾つかの企業からは引き合いがございます。

問い合わせを受けています企業は、製造業が多いですけれども、製造業を初め印刷業、それからリース倉庫業等がございます。県内の企業もございまして、県外の企業もございまして。従業員数も数名の企業から、数百人の従業員のいらっしゃる企業もございまして。

それぞれ必要な面積というふうに言われていますのが、1,000平米程度から数ヘクタールまでに至るものまで、さまざまございます。

○議長（沓掛計三君） 小林議員。

○8番（小林和雄君） 私も今聞いて結構あるなというふうに感じました。

次に、村長も新トンネル開通に伴って、企業誘致をすることに新聞等で明言されていますが、場所等についての候補地はどのように考えているのか、お伺いします。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） 工業団地の候補地、場所について、企業側がどういうふうと思うかなというのをまず申し上げたいと思いますけれども、魅力のある土地というのは、広いアクセス道路に接している、上下水道など電気などのインフラが整備される、あるいはされる可能性がある、土地単価が安い、土地の一定の広がり、まとまった面積、矩形であること、日照状況、風水害の履歴の部分、周辺自治会、住民からの理解が得られるか、農業関係の投資はいかがか、補助期間は切れているか、埋蔵文化財の有無はいかがか、景観上大丈夫か、周辺農業者の理解が得られるか、土地所有者からの土地を譲ってもらえるか。また、もう一つ重要なものとしては、農業関係の法規制がないか、あるいは撤廃できるか。貴重な動植物は大丈夫かなどなど多岐にわたるわけでございます。そういったことを私どもは考えて候補地を選定していきたいと考えております。

○議長（沓掛計三君） 小林議員。

○8番（小林和雄君） 具体的な場所は、はっきりは言えなくても何カ所ぐらい、その候補地として選定されるのか。既に予算化してある場所、候補地もありますけれども、その点についてはどうですか。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） 場所は、村内の幾つかも見ました。あるいは山のほうもどうかなんという検討をいたしましたけれども、今言ったようなことの条件でやると、非常に絞り込まれてくるわけであります。

既設の工業団地の隣接地のようなところはどうかということですが、議会で今、埋蔵文化財の調査の予算が御議決いただければ、地元の皆さん、あるいは地権者の皆さんに入っていくというふうを考えております。

○議長（沓掛計三君） 小林議員。

○8番（小林和雄君） 今言われた中の候補地の一つの、村松の工場団地の東側の場所につきましては、当郷区の岡石地区でありまして、工場団地を造成するに当たって、さまざまな制約があります。造成地をクリアするには、国庫補助事業の圃場整備事業をした場所であるので、農地法による農地転用が必要になってきます。農地を農地以外の土地利用に転換する場合には、農地法5条許可が必要になってきます。また、4ヘクタール以上になると、農林水産大臣への協議も必要となってきます。

農地転用の可否を判断する基準で、農地区分の農振農用地は、土地改良事業等の公共投資

の対象となった農地は、原則不許可ということですが、農地の転用は国庫補助事業の圃場整備が行われていても、周りの状況によっても許可についても違ってきますので、西側に工場団地があって、それに接する形で転用申請すれば工場団地に転用が可能と思われませんが、村長は農地法の工場用地の転用については、どのように考えておりますか。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） 法規制につきましては、今、小林議員からお話があったとおりであります。

もう少し、私どもが調べている具体的なことを申し上げますと、これ以上の代替土地がないとか、これを除外することによって、農業上利用に支障を及ぼさないかとか、除外することによって集積に支障を及ぼさないかとか等々あるわけでありましてけれども、私は、いろいろ100ヘクタールオーダーのこういったことをやってきた経験からいけば、食料の自給率が40%あって、38%台になりました。そのとき青木村の農業生産をちゃんと減らさない努力もあわせてやるというようなことも大事なポイントかというふうに思っております。

少しといいましょうか、大変ハードルの高いことではありますけれども、いろいろ私どもも事務的に今考えていることもあわせて、許可権者であります県にはお願いをしていきたいと考えております。

○議長（沓掛計三君） 小林議員。

○8番（小林和雄君） 今言われましたこの件については、村長も埼玉県で相当規模の仕事をやってきておられて、非常に詳しくは知っていると思いますが、この地域の今の当郷区の岡石地区についての農地転用については、県のほうには話は少しはしてあるかどうか、その点についてはどうですか。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） 具体的にはまだしておりませんが、今、小林議員、あるいは私が答弁したような一般的な確認のことについては、青木村全体として、どこの地域ということではなくて、一般的な話としてお互いに意見交換をしたり、県の考え方、最近の動向等は確認しております。

○議長（沓掛計三君） 小林議員。

○8番（小林和雄君） 次に、この地域には埋蔵文化財があり、北側に東山道が通っておりまして、東山道研究の権威である一志茂樹博士は、本宿の地名を発見し、浦野駅の中心地は当郷の岡石地区と想定しております。

一般的には、埋蔵文化財包蔵地内を分布調査して、土器片を採取したり調査するわけですが、文化財保護法では、周知の埋蔵文化財包蔵地において、土木工事などの開発事業を行う場合には、都道府県、政令指定都市等の教育委員会に事前の届け出等を、また新たに遺跡を発見した場合にも届け出等を行うよう求めています。出土した遺物、出土品ですが、所有者が明らかな場合を除き、発見者が所管の警察署へ提出することになっています。

土木工事等の開発事業の届け出等があった場合、都道府県、政令指定都市等の教育委員会は、その取り扱い方法を決めます。そして、協議の結果、やむを得ず遺跡を現状のまま保存できない場合は、事前に発掘調査を行って遺跡の記録を残し、記録保存をして、その経費については、開発事業者に協力を求めています。ただし、個人が営利目的ではなく行う住宅建設と事業者に調査経費の負担を求めることが適当でないと考えられる場合には、国庫補助等、公費により実施されるというのがあります。

このように、文化財等が出土とされると、発掘調査費と日数も相当かかります。そのため、早目に事業を進める必要があると思います。これにつきましては、新年度で埋蔵文化財試掘調査委託料に194万4,000円を計上してありますが、工場団地の造成面積にもよりますが、出土する場合によっては、もっと調査費がかかるかもわかりません。

全体の概略の工程について、どういうふうを考えているか、お伺いしたいと思います。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） 文化財の調査は、私もいろいろなところで経験してきましたけれども、掘ってみないとわからないというようなところがありまして、まずは試掘をしてみると、県と相談しながら、一番私どもで見ればお金のかからない方法、あるいは早くいく方法で、まず試掘を試みたいというふうに思っております。

多分出ないだろうと、こうは言われておりますけれども、青木村の場合は、普通の埋蔵文化財の指定というのは、小さいロットで面積で指定していくんですけども、青木村の場合は小字名で大きくくられております。そういうことで、少し状況は他市町村とは違うわけでありまして、指示されることは、しっかり埋蔵文化財法は強い法律でありますので、しっかり遵守していきたいというふうに思います。

今後のスケジュールは、本当に掘ってみないとわからないところがありますけれども、あるいは私どもが想定する部分は、出てもあの辺かなというのがありますので、そこを中心に、ことしのなるべく早い時期にやっていきたいと考えております。

○議長（沓掛計三君） 小林議員。

○8番（小林和雄君） この工場団地の造成に当たって、どのくらいの規模の面積を検討しているのか、ちょっとお伺いしたいと思います。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） けさの新聞、各紙1面に、日本の景気後退が1月からしているじゃないかというようなお話もありました。中国とアメリカの貿易摩擦もあります。北朝鮮問題もあります。特に私が心配しているのは、前々から2020東京オリンピックの後の冷え込みがあるんじゃないかというふうに、前々から心配する工場の経営者、あるいは財界のトップの皆さんの考えもありますので、そういうことと、一方では143のトンネルは、おおむねこの辺かなと、今後そういう話があるといろいろ開発しにくくなりますし、そういうようなこととか、いろいろ頭の中をやらなければならない、用地買収ができるかとかを考えております。

ひとつ、その面積要件は、知事の許認可の権限と国に行かなければならないのが、4ヘクタールが一つの境でありますので、この4ヘクタール以内で考えていきたいと思っております。

引き合いはたくさんありますけれども、これが必ず青木村に工場を出たいということであつたという方もいますし、少し意向の打診をしてきたというのもどうも見えますので、そのところは、しっかりその状況を判断しながら、4ヘクタールをトップとして、この範囲内で考えていきたいと思っております。

○議長（沓掛計三君） 小林議員。

○8番（小林和雄君） 工場誘致につきましては、村民の雇用にもなりますので、できれば積極的に進めて、いい企業を誘致していただきたいというふうに思います。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） 前々から、企業誘致をすることは大きないろいろ行政上の課題解決、あるいは村民の皆さんへの幸せのために必要であるというふうに思っておりました。

いろいろ143の関係とか道の駅の関係が一段落しましたので、ここに着手できる時間的なものも出てまいりましたので、積極的に一生懸命やっていきたいと思っております。

企業誘致で各企業に行くんですけども、トップの方にも会っていただきます。そういう中で、では青木村へ出るとしたら、どの辺に何ヘクタールぐらい土地があつて、いつごろから建設工事を始めることができるんですかと、こういう質問を必ずされるんですね。そのときに私もお答えするものがないものですから、鶏と卵の関係ではありますけれども、こういうことを始めながら、もう一方では企業誘致をしながら、前の御質問にありましたように、

どのぐらいの面積だとかスピードだとか、そういうことをトータル的に考えながら推進してまいりたいと思っております。

○議長（沓掛計三君） 小林議員。

○8番（小林和雄君） ありがとうございます。

それでは、2番目の質問に移ります。

青木村の今後の上水道行政について質問いたします。

青木村簡易水道は、昨年完成しました市ノ沢浄水場を初め、青木村には何カ所も浄水場、配水地があります。簡易水道事業とは、計画給水人口が101人以上5,000人以下のものを簡易水道事業と言っています。それ以上のものを上水道事業としています。

青木村では、平成25年から青木村簡易水道統合整備事業5カ年計画を策定し、整備を進めてきましたが、長野県においても市町村や一部事務組合などによる県内の公営水道事業者は82団体、また県内の上水道管の延長は、2016年度末時点では1万8,196キロメートルあり、法定耐用年数の40年を超えた管路の割合は15%に上ります。

県内では、1997年から1999年ごろが施設整備のピークだったため、2040年ごろ更新のピークを迎える見通しだと言います。これに対し、県内の水道の給水人口は、2003年度218万5,213人をピークに減少傾向になっています。

県は、今後の料金収入の減少や水道施設の改修を踏まえ、2017年3月に県水道ビジョンを作成しました。県や市町村などの水道事業者が、持続的な供給体制を確保するため、目指す方向性や連携策などを計画しております。水道法改正案でも、老朽化が進む水道事業の経営基盤の強化に向けて、自治体の広域連携を進めるため、都道府県が市町村による協議会を設置できる内容を定めています。

長野県内では、ビジョンに基づき10地域で広域連携を考える場を設置し、既に検討を進めています。県では、地形を考えると事業統合は難しい面があるとし、連携のあり方は水質検査や維持管理の共同化などが中心となるとしています。今後は、県も市町村の要望を聞き、地域の実情に応じた支援策を検討していくとのことでした。

そこで質問いたしますが、青木村の上水道は、40年の法定耐用年数を超えた配水管の管路の延長はどのくらいありますか。また、それらの更新計画はどうなっているのか、お伺いします。

○議長（沓掛計三君） 花見建設農林課長。

○参事兼建設農林課長兼農業振興係長（花見陽一君） ただいまの御質問でございます。

現在、青木村におきまして、配水管の総延長は6万3,271メートルとなっております。参考まででございますが、導水管は1万6,000メートル余り、送水管は2万メートル余りとなっております。

青木村におきましても、市ノ沢浄水場からの配水も平成30年度から稼働され、給水量の確保ができました。管路の布設がえにつきましては、昭和50年代から60年代まで多くの布設がえをしてきており、その中で現在老朽化が進んでいるという状況でございます。

水道管路の耐震適合性の割合ということでございますが、青木村では現在20%程度ということでございます。綿密には現在、資産台帳の整備を進めておりまして、水道管の状況を把握し延命を図りながら、更新につきましても検討してまいる所存でございます。

以上です。

○議長（沓掛計三君） 小林議員。

○8番（小林和雄君） その具体的な更新計画というのはいらないですか。

○議長（沓掛計三君） 花見建設農林課長。

○参事兼建設農林課長兼農業振興係長（花見陽一君） そのために、昨年度から資産台帳の整備、また、その中で経済状況のこともございますので、平成32年度から公営企業会計の導入に伴いまして、全体を含めた上で、今後その更新の計画を具体的に進めたいと思っております。

現状につきましては、財政を見ますと、やはり故障のある部分を優先的に補っているというのが現状でございます。具体的な計画は今後進めさせていただきたいと思っております。

○議長（沓掛計三君） 小林議員。

○8番（小林和雄君） 次に、昨年12月、自治体が水道事業の認可を持ったまま運営権を民間に委託するコンセッション方式を導入できることを盛り込んだ水道法改正案が昨年12月6日に成立しました。

コンセッション方式とは、行政が公共施設などの資産などを保有したまま民間企業に運営権を売却する民営化手法の一つで、2011年の民間資金活用公共施設整備促進法改正で導入されました。PFIですが、目的は民間のノウハウを生かし、経営を効率化できるメリットがあると国では説明しています。関西空港、仙台空港などで実施されています。また、これと似た事業方法で、愛知県では有料道路事業、浜松市では下水道事業の運営が民間に委託されています。

外国でも、1984年に水道を民営化したフランス・パリでは、契約期間の25年間の間に水

道料金が26.5%上昇しました。民間企業との契約内容が曖昧だったことなどが原因で、2010年に再び公営化されました。ドイツ・ベルリンでも水道料金の高騰などで水道事業が再公営化されました。厚労省によると、14年の間に世界35カ国の180都市で水道事業が再公営化されました。

このコンセッション方式については、新聞等を見た村民の皆さんも、青木村はどうなるのかと不安に思っている方もおられます。村長は、このコンセッション方式についてどう考えているのか、お伺いします。また、村長は、全国簡易水道協議会の副会長もやられておりますので、全国の動向はどうか質問いたします。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） 人間の体の75%は水、水分だそうでありまして、飲料水というのは本当に大事なものだ、生きていくために大事なものだというふうに思っております。

いろいろコンセッション方式については、るる御質問の中でもいただきましたように、やはり民間資金を活用しようという流れの中での一つの考え方が出てきたかなというふうに思っております。

欧米の話がありましたけれども、株主への配当金を上乘せしたり、そういうようなことで数倍に高騰すると、水単価が高騰すると水質が悪化すると、こういうふうなことで情報開示もないとかということで、私が調べたところでは、267都市で再び公営化したというデータもございます。

県内には、これを検討している市町村はありませんで、今お話にありましたように、全国的には宮城県とか大阪市とか、積極的に幾つかの市町村で導入に向けた調査や検討が行われております。簡易水道では、具体的な例は今のところありません。

青木村はどうするかについてでありますけれども、民間の活力を活用するというのは、この水道ではなくて一般的に、私どもにとりましては大変魅力的なことであります。今回の青木村の村営住宅もそうでしたし、民間の力を使ってうまくいくものについては考えたいと思っておりますけれども、冒頭申し上げましたように、水につきましては非常に重要なことでもありますので、今すぐこの方式を検討するとか、そういうようなことは考えておりません。

○議長（沓掛計三君） 小林議員。

○8番（小林和雄君） 今すぐということでは実施しないということですが、将来にわたって、そういうことについてはどうですかね。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） その前に、広域化の話が来るんだろうと思うんですよ。御案内のとおり、水道法改正の中のもう一つの目的は、これから給水人口が減る、それから利用者が減る、高齢化してきて水の利用が少なくなる。そういう中で、現状を維持していくということの持続可能な方法というのは広域化だろうというふうに、法律は考えております。

県もそういうふうなことで少し動きがあるようでありますので、私どもは地形的に上田しかないわけでありますけど、そういうことも頭に置きながら、まず民間に委託するということは今考えていないというのは、今は全く考えていないということでありまして、今後、広域化の中でそういうようなことが、私どもも水道を維持していくために必要ならば、これも考えていく必要があるかというふうに思っております。

○議長（沓掛計三君） 小林議員。

○8番（小林和雄君） 次に、コンセッション方式は、今、話がありましたように導入しやすくなっても、人口が少ない町村では採算をとるのが難しく、手を挙げる民間事業者は低いと思われれます。

日本水道協会の調査によりますと、2017年4月時点で家庭用の月額料金は、20立方当たり全国平均が3,228円で、水道料金が高い市町村は北海道に多くありまして、面積が広いため必要な水道管が長くなるとのことに加え、寒冷地で劣化も早いため維持費用も高くなるとのことであります。

全国1位は、北海道夕張市で20立方当たり6,841円で、最も安いのは兵庫県赤穂市の853円と約8倍の開きがあります。夕張市は、浄水場の維持管理など一部の業務を民間委託してコストの削減を図っているとのことです。高いほうから2番目の北海道由仁町では、2015年にそれまで行っていた簡易水道事業をやめて、広域水道企業団から水を購入する方式に変えたら、負担はかえって重くなり、1割値上げして20立方当たり6,397円となったとのことであります。それでも料金収入だけではならず、税金で穴埋めをしているのが実態だとのことです。コンセッション方式も都会ならいいが、規模の小さい自治体には意味がないとのことであります。

そこで質問しますが、青木村の水道の料金体系については、料金収入との割合はどうなっているのか、お伺いします。

○議長（沓掛計三君） 花見建設農林課長。

○参事兼建設農林課長兼農業振興係長（花見陽一君） 簡易水道につきましては、やはり独立採算制ということもございまして、料金をもとに運営をしていくことが基本となっております。

す。

31年度、来年度予算でこちらでは見込んでおりますけれども、簡易系の水道では、総額では経費として1億8,759万9,000円を計上しております。そのうち、それに充てる水道使用料につきましては、8,585万6,000円の45.8%ということをお占めております。また、その中でも、現在、簡易水道におきます地方債の現在高は11億9,554万6,000円余りとなっております。

現在の老朽化等の進む中で更新を進めなければいけませんので、料金収入だけでは大変厳しい状況となっております。

以上です。

○議長（沓掛計三君） 小林議員。

○8番（小林和雄君） 水道料金で間に合わせるの半分以下ということですから、それ以下ということで、村の税金等も充てているような感じになるわけですが、実際には半分以下ということですね。

○議長（沓掛計三君） 花見建設農林課長。

○参事兼建設農林課長兼農業振興係長（花見陽一君） 料金収入だけでは半分以下ということでございます。そのほかにつきましては、一般会計の繰入金がございますが、これは公債費を返還するに当たりまして、基準内におきまして一般会計から入れるというものは、やはり簡易水道においては、統一的にそれは行えるものということでございます。

そのほかにつきましては、その事業に応じましてでございますが、現在公債費の2分の1に相当するものの繰入金を入れながら、何とか運営しているという状況でございます。

以上です。

○議長（沓掛計三君） 小林議員。

○8番（小林和雄君） 厳しい状況でございますが、最後に、今後、青木村も人口減少の時代が来ますが、料金収入と維持管理費用について影響が出てくると思いますが、どのような対応を今後考えていくのか、お伺いします。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） 財政的な、予算的な話は今お話ししましたように、45.8というのは、今まで大型の簡易水道事業をやってまいりました。一昨年終わったばかりのもありますし、昨年度終わったばかりのもありますので、これは許される範囲内で地方債の公債費償還に充てているわけでありまして、この45.8がそのままということではないことの御理解をま

ずいただきたいと思っております。

管の老朽化とか、それから施設につきましては、おおむね新しくしましたけれども、一番は管の耐震化、老朽化、この対策が大事になってくるかというふうに思います。なるべく一般会計からの補填をなしに、安全でおいしい水をするためには、いろいろ工夫をしたり、一番は漏水があるようなんですよね。機械を購入させていただきまして、調査も職員は一生懸命やっております、たまに見つけて、それをとめたりして、そういった無駄を省くことからまず取り組んでおりますし、いましばらく、この対応を続けてまいりたいと思っております。

○議長（沓掛計三君） 小林議員。

○8番（小林和雄君） 最後に、今、話をしましたけれども、先ほど村長が話をしました、あと20年先とかというふうになると、20年、30年先になると、広域化、そういうようなことも考えられるのかどうか、そこら辺についてはいかがでしょうか。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） 水量とか、全国でいくと非常に悲惨なところがありまして、水がなくて隣の町から買っているとか、大きな山を圧送して送水しているとか、大変な中にある中で、私どもの村は、いわゆるコンパクトシティで上流から下流に流れてくるという、大変幸せな、一部はそうでない部分がありますが、幸せな村で水道行政はできるというふうに思っております。

広域化の話は、まずは技術的に広域化をしてもらえばありがたいなという部分もあるんですけども、これも十分、本当に村民に立った場合、これに乗ったほうがいいのかどうかというのは、まず勉強してみないとかわからないというふうに思います。

法律が改正されたことですから、県がイニシアチブをとって広域化の旗を振るということになっていますから、県の動きもありますけれども、そういうときは、より慎重にやっていきたいというふうに思います。

○8番（小林和雄君） ありがとうございます。これで終わります。

○議長（沓掛計三君） 小林和雄議員の一般質問は終了しました。

ここで暫時休憩いたします。

10時45分から再開いたします。

休憩 午前10時34分

再開 午前10時45分

○議長（沓掛計三君） 休憩前に引き続き会議を再開します。

◇ 宮 下 壽 章 君

○議長（沓掛計三君） 5番、宮下壽章議員の登壇を願います。

宮下議員。

[5番 宮下壽章君 登壇]

○5番（宮下壽章君） 議席番号5番、宮下壽章でございます。

通告に従いまして2問について御質問いたします。村長ほか担当課長等の御答弁をよろしくお願いいたします。

第1問目ですが、青木村消防団の今後についてということでお聞きいたします。

本年1月13日に青木村消防団が出初め式をとり行われました。昨年から出初め式が文化会館で行われるようになりましたが、かつては小学校の校庭であり、村のグラウンドであり、体育館等で行われてまいりましたが、団員減少により文化会館でもできるような人数となったと思っております。

私も消防団幹部としての経験がありますけれども、当時は350名ぐらいの団員数だと記憶しております。ことしは17名の退団者があり、百二十数名から数年後には100名を割る状況であろうかと思えます。団員の定数は、条例では300人以下となっておりますが、この数字とはかなりかけ離れてきていると思うわけでございますが、団員の減少については、消防団の運営に当たり大きな打撃であろうと思われまます。

消防団について、今後のあり方についてお伺いいたします。

冒頭で申し上げておきますが、消防団については、村で車両、機具や人件費、それと各区で年間の活動費等の金銭的な負担をしております。また、団長以下、団での運営ということで、この三者で成り立っている面がありますので、答えづらい面もあろうかと思うわけでございますが、消防法では、各市町村長が消防長という位置づけになっておりますので、今後の消防団の位置づけについてもありますので、御質問させていただきます。

まず第1問目ですが、団員数の変化、平成に入ってですけれども、5年ごとの団員数がどのようにになっているか、わかりましたらお聞かせいただきたいんですが。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） 青木村の消防団の皆さんには、本当に敬意を表したいと思っております。そういうことで、全国の消防庁長官表彰旗も数年前にいただきました。その年は30の団体しかいただけなかったわけですがけれども、消防庁でもそういう評価をいただいているというふうに、ありがたく思っております。

消防団の皆さんは、常備消防、いわゆる消防署の補完をするような立場というふうに思いがちでありますけれども、決してそうではなくて、例えば火災の消火はしますけれども、その後、長く消火活動にその場で立ち会っていただいたり、それからあとは風水害、このときの対応も十分していただいております、大変感謝をしているところでございます。

消防委員会も充実して、先輩の皆さん、学識経験者という立場で入っていただきまして、年に数回のこの委員会を通して、消防団の皆さんの御意見を集約しながら、私ども行政でも対応させていただいているところでございます。

決して火事だけではなくて自然災害も、あるいは行方不明のときも、本当に仕事を休んで出動していただいていることに深く感謝を申し上げたいというふうに思っております。

こういった団員の少なくなることについては、またいろいろ手当てを考えていかなければならないというふうに思っております。

数字的なことは、担当課長から答弁させていただきます。

○議長（沓掛計三君） 片田総務企画課長。

○総務企画課長兼事業推進室長（片田幸男君） それでは、今、御質問にございました団員数の推移について御説明を申し上げたいと思います。

平成に入ってということでございますので、平成元年ですが、この年は団員数は300名でございました。5年後の平成5年には278名、平成10年には261名、平成15年には241名、この年、条例改正を行いまして、それまでの団員定数290名から250名に条例上の定数が改正となりました。

平成20年には206名ですが、この年から協力団員制度を発足いたしましたので、プラス19名の皆さんに協力団員として入っていただいて、225名でございました。

平成24年には、定年はそれまで38歳でありましたけれども、40歳へ引き上げたというような経過もございます。

その後、平成25年には、基本団員が187名、協力団員が62名、計249名。それから、平成27年に定数を250名から200名に改正いたしまして、機能別という位置づけで100名、合わせて300名というような位置づけをいたしました。

平成30年には、基本団員が129名、協力団員が107名ということで、236名というのが現在の推移でございます。

○議長（沓掛計三君） 宮下議員。

○5番（宮下壽章君） 今は定数のことだったんですが、例規集を見ますと、団員が300名、それから機能別の協力団員が100名というふうに記入されているんですが、その辺のところは間違いはないですか。

○議長（沓掛計三君） 片田総務企画課長。

○総務企画課長兼事業推進室長（片田幸男君） 合わせて300名という解釈でございます。

○議長（沓掛計三君） 宮下議員。

○5番（宮下壽章君） 家屋火災等については、川西あるいは南部消防署ということで、ある程度対応は可能かと思うわけですが、水害ですとか山林火災、キノコとりなどで山に入っている行方不明者の捜索には、かなり大勢の人が必要かなというふうに思っております。

通常の消防団活動とは団員数に問題がありますので、非常時対応に出動可能な体制をとっていく必要があろうかと思えます。ただいまお話を聞きましたように、定数の変動も考えてやっておられるようでございますけれども、先ほど申しましたように、消防団条例第2条3項、4項には、協力団員と機能別の定員が100名というふうに記されております。ことしの出初め式で退団者表彰がありました、17名が退団され、現在団員数は129名ということがあります。

協力団員のほうは107名ということになっておりますが、その辺、数字面で例規集に書かれておると若干相違があろうかなと思えます。青木村の非常事態対応を考えますと、対応が必要ではあろうかと思われます。

そこで質問させていただきますが、消防経験者の60歳とか65歳までの方を協力団員として、非常時出動ができるように対応する必要があるかと思えます。火災や災害時の際の要員確保ということで、通常の消防団活動については団員の皆さんにやっていただきながら、大勢の手が必要なときには、そういう皆さんにも出てもらえるような体制づくりをしていったらどうかと思えますが、その辺いかがでしょうか。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） 今の年齢制限は御質問の中にあったとおりでございます。

やはり60を過ぎた方でも、昔、消防を一生懸命やっていた方は、それなりの基本的なことはよく存じていただいているということで、数年前に商工会の隣で火災がありました。そのとき、2階にいた消防団のOBの方が、まず初期消防をして大火にならずに済んだという話を聞いております。

こういった経験を青木村の消防団にも生かしていただくことは、大変大切なことであると。地元のこと、あるいは地区のことを一番知っているわけですよね。どこにどういう水利があるとかということで、私は期待したいと思っておりますが、今、早急にこの場でどうしましょうということではなくて、消防団は本当に今、人数が少なくなってきた、40歳未満の方も消防団に入る方も少なくなってきたという中で、団の基本的なことを今後いろいろ議論していく場が必要になってきているというふうに思います。

今の消防団長も一生懸命やっております。新しく消防法が改正されて、機能別消防団も青木村でやっと4月1日からスタートするまでに来ましたので、そういうことを含めて、団の数とか団のあり方、分団のあり方とか、ではポンプ車をどうするとか、そういうふうなトータルの中で、このことは議論していただく必要があるかなというふうに思っております。

私もそういう消防のトップにいるわけでありましてけれども、私が、あるいは役場の事務局がいろいろ言うことではなくて、消防団の幹部の皆さんを中心にして、意見を集約する、いろいろ議論の中でそれを決めていくべきこと、そうありたいと、こういうふうに思っております。

○議長（沓掛計三君） 宮下議員。

○5番（宮下壽章君） 次の質問をいたしますが、団員の皆さんは災害時出動とか、そういうときには、よく新聞にもありますように、消防団の方が亡くなられたりとか、けがをされている方がいるわけですが、安全対策については万全でございましょうか。

○議長（沓掛計三君） 片田総務企画課長。

○総務企画課長兼事業推進室長（片田幸男君） 消防団では、毎年、年度初めに消防団の会議等に合わせまして、消防署、あるいは駐在所から活動中の安全対策について講義等を受けて、消防団活動をスタートしていただいております。

村としましても、日ごろから会議等の席におきまして、訓練、また災害出動を問わず、まず自分の身の安全確保というようなことを消防団には徹底をお願いしているところでござい

ます。

しかしながら、どうしても毎年一、二件程度の消防団の活動中にけがをしてしまったというような報告は受けているところがございます。そのような活動中の疾病、傷病につきましては、公務災害として認定される場合は、公務災害補償条例に基づきまして、診察代ですとか、それに伴う薬剤などの費用の手当、さらに休業補償ですとか疾病補償年金、障害補償、介護補償、遺族補償、最悪の場合には葬祭補償というような手厚い補償が整備されているところがございます。ここを最近では、10年ぐらいさかのぼってみても、そういった治療がうんと長期化してしまうとか、そのような傷病は起きていないところがございます。

また、村では、このたび消防団の安全管理マニュアルというものを作成したところがございます。これは本当に基本的な事項から火災や水害、あるいは災害の種類によって、その安全管理するべきポイントをまとめたものがございます。消防団で共有して、安全管理にまた努めていっていただきたいというふうに考えているところがございます。

○議長（沓掛計三君） 宮下議員。

○5番（宮下壽章君） いずれにしても、それぞれの皆さんが家庭を持って取り組んでおられる活動でございますので、安全対策を完璧にやっていただければありがたいなと思っております。

次に、今回の予算の中にもヘッドライトは予算化されたということで説明いただきましたが、第16条に設備資材が24項目あります。器具、備品等は各分団とも万全なのか、また備品の見直しは今後はないものなのか、その辺をところをお聞きします。

○議長（沓掛計三君） 片田総務企画課長。

○総務企画課長兼事業推進室長（片田幸男君） 備品の関係ですとか装備品につきましては、毎年消防団からの要望に基づいて購入をしているところがございます。

これは平成26年に、消防団の装備の基準というのが改正になりまして、消防団員の安全確保のための装備や救助用資機材の充実が求められるようになっております。これを受けまして、村でも携帯用の無線機を整備したりですとか、本年度は踏み抜き防止の爪先に鉄板の入ったような安全ゴム長靴ですとか、耐切創性の手袋、そんなようなものを全団員に整備したところがございます。

今後も、前線で活動する団員の安全装備については、充実を図ってまいりたいというふうに考えております。

○議長（沓掛計三君） 宮下議員。

○5番（宮下壽章君） それぞれに応じて、また消防署の皆さんは耐火服みたいなものを着ているわけですが、各ポンプ車にそういうものをまた1枚、2枚なり入れておいてもいいのかなというふうにも思っております。

私も現役のときに、昭和62年だったんですが、上田市金剛寺山林火災と小牧山の山林火災が同時発生いたしました。青木村消防団にも出動要請がありまして、青木村の消防団は長野大学の裏の山林へ出動いたしました。このときは夜間で外が真っ暗な状態のときだったんですけれども、地理がわかっていないんですね、我々がそういう山の出動要請があったときには。青木村の山ですと、こちらに何があるとか大体わかるんですけれども、ほかからの要請があって出動した場合には、非常に不安な面もあります。

ほかに同じ年ですけれども、修那羅峠付近で、青木村のほうの火災かなということだったんですが、後々は旧坂井村側のほうの火災で若干青木村のほうにも延焼したという経過がありまして、そのときも消防団が出動いたしました。

最近では、上田市の室賀地籍の山林火災で、ヘリによる消火活動で、当郷の塩之入池からの取水、それから総合グラウンドへの着陸があった。この件に関しまして、上田市と青木村の連絡が十分とれていたとは思えません。

青木村を囲む三方の尾根は、松本市四賀地区、それから筑北村、上田市の境界となっております。大規模山林火災が発生した場合や近隣市町村からの応援要請があったときなど、広域連合とは別の消防団としての活動の中で、そういう連携が十分とれているのかどうか、お伺いいたします。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） 1月5日の上室賀の火災の際の話なんですけれども、その後、私もいろいろ聞く中で、これはちゃんと上田広域連合の消防署に伝えなければならないということで、署長や課長に来ていただきまして、強く申し入れをしたところであります。

もともと消防車が出動する、いわゆるサイレンを鳴らしながら他の行政区域に入ってくるということは、普通はあり得ないことなんですけれども、実態としてはあったと。これは緊急の際だから、やむを得ないというのはそうかもしれませんが、やはり情報電話で川西消防署と私どもの村はつながっているわけですから、こういうことをしっかりやってほしいということと同時に、いろいろ消火栓も使わずに川の水を使ってほしいというときに、消防署の指示だということで、上田市の消防団がそうしたとかいろいろありまして、そういうようなことを強く申し入れをし、今後はそういうことがないようになったというふうに思っ

ております。

今後は、逆に受けることもあるかもしれませんが、そういった行政界を越えたところのことを、消防署は一つの命令体制ができておりますけれども、団はまたそれぞれ別なものですから、このところは消防署がコントロールしてほしいということを願っているわけでございます。

それから、今お話の中にありましたように、山の中はなかなかわからないということが山林の場合はあるというお話でありましたので、数年前に、上小森林組合、いわゆる山のことを一番知っている皆さんに、道だとか水利等々を知っている方々をお願いしたいということで、長野県では初めて青木村、長和町と合同で上小森林組合と防災の協定を結んでいるところでございます。

お話のありました市町村界を越えての消防団の活動というのは、緊急を要することですから、まず消防署が命令系統をしっかりしてほしいということで、私どもは申し入れをし了解を得ているところでございます。

○議長（沓掛計三君） 宮下議員。

○5番（宮下壽章君） よろしく願いいたします。

次に、近年、屋根の上に太陽光パネルが多く乗っている家庭が多く見られるわけですが、その際に、消火活動で放水した場合に、太陽ないし光がある場合には、既に発電するようにできておりますので、そこに放水をした場合に、電流が逆流してきて放水している消防団のほうに感電のおそれがあるということですが、そういったことも危険防止のために御指導いただければありがたいなと思っております。

○議長（沓掛計三君） 片田総務企画課長。

○総務企画課長兼事業推進室長（片田幸男君） 今、本当に太陽光パネルが乗ったお宅というのが非常にふえております。このような危険もあるということを広く周知をして、安全を第一に活動をしていただけるような呼びかけをしてまいりたいというふうに思います。

○議長（沓掛計三君） 宮下議員。

○5番（宮下壽章君） 次に、私は以前に沓掛区に在籍しておったときに、山の作業ということで夫神山の作業をしておったんですが、当時は夫神山の尾根をずっと、豆石峠側からずっと尾根沿いに防火帯ということで、幅10メートルから15メートルぐらい、ずっと樹木が生えないような、延焼防止ということだと思っておりますが、今そういう延焼防止帯というようなことはなされているのかどうか。

○議長（沓掛計三君） 片田総務企画課長。

○総務企画課長兼事業推進室長（片田幸男君） 防火帯につきましては、今議員さん仰ったとおり、延焼防止のために、市町村境とか国有林と民有林の間に10メートルぐらいの幅で木を伐採して、延焼を防いでいくというようなものでございますけれども、森林組合にも確認をしてみました、青木村には今確認できる場所がないというような回答でございました。

これは恐らく防火帯を維持していくということになりますと、これは定期的な草刈りですとか継続的な管理が必要になってくるわけでございまして、そういう意味では、地域の皆さんの御負担というの、かなり出てくるのかなということでございます。

また、新たにそういうものを設けるということになりますと、当然、地権者の皆さんから同意をいただいでですとか木の伐採、搬出、また毎年草刈り等の管理をしていくというようなことで、かなりの負担が強られる可能性も出てまいります。

今、消防自動車、タンク車とかポンプ車等の性能が逆に向上してきている部分もございまして、路網といいますか、入っていく作業道ですとか林道、そんなようなところを定期的にメンテナンスをしていくというのが有効な手だてかなというふうにも考えているところでございます。

○議長（沓掛計三君） 宮下議員。

○5番（宮下壽章君） 消防団員は、特別職消防員として位置づけられております。そして、活動内容については、さまざま種々あるわけでございますが、ラップについては集合とか解散などの合図として、半鐘については打鐘による信号ということになっておりますが、近年、サイレンによる、先日も行われておったわけですが、火災予防週間等の告知がなされておりますが、災害時に停電になったときには、現在サイレンが使われていますけれども、停電の時にはサイレンは使用できない状態になります。電気が通らなくなるということですので、半鐘、打鐘ですけれども、1点、4点、1点、3点などが春火防とか秋火防のときに聞いておりますと、非常に不明確な打鐘であるなというふうにも、最近私は思っております。

1点、4点なのか、5点続けてなのか、非常に不明確な打鐘の仕方だなというふうにも思っております。やはり告知方法など、きちんとした1点、3点、1点、4点、それから近火の場合には連打とか、そういうのをきちんと、信号でありますのでやってほしいなと思っております。

また、多くの団員は村外の勤務が多く、火災等の場合のポンプの取り扱いなど、団員でもホースや吸管の脱着、延長、エンジン始動、真空操作、送水、圧力操作など、どの団員でも

行えるような訓練なされているのか。

そこで伺いますが、2月25日の新聞報道で、辰野町消防団が、団員の負担軽減により、ポンプ操法、ラップ吹奏大会への本年からの取りやめを行ったという記事が載っておりました。記事にも実践に向けた訓練と書かれておりますが、青木村はどう考えているのかなというふうに思うわけでございます。

辰野町消防団の団長さんは、古村幹夫さんが団長ですけれども、長野県の消防協会の会長さんでもあるということですが、これについて今後の方針はどういうふうにやっていく予定でしょうか。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） 消防団のポンプ操法大会、ラップ吹奏大会、これは村の大会と上小大会があるわけでありましてけれども、本当にこの場でいろいろ訓練の成果を見ておりますと、感激をいたします。出初め式もそうなんですけれども、本当に私は涙が出るぐらい立派だな、ありがたいなというふうに思っております。この大会は、日ごろの消防団の皆さんの披露の場、あるいは訓練の成果を見せていただく、あるいは非常時の際のための訓練準備等々だというふうに思っております。

前にも信濃毎日新聞、朝日にも出たことがありましたでしょうか、この大会の出場について、奥さんから疑問をする声が投書されていたのを記憶しておりますけれども、今お話にありましたように、長野県の消防協会のトップの方の団で、こういうことが行われたというのは、大変驚きの一言であります。

先日も首長たちの集まりがありまして、いろいろの話題の中でこの話題も出ました。非常にそれぞれみんな驚愕したといいましょうか、驚きをもって、この事実を受けとめております。そうはいいいながらも、こういう時代になったんだな、なるのかな、こういうことを議論しなければならない時代になってきたんだなというのが、私の実感としての立場であります。

消防団員だからということで、義務感でいろいろなことをやっていただいている、一方では、家族というのも大事にしなければならないお立場もあるわけでありまして、この両方の大会を通じて、いろいろなことの成果があるわけですけれども、技術を下げない方法でこういうこともあるのかもしれませんし、そういうことを、一方では団員の確保だとか、いろいろ考えて判断することが必要ではないかと思えます。

数年前に、ポンプ車が団員の不足、あるいは操作員がいなくて、上小大会に出場できなかったんですよ。そのときにいろいろ聞きますと、ほかの参加の団からいろいろあって、肩身

の狭い思いをしたというような話も伺っております、さて、今の御質問についてどういうふうを考えるか、まだ私の考えはまとまっていないというか、結論は出ておりませんが、一時的には消防団員の皆さんの中で議論していただき、私も一緒に悩んでいきたいというふうに思っております。

○議長（沓掛計三君） 宮下議員。

○5番（宮下壽章君） ポンプ操法大会も、1つは技術の向上を目指したということだと思うわけですが、実際の火災現場等でなった場合に、やはり先ほど申し上げましたように打鐘、ラッパによる伝達ですか、それからポンプの取り扱いは、どの団員でもきちんとしてできるような形をもって、実践に向けた団であってほしいなというふうに私は思っております。

あと、災害時の住民避難についてですが、各地区、区のほうと団が連携がとれているのかどうかということと、それに対して消防団と各区、それから先ほどの話、話題も出ていましたけども、支え合いの皆さんですとか、そういう皆さんと連携をとりながら、住民の安全避難ということも大切かなと思っておりますが、そういうことの連携がとれているのかどうか、その辺、御存じでしょうか。

○議長（沓掛計三君） 片田総務企画課長。

○総務企画課長兼事業推進室長（片田幸男君） 現状では、幸いにして住民の皆さんに一斉避難をしていただくような災害を近年経験しておらないわけですが、消防団の団員の皆さんは、基本的には、その地区に住む住民の方々でございますので、地域の一員として顔の見える関係を築いていただいているというふうに認識をしています。

地元で火災が起きれば、区の役員の方が率先して公民館の鍵をあけていただくですとか、消防団に対しての炊き出しのことも含めて、協力体制は整っているものというふうに理解しております。

消防団のほうでは、幹部の皆さんの間では、これからは民生委員の皆さんですとか、そういうような方、皆さんとの連携も必要じゃないかというような話も出てきております。今後は、区長さんから消防団というような縦の関係だけではなくて、そういう地域にある組織といますか、各種団体の皆さんと協力していくということも必要ではないかというふうに考えております。

また、今、消防団員も減少してきているという状況の中でございます。自分の住む地域のことでございますので、消防団だけに安全、安心を任せるというのではなくて、区全体が一丸となって災害時の避難ですとか、そういうことについて考えていく機会を設けていく必要

があるというふうに考えています。

○議長（沓掛計三君） 宮下議員。

○5番（宮下壽章君） 消防団の運営については、先ほども申しあげましたように、消防団が単独で行っているわけではございませんので、村と各区で費用、それから団の運営となっておりますが、これまでは各区ごとに分団が形成されておりました。団員の減少に伴って団の統合がなされておまして、4分団制から2分団制へと移行してまいりました。

そこで、毎年度の消防予算というのが各区で組まれておまして、それが分団の活動費ということになるかと思うわけですが、各区でやっているときには予算化というのは各区ごとにやっていけばよかったです、統合されてきた場合には、やはりそこら辺の各区の調整が非常に難しいところかなというふうに思っております。

団長以下の団のほうで、各区への依頼も考えられますが、各区での年ごとの消防費がどのようになっているのか。区ごとの総額を、12区全部を合わせたもの、それから戸数割するとか、何か一つの指針みたいなものを出して、それで区長会でもって決めるとかというふうな形になろうかなと思うんですが、ちょっと難しい面はあるかと思うんですが、現在の各区の費用というのはどういうふうになっているか、御存じでしょうか。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） 御質問にありましたように、消防団とは、もともと区の単位でごく最近まで活動し、区との関係が非常に太い、深いわけであります。これを一律にするということとは、非常に慎重にやらなければならない事柄であると思えます。

というのは、各区と消防団員とのつき合い方といいたし、各区の消防団員が各区の行事、あるいは神社とか、そういうところのイベントに対して、あるいは夏祭りに対しての出方とか、それぞれ見ていると違うわけですね。それを一律に1戸当たり幾らとか、1人幾らとかということでは、少しそごが出てきてしまう恐れは多分にあると思っております。

第一には消防団の団員の皆さんが、活動をしやすいような十分手当をすることということが一番大事ではないかと思っております。したがって、消防団は、各12区の皆さんのそれぞれと消防団員のつき合い方が違うわけですから、これを一律にするということは、より慎重にやらなければならないことであるというふうに思います。

一方では、なかなか差があつてという話も聞くわけでありますので、そこは慎重に、また団員の皆さんともお話しし、あるいは消防委員会の中でもまた議論していただければというふうに思います。まずは、消防団の皆さんがやりやすい方法にしたいと、結果は今の方法に

なるかもしれませんがけれども、というふうに思っております。

○議長（沓掛計三君） 宮下議員。

○5番（宮下壽章君） 私も、ことしの1月の区の総会に出たんですが、やはりそういう質問が区民の方から出されるんですけれども、区長さんとしても何とも返事のできないというのが現状なんです。

やはり区長会というのも年に2度ほどしか開かれないうし、そういった話し合いの場があるのかないのかということも問題かなと思っておりますので、何か一つの数字的な指針みたいなものを出して、参考にして区長会でお決めいただいたらどうかなというふうに思っております。

次に、今までポンプ車がありまして、ポンプ車が一応本部という形になっておりまして、火災現場等でも本部というふうになっておったんですが、ポンプ車班ができて、そちらのほうでポンプ車が専用というふうになったということだそうです。

火災現場、それから災害現場等で本部を設置するための、できたら車両があったらいいなということ消防団のほうから声が上がりましたので、その辺のところもまた御検討いただければありがたいなと思っております。

それでは、第2問目のほうに行きますが、青木村における地方創生はということ、お答えいただきたいと思いますが、北村村政も2期目の半分、2年が過ぎようとしています。これまで通算6年となり、高機能拠点化プロジェクトを初め、さまざまな取り組みをしていただいたことに対しては大いに評価をいたしております。

しかし、今後の青木村には、まだまださまざまな課題が多く山積していることと思います。先ほど来の質問のように、少子高齢化と人口減少、農林業、教育、観光、商工業など、引き続き御尽力いただきますようお願い申し上げます。

そこで村長にお伺いいたしますが、国会で安倍総理の施政方針演説の中にありました地方創生について、青木村版としての取り組みについてお考えをお聞きしたいと思います。

まず農林関係についてですが、国では6,000億円を上回る土地改良予算を計上しているということです。こういった資金を活用して遊休農地活用や特産農産物生産、新規就農者支援についての考え方はいかがでしょうか。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） 東京一極集中の是正、地方へ若い人たちを振り向ける、ということで、まち・ひと・しごとということで地方創生が始まりました。総合戦略版をつくりました

りいろいろやる中で、青木村は道の駅の改築でありますとか、タチアカネそばのプロジェクトだとか、自然エネルギーの事業だとか、うまくこの流れの中で国からのさまざまな応援をいただいて、時の流れに乗ってきたかなと、こういうふうに思っております。

一番は、地域の産業の振興、雇用の創出、地域の人々の力の強化、それから地域づくり、こういったことをやる中で、今御質問いただきましたような農業につきましては、土地改良予算が今年度、大変手厚く強化されたというふうに考えております。

農業を強化するということは、単に生産を増すということではなくて、道の駅だとか観光だとか旅館業だとか人材の確保だとか、若い人の確保だとか、いろいろ幅広くあるわけでありますので、こういった国の今回の新規農業者、遊休農地の利用、特産物の生産、こういったことに私どもも手を挙げていきたいなというふうに思っております。

私どももいろいろ事業をやる中で、新たにやるということではなくて、もともとやりたい、やっている、あるいはやりたいと思っていたということに、この予算を十分活用させていただきたいと思っております。

○議長（沓掛計三君） 宮下議員。

○5番（宮下壽章君） 私も青木村の農業について、農協職員として、それからまた自営農家として携わってきました。農村として青木村の今後の多くの課題と方策を提示していかなければならないと考えておりますが、農村としての青木村を維持していくために質問いたします。

田んぼがあっても地権者が耕作しない、畑があっても耕作しない畑が村内に多く見受けられます。また、リンゴ園、それからブドウ園についても、高齢等で離れられる。私の親戚でもリンゴ園があったわけですが、耕作する方がないということで、長年栽培してきたリンゴの木を伐採したということも聞いて、非常に残念だなと思っております。

そういう中で、ハウスや農機具など受け継いだ次世代への継承、それから生産技術の継承についてもお願いできればなと思っておりますが、その辺のお考えはいかがでしょうか。

○議長（沓掛計三君） 花見建設農林課長。

○参事兼建設農林課長兼農業振興係長（花見陽一君） お答えいたします。

ただいまの議員さんがおっしゃられましたように、村内におきましても、いろいろな田畑の関係も、遊休農地という箇所もあるようでございます。現状こちらにおきましても、毎年農業委員さんをお願いしまして、いろいろな土地の利用につきまして調査をさせていただいているところでございますが、そういうあいている場所、場所につきまして、なぜ耕作でき

ないのか、またできるのか、しないのかとか、いろいろなものがあると思います。やはり高齢化の問題もございますし、あと、やはり後の継続される、継承される担い手の方ですかね、そこら辺の問題がやはり一番の重要なものかなと、重要な点かというふうに認識しております。

青木村におきましては、農地の多くが中山間地であり、今申し上げました高齢化による農業者の減少等による遊休農地の発生は懸念されているところでございます。やはり担い手の確保、育成や新規参入の促進が重要でありますので、今後とも農地中間管理機構と連携した農地等の利用促進、JA関係、また普及センターなどの関係機関との連携を踏まえまして、相談業務によるマッチングをさらに進めていきたいと思っております。

また、今年度、平成31年度におきましては新規に予算計上しておりますが、新規就農者の支援体制整備事業を予定しております。上田市、長和町、JA信州うえだと連携しまして、信州うえだファームが行う研修制度を活用しまして、県とともに新規就農者を確保育成する事業でございますので、積極的にまた進めてまいりたいと存じます。

以上です。

○議長（沓掛計三君） 宮下議員。

○5番（宮下壽章君） 次に、観光立国についてお聞きいたします。

国・県も観光の誘客活動は、国内外ともに取り合い状況にあります。長野県でも報道されておりましたが、インバウンドの誘致は200人を目指しているという報道がありました。それぞれの地区にお金を落としてくれる旅行者は、宿泊だけでなく買い物や食事など、多方面に収益が上がる要因とも考えられます。青木村も143号のトンネルができたときを考えて、来村者対策は必要と考えられます。

そこでお聞きいたしますが、沓掛温泉には3軒の旅館がありました。それぞれ後継者の問題もありまして、3軒それぞれ経営者が変わりました。田沢温泉でも1件が廃業となり、大分さま変わりいたしました。

青木村観光の主となる温泉を控えているが、村の観光についてのお考えはいかがでしょうか。

○議長（沓掛計三君） 新津商工観光移住課長。

○商工観光移住課長（新津俊二君） お答えいたします。

今、議員さんから御指摘ありましたように、青木村には2つの温泉、飛鳥、平安時代開湯と言われております田沢温泉、沓掛温泉がございまして、そのおかげで特色ある村として存在

感を増していると思います。

青木村にとって、観光業は非常に大切な産業でございまして、将来のトンネル開通などを見据えて、今の温泉の情報発信を積極的にするとともに、農業体験ですとか文化財めぐり、道の駅との連携した観光といったようなことを積極的につなげて活力ある村づくりをしたいと思っております。

そうした中で、信州ええっこ村さんにおかれましては、体験事業のときに引率される先生を地元の旅館さんに紹介いただくなど、地域に資金、お金を出していただくような仕組みをやっていただいております。そういったことも参考にしながら、また引き続き御協力いただきながら、村の活性化につなげていきたいと思っております。

○議長（沓掛計三君） 宮下議員。

○5番（宮下壽章君） 143号が今だんだん目に見えてきているような状態にありますので、なるべく大勢の方に青木村へ寄っていただきますように御努力をお願いしたいと思います。

次に、地方創生について、冒頭村長のほうの挨拶の中でも、交付金事業が2事業あると。自然エネルギーの推進、それからタチアカネそばの推進ということで提言がありましたが、地方の市町村はどこでも少子高齢化で深刻な問題であります。それから、人口減少、税収や労働者不足など、さまざまな問題があります。

北村村長は、青木村創生として、どのように考えているのか。人口増加対策、都市部からの移住者への発信、できれば仕事を持った若い人たちに来ていただくとうれしいんですが、移住や地域おこし協力隊を8,000人規模にするという、総理大臣の施政方針演説もありました。大いに活用して、農業を初め農村移住を目指した人を募集し、農業や村の活性化、定住から人口の増加につなげていただきたいと思うのですが、いかがでしょうか。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） 地域おこし協力隊制度を活用いたしまして、青木村でも今まで延べ5人の方に来ていただき、そのうち2人は任務終了後も定住していただいております。

この隊員の皆さんには、最大限能力を発揮していただき活性化していただいております。今の隊員も一生懸命、青木村のことを考えて取り組んで、青木村を知ろう、あるいはいろいろ小さいけれどもイベントを起こそうと意欲を持ってやっていただいております。

今、宮下議員の御質問にもありましたように、地方創生の流れの中で協力隊員をお願いをして、村の若い人口をふやしていくということは大変大事なことであるわけですが、なかなか8,000人という要望は、今までずっと隊員になりたい人は大体なっているというこ

とで、新たに8,000人をやるというのは、人材が枯渇しているんじゃないかなというのが、ほかの見方でもあります。

私どもも青木村になじむ人、なじめる人、来てもちょうと青木村らしいことでやっていただけのような、そういう人に来ていただくような情報発信をしながら、しっかりプロポーザルをしていきたいというふうに考えております。

○議長（沓掛計三君） 宮下議員。

○5番（宮下壽章君） 青木村にとって、本当に利益になるような人を見つけていただければありがたいなと思っております。

以上で、私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（沓掛計三君） 5番、宮下壽章議員の一般質問は終了しました。

◇ 松 澤 正 登 君

○議長（沓掛計三君） 続いて、3番、松澤正登議員の登壇を願います。

松澤議員。

〔3番 松澤正登君 登壇〕

○3番（松澤正登君） 議席番号3番、松澤正登でございます。

既に通告をしてございます議題に従いながら、一括質問でお願いをしたいと思います。担当諸課長の答弁をよろしくお願いたします。

初めに、青木村の振興についてお伺いをしたいと思います。

まず青木村の農業について、青木村長期振興計画後期基本計画が作成されまして、本年で3年目を迎えようとしております。人口減少、少子高齢化が進む中、介護や医療、交通弱者等は一層深刻化しているように見えます。

国道143号青木峠新トンネルの整備、開通により、交流人口の増加も見込まれる明るい展望もあるわけですが、農業については、基本計画では、農業の実態を踏まえ幅広い観点から必要な支援策を講じて、多様な担い手の確保、育成を図るとともに、優良な農地の保全や有効活用に努め、農産物の生産性や進出を高めながら、特産品の販売力の強化、6次産業を促すことによって、攻めの農業を展開するとございます。

そこで、お伺いをしたいと思います。

1つには、農業の経営支援と担い手確保の状況はどう進んでいるのか。2点目に、農地の保全と有効活用の状況はどうか。3点目に、販売力の効果と6次産業の進展状況はどうか、お伺いをしたいと思います。

それから、2点目に、外国人労働者についてお伺いをしたいと思います。

今回、出入国管理法が改正になりました。少子高齢化の進展に伴い、生産年齢人口が15歳から64歳が減少していると。生産性の向上や国内人材の確保を進めても、なお人手が不足するという業種は少なくないということでございます。そこで、新たな残留資格を設けて、外国人材の就労分野を広げるのが、今回の法改正の目的であるというふうにされています。

外国人の労働者の受け入れが想定されているのは、農業や介護などの14業種だそうですが、政府の試算によると、改正法が施行される2019年4月の時点で14業種の人手不足は58万6,400人に上るとされております。5年後には145万5,000人に膨らむと言われておるわけでございます。

そこで、お伺いをしたいと思います。

現在、青木村の企業に従事している外国人労働者は何人ぐらいいるのか。就労している外国人は村内存在者か、在住者か。また、村外から通勤している人なのかをお伺いをしたいと思います。

2点目に、青木村の企業には、今後、外国人労働者がふえてくるとは思いますけれども、現在予想される労働者の数、また業種はどうかをお伺いいたします。

3点目に、村として外国人労働者を合わせて家族と一緒に、または家族を呼び寄せて生活する労働者を受け入れるための対応策や施策を、そして子供を支援するための教育等のお考えを持っているのか、お伺いをいたします。

次に、外国人観光客の受け入れについてお伺いをしたいと思います。

2018年12月、政府は日本を訪れた外国人が初めて3,000万人を突破したと発表がありました。インバウンドが2020年には4,000万人になるのではないかとというふうに言われておまして、この5年間では約2.8倍に増加すると言われております。

ちなみに、2017年には、日本を訪れた外国人は2,869万人のうち、国、地域別の内訳を見ると、アメリカが137万5,000人、ヨーロッパが152万5,000人、それに比較しまして、中国からは735万6,000人、韓国は714万人、台湾は456万4,000人、香港223万1,000人、タイからは98万7,000人という圧倒的なアジアからの訪問客が多いというふうなことが言われております。

インバウンドの消費といえば、皆さんも御承知のように爆買いのイメージがあったわけですが、最近は体験型の、いわゆる事消費や滞在型の消費に注目が集まっていると。地元の人からすると、日常的な農村や里山の風景が外国人観光客から火がついて、そこを自転車で走るツアーが人気になっているというケースがあると聞いております。

長野県でも観光立県として、「信州の観光新時代を拓く長野県観光戦略2018」と題して、県民、市町村、DMO、観光関連事業者等のお互いに協働して取り組みに力を入れているわけでありまして。

そこでお伺いをしたいと思います。

1つには、青木村に訪れている観光客は、ここ3年ぐらいの数と国はどうか。2点目に、外国人観光客の受け入れ体制やPRについて、何か施策を考えているのか。3点目、青木村の公共施設や観光パンフレットの多言語の作成、案内版の整備等の考えはあるでしょうか、お伺いをしたいと思います。

大きな2点目といたしまして、幼児教育の無償化についてお伺いをしたいと思います。

政府は、幼児教育を無償化する子ども・子育て支援法改正案が閣議決定されました。幼児教育無償化は3歳児から5歳児までは原則全世帯、ゼロ歳児から2歳児は住民税非課税世帯が対象で、10月1日より認可保育園や幼稚園、認定こども園の利用料が無料となるわけでありまして。要は、機会の均等を図る施策として、また少子化対策として重要だと私も考えております。また、小学校、中学校9年間の普通教育無償化以来、70年ぶりに大改革と位置づけている新聞もありました。

そこでお伺いをしたいと思います。

1点目に、無償化に伴って園児がふえるのではという心配の所もあるようでございますけれども、青木村保育園での数は、また今後の状況をお聞かせいただきたいと思っております。2点目に、保育士の確保も大変なようでございますけれども、青木村の保育園の職員の確保は十分か、お伺いをいたします。3点目に、正規職員と臨時職員の処遇に問題はないのか、お伺いをしたいと思います。4点目に、保育料の村負担が、こういった改正により軽減される部分もあるんじゃないかと、こんなふうを考えるわけですが、こういった財源を新年度予算に反映されている部分はあるのか、お伺いをいたします。

最後の大きな3点目といたしまして、児童の虐待死についてお伺いをいたします。

今年1月、父親から虐待を受けていた千葉県野田市で起きた小学4年生女児が死亡するという痛ましい事件が起きました。女児が暴力を受けているとアンケートに記載していたにも

かわらず、それが適切に処理されなかったばかりか、結果を父親にも渡していたという教育委員会への対応にも批判が湧き上がっているわけであります。政府を挙げて再発防止に向けた取り組みをしているわけですけれども、ここで伺いをしたいと思います。

1つ目として、青木村において過去に同種と思われる事案はあったのでしょうか。2点目に、この事件を受けて上部機関からどんな調査があったのでしょうか。また、3点目に、青木村で事案が発生した場合の対応策は万全でしょうか、伺いをしたいと思います。

よろしく願いいたします。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

〔村長 北村政夫君 登壇〕

○村長（北村政夫君） 一括質問でありますので、この場にて答弁をさせていただきたいと思っております。

私からは、1番の青木村の振興についてのうち、農業関係の1番について答弁をさせていただきます。

御質問1の農業の経営支援と担い手の確保の状況についてでございますけれども、農業の方が多いわけですけれども、御質問の担い手確保は最も重要な課題の一つであると思っております。

ことしの2月4日に開催されました青木村青年農業者グループ「若人の会」で、30名余の会員の皆さんと懇談する機会をいただきました。大変頼もしい意見、提言をいただきまして、希望を実感したわけであります。今後も皆さんの声に耳を澄ましまして、支援体制をしっかりとやっていきたいというふうに思っております。

農業の中心的担い手であります認定農業者は、24の経営体であります。本年度新たに2の経営体がふえました。それから、4名の認定新規農業者が5年後の独立就農を目指して頑張っております。引き続き、これらの皆さんの経営支援を行ってまいります。

この予算で新規農業者の確保に向けまして、当初予算でお願いしておりますが、具体的には上田市、長和町、それからJA、信州うえだファームの研修生の活動費及び就農のコーディネーターの設置を助成いたしまして、青木村に来ていただく新規農業者の確保を支援するものでございます。

御質問2の農地の保全と有効活用についてでございますが、私どもは、農地について定期的な点検を、関係の皆さんの御協力を得ながらやっておりますし、農業、農道、水路の補修、更新を的確に対応させていただいております、村民の皆さんが安心して農業ができる生産

基盤の確保に取り組んでまいります。

水田については、御案内のとおり、ブロックローテーションによる水田耕作を継続的に実施してまいります。特に、タチアカネそばにつきましては、機械化組合の皆さん含めて大変ありがたい状況になっているところでございます。

それから、遊休地の発生防止、解消につきましては、農業委員会でも具体的に取り組んでいただいているところでございます。

野生の鳥獣被害防止の柵につきましては、平成23年から始まりまして50キロ、進捗率は約50%でございまして、被害面積は25年が3,040アール、29年が1,847アールと効果を出しているというふうに承知しております。

3点目の販売力の強化と6次産業化の進展についてでありますけれども、農業関係の皆様方と道の駅あおきについて、特産品の生産供給販売体制をして消費者に対する対応をさせていただいております。

青木村の6次産業の商品化としては、みかえり漬け、梅まんじゅう、トマトジャム、ケチャップ、杜仲茶、杜仲そば、ヤーコンシロップやチップ、キクラゲ、赤ちゃんにんにく、ジャンボにんにく、乾燥野菜、干しリンゴ等々があるわけであります。

村単独の6次産業のフロンティア資金、あるいは国・県の助成融資を活用いたしまして、引き続き組織団体、個人を支援してまいりたいと思っております。特に、青木村特産のタチアカネにつきましては、販売の実績をさらに伸ばすべく、さまざまな努力をしてまいりたいと思っております。

○議長（沓掛計三君） 新津商工観光移住課長。

〔商工観光移住課長 新津俊二君 登壇〕

○商工観光移住課長（新津俊二君） それでは、続きまして商工観光移住課に関連する御質問についてお答えいたします。

まず、青木村の振興についての外国人労働者についてでございますが、村内企業に従事している外国人労働者の数、それから村内在住なのか、村外からの訪れている労働者なのかということについてお答えいたします。

外国人の登録人口は、青木村としては把握しているところでございますが、村内の働いている方、それから村外から各企業へ来ている方という労働者の数は、実態は村としては把握ができていないという状況でございます。

ちなみに、外国人の登録人口を見ますと、平成30年3月31日現在、外国人の世帯数が6

世帯、外国人人口が29人になっております。それから、1年前にさかのぼりまして、29年3月31日現在ですと、世帯数が5世帯、外国人人口26人となっております、若干1年の間でふえたという状況です。

続いて、今後増加が見込まれる外国人労働者の数、またはその業種に関してでございます。

このたびの出入国管理法の改正を受けまして、さまざまな分野で労働者が増加されるというふうに見込まれますけれども、青木村内でも製造業や福祉、介護の部門、幅広い業種で増加が進むものと思われるんですが、今のところ具体的な参入方法がありませんで、増加数の具体的な数としては算出してございません。

続きまして、外国人労働者を受け入れる対応策、それから施策、また子供を支援する教育についてという御質問にお答えいたします。

外国人労働者、それからその家族の受け入れに当たりまして、各企業から村に対して、このようにしてほしいというような要望は、現在のところ、そういった照会、要望等はございません。しかし、今後増加する家族、それから外国人労働者の方々のお住まいになる場所の提供というのは必要だと思ひまして、空き家バンク制度をやっておりますので、社宅として使っていただける空き家の紹介、それから実際に住んでいただくときに、ごみの出し方ですか自治会の橋渡しといった、村にできるような対応策はやってまいりたいと思っております。

また、先ほど申しましたが、福祉施設や工場などで人手不足が進んでおりまして、外国人労働者の需要、要望というものの増加が予想されますので、そういった補填要員として期待されますので、受け入れは村としても前向きに考えていきたいと思っております。

続きまして、青木村の振興に関しまして、外国人観光客の受け入れについての御質問でございます。

青木村を訪れる観光客の、ここ3年くらいの数と国についてお答えいたします。

長野県が実施しています外国人延べ宿泊者数調査という調査がございまして、そこへ提出している村のデータからお答えします。保存している分が2年分しかございませんので、2年分ですが、御容赦ください。

平成28年、青木村に宿泊した外国人数は1,052人です。それから、平成29年、こちらが1,408人、33.8%増になっております。

村を訪れてくださっている国、地域を多い順に申しますと、台湾、次が中国、3番目がドイツ、4番が香港、5番目、オーストラリア、次がマレーシアとなっております、その他

は国籍、国が不明な方々という順になっております。

また、青木村では、このデータのもとにもなっているんですが、旅館の宿泊、それからNPOの信州ええっこ村さんが受け入れ先となっていていただいておまして、ええっこ村さんの受け入れ人数というものは3年間をお聞きしますと、平成27年が、宿泊でなくて体験事業もありますので、先ほどのと数が合わないんですが、27年は1,525人、28年が1,671人、29年が1,690人という数で増加しております、ええっこ村様のおかげで、周辺の市町村に比べますと、自治体の規模の割合には格段に多い外国人の受け入れの数となっていると思います。

続きまして、外国人観光客の受け入れ体制、それからPRは何か考えているかという御質問でございます。

こちら、先ほど申しました主な受け入れ窓口となっております温泉旅館、それからええっこ村さんでございますが、精力的な活動を続けておられますので、そちらと連携をしまして、青木村の魅力を発信していきたいというふうにも思っております。

こうした体験事業ができるというものは、青木村だからこそできる受け入れの一つだというふうに思っております。そこで、村では新たにふるさと納税の返礼としまして、納税していただいた方の返礼のメニューに、ええっこ村さんで体験ができるというメニューを加えることといたしました。

今後も、国内外からこうした体験をやりたいという方の観光客の受け入れ増加、そちらに推進してまいりたいと思っております。

それからもう一つ、県が主導しています新たな取り組みなんですけれども、来年度の夏からJR東日本と私鉄の4社、しなの鉄道、上田電鉄、長野電鉄、アルピコ交通なんです、外国人向けのフリー切符を発行するという検討をしています。そのフリー切符に青木村ならではの付加サービスがつけられないかということも検討してございます。

続きまして、外国人観光客の受け入れに関して、観光パンフレット多言語版の作成、案内版の整備を考えているかということでございます。

現在、村の多言語パンフレットとしまして、総合案内で英語と中国語の表記のものがございます。それから、道の駅のパンフレットも英語と中国語がございます。看板としますと、青木のバスターミナル、道の駅に英語、中国語の案内版を設置しておりますけれども、今後の訪れる外国人の方の様子ですとか要望等を見きわめまして、必要があれば増加、多言語化等に取り組みたいと思っております。

以上、商工観光移住課関係の部分をお答えさせていただきました。

○議長（沓掛計三君） 若林保育園長。

〔保育園長 若林喜信君 登壇〕

○保育園長（若林喜信君） それでは、私のほうからは、幼児教育無償化についてお答えをさせていただきますと思います。

まず無償化に伴う青木保育園の状況ですけれども、現在の園児数は98名です。内訳ですけれども、年長児が28名、年中児が23名、年少児が23名、未満児が24名です。保育園の定員が155人ですので、園児の受け入れにつきましては問題がないと思っています。

また、入園等の相談につきましても丁寧に対応のほうをさせていただいているところです。

次に、無償化に伴う入園児の増加についてですけれども、青木村の場合は、毎年入園に該当される方の把握を事前に行っています。それを受けまして、入園の御案内をさせていただいておりますので、ある程度、子供さんの状況は事前に把握をさせていただいております。ですので、無償化に伴って入園されるケースというのは、わずかだというふうに思われます。

今後についてですけれども、ここ数年の傾向としまして、未満児の占める割合がふえてきています。本議会におきましても、新年度の未満児の入園準備のための備品購入予算をお願いしているところですが、今年度は24名、それから来年度4月時点ですけれども、25名の入園が予定されています。その後、途中入園を予定されている子供さんが6名と、未満児からの入園が大変ふえてきているところです。未満児に対する保育につきましても、十分対応させていただいているといった状況です。

2点目の保育士の確保についてですけれども、保育士の確保につきましては、園児の数ですとか状況を見ながら採用させていただいているところですが、平成31年度は3名の正職の保育士の採用を予定しています。

青木村保育園では、国の基準よりも手厚く保育士を配置させていただいておりますので、必要な時期に必要な支援を提供することができるというふうに考えています。今後も、必要に応じて保育士の採用をお願いしていきたいというふうに考えています。よろしくお願いいたします。

次です。正規職員と臨時職員の処遇の問題ですけれども、正規職員、臨時職員、それぞれ立場の違いはありますけれども、保育士としましては、皆さん力のある先生方ですので、保育につきましても、同じように取り組んでいただいているところです。

ただ、連絡ノートの記入ですとか保護者への対応、またイベント時の出勤ですね、その他、係分担等におきましても、正規の職員が中心となり保育に取り組んでおります。

勤務の時間におきましても、契約どおりの勤務形態を遵守しておりまして、また、毎年、教育長の面接をしていただいております。それぞれ臨時の先生方に、意見や要望についても、その面接をもとに配置ですとかをさせていただいておりますので、よろしく申し上げます。

次に、保育料の村負担の軽減と新年度予算への反映ということですが、保育料の無償化に伴う来年度予算についてですが、国からの説明は2月に1回やりました。財源につきましては、村の新年度予算に計上するほど十分な説明がまだありませんので、当初予算におきましては盛り込んでおりません。

国からの説明では、無償化についての制度導入のための事務費につきましては、初年度と次年度について、事務費については国10分の10、それからシステム改修費、保育料等の算定システムになりますが、そういったものの改修費につきましては、初年度のみ国10分の10の補助があるといった情報はいただいているところです。

以上になります。よろしく願いいたします。

○議長（沓掛計三君） 小宮山住民福祉課長。

〔住民福祉課長兼保健衛生係長 小宮山俊樹君 登壇〕

○住民福祉課長兼保健衛生係長（小宮山俊樹君） それでは、私のほうから児童の虐待死について、過去に事案があったか、その次の上部機関からの調査、この2点についてお答え申し上げます。

虐待が疑われたために、住民福祉課、教育委員会が協力して児童相談所とも連携しながら対応した事案は、過去にございました。ただ、議員が心配されているような深刻なケースではなかったというふうに記憶しております。

具体的な内容につきましては、個人が特定される場合もございますので、この場では遠慮をさせていただきたいと思っております。

2つ目でございますが、上部機関からの調査があったかということでございますが、児童相談所より児童虐待の疑われる事案に係る緊急点検の調査依頼が最近ございました。保育園、小・中学校、教育委員会、障害児通所施設等における対象児童の有無について報告する調査がありまして、今現在、村には対象となる児童はいないという回答をしたところでございます。

また、学校、保育所から市町村への定期的な情報提供ができる体制についても、教育委員会が所掌で、小・中、スクールカウンセラー、保育士などで定期的な情報交換の機会を持っていること、こちらも御報告いたしました。

以上でございます。

○議長（沓掛計三君） 沓掛教育長。

〔教育長 沓掛英明君 登壇〕

○教育長（沓掛英明君） 続きます、私のほうから青木村で事案が発生した場合の対処は万全かどうかということについてお答えします。

虐待事案を防ぐには、早く実態をつかむこと、それから、その実態を関係者が共有すること、問題が深刻な場合は、スピード感を持って対応することが重要と認識しております。

青木村のよさは、子供たちを取り巻く環境が多くの人によって支えられていることだと思っています。保健師、保育士、スクールカウンセラー、小学校、中学校、教育委員会が、1人の子供を重なりながら見ているという状況があります。

さらに、昨年2月から2カ月に1回程度、関係者が集まって情報交換する場を設けました。お互いの情報を共有することで、一気に全体像がつかめるようになっております。このシステムは、もう1年以上も続いているんですが、児童相談所がこの話を聞いて一緒に参加したいという申し出がありました。来年度は、児童相談所もこのシステムと一緒に参加していただくようになっております。

このような体制を今後も継続していくことが、虐待事案の発生を抑えることにつながるし、もし発生したとしたら、早急な対応が可能になると認識しております。

それから、順番がちょっと逆になるんですけども、外国人労働者に対するその子供たちの支援するための教育についてであります。現在も外国から転入してきたお子さんがおります。青木村には、外国籍の子供たちのための特別な学級というのはないんですけども、例えば特別支援学級は人数が少ないので、特別支援学級でスタート時については丁寧な対応をしてもらい、スムーズなスタートが切れるようにしたという例もございます。

今後もケースごとに異なると思いますけれども、その都度できる方策を考えて丁寧に対応してまいりたいと考えております。

以上であります。

○議長（沓掛計三君） 松澤議員。

○3番（松澤正登君） いろいろありがとうございました。

私のほうからも、村の農業につきましては、農業の担い手減少の中、今御説明もございましたが、農業委員さんが、今度は農地の利用状況調査にはタブレットを使ってやるというようなお話も聞いております。よりよい利用をこれからもよろしくお願ひしたいと思ひますし、

少しでも新規就農者が増加するように、よろしくお願いをしたいと思います。

また、外国人の来村等につきましては、就労の増加、観光においても、またワールドカップやオリンピックで訪れる外国人は増加すると考えております。そうした中で、時代のニーズに応えられる村づくりをお願いをしたいと思います。

児童虐待等の問題につきましては、今、教育長からもありましたように、早期発見という対応がいかにか大事かと、こんなふうに私も考えております。これからもよろしくお願いをいたします。

以上、質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（沓掛計三君） 3番、松澤正登議員の一般質問は終了しました。

ここで暫時休憩といたします。

1時15分から再開いたします。

休憩 午後 零時 11分

再開 午後 1時 15分

○議長（沓掛計三君） 休憩前に引き続き会議を再開します。

◇ 居 鶴 貞 美 君

○議長（沓掛計三君） 7番、居鶴貞美議員の登壇を願います。

居鶴議員。

[7番 居鶴貞美君 登壇]

○7番（居鶴貞美君） 議席番号7番、居鶴でございます。

通告に従いまして、村長、担当課長より一問一答方式にて答弁をお願いをいたします。

まず先日のラオスにおけるモデル機設置、村長を初め職員の皆様、公務出張、大変に御苦労さまでした。

私は、青木村自然エネルギーについてお聞きをいたします。

自然エネルギーは、再生可能エネルギーとも言われ、原発や地産燃料などにかわる環境へ

の負荷の少ないエネルギーで、将来にわたって安全、安心のエネルギーとして注目されております。また、地方創生プロジェクト事業としての役割も大きいものと考えております。

それでは、自然エネルギーに対する基本的な考え方についてお聞きをいたします。村長にお聞きをいたします。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） 再生可能エネルギーにつきましては、居鶴議員の御質問にあったとおりでございます。もうすぐその日が来るんですけども、平成23年3月に発生しました東日本大震災を境にいたしまして、世界的な動きといたしまして、原子力発電の安全性が問われております。こういった中で、再生可能エネルギー、自然エネルギーの確保というのは、世界的にも大変重要でありますし、そういった転換期を迎えたわけでありまして。

この再生可能エネルギーというのは、青木村にとりましては、晴天率が非常に高いということがありますので、これを積極的に一定の条件のもとですけれども、取り組んでいかなければならないと思っております。

改めて、再生可能エネルギーの導入によりますメリットを、居鶴議員のほうからもお話がありましたけれども、地球温暖化に対するグローバルなものの考え方から、エネルギー自給の向上、あるいは化石の燃料調達資金の削減、それから産業の国際協力の強化、それから産業政策に係る関係から雇用の創出、地域の活性化、非常時のエネルギーの確保、こういったものまで多岐にわたるわけでございます。

私どもは、このメリットを再生可能エネルギーを大きな青木村の社会資本の一つとして、今後も取り組んでまいりたい、一定の条件のもとですけれども、取り組んでまいりたいというふうに思っております。

○議長（沓掛計三君） 居鶴議員。

○7番（居鶴貞美君） 自然エネルギーの中におきまして、現在の太陽光発電設備に対して村の考え方等をお聞きをしております。

まず、この指導要綱、これを見ますと、太陽光、風力、水力というふう限定されております。自然エネルギーは、地熱、バイオマス等もあるんですが、この要綱で3点ということがありますが、この点につきまして将来的に考えておいでなのかどうか。この要綱では、今申し上げた3点になっているんですが、その点についてお聞きをいたします。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） 地理的条件、社会的条件、気象条件等を考えると、青木村では太陽光

が、逆に言えば太陽光に絞って考えていきたいというふうに思っております。

水もやっておりますけれども、やっぱり水利権の関係とか年間通しての安定した水の供給というのは、なかなか青木村は難しい状況でありますので、太陽光を中心に考えていきたいと考えております。

○議長（沓掛計三君） 居鶴議員。

○7番（居鶴貞美君） 太陽光発電の設置につきましては、平成30年2月2日付、指導要綱に定めております。太陽光設置につきましては、村民の皆さんの中にも賛否両論といたしますか、そういう考え方をお持ちの方がおいでになることは、村の方も御承知だろうというふうには考えております。

それで、まずお聞きをいたしますが、平成29年5月1日、指導要綱が施行されました。この施行後の設置件数はどのくらいなのかどうか、お聞きをいたします。

○議長（沓掛計三君） 片田総務企画課長。

○総務企画課長兼事業推進室長（片田幸男君） お答えいたします。

指導要綱施行後の設置件数でございますけれども、1件でございます。

○議長（沓掛計三君） 居鶴議員。

○7番（居鶴貞美君） 続きまして、農転の許可を受けて設置をしたと、その件数も今の1件ということよろしいですか。

○議長（沓掛計三君） 花見建設農林課長。

○参事兼建設農林課長兼農業振興係長（花見陽一君） この太陽光に関しましては、設置要綱以前よりも転用案件がございました。

直近5年間を調べさせていただきましたが、平成25年から平成30年までで農地転用に伴う許可は10件でございます。

以上です。

○議長（沓掛計三君） 居鶴議員。

○7番（居鶴貞美君） それでは、税収についてお聞きをいたします。

まず農地から太陽光の設置に伴う件数並びに金額はどのくらいなのかどうか、お聞きをいたします。

○議長（沓掛計三君） 多田会計課長。

○会計管理者兼税務会計課長（多田治由君） 土地に対する税についての収入ということでございますが、土地に対する固定資産税につきましては、その地目、それから場所、形状など

の条件により評価が決定されてきます。

また、地目につきましては、実際に利用されている状況に基づき判断されますため、転用を伴っている場合と、いろいろケースとして分かれるわけですが、お尋ねの件について、単純に地目が変わったと仮定して条件的に合うものを拾い出し、差額を求めました金額でいきますと、9件ほど案件として上がってきます。金額としますと、45万3,000円ほどが収入となっている状況です。

○議長（沓掛計三君） 居鶴議員。

○7番（居鶴貞美君） 太陽光設置、これは償却資産になりますが、この太陽光設置に伴う、同様に件数と金額をお願いをいたします。

○議長（沓掛計三君） 多田税務会計課長。

○会計管理者兼税務会計課長（多田治由君） 償却資産税についてのお尋ねでございますが、発電の出力が10キロワット以上の太陽光発電設備につきましては、事業用の償却資産となりまして、課税の対象となります。ただし、特別措置法の対象設備として認定を受けた場合につきましては、3年間、課税標準額が3分の2ということで軽減をされます。

そういった中で、29年度の実績で申し上げますと、対象となる施設が17件ございまして、償却資産の税額でいきますと300万6,105円という数字になります。

○議長（沓掛計三君） 居鶴議員。

○7番（居鶴貞美君） この太陽光設置につきまして、今、会計管理者から御説明をいただいたんですが、取得価格の大体10分の1ぐらいが税収として村に落ちると、こういうことが言われております。

単純に例えば1,500万の太陽光を設置すると、おおむね150万が村に入ると、このように言われております。この点につきまして、今趨勢をお聞きしたんですが、税金の面からのこの太陽光についての考えがありましたらお聞きをしたいんですが。

○議長（沓掛計三君） 多田税務会計課長。

○会計管理者兼税務会計課長（多田治由君） 税金に対する考えということですが、村の財源としましては、収入がふえる分については大変いいことだと思います。

○議長（沓掛計三君） 居鶴議員。

○7番（居鶴貞美君） すみません、通告がなくてお尋ねをしたんですが、今、私の言わんとしているのは、税収の財源としても大きなウエートを占めるのではないかと、こういうふうには私は考えましたので、今お尋ねをしたと、こういうことでございます。

続きまして、青木村自然エネルギー協議会についてお聞きをいたします。

現在、村長を初め13名の方が自然エネルギー協議会に属しております。取り組み、経過につきましては、広報あおき等にて報告されております。この協議会の今後について、どのようにお考えを持っているのか、お聞きをいたします。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） 地方創生の流れの中で、新たな人材育成等を進めてきたわけでありまして。3年間の間という大変短い中で、素晴らしいものができたというふうに思っておりますし、ラオスの日本大使館に行ったときも、相当期待している、JICAでもそのように言われました。

一番は、内閣府の官房参与の浜田宏一先生、飯島勲先生も見に来ていただいたというのも、霞が関ではよく承知していただいているようでありまして、評価されていてよかったなというふうに思っております。太陽光と風力と水と、そのハイブリッド、そして今までなかった垂直軸の組み合わせというのは、非常に狭い範囲内で発電できるというメリットがあるわけでありまして。

今後につきましては、ODA、発展途上国への援助ですね、これもJICAとかラオスの大使館へ行ったり民間の情報をいただいておりますので、こういったことで今後の事業の展開をしていくようなことを考えていきたいというふうに思っております。

ODAの予算は19年度、今年度ですけれども、5,566億円あって、その枠の中に中小企業などの民間企業の製品の認知度の向上とか、継続的な事業の創出というのがありまして、これに当てはまるかな、当てはまっていきたいというふうに思っております。

それから、技術的には、もっとコンパクトにできるとか簡単に設置できるとか、材料費はラオスに持っていったのは100万円ちょっとぐらいかというふうに思いますけれども、まだまだ改造したり、改革したりするところはあるんじゃないかということを期待をしております。

○議長（沓掛計三君） 居鶴議員。

○7番（居鶴貞美君） この関係につきましては、地方創生加速化交付金、地方推進交付金等を活用してございますが、今までの金額は総額でどのくらいになったかどうか、お聞きをいたします。

○議長（沓掛計三君） 片田総務企画課長。

○総務企画課長兼事業推進室長（片田幸男君） 今、御指摘のとおり、地方創生交付金を活用

することで、3年間で集中して短期的に事業を実施することができたということでございます。

28年度から事業実施で28、29、30の3カ年ということでございます。28年度が事業費5,718万円、うち交付金が5,000万円。29年度につきましては6,424万円、うち交付金が3,212万円。30年度につきましては、事業費6,000万円に対しまして交付金が3,000万円、合計しますと、事業費1億8,142万円、そのうち交付金が1億1,212万円ということでございます。

以上です。

○議長（沓掛計三君） 居鶴議員。

○7番（居鶴貞美君） このプロジェクトの成果目標として、平成30年3月末でコンソーシアム参加企業5社、インターシップ学生等受け入れ15名以上、若手エンジニアの育成、雇用3名以上とあります。

間もなく1年たちますが、現状についてどのようになっているのかどうか、お聞きをいたします。

○議長（沓掛計三君） 片田総務企画課長。

○総務企画課長兼事業推進室長（片田幸男君） この31年の2月末現在で、インターンシップの学生数につきましては、足利工業大学6名、それから東海大学が2名ということになっております。その他、現地研修の参加者ということで、東京大学の大学院から2名、タイのバンコク大学から2名、ベトナムのハノイ工科大学から3名、ケニアのナイロビ大学から1名、中国の大連、理工大学から2名、それから台湾の、これはセシン大学というんでしょうか、から1名でございます。

また、若手エンジニアの育成ということでございます。雇用の関係でございますが、28年度から新規採用に関しましては、合計6名の方が採用されてございます。当然このプロジェクト以外の業務も含めた採用となっておりますけれども、6名という結果でございます。

○議長（沓掛計三君） 居鶴議員。

○7番（居鶴貞美君） 続きまして、エネ空あおきタワー並びにミライズあおきについてお聞きをいたしますが、まず、この2つにつきまして、村として今現在どういう位置づけにあるのかどうか。それと、まだ完成の前段階というふうに思っておりますが、この点につきまして、お聞きをいたします。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） この2つのハイブリッドを地方創生の目玉としてやってきたわけであり、3年間たちまして、いろいろな学者の先生も学会での報告もされる中で、よく実用化されたなど、こういうふうに言っていただいております。

今後は、この2つのハイブリッドを、さらに先ほど申し上げましたように軽量化するとか、大量生産できるとか、そういうようなことをNPO法人をつくってもらって、その中で検討していただければというふうに思っております。既に青木村でも2カ所、それからラオスでも1カ所、既に発電を始めておりますので、第1段階については完成したというふうに思っております。

○議長（沓掛計三君） 居鶴議員。

○7番（居鶴貞美君） エネ空あおきタワーについてお聞きをいたします。

平成28年4月に設置されております。年間発電量と1日発電量の予測ということで、このデータを見ますと、風力発電で年間600キロワット、1日1.6キロワット。太陽光発電で3,600から4,000キロワット、1日では10キロワットから11キロワット。年間通しますと、両方で4,200キロワットから4,600キロワットと、1日当たり12キロワットから13キロワットと、このように出ております。

設置以降の発電量の具体的な数値につきまして、お聞きをいたします。

○議長（沓掛計三君） 片田総務企画課長。

○総務企画課長兼事業推進室長（片田幸男君） エネ空あおきタワーについての御質問でございますけれども、29年2月16日に運用を開始しました。

データとしましては、29年度の4月から3月の実績値を申し上げたいと思います。

年間発電量につきましては、5,000キロワットアワーでございました。このうち風力に関するものが約700キロワット、それから太陽光についてが約4,300ワット、計約5,000キロワットという内容でございます。これを1日平均にいたしますと13.7キロワット、日本の平均家庭からすると、2軒から3軒分ぐらいの発電量が発電されているということでございます。1日平均でいきますと、風力につきましては1.9キロワット、太陽光については11.8キロワットというような実績でございます。

○議長（沓掛計三君） 居鶴議員。

○7番（居鶴貞美君） 今、風力発電について御説明いただいたんですが、村民の方の中に風力、風車ですが、これは風でなくて電気で回しているんじゃないかというような御意見があるんですが、その点につきまして御説明をお願いをいたします。

○議長（沓掛計三君） 片田総務企画課長。

○総務企画課長兼事業推進室長（片田幸男君） 通常は当然風で回っているところでございます。動き出しのときに、ある程度力を入れてあげるといいますか、軌道に乗るまで電気で駆動させるような仕組みにはなっております。

あと、ブレーキをかけるというのが、回り過ぎてしまうと過度に負担がかかってしまうということで、ブレーキをかける仕組みというのも搭載されておまして、ブレーキをかけたり回したりというようなところの中で、そういうような動力を一部使っている部分はございます。

○議長（沓掛計三君） 居鶴議員。

○7番（居鶴貞美君） 用途として、非常用電源、LED照明、リビング野菜、燃料電池、電動電車の充電等の利用と、このようになっておりますが、この点につきまして、今どういう状況にあるのかどうか、お聞きをいたします。

○議長（沓掛計三君） 片田総務企画課長。

○総務企画課長兼事業推進室長（片田幸男君） 現状につきましては、実証実験場という取り扱いでもございます。データをとっているという中で、一部売電も行っていくという中でございます。

一番は今、非常用電源ということで、もし全村が停電になったりしても、あそこからは常時電気がとれるような状況になっているということでございます。

○議長（沓掛計三君） 居鶴議員。

○7番（居鶴貞美君） 続きまして、ミライズあおきについてお聞きをいたしますが、こちらは小水力発電と太陽光発電でございますが、こちらも同様につきまして、現在の年間発電量と一日発電量につきまして、先ほど同じように現在の状況についてお聞きをいたします。

○議長（沓掛計三君） 片田総務企画課長。

○総務企画課長兼事業推進室長（片田幸男君） ミライズあおきにつきましては、平成29年10月14日に運用を開始したところでございます。

発電の実績値につきましては、平成30年5月から10月までの6カ月間ということで、御参考いただければと思いますが、この半年間の発電量につきましては、1,600キロワットでございました。

内訳として、水力で900キロワット、太陽光で700キロワットという状況でございます。これをまた1日平均にしますと、約8.6キロワットで、日本の家庭の1軒から2軒分ぐらい

の出力ということでございます。

内訳としましては、水力によって9キロワット、太陽光で3.7キロワットということで、当初見込んでいた数字よりは、かなりいい数字といたしますか、180%ぐらいの数字でございます。

○議長（沓掛計三君） 居鶴議員。

○7番（居鶴貞美君） 予定以上に進んでいると、こういう御説明をいただきました。

それで、今、実用化に向けて進んでいると、こういう状況だというふうに思いますが、今後の実用化のめど、この辺につきましてお聞きいたします。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） 技術的には、もっともっと改善の余地はあるかと思っておりますけれども、第一段階は成功したというふうに思っております。

今後につきましては、先ほど申し上げましたような技術的なものがありますが、さらに水と太陽と風、この3つのハイブリッドができないだろうか。それから、ダブルで、鋳物をつくったときに鋳型で風にも、それから水にも対応できるような、そういった一つの鋳型でできるようなものを開発していく。

それから、もう一つは、今は一つの風車ですけども、2つをつけて、このほうが効率がいいわけですから、こういうものができないだろうか。既にそういった研究をしておりますので、実用化とともに、さらに効率のいいものを目指してまいりたいというふうに思っております。

○議長（沓掛計三君） 居鶴議員。

○7番（居鶴貞美君） この関連につきまして、冒頭申し上げましたのですが、ラオスにおけるモデル機設置についてお聞きをいたします。

既に信毎、あるいは東信ジャーナル等で報道されております。村民の皆さんもよく御存じだというふうに思います。それで、これは実証実験と国際貢献を兼ねてラオスで行うと、このように報道されております。

それで、この点でまずお聞きをいたしますが、去年の3月23日、東信ジャーナルの記事で、ラオスにおける発電の関係なんです、農業用水路は存在せず、すぐに設置不可能と、このように報じられております。それで1年たちましたら、もう既に設置されたと。この点をどのようにクリアされたのかどうか、お聞きをいたします。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） ラオスに行きまして、大変明るい電灯がつきまして、村の皆さんには喜んでいただいたというのは、仕事冥利だなというふうに思いました。

その設置したモウ村というのは大変電力の不足しているところで、停電もありますし、ヒューズが飛んだり、それから夜は字が読めるような電力がないということで、公民館に設置をいたしまして、村長は来週から英語の授業をやりたいと、その電気の明かりで勉強を子供たちにさせたいと、大変喜んでおります。

その経過について、少し時系列的に答弁させていただきたいと思っております。

1回目の調査では、天然護岸の河川を中心に、堤防など不規則なもので、これを持ち込んでもすぐ設置できないなというのが実感でありました。

2回目の調査のときは、あらかじめ、こちらのほうでは人工的な用水路をラオスのほうに選定させていただいておりましたので、理想的な場所が少し県と県庁所在地から1時間15分ぐらい離れたところなんですけれども、シエンクワン県のモウ村が出てきたわけであります。

そういったことで、この時点では、水路をつくらなきゃいけないじゃないかということも考えたり大変苦慮したんですけれども、大変いい場所がありましたので、しかも電気を供給する公民館も近くにありましたことから、このようなことになったわけでございます。

○議長（沓掛計三君） 居鶴議員。

○7番（居鶴貞美君） 私も、ラオスについては余り知識はないんですが、ラオスは赤道直下の国であると、このように聞いているんですが、発電に当たって赤道直下というのは特に問題点等はなかったのかどうか、ないのかどうか、お聞きをいたします。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） 私どもが行ったのは乾期でありました。基本的には、日中は30度を超え、明け方には15度下がるということで、1回雨に降られましたけれども、という状況でありました。

行った学者の先生によりますと、太陽光の発電量は多く見込まれるという話でございました。課題としては、水量の水路の水高が上下するということがありますけれども、それも村の村長さんを初め、シエンクワン県のエネルギー局の3人の技術屋さんにもその話をして、後の管理をやってきていただいております。

青木村とは若干条件が違いますけれども、太陽光の発電については、水力も含めて青木村よりはずっといいデータが出るというふうに期待しております。

○議長（沓掛計三君） 居鶴議員。

○7番（居鶴貞美君） 今、御答弁もいただいたんですが、一応メンテナンスについてですが、ただいま御説明もあつたんですが、誰が行って費用がどのくらいかかるのか、それに対して村から費用の負担をするのか、できるのか、その点についてお聞きをいたしたいと思います。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） 日常的な、そんなにごみは流れていなかったんですよ。ほとんどごみらしきものは流れていなかったんですが、そういうことがあるよということで、村長に300メートルぐらい自宅が近いところにあるものですから、お願いをしてきました。

それから、電氣的なメンテナンスについては、先ほど申し上げましたように、県のエネルギー局がありまして、3人の技術屋さんがおられました。ずっとこの方々には設置の状況の説明をして、帰る日までよくよく説明やら、日ごろのメンテナンス等をお願いしてきたわけです。

今後、村が費用を出すかということについては、考えておりません。

○議長（沓掛計三君） 居鶴議員。

○7番（居鶴貞美君） 2月21日に信毎で報じられました。皆さんごらんいただいていると思うんですが、自然発電機、ラオスで27日運用開始、青木の製造業光となるかというふうになっております。村内で部品加工、組み立て構想、地域で仕事が回る仕組みが課題と、いわゆる万歳万歳ということではないように、私はこの記事を見ますと、いろんな課題もあるだろうと、このように感じております。

今ここで、地域で仕事が回る仕組みが課題と、このように報じられましたのですが、この点につきましてどのようにお考えなのかどうか、対策とかをお聞きをいたします。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） この事業の次の展開としては、4月からNPO法人を立ち上げていただきまして、そこで回していきたいと、事業を展開していきたいというふうに考えておりますし、今まで参画した人たちの合意も既に得ているところでございます。

これは村内の各企業が、一部分でもいいですから、この仕事のこのプロジェクトに参画をしていただくというふうに思っております。製造業だけではなくて、今までも土木関係とか電気設備とか輸送業とか、青木村の皆さんにも既に参画をしていただいております。今後もそういう視点でNPOが活動してくれることを期待しております。

また、浅間リサーチエクステンションセンターがありますけれども、これは上田地域の工業系の発展のためにつくった、青木村も参加している施設、機関でありますけれども、そこからも協力要請もありますので、何らかの形でかかわっていただいて、この事業の展開を図ってまいりたいと考えております。

○議長（沓掛計三君） 居鶴議員。

○7番（居鶴貞美君） 最後の質問をさせていただきますが、今後の見通しということですが、今までの成果とかいろいろな分析、あるいは目標としてどのようにお考えなのかどうか、見通しについてお聞きをいたします。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） 地方創生の推進交付金等を3年間いただきました。それから、その結果として、ミライズあおきをラオスに設置して、今後の新しい産業としてのめどが立ったというふうに考えております。

今後は、海外向けのODA等の補助金を受けまして、民間が中心になりまして国際貢献をあわせてになりますけれども、村内の産業と振興ということを一義的に考えていきたいと思っております。

私どもも行政としても、いろいろ情報提供や協力できることは、引き続いて協力してまいりたいと思っております。

○議長（沓掛計三君） 居鶴議員。

○7番（居鶴貞美君） この関係につきましては、村内外の皆様から大変に注目されております。今年度で一区切りというお話もございますが、地方創生の大きな目的に合うよう、大いに期待を申し上げます。今後ともしっかりと頑張ってもらいたい、このように思います。

以上で私の質問を終わりにいたします。ありがとうございました。

○議長（沓掛計三君） 7番、居鶴貞美議員の一般質問は終了しました。

◇ 山 本 悟 君

○議長（沓掛計三君） 続いて、10番、山本悟議員の登壇を願います。

山本議員。

〔10番 山本 悟君 登壇〕

○10番（山本 悟君） 議席番号10番、山本悟です。

さきに通告いたしました2点について、村長、教育長並びに担当者にお伺いをさせていただきます。午後で眠気も出てきたと思うんですが、よろしく願いいたします。

まず、質問の前に議長にちょっとお尋ねをしたいんですが、多少脱線するかもしれませんが、個人の人権だとか村の名誉とか、そういうことを決して傷つけることではございませんので、私の性格なのでお許しいただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

○議長（沓掛計三君） はい。当初に言ったとおりでございます。

○10番（山本 悟君） それでは、お許しをいただいたというふうに解釈して、質問をさせていただきます。

一昨日の信毎の記事なんですが、ちょっと朗読いたします。

28年ぶりに一般質問ゼロ、青森六戸町議会、町議から届け出なくという記事なんですが、青森県六戸町議会（定数12）が開いている3月定例会で、一般質問が実施されないことが5日わかった。質問の届け出がなかった。町議が議場で町政をただすことなく閉会する珍しい事態となる。同町議会では1990年の6月定例会以来、28年9カ月ぶりという。

議会事務局によると、質問の締め切りは2月21日だった。3月定例会は4日、8日の日程で、一般質問に充てていた5日は休会とした。

質問ゼロについて、議長さんは議会事務局を通じ「コメントは差し控えたい」とおっしゃったそうでございます。事務局の担当者は、理由はわからないが、町が安定した状態にあるということなのではないかとおっしゃったそうです。

2015年から現職町議の任期中、定例会では、毎回1人から3人の質問があったそうでございます。

それと、地方自治論に詳しく早稲田大学大学院教授を務めた片木淳弁護士は「日本の民主主義にとっても地方自治にとってもゆゆしき事態だ。質問は議員活動の出発点であり、一番大事な役割。住民から選ばれた議会と首長との間で、チェック・アンド・バランスを働かせるのが地方自治の原則だ」と書いてありました。参考までに読ませていただきました。

私がいろいろコメントする立場ではございませんので、記事だけを読ませていただきました。

それでは、質問の1番に入ります。議長、40分以内でおさめるからね。

青木中学校の部活どうなるということなんですが、タイトルはできるだけ短く単刀直入に、どうなるという聞き方をしたんですが、学校現場の教職員の勤務実態、あるいは今、話題に

なっています働き方改革との絡み、あるいは少子化の中での部活のあり方等、多面的に伺ってまいりたいと思いますが、よろしくお願いたします。

県教委と各市町村教育委員会連絡協議会、それから県のPTA連合会でつくる学校における働き方改革推進会議は、去る1月24日、県内全ての公立小中義務教育学校で、ことしの夏休みから連続7日間の学校閉庁日を設けると、導入するというふうに決定されたそうです。

私は、学校閉庁日という言葉がどうもちょっとなじまなくて、閉庁というと役場とか市役所とか県の出先機関とか、そういうイメージがあって、学校は休校日というんじゃないのかなと、これは私の感覚なんです。

その目的なんです、目的は、働き方改革の一環として、教職員の連休をとりやすくするというにあるようでございます。閉庁日、休校日なんです、その日は会議だとか研修会だとか部活動の指導等を一切やらないで、全教職員が休むと。それで、この呼び方なんです、親しみやすいようにということで、学校リフレッシュウイークというふうに名づけたんだそうでございます。

いつ休みをとるかということについては、それぞれの学校に委ねる。一部の人の話を聞くと、都会の人は、9月の初めごろまでというか、9月近くまで休みがあるので、できれば後ろへ持って行ってもらえばいいなと、そんな意見もあるようでございます。

それから、春休み、夏休みはどうするんですかということなんです、市町村教育に判断を委ねるということだそうでございます。

それから、何か緊急事態があったらどうするだいということなんです、もしそういうことがあったら、とりあえず市町村役場へ連絡をする。市町村役場は、市町村の教育委員会へ連絡すると。教育委員会から学校へ連絡すると。ちょっと何か、時間がかかるような、回りくどいような気もするんですが、そんなようなシステムでございます。去年は県内で、全544校中528校、パーセンテージにして97%が実施をしたそうです。

土日を除く1校当たりの平均は3.97日、約4日だそうです。

それから、昨年12月の時間外の調査では、先生1人当たり47時間38分、前年よりは4時間25分ほど短くなったそうです。その短くなった要因というのは、スクールサポートスタッフ、部活の指導員を導入したことによるそうです。

今、スクールサポートスタッフという言葉が出てきたんですが、これは何ですかということなんですけれども、県教委は、昨年、教職員の仕事の一部を代行する本制度の導入について、県下小・中18学級以上の102校に非常勤職員として、今言ったサポーターを配置したと。

仕事内容なのですが、1日4時間で約200日働いていただく。文科省が言うところのチームとしての学校という理念に近づけるためなんだというふうなおっしゃり方をしております。

先生には専門性を発揮していただいて、教育活動に専念してほしいと。サポートスタッフは先生のお手伝いといいますか、助けると。仕事はどんなことするんですかということなのですが、まず資料の印刷とかコピー、それから授業や行事の準備とか片づけ、小テストの丸づけ、掲示板への掲示、資料、統計のデータ入力等。サポーターさんがいることによって、先生たちの負担も軽くなると。

いいことばかりかなというと、そうじゃなくて、当然子供との接点が少しでも短くなるわけですから、子供のふだんの状態をいつもよりも見詰めているということが、若干なりとも手薄になると。だから、児童のつまずきとか何かあったときに、先生が気づきにくいというような、そういうマイナス面も否定できないということのようでございます。したがって、何かあっても、子供にその指導ができないで時間だけが過ぎていってしまうというふうなこともあると言われております。

去年の6月10日の調査では、教職員が6月に1人当たり週1時間23分、10月では2時間半ほど勤務時間が短くなったそうです。19年は予算づけにもよるんですが、もっともっと対象校をふやしていきたいと、当村も対象校になるのかどうか、ちょっとわかりませんが。

次に、部活動の指導員についてなんですが、まだこれは制度的にはそんなに確立された制度ではないと思うんですけれども、これも先生方の負担を軽くするというような中で、技術的な指導はもちろんなんですが、例えば運動部で練習以外に一緒に行くとか、大会にももちろん行くとか、そういうふうなこともやる。その中で資格はどんな資格が要るのかなというのはちょっとわかりません。事故とかけがとか何かがあった場合の対応、保険とか、そういったことについても、ちょっとクエスチョンです。

それで、県教委は、この2月5日に公立中学校運動部の長期休み中の半分以上を休業日にしなさいと、県立校のことにも触れますけれども、県立校の活動時間は、平日、休日とも3時間程度までと、この4月からと。中学校の指針は、スポーツ庁のガイドラインによると。したがって、以前の14年2月の指針は改めるそうでございます。

それから、学期中の休業日とかそれなんですが、週に2日は休むと。活動時間は平日2時間程度、休日が3時間程度。そのとき移動とか準備とか片づけとか、そういったものは含まないということのようでございます。ここでも週2日以上休業日ということのようです。

ただし、私立の学校のことについては、当然公立ではないですから、県のほうでは別に何も言う立場にはないと思うんですけども、それも各学校がそういった指針を設けるそうです。

余談になりますけれども、これは高校の話ですけれども、県立の女子校で駅伝で全国準優勝を2回果たした長野市の某高校の監督さんのお話なんですけど、高いレベルで成績を追求したい子供や指導者の意欲低下につながらないかと心配している。あるいは、素質や意欲のある子供を伸ばせなくなっちゃうんじゃないかと、そんな問題提起もあったようでございます。

賛成といいますか、その意見の中では、限られた時間に効率的に力をつけるには、やっぱり専門性の高い指導者を迎えて部活動をやる方がいいんじゃないかと、こんなふうな意見もあるようでございます。

部活動だけで競技力を支えていくというのは、限界があるだろうと、よりその技量を高めて強くなりたい子というのは、例えば中学とか高校の部活じゃなくて、地域のクラブチームに入って、プロの養成所じゃありませんけれども、そういうふうにする方がいいんじゃないかと。

クラブチームということになると、遠征だとか泊まりでどこかへ行くとか、いろんなことがあったりして、随分親が送迎したりとか、お金の面とかで大変な面もあるようなんですけども、それは個々に選択されることだろうと。ただ一つ言えることは、徹底的にスポーツに打ち込みたい子が行き場がなくなっちゃうようじゃ困るというふうなことがあるようでございます。

学校単位では限界があるので、地域全体で、スポーツの活動なんかは、次善策を検討する必要があるのではないかなと、そんなことを言っています。

それから、これは私の一般的なあれなんですけれども、最近スポーツの不祥事というか、そういうのがいっぱいあります。プロの、相撲界もそうですし、大相撲もそうですし、それからアメフト、あるいはレスリング等々。それから、話は飛び過ぎちゃうかもしれませんが、ロシアの国みたいに国を挙げてドーピングをやっている国さえありますし、勝てばいいんだという勝利至上主義というのは、教育とはちょっと一線を画したほうがいいのかなと、こんなふうに思います。

前置きが長くなりましたけれども、本論に入ります。

教育長、青木中学校が今まで歩んできた部活の歴史といいますか、そういったことを簡単

に思い出せる範囲で結構でございますので、お願いします。

○議長（沓掛計三君） 沓掛教育長。

○教育長（沓掛英明君） 青木中学校の部活動の歴史についてであります。運動系の部活動では、女子はバレーボールとバスケットボールが昭和の時代からほぼずっと続いております。一時バスケが廃止になった時期もあるというふうに聞いています。

男子は、男子バレーもずっと実は続いているんですが、男子のもう一つのほうの流れが野球部、バスケット、サッカー、その3つが順繰りに変わってくるという、そういう歴史がございます。その中で、例えばサッカーは昭和56年に県で優勝したという、そういう輝かしい歴史も持っております。

○議長（沓掛計三君） 山本議員。

○10番（山本 悟君） 今、教育長はおっしゃったんですけれども、今職員でここにいる稲垣さん、それから小林義昌さんは、たしか当時サッカー選手で、県で優勝して、なおかつ北信越まで行ったと。村民にこんな小さな村でも一生懸命やれば、県で優勝して北信越まで行けるんだよという、すごい勇気と希望を与えたということで、私はうんと感激したんですね。

ここに居るのは2人だけかな、そんな中で、青木もすごくさせてもらったんでしょうけれども、当時の指導者、原先生、小学校の先生が中学校まで残ってきて教えていたというふうなお話も聞いたところでございます。いずれにしても、本当にすばらしい快挙だったかと、私は今でも思っています。固有名詞を出してよかったのかな……。

これはプライベートの話なんですけれども、25年ほど前に、中学校のPTAの参観で校長先生の講話がございました。私もPTAの一人として行ってお話を聞かせていただいて、そのときに、青木のサッカー部はもうこれで潰しちゃいますと、こういうお話がございました。それで、私はそのときに挙手をして、どうして先生潰しちゃうんですかと、今言ったように、小さな学校で県で優勝して、北信越まで行った、そんな歴史のあるサッカー部なんですよ、そんなお話を当時、アカバネさんとおっしゃったかな、松本出身の校長先生で御存命かどうか分かりませんが、そんなことで校長室へ抗議に行ったことがあります。

それはそれなんです、そんなことがありますので、これは一つの単なる私の思いというか、そういうことを言っただけなんです、次にまた具体的に伺ってまいります。

ことしの夏休みは、具体的に何かもう計画はあれでしょうか。立てられたというか、腹づもりといいますか、何かあるんでしょうか。

〔「日にちもですか」の声あり〕

○10番（山本 悟君） 日にちも含めて。

○議長（沓掛計三君） 沓掛教育長。

○教育長（沓掛英明君） 夏休みの延長というのが随分県からの話になっていますが、では実際、青木小中はどうするかということですが、青木小学校は、本年度は27日休みだったんですが、来年度は1日ふえて28日を予定しています。青木中学校は、今年度は25日の夏休みだったんですが、2日ふえて27日ということになっています。

大幅な延長は無理であったなということで、慎重に考えていきたいと。クーラーが入って対応ができたということ、それから来年度は5月の連休が10日と長いこと、そういう理由にもよると考えています。

日にちの延長だけではなくて、実は県教委も夏休みのあり方について検討してほしいという県教委としての考えがありまして、青木の場合は、長泉に教育委員会と一緒に連れて行ったり、大学生の川で遊ぼうという企画があったり、花まる学習会が来て一緒に遊んだりという、さまざまな企画がありますので、この充実をさらに考えていくことが大事かなというふうに考えているところであります。

以上です。

○議長（沓掛計三君） 山本議員。

○10番（山本 悟君） 次に、先ほどもちょっと申し上げたんですけれども、何か平日とか休みもそうなんですが、今までと変わった点というのは具体的に、こういう点が変わるよというふうな点は……

〔「練習」の声あり〕

○10番（山本 悟君） 練習とか、そういったようなことで、あとは指導員のこととか。

平日とか休み中の練習時間とか、そういうふうなことで。

○議長（沓掛計三君） 教育長。

○教育長（沓掛英明君） 部活動の練習ですね、それは先ほど山本議員が言われたように、長期休みは半分ほどの休みをとるように、活動は半分、そういう指針が出ていますので、青木中学校もその指針にのっとって活動することになると思います。

○議長（沓掛計三君） 山本議員。

○10番（山本 悟君） 直接スクールサポートスタッフというのは、当村はあれでしょうか。何か近い将来、そんな話はあるんでしょうか。

○議長（沓掛計三君） 沓掛教育長。

○教育長（沓掛英明君） 今、これも山本議員がお話しされたように、今年度は18学級以上ということで、来年度14学級以上ということになりますので、若干緩和されてはきていますが、今のところ、青木小中は該当に、しばらくはならないかなと考えています。

○議長（沓掛計三君） 山本議員。

○10番（山本 悟君） 部活動指導員のことについてもお聞きします。

○議長（沓掛計三君） 沓掛教育長。

○教育長（沓掛英明君） 部活動指導員は、いろんなところでお話しさせてもらっているんですが、本年度、剣道部で3名をお願いすることになりました。もう実際、研修を受けてもらって委嘱式を行って活動を進めていますので、青木村はここもちょっと一歩進められたかなと思っています。

さらに、サッカーの活動については、新しい部活動をつくるとは言えないんですけども、スポーツ少年団の延長として、今、指導者をしている小林さんに、今後も中学校3年生まで含めた指導をお願いできないかということで、今検討に入っているところであります。

○議長（沓掛計三君） 山本議員。

○10番（山本 悟君） 生徒にとってのスポーツの位置づけなんですが、スポーツ基本法では、世界共通でスポーツというのは人類の文化であり、人々が生涯にわたり心身ともに健康で文化的生活を営む不可欠なものと言える。心身の成長の過程にある中学、高校の生徒にとって、体力を向上させるとともに、他者を尊重し、他者と協働する精神、公正さと規律をとうとぶ態度が自立心を養い、実践的な思考力や判断力を育むなど、人格の形成に大きな影響を及ぼす、生涯にわたり健全な心と体を培い、豊かな人間性を育む基礎となるものであるというふうに定義づけされているんですが、この部活についての村長の思いがございましたらお聞かせいただきたいと思うんですが。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） 教育の問題は教育長に任せておりまして、私は総合教育会議のメンバーとして参画をさせていただいております。

子供たちは、いろいろなチャンスがたくさん得られる、いろいろな刺激を受けられる、そういう視点で、青木村の教育は今後引っ張ってってもらいたいなと、こんなふうに思っております。

○議長（沓掛計三君） 山本議員。

○10番（山本 悟君） 教育長、同じ問題でお願いします。

○議長（沓掛計三君） 沓掛教育長。

○教育長（沓掛英明君） 中学校へ行って参観させてもらった日に、たまたまその日が東信大会の激励会があった日で、教育長、挨拶してくれと突然言われて、そこでお話ししたのが、勝敗は必ずあるものだ。だけれども、そこで何を学んでくるかが大きいことだということをお話しさせてもらいました。

まさに部活動を通して、子供が何を学ぶかということが、実は人生を学んでほしいと願っているんですけども、そういうふうに思っております。勝利至上主義は教育ではないだろうなというふうに考えています。

○議長（沓掛計三君） 山本議員。

○10番（山本 悟君） ありがとうございます。

それでは、2問目に移らせていただきます。

水道法改正に伴う村の対応についてということでお尋ねをいたします。

この問題につきましては、午前中の小林和雄同僚議員の中で、すばらしい質問とお答えをいただきましたので、私のほうからは二、三だけお聞きしたいと、こう思います。

水道に対する私の思いというか、そのことに対して最初に申し上げたいんですが、水道というのは、私どもの感覚ですと、どこへ行っても蛇口をひねれば、いつでも安全でおいしい水が出る、時にはセンサーでひねらなくても出るというのが、今の日本の現状かなと、こんなふうに思います。

私は、子供のころは水道が自宅にありませんでした、50メートルぐらい離れた自宅の横からバケツというか、おけをてんびんに担いで、水がめとか風呂へえっちらえっちら運んだという記憶があります。

世の中で、ただのものといいますか、安価に手に入るものという中で、空気と水と時間と、私はこれは昔から思っていることなんですが、いや、空気も水もただじゃないよと、水なんか、ましてやオワンにかけて、ちゃんとそれなりの水しているじゃないかと。空気だって、ちゃんと人間がいろんな面で気を使ってやっている。今のPM2.5だとか花粉だとか、いろんな問題がありますけれども、ただ、もし無料だとしたら時間だけだよと、かもしれませんが、そんなことを思っております。

日本は世界で一番いい水、世界にも蛇口をひねって飲める水というのは七、八カ国ぐらいしかないと聞いています。「湯水のように」という言葉がありますけれども、これは日本人はぜいたくで、そういったすばらしい湯水を本当に使えるのだなと、こんなふうに思ってい

ます。

ライフラインの中で、電気、ガス、水道と考えた場合、水は1日もなければ生きていけませんけれども、電気、ガスは若干なくても何とか代替できるのかなど。水は本当になかったら、じきに死んでしまうかなど、このように思います。

その中で、小林議員とダブらないようにお尋ねをしてまいります。

本村の本管の総延長は、さっき6万3,000メートルと言いましたか、ちょっともう一度お願いします。

○議長（沓掛計三君） 花見建設農林課長。

○参事兼建設農林課長兼農業振興係長（花見陽一君） お答えいたします。

さきの質問でもございましたが、配水管につきましては6万3,271メートル、そのほかに導水管が1万6,705メートル、送水管が2万72メートルでございます。

○議長（沓掛計三君） 山本議員。

○10番（山本 悟君） 一番最初の導水管ですか、6万3,271メートルというのは、これが一番太いのですか。

○議長（沓掛計三君） 花見建設農林課長。

○参事兼建設農林課長兼農業振興係長（花見陽一君） 太いのは、恐らく導水管になります。

基本的に、例えば水源地、ダムなどがございしますが、そちらのほうから、まず配水地まで送る関係で導水管というものがございします。その導水管の大きいものがありまして、そこから今度、配水地に行きまして、配水地のます、ためますがありまして、そちらから送水管というものに行く仕組みで、送水管が……すみません、間違えました。

導水管が水源地から浄水場、市ノ沢浄水場とか、例えば滝沢浄水場ありますね。水源地から浄水場に行くのが導水管、それが太いものです。浄水場から各地区にあります配水地、大体40トンとかいろいろ数はかなりあるんですが、そちらに行くのが配水管で、配水地から各家庭に行くのが……、すみません。

ダムから浄水場が導水管、浄水場から配水地に行くのが送水管、配水池から各家庭に行くのが配水管ですので、だんだん小さくなって絞られます。申しわけございません。

○議長（沓掛計三君） 山本議員。

○10番（山本 悟君） この3つとも耐用年数は40年ですか。

それから、現在はこの3つとも耐用というか、どのぐらい経過しているのか、何%ぐらいが古い管で、もしわかったら、わかる範囲で。

○議長（沓掛計三君） 花見建設農林課長。

○参事兼建設農林課長兼農業振興係長（花見陽一君） 水道施設に関しまして、やはり昭和50年代から60年度が、主にいろいろ布設をしております。その関係以降でございますので、耐震的には、やはり20%程度が整備されているわけでございますが、老朽的には、かなり今後まだ順次出てくる予定でございます。

○議長（沓掛計三君） 山本議員。

○10番（山本 悟君） この水道法の改正の中では、民営化と広域化ということが一番のメインだと思うんですが、PFIの中でのコンセッションですか、そのことについても聞かれましたので聞きませんが、いずれにしても、将来的に民営化は今のところ県下でもないし、これからもないんじゃないかと思うんですが、広域化については村長、午前の答えでも将来的には、県下では何かあるんじゃないかというふうなニュアンスの言葉をされたんですが、またそれはそれで対応していただければと思います。

次に、料金のことを聞きます。

20立方メートル当たりの当村の料金は幾らでしょうか。

○議長（沓掛計三君） 花見建設農林課長。

○参事兼建設農林課長兼農業振興係長（花見陽一君） 一般住宅用でございますが、青木村におきましては、2カ月単位で徴収をしております。2カ月分ということで、20立方メートルまでで3,980円になってございます。

なお、1立方メートルを超えるごとに200円が加算されるという仕組みでございます。

○議長（沓掛計三君） 山本議員。

○10番（山本 悟君） 午前中の小林議員の質問でもあったかと思うんですが、全国的に見て一番高いのが北海道夕張市、同じく北海道由仁町が6,779円。それから、羅臼町が6,360円、北海道がみんな軒並み高いんですね。

安いほうなんです、赤穂浪士の赤穂市、あそこが853円、山梨の富士河口湖町が985円、当村と親戚の長泉町さんが1,120円だそうです。全国で3番目に安いそうです。長泉町さんは不交付団体だし、富士山の水は幾らでも豊富にあるし、いいところだなと思ったんですけども。すみません、雑談です。

その中で、当村は20ということは、県内ではどのくらいの位置にいますか。高いほう、安いほう、中くらい。

○議長（沓掛計三君） 花見建設農林課長。

○参事兼建設農林課長兼農業振興係長（花見陽一君） 正確な数字ではございませんが、以前に確認した上では、上位のほうにいる、位置しているかと思われま

○議長（沓掛計三君） 山本議員。

○10番（山本 悟君） 高いということは、上から3分の1ぐらいということですか。

○議長（沓掛計三君） 花見建設農林課長。

○参事兼建設農林課長兼農業振興係長（花見陽一君） そのとおりでございます。

○議長（沓掛計三君） 山本議員。

○10番（山本 悟君） もうぼちぼちやめますけれども、当村の水道技術者のことについてお尋ねいたします。

将来的には、団塊世代の方はおやめになったりして、今は若い人が育っていないというふうな中で、水道技術者が将来不足するだろうと言われていています。この中で、水は永久に必要なものなんです、当村の技術者について、どんな技術の資格が必要で、今、当村には、どのぐらい充足していてというふうなことをお聞きしたいと思います。

○議長（沓掛計三君） 花見建設農林課長。

○参事兼建設農林課長兼農業振興係長（花見陽一君） 簡易水道に当たりましては、施設管理者を法的に設置する義務がございます。現在、役場の職員の中でも3名、その資格を持ってございまして、3名資格は持っている者がおります。

今、現に水道担当者で資格を持っている者、現在2名が携わっている状況でございます。

○議長（沓掛計三君） 山本議員。

○10番（山本 悟君） では心配ないよと、こういうことだね。

○議長（沓掛計三君） 花見建設農林課長。

○参事兼建設農林課長兼農業振興係長（花見陽一君） 住民の皆さんに、安全、安心な水の供給ということで、水質的な問題、施設の管理につきましては、対応はさせていただいているところでございますが、いざ水道の事故などがあつた場合、管が漏れたとか、そういう現場における作業につきましては、村内の業者など、いろんなところを手配するようにしておりますので、細かなものにつきましては十分対応できるという状況でございます。

○議長（沓掛計三君） 山本議員。

○10番（山本 悟君） では、最後にしますが、村長、全国簡水の副会長でもありますし、青木村の水をこれから永遠にあれしていくんですが、何か村長、ひとつお言葉をいただきたいと思

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） 全国の情報、あるいは県、国の情報はたくさん入ってくるんですけども、青木村は恵まれているなというふうに思っております。

それは、数日前に軽井沢である食品加工をしているお客さんが来て、青木村の水を出しましたら、おいしいですね、甘いですねと、こう言っていました。何をしていますかと職員が聞いたら、今のようなお話で、やっぱり水については大変敏感な方々でございました。

それで、私の今の立場では、青木村の水道は25年後も50年後も、人々の生活の中に普通にある水道であってほしい、あるような運営をしていきたいということでございます。

○議長（沓掛計三君） 山本議員。

○10番（山本 悟君） どうもありがとうございました。以上で私の質問を終わります。

○議長（沓掛計三君） 山本悟議員の一般質問は終了しました。

ここで暫時休憩いたします。

2時40分から再開いたします。

休憩 午後 2時29分

再開 午後 2時40分

○議長（沓掛計三君） 休憩前に引き続き会議を再開します。

◇ 坂 井 弘 君

○議長（沓掛計三君） 2番、坂井弘議員の登壇を願います。

坂井議員。

〔2番 坂井 弘君 登壇〕

○2番（坂井 弘君） 議席番号2番、坂井弘でございます。

質問に入る前に、一昨日の本会議における村長挨拶にかかわって一言申し上げます。

挨拶の中で、村長は、「満州分村移民を拒否した村長」という本の紹介をされ、世の中の流れに身を任すことなく、自分の立ち位置をしっかりと確認しながら村政を担当していかなければ

ればならないと、みずからの政治姿勢を述べられました。大変感銘深い挨拶でした。

また、インフルエンザ予防接種補助事業を、来年度よりゼロから3歳児並びに中学3年生に拡大する方針を示されました。この件に関しましては、私からも昨年12月議会の一般質問で要望してきた事柄であり、大いに歓迎し、感謝申し上げます。詳細な質問、さらなる拡大の要望につきましては、後日の委員会審議で申し述べるものとします。

それでは質問に入ります。3点にわたって質問いたします。

1点目、観光資源を活用した村の活性化に向けて質問いたします。

さきの午前中に、宮下議員、松澤議員の質問と重複する部分ございますので、あらかじめ御了承いただきたいと思います。

青木村には、文化財として国宝が1件あるほか、県宝が3件あります。環境省指定の国民保養温泉地である田沢温泉、沓掛温泉は歴史ある温泉地として知られ、田沢温泉にある老舗旅館の一つは、建物が国登録有形文化財に指定されています。自然資源として夫神岳、子檀嶺岳、十観山は村のランドマークになっており、各山頂には散策コースが整備されています。また、山間部には、キャンプ場など自然と親しめるレクリエーションの施設が複数あります。青木村第5次長期振興計画後期基本計画の地域資源のページには、このようにうたわれ、田沢温泉、沓掛温泉を初めとした青木村の16の観光地が列挙されています。

このように、豊かな資源を有する青木村ですが、こうした観光資源が村の活性化、ひいては村民生活の向上、発展のために十分に活用されているのか検証してみたいと思います。

まず、実態についてお聞きをいたします。

田沢温泉、沓掛温泉の利用者数、また入湯税はどのように推移しているのでしょうか。この間の決算書、予算書並びにその附属資料を見ますと、入湯税は200万円前後で推移しており、年々減少傾向にあるように見受けられます。

両温泉のピーク時の入湯税、利用者数はどれほどだったのでしょうか。また、本年、今現在の入湯税利用者はいかがでしょうか。前年同期と比較する形で報告をお願いします。あわせて、両温泉の入湯税、利用者数の推移をどのように分析されているか、お聞かせください。お願いします。

○議長（沓掛計三君） 多田税務会計課長。

○会計管理者兼税務会計課長（多田治由君） それでは、入湯税の状況についての御質問でございますが、ピークがいつかにつきましては、明確な資料が残っておりませんのでわかりませんが、手持ちの資料の中で一番古いほうで、昭和60年の数字がありますが、現在の

約3.7倍に当たります685万600円という収入がございました。その金額から、利用者数につきましても5万人を超える利用者の方があったというふうに推定をされるところでございます。

本年度につきましては、2月末までに報告をいただいている集計でございますが、泊まりの方が9,921人、日帰りが1,757人、合計で1万1,678人、金額で157万6,000円の収入となっております。

各旅館さんからの申告を受けての集計でありまして、前年同時期での集計というのが、比較が若干難しいところがありますので、推移の状況も踏まえ、年度別に過去5年ほどの数字を申し上げたいと思いますが、29年度につきましては1万4,111人で、入湯税が185万2,750円。平成28年が1万5,760人で、206万3,500円。平成27年が1万3,109人、金額で161万3,250円。平成26年ですが、1万4,069人で、177万5,950円。平成25年が1万5,588人で、190万8,000円、そんな実績になってございます。

過去5年ほどで比較いたしますと、平成28年には、ふるさと納税の返礼品としまして宿泊の助成券を使用したこと、それから大河ドラマの影響等がございまして一時的に増加しておりますけれども、ほかを見ますと、毎年1割近く減少が続いているという状況であります。傾向としましては、また宿泊の利用が若干増加してきて、日帰りのほうが減っているという状況がございまして。

推移についての分析につきましては、利用者が減少している中、沓掛温泉の旧かどや旅館さん、それから叶屋旅館さんが経営者が今度変わりました経営を再開するというようなお話も聞いてはございますけれども、これまで続いている減少傾向に歯どめをかけるほどの影響は見込めないのかなという中で、今後も減少傾向が続いていくのではないかとというふうに推測するのが妥当かと思われまして。

○議長（沓掛計三君） 坂井議員。

○2番（坂井 弘君） 詳しい数字を挙げていただき、調べていただきありがとうございます。減少傾向が続いているということで確認をしていきたいと思っております。

さて、入湯税は目的税であり、使途が決められているかと思っておりますけれども、我が村ではどんなことにどれくらい配分され、活用されているのか教えてください。

○議長（沓掛計三君） 多田税務会計課長。

○会計管理者兼税務会計課長（多田治由君） 議員がおっしゃられましたとおり、入湯税につきましては目的税ということでございまして、環境衛生施設、鉱泉源の保護、管理施設及び

消防施設、その他消防活動に必要な施設の整備並びに観光の振興及び観光施設の整備に要する費用に充てることを目的とするとされています。

当村におきましても、主には観光のパンフレットやポスター等の作成、それから雑誌や各種メディアでの広告宣伝費、それから消防施設の整備等の財源として充当されているところでもあります。

○議長（沓掛計三君） 坂井議員。

○2番（坂井 弘君） 続いて、文化財並びに文化施設の見学者数の動向はいかがでしょうか。国宝大法寺三重塔の拝観者の数字がつかめていましたら、ピーク時並びに現在までの推移を教えてください。

また、上田市にある国宝安楽寺三重塔についても同様の数字が得られておりましたら教えてください。

○議長（沓掛計三君） 沓掛教育長。

○教育長（沓掛英明君） 大法寺についてであります。1月から12月という区切りで平成28年が1万3,350人です。平成29年は1万2,639人、平成30年が1万1,739人ということになります。

安楽寺については、上田市観光協会、別所観光協会に問い合わせしたんですが、数字をつかんでおらないということで、わかりませんでした。

○議長（沓掛計三君） 坂井議員。

○2番（坂井 弘君） 大法寺のピーク時はどれくらいかということはおわかりでしょうか。

○議長（沓掛計三君） 沓掛教育長。

○教育長（沓掛英明君） この数字は、大法寺の住職さんから聞き取った数字なんですが、住職さんは、やはり大河ドラマの影響で平成28年が多かったというふうな話をしていました。

ちなみに、平成26年、27年は屋根のふきかえのために見学者は少ないという、そういう特別の年でもありました。

○議長（沓掛計三君） 坂井議員。

○2番（坂井 弘君） それでは、村の文化施設である歴史文化資料館、民俗資料館並びに郷土美術館、昆虫資料館の入場者数はどうでしょうか。決算書等によれば、歴史文化資料館、民俗資料館については増加傾向、美術館については、やや減少傾向、昆虫資料館は横ばいのような数字が決算書等では報告されておりますけれども、本年はどうだったのでしょうか。やはり昨年同期と比較してお願いしたいということ、ピーク時と比較するとどうかということ、

そしてその推移の要因、分析をお話してください。

○議長（沓掛計三君） 沓掛教育長。

○教育長（沓掛英明君） 歴史文化資料館ではありますが、これは4月から2月までの期間で統一しております。平成28年が388人、平成29年が474人、平成30年が227人、過去最大はオープンの年の平成22年の772人であります。

民俗資料館は、平成28年535人、平成29年587人、平成30年217人、これも過去最大はオープンの年の平成25年の1,236人、オープンの年が多いかなということになっています。両館とも、オープンの初めて開いたときにいっぱい人が来ると。

それで、さらに、ここ3年間の推移を見ると、「真田丸」が放送されていた年の次の年がふえているという考察が、私どもで考えたところではあります。

郷土美術館ではありますが、平成28年2,693人、平成29年1,986人、平成30年2,086人です。過去最大は、やっぱりオープンの年、平成3年の1万83人ということで、ここを考察しますと、郷土美術館は、その年の企画展の内容によるところが大きいかなというふうに考えています。郷土美術館の集計月は、ことしについては4月から1月までの数字になっております。

以上です。

○議長（沓掛計三君） 新津商工観光移住課長。

○商工観光移住課長（新津俊二君） 昆虫資料館の入場者数につきましては、商工観光移住課からお答えいたします。

商工で把握しています昆虫資料館は、オープンになりました2016年度、平成28年度は2,292人、平成29年度は2,266人、それから本年度、30年度は2,009人という実績でございました。

村営になりまして最初の2年間は、オープンのときの企画、それから2年目は鳩山邦夫展という企画がありまして、ゼフィルス展といった標本の珍しい企画が続いたということで、入場者が横ばいで多くいましたけれども、本年度が通常の展示が多かったということで若干減り、通常ベースになったのかなというような分析でおります。

○議長（沓掛計三君） 坂井議員。

○2番（坂井 弘君） お答えいただいた数字、ありがとうございました。

若干、歴史文化資料館、民俗資料館、郷土美術館については、2017年度の数字が決算書等よりも少ない数字になっておりますが、2016年度は同数の数字でしたけれども、その辺は

また後ほどお願いしたいと、1月で切ったための数字なのかなということですかね。わかりました。了解です。

では、続いてですけれども、最後に田舎暮らし体験住宅の利用者数、利用例についてお聞きをしたいと思います。

2017年度、細谷7組20人、青木16組44人となっています。本年度はどうだったのか、お聞かせください。

○議長（沓掛計三君） 新津商工観光移住課長。

○商工観光移住課長（新津俊二君） 田舎暮らし体験住宅の利用者数でございますが、今年度、現在までですが、合計20組になっております。

内訳が細谷に古民家がありますけれども、古民家のほうが3組、それから役場のすぐそばのコンパクト住宅と呼んでいるほうが17組でございます。

○議長（沓掛計三君） 坂井議員。

○2番（坂井 弘君） 一昨年とほぼ同様の数字ということでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

○2番（坂井 弘君） その利用例ですけれども、どのような利用をされているのか。また、体験住宅を利用した方が移住に結びついた、そのような事例がありましたら報告をお願いします。

○議長（沓掛計三君） 新津商工観光移住課長。

○商工観光移住課長（新津俊二君） お答えいたします。

利用例ですが、いずれも御家族で1泊の方が、週末に来られて1泊経験されている方が多いです。多い方ですと、ほぼ1週間、4泊ぐらいをなさるといの方もいらっしゃいます。いずれも宿泊をして、ごみ出しをしてみて、あと役場の移住の担当の職員に、役場まで来まして、村の暮らしについて質問をされて帰るとい方も多いです。

それから、地域おこし協力隊の事業で、緑のふるさと協力隊というイベントをやりましたけれども、その参加者も体験住宅で泊まりまして、移住を考えながら泊まっていたということもございます。

それから、実際に移住につながった人数ですけれども、今までの合計3カ年で14組という方になります……、すみません、14人になります。失礼しました。

○議長（沓掛計三君） 坂井議員。

○2番（坂井 弘君） 14人、家族数はどれくらいですか。

○議長（沓掛計三君） 新津商工観光移住課長。

○商工観光移住課長（新津俊二君） 移住につながりました組数ですが、細谷の住宅で3組、3家族です。それから、コンパクト住宅のほうは、いまだ例がありません。

○議長（沓掛計三君） 坂井議員。

○2番（坂井 弘君） いずれにしましても、3組14名が移住されたということで、成果が上がっているんだろうというふうに思いますが、この田舎暮らし体験住宅、宿泊申し込みには申請書を提出ということになっているかと思いますが、それ以外に利用者の義務的な負担、条件というような、そんなものはございますでしょうか。

○議長（沓掛計三君） 新津商工観光移住課長。

○商工観光移住課長（新津俊二君） お答えいたします。

義務的といいますか、協力をお願いしているのですが、空き家バンクへの登録、空き家バンクの利用をしていただくという利用者情報登録というのがございますが、その登録をお願いしています。つまり、観光目的の利用ではなくて、真剣に移住を考えていただく方だけに利用していただきたいということで、その登録のお願いをしております。

○議長（沓掛計三君） 坂井議員。

○2番（坂井 弘君） 幾つか村の観光資源の実情についてお聞きしてまいりましたけれども、総合的に見て減少傾向にある、そういった観光事業、活性化という観点から分析、考察をお願いいたします。

○議長（沓掛計三君） 新津商工観光移住課長。

○商工観光移住課長（新津俊二君） 総合的に観光事業の活性化という観点からの実情の分析ということでございますが、担当課長をしております、いろいろな事例に携わっておりますと、やはり青木村は首都圏から比較的近い場所にありながらも、豊かな景観に恵まれた田舎らしい暮らしができる村ということで、国宝の大法寺三重塔といったものを初め、多くの文化財、それから田沢、沓掛両温泉ですとか、小さくともきらりと光る観光資源に恵まれている村だと思っております。

それから、人的にも私が今までかかわってきました村民の皆様は、非常に魅力のある、それから大変面倒見のいい方が多くて、積極的に村づくりに参画されるエネルギッシュな人材が豊富だと思っております。

こうした観光資源と豊かな、エネルギッシュな人材がうまくつながって、多くの観光客、それから移住も考えた関係人口の皆さんの青木村を訪れてくれる方の数をふやしていくとい

うことが、今後も大事なかなというふうに思っております。

○議長（沓掛計三君） 坂井議員。

○2番（坂井 弘君） 観光客が、それぞれ入り込みが減少傾向にある先ほどのお話でしたけれども、そういったことに関してはどのようにお考えでしょうか。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） その前に、入湯税のお話の中で最大が昭和60年、685万人とお話ししましたけれども、坂井議員も御案内のとおり、このときはJAのアスティ青木があったわけですね。ここで断トツに違っておりますので、この数字をもとに減少と言われると、少しつらいところがございます。

それから、なお入湯税をどういうふうに使っているかという話なんですけれども、一番は旅館組合があります。その組合の補助の原資にも、これは充てておりますことを御理解いただければというふうに思います。

減少傾向をどうするかでありますけれども、当然のことながら、昨年のマツタケの時期にあれだけの人に来て、マツタケだけではなくて、関連する道の駅にあるものがたくさん売れました。当然のことなんですけれども、そういうことを見ますと、たくさんの人にまず来てもらうことが大事だなと、こういうふうに思います。

トンネルが抜ければという期待はありますけれども、まだ数年かかりますので、1つは五島慶太記念館をつくりたいというのも、館をつくって子供たちにというのもありますけれども、東京急行電鉄で5万5,000人、大学で1万4,000人、約6万9,000人の直接従業員、社員、学生、生徒がおられるということでもありますので、そういう人たちも青木に来ていただくチャンスをつくるという意味でも、意義があるかなというふうに思います。

いろいろ今、担当課長が申しあげましたように、すばらしい青木村の魅力を、どうやって付加価値を高めていくか、新たに大きなお金をかけるという、村民税を使うということではなくて、工夫をしていきたいと思っております。

○議長（沓掛計三君） 坂井議員。

○2番（坂井 弘君） ただいま村長のほうから、五島慶太翁の記念館等についての取り組みを進めていくというお話がございましたけれども、こうした中で観光資源のさらなる活用に向けて、村としてはこれまでどのような取り組みをし、そしてまた、今後どのような取り組みをすることで、より活性化を目指していくのか。五島慶太翁のことも一つの例かと思えますけれども、そのほか取り組んでいること、これから取り組んでいきたいこと、その辺をお

話しいただけたらと思います。

○議長（沓掛計三君） 新津商工観光移住課長。

○商工観光移住課長（新津俊二君） お答えいたします。

村といたしまして、今までも、それからこれからもなんですけれども、取り組んでいることですが、まず広域で取り組んでいるもの、それから村単独で取り組んでいるものとございます。

広域圏ですとか上小地域、それから鉄道の沿線の市町村といったようなまとまりの単位でやっているものがございますが、今までもJR上田駅ですとか長野駅での誘客キャンペーン、デスティネーションキャンペーンがありましたけども、そのアフターデスティネーションキャンペーンといった取り組み、それから、広域で連携してパンフレットもつくりまして、宿泊客向けのものですとか、あとは県外、主に首都圏の人向けのパンフレットなどをつくったりしております。

それから、県の東京事務所のメールマガジンですとか、東京の記者クラブへの情報提供といったようなものを続けております。

それから、上田構内の観光案内所は、上田駅の観光案内所の運営委員会という9つの市町村でやっています、継続して上田駅の中で、9つの市町村で観光案内をして、青木村のほうへも誘客を図っていくということも続けていきたいと思っております。

それから、村の単独の事業でございますけれども、パンフレット作成などに加えて、友好姉妹都市であります長泉町、それから友好の関係にあります埼玉県久喜市、菖蒲町ですとか三好町、それから東京の戸越銀座などに出かけて、物産販売やPRなどをやってきました。今後もこちらは継続しまして、首都圏から目を向けていただきたいと思っております。

それから、特産のタチアカネですね、タチアカネそばを前面に押し出した観光PRというものも続けておまして、9月半ばには、そばの花見祭り、それから産業祭の新そば祭り、本年度には初めて信州ブランドアワードというところへもタチアカネの登録を出しまして、つい先日、銀座NAGANOへ出かけて行って立ち上がりは大々的にPRをしてきたところがございます。

村長からもお話のありました五島慶太翁の顕彰事業ですとか、元気づくり支援金を使った交流人口の拡大ツアー、体験事業のツアーも新たに実施をしておりますので、いろいろ新しい取り組みも加えて、ますます青木村に関心を持ってもらえるように取り組んでまいり

たいと思っております。

○議長（沓掛計三君） 坂井議員。

○2番（坂井 弘君） 観光資源を活用した村の活性化に向けて、さまざまな取り組みをしてきていただいておりますことに、まずもって敬意を表したいと思います。そうした数々の御努力をいただきながらも、さらに活性化を図るためにできることはないのか、知恵を絞り、村民の声を聞きながら考えてまいったところでございます。

ただいまの商工観光移住課長のような幅広い、いろんな活動というかアイデアがあるわけではございませんが、私なりに考えてみたところを申し述べたいと思います。少々長くなりますけれども、お聞きいただければと思います。後ほど、こうした提案に対する村の考え方をお聞きできればというふうに思っております。

旅行に出かけようとするとき、最近はインターネットを介して宿を探すことが普通になってまいりました。その際、参考になるのは宿の口コミ情報です。田沢、沓掛両温泉の口コミの評価はどうでしょうか。

旅行専門のネット業者の情報を検索してみました。60代女性の方ですが、期待どおり、静かに温泉かけ流しのお湯を満喫することができた宿でした。早目の到着にも対応していただき、ありがとうございました。食事も次々とおいしい料理が出て食べ切れないほどでした。まったりと過ごすには、とてもよい青木村の温泉宿です。そのほか幾つかあるわけですが、どの旅館の数値評価も5点満点中の4点台、隣の別所温泉と比べても見劣りする数字ではありません。各温泉旅館の経営努力に負うところが大きいと思います。

しかしながら、口コミ数、数を見ると、別所温泉に比べ圧倒的に少ないことがわかります。別所温泉の名の知れた宿の口コミ数は400から700件に上っているのに対し、田沢・沓掛温泉は口コミ数は、最も多い宿で200件です。宿泊者数が圧倒的に少ないことを物語っているように思います。

先ほど田沢・沓掛温泉の入湯税利用者数の推移をただしましたが、本年度は2月現在1万1,000人というお話でした。各旅館の経営努力に頼るだけでは、この数字を飛躍的に伸ばし活性化することは困難ではないでしょうか。青木村の観光を、そうした点に依拠するだけでなく、線や面に変えていくことが必要なのではないのでしょうか。

そこで提案したいのは、青木村の観光地モデルコースづくりです。青木村の観光パンフレットの中に、100の会発行の景観マップというパンフレット、この中には方面別の4つのモデルコースが掲載されています。こうしたモデルコースをニーズに応じた形でつくってみて

はいかがでしょうか。

先日、議会と語る会がございました。その折、一人の方からこんな御提案をいただきました。登山客が多くなったが、みんな山の登り口まで車で行って、そこに車を置いて頂上まで同じコースを往復している。子檀嶺岳に登る際など、車を道の駅に置いて村松から登って当郷におりてくる、そういう周回コースを案内したらどうか。妙案だと思います。

加えて、温泉で一風呂浴びる。できれば1泊して、翌日は夫神岳か十観山に登る。そんなモデルコースを提案してみてもいかがでしょうか。

また、文化財に興味のある方には、別所温泉の安楽寺、八角三重塔とともに大法寺三重塔をセットで見学していただき、鎌倉時代の唐様と和様の三重塔の違いを案内する。温泉で1泊し、翌日も村内にある文化財を見学いただく。

モデルコースには、村内への交通手段として、新幹線に接続するバスの運行時刻を組み入れる、あるいはレンタカーをセットして配置する、道の駅にレンタサイクルを用意する、タクシー会社と提携してモデルコースめぐりの格安料金を設定してもらおう。そんなことも提案してみてもどうでしょうか。

さらに、観光地めぐりのセット割引券を発行するのも効果的かと思います。大法寺三重塔と郷土美術館のセット、あるいは大法寺と安楽寺、各温泉旅館と資料館、美術館など幾つもの組み合わせが考えられます。

田舎暮らし体験住宅を利用された方に対しては、村内の複数の観光資源に立ち寄ってもらうことを条件の一つに義務づけてみてはどうでしょうか。ニーズごとのモデルコースを整備し、インターネットやパンフレット、首都圏での誘客イベントでPRする。また、旅行業者と提携して、宿泊付きのモデルコースをセットで販売してもらおうような企画を考えてもらうことも有効です。

青木村のホームページを開くと、青木村観光協会のページにアクセスできます。ところが、そのページには5年以上更新されていないページが掲載されたままになっています。お隣の長和町観光協会のページを開くと、モデルコースが幾つも掲載されています。

先月21日、上田市柳町がバスツアーの観光客600人でにぎわったことが報道されました。旅行会社と信州上田観光協会が中心になって取り組んだ結果です。青木村でも知恵を結集し、観光資源のネットワーク化を進め、青木村の観光事業を活性化することができないでしょうか、お考えをお聞かせください。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） この前の善光寺の御開帳のときに、高遠の桜を見て善光寺へお参りして、高田の桜を見る。こういうパンフレットを長野の皆さん、関係する皆さんがつくったんですね。それを見たとき、やっぱり目からうろこでしたね。観光ってこういうものなのだなと、観光客の心理からすると、青木村だけで来るというのではなくて、今おっしゃいましたように、行政界を歩く方はないわけですよ。今おっしゃいましたように、大変それぞれ傾聴に値するすばらしいアイデアだと思います。

私も来る季節だとか来るメンバーだとか、車で来るのか新幹線で来るのか、そういったところで、花を興味とするのか、写真なのか、温泉めぐりをするのか、食べ物なのか、いろいろ組み合わせを考えてやって、100の会の前の協会のときに、そういうようなことを提案して、今お話にありましたパンフレットをつくった経緯があります。

実は、別所の観光タクシーの皆さんが、皆さんというか会社が、今言ったような部分で、例えば別所温泉のお寺とか青木村のお寺とか、あるいは婚活の神社、恋渡神社とか、こういうパンフレットを既に出して実際やっているところもあるわけです。そういうようなことを実は私も頭の中では考えておまして、できるところからやっていきたいなというふうに思います。

それで、観光全体で言うと、私は、今もともといる村民の人、それからIターンした村民の人に、やはりもっともっと青木村を知ってもらうことが、今言ったようなことにつながっていくかなと、いわゆる友達を呼んだりしてくれるわけですから、そんなことも考えております。

大変貴重な御提言をいただきましたので、今後、業務の中に生かしてまいりたいと思っております。

○議長（沓掛計三君） 坂井議員。

○2番（坂井 弘君） 2つ目の提案をさせていただきます。

人材養成、人材活用ということです。

一昨年11月、埼玉県から北村村長を慕って大型バス2台で義民の里青木村を訪ねるバスツアー一行が来村されたことがございました。大法寺三重塔と栗林一石路の「シャツ雑草にぶっかけておく」の句碑、歴史文化資料館、民俗資料館を見学し、新装したばかりの道の駅でタチアカネそばに舌鼓を打って帰られました。

一行が特に感動したのは、歴史文化資料館での説明です。義民の心意気が満蒙開拓団を1人も送り出さなかった村、平成の大合併で、かたくなに自立を選択した村に引き継がれてい

ることがよくわかったと好評でした。

ところが、この説明をできる方が、残念ながら現在いらっしゃらなくなっています。村の文化や歴史について、しっかり語れる人が育っていないように思われます。早急に後継者を育てる必要があるのではないのでしょうか。できれば常駐にして、図書館職員と兼務してもらうことが理想的です。

さらに、先ほど述べた村の観光資源めぐりのモデルコースづくりとともに、案内をする観光ボランティアガイドを養成してはどうでしょうか。上田市柳町の取り組みでも観光ガイドが活躍しています。柳町観光振興会では、ガイドをつけたことで評判になり、観光客数が変わることが実証できたとコメントしています。

また、村の中には、その道に秀でた方がたくさんいらっしゃいます。道の駅では、そば打ちやおやきづくり体験なども取り入れられているようですが、そうした郷土食づくり体験、そのほかにも人材活用ができる場面は、幾つもセットできるのではないのでしょうか。

義民太鼓に触れるイベントを企画する、あるいは、いささか手前みそで恐縮ですが、夫神山に登山する前に1泊した旅館で、夫神山のほころの向きをどちらにするか、馬と牛で争った民話の語りを聞く、そんな催しとセットすることもおもしろいと思います。

こうした人材を育成したり活用したりすることで、観光事業の活性化を図る、そのコーディネートを青木村観光協会、商工観光移住課が担っていただきたいと思うのですが、いかがでしょうか。この点についてもお考えをお聞かせください。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） 松本城へ行くと、無料の観光ガイドですとかが来てくれます。寄ってくるというとおかしいですけども。それから、金沢へ行ったら無償のガイドさんでしたね。私の知っているのは、川越もそうですけれども、これは有料ですけども、1年間ぐらいの学習をして、一定のその技量といえましょうか、知識のある方がやっていくというふうに伺ってまいりました。青木村でも、こういった今おっしゃいましたようなことは、たくさんツールとしてはあるわけなので、こういうことをやっていきたいと。

それからまた、お年寄りの皆さんといえましょうか、一定の年齢になった方には、もう一方、失礼な言い方かもしれませんが、生きがい対策としても、そういうことにもつなげていただければなというふうに思います。

今までいました図書館、歴史資料館におられた方が体調を崩してしまいましたので、この後継者は、またつくっていかねばならないと思いますが、なかなか、あしたからという

というものではなくて、少し時間が必要かというふうに思っております。

また五島慶太翁の記念館も、これからいろいろ相談していくんですけども、図書館の付近がいいのかなというふうに思っておりますので、それとあわせて学芸員的な人を育てていくということが、まず第一に必要なかというふうに思っております。

それから、歴史の好きな人、いわゆる広報紙の最終のページに沓掛貞人さんにやっていただきまして、また今は違う人にやっていただいているんですけども、あそこは大変好評でして、好評だということは、ああいうことに興味を持ってくださる方が、まあまあいらっしゃるんだなというふうに思います。そうした人たちの出番も、またつくっていくようなことも考えていきたいというふうに思っております。

○議長（沓掛計三君） 坂井議員。

○2番（坂井 弘君） 道の駅も整備されて、村の観光事業に本格的に着手すべき時期かと思えます。村民の声をお聞きしながら、知恵を絞り本腰を入れた観光事業の取り組みで、村の活性化を図っていただければと思います。よろしく願いいたします。

それでは、続いて2点目、農業とりわけ果樹園の再生を目指してということで質問をいたします。

この点についても、やはり午前中に宮下議員、松澤議員から質問がございました。重複する部分については、お許しをいただきたいと思えます。

青木村の基幹産業であります農業ですが、農業従事者の高齢化に伴う農業人口の減少、遊休荒廃地に対する対応が喫緊の課題となっています。

農林水産省による5年ごとの調査、農林業センサスなどの資料によれば、三十数年前、1985年には水田の作付面積だとか果樹園、そして農家戸数、そういったものと現在とを比べますと、いずれも半減をしております。8年前の2010年度と比べても、農家戸数は608戸から67戸減少しております。

村では、こうした状況について、つかんでいるとは思いますが、青木村の農業経営、農業生産の実情並びに分析、見解をお聞かせいただければと思います。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） 青木村は中山間地にあるわけですし、こういった立地とか自然条件を生かして、小さいながらもおいしいという評判のリンゴとか花卉とか、そういうものをたくさん出していただいております。特に花卉につきましては、全国の市場をハケンするような方もいらっしゃるわけでありまして。

青木村が唯一の生産地として、特産のそば、タチアカネですね、それからズッキーニ、ケール、高品質の野菜を生産される方もおられますし、それから山の幸としてマツタケ、山菜、うど等々の季節の山の幸が豊富な産地であると、こういったことを道の駅等で活用しているというふうに思っております。

それから、基幹産業であるというふうに農業については前々から申し上げているとおりでありますけれども、特にお米につきましては、ブロックローテーションの国の基本的な考え方が変わる中で堅持していただいております。大きな農家、あるいは機械化組合、こういった方々の協力があって、これができることであるわけでありまして。

それから、お米については相当自信を持っていいなと思うのは、私の友人たちは、南魚沼のはぎ掛け米と同じような味だというふうに言っていたいておりますので、ふるさと納税でこれを今までも活用させていただいておりますので、こういったことで青木村の基幹産業につきましては、さらに発展するように取り組んでまいりたいと考えております。

○議長（沓掛計三君） 坂井議員。

○2番（坂井 弘君） そうした数々の取り組み、それから成果を上げていただいていることに敬意を表しますとともに、青木村の農業人口の減少に歯どめをかけること、そうすることで、再び農業を活性化させる。そのためには、新規就農者を拡大することが不可欠ではないかと思っております。

若者だけでなく、定年退職し、一定の時間的余裕が生まれ、第二の人生を歩もうとしている皆さんの力に期待するところも大きいと思っております。そうした新規就農者や定年退職就農者に対して、村はどのような就農支援を行っているのか、教えていただきたいと思っております。

○議長（沓掛計三君） 花見建設農林課長。

○参事兼建設農林課長兼農業振興係長（花見陽一君） 新規就農者は、青木村にとりましても、担い手ということで大変大切なものと考えております。

村独自ということでございますが、新規就農者に限らず全般的に農業者、就農者に向けてということでございますが、村単独での苗木の補助、ビニールハウスの補助等を行っております。

また、国の事業等でもございますが、農業次世代人材投資事業という事業もございまして、青年の就農者に対しましての経営の安定を図るための支援を行っております。また、特に、新規就農者につきましては、やはり農地の確保が大事でございますので、農業委員さんを交えまして農地確保のマッチングなども随時行っております。

また、青木村農業支援センターでは、随時いろいろな機械などを導入し、レンタルをしているわけですが、これにつきましても、今後やはり機械の省力化といえますか、機械のいろいろな面につきましても、今後少しいろいろ検討していきたいというふうを考えてございます。

また、住宅につきましては、空き家バンク等がございますので、いろんな面につきましても、他の課と連携しながら進めさせていただきたいと思っております。

また、来年度、31年度からでございますが、新規就農者の支援体制整備事業を計画しております。上田市、長柄町、JA信州うえだとも連携し、新規就農者の育成、確保を進めるといふ事業でございますが、積極的にかかわっていきたいと考えております。

以上です。

○議長（沓掛計三君） 坂井議員。

○2番（坂井 弘君） 個別具体にお伺いをいたします。

ただいま御説明いただきました国の事業による農業次世代人材投資事業についてですが、2012年度から青年就農給付事業として始まり、2017年度から名前を変えて継続されている事業だと思いますけれども、これまで7年間におけるこの事業の村内の活用状況、また成果を教えてください。

○議長（沓掛計三君） 花見建設農林課長。

○参事兼建設農林課長兼農業振興係長（花見陽一君） 現在、経営開始型を現在4名の方が実施しておりまして、平成27年度から30年度までで、毎年1名ずつ増加してきているという状況でございます。

○議長（沓掛計三君） 坂井議員。

○2番（坂井 弘君） その具体的な取り組みといえますか、そういったものの例がありましたら教えてもらえればと思います。

○議長（沓掛計三君） 花見建設農林課長。

○参事兼建設農林課長兼農業振興係長（花見陽一君） この農業次世代人材投資事業につきましては、事前に準備型もあるわけですが、準備型は研修に係る交付制度などで交付主体は県となっております。

その後、主に準備型の受給者が研修期間の中で就農地を探し、その中で青木村で就農された方が当村から認定を受け、経営開始型を受給する仕組みとなっております。青木村のほうでも農業支援センターの企画委員さんが、いろいろその間に入って、いろいろかかわっ

ておりますが、現在紹介者の2名の方がいろいろそういう収支型をすとかということもございませう。

今、村のほうでは、ブドウの果樹の関係で2名、花卉が1名、野菜が1名という状況でございませう。

○議長（沓掛計三君） 坂井議員。

○2番（坂井 弘君） 先ほど4名が開始型というお話をされましたけれども、これは全部7年間で4名というふうな理解でいいですか。年度ごとに、決算書等では2人、3人というふうな数字が見られますが、それはトータルで年は減ってきているということで、4人ということでもいいでしょうか。

○議長（沓掛計三君） 花見建設農林課長。

○参事兼建設農林課長兼農業振興係長（花見陽一君） 毎年1名がふえてきておりまして、現在4名ということになります。

○議長（沓掛計三君） 坂井議員。

○2番（坂井 弘君） この経営開始型の資金交付を受けるには、就農計画が認定され認定新規就農者となる必要があるかと思うんですけれども、ただ自然農法をするなどして採算見通しが立たないというか、十分でない。そういった場合、就農計画認定されずに認定新規就農者になることができないケースもあるのでしょうか。

この経営開始型の資金交付を受ける上で、障害となっていることはどんなことなのか。また、これに参画を希望しながら計画が認定されず諦めざるを得なかった、そうした方はいるのでしょうか。その理由等についても、もしいたら教えてください。

○議長（沓掛計三君） 花見建設農林課長。

○参事兼建設農林課長兼農業振興係長（花見陽一君） 障害といいますか、やはり受給に関しましては、国の事業をもとに行っているわけですが、受給までの手続は、やはり簡単ではございませう。

新規就農者にとっては、大変大きなものということでございませうが、それに伴いまして、計画的に5年後の就農計画をしっかりと立てた上で実施していくというのが基本でございませうので、それは農業を始めるに当たりまして、農業を自分の生活の糧とするという、しっかりしたものの意思をまず出発点と考えまして、それから順番に、いろんな要素が加わってくるところでございませうので、審査はかなり厳しいものだということふうに認識しております。

事前に今まで相談があった流れということではございませうが、事前にやはりいろいろ普及セ

ンターとか、また市町村もそうですが、事前の相談がある中で、いろんなこういう事業があるよということで相談させていただいて、かなり煮詰めてきた中で、そちらの事業に導入するように導いておりますので、初めに、その人の農業に対する考え方、また経営的なお話を事前の相談の中で、無理なものはそこで無理と、やはり本人のために明確にしてあげたほうがいいこともございますので、それは窓口でしっかりと対応させていただいております。

○議長（沓掛計三君） 坂井議員。

○2番（坂井 弘君） 続いて、先ほどの花見課長の御答弁には入っておりませんでしたけれども、県の事業かと思いますが、新規就農里親制度というような制度もあるかというふうに存じ上げておりますけれども、この制度については、青木村では現在、花卉農家1名、野菜農家2名の3名が登録されているというふうにつかんでおりますけれども、その実績、実情をお聞かせいただければと思います。

○議長（沓掛計三君） 花見建設農林課長。

○参事兼建設農林課長兼農業振興係長（花見陽一君） 現在3名の方が里親になってございます。途中でいろいろ樹種、果樹というか、里親としての営農の関係の変更がございまして、現在花卉が2名、野菜が1名で登録になってございます。

それで、いろいろ里親制度は、積極的に進めさせていただいているところでございまして、この春にはもう1件、果樹の関係で里親になっていただける方がいらっしゃる予定で、今いろいろ申請をしているところでございます。

以上です。

○議長（沓掛計三君） 坂井議員。

○2番（坂井 弘君） 果樹がなかったことがちょっと心配していたんですけども、そういう取り組みをいただいているということで、安心をいたしました。

この制度、里親は今3件、来春から4件ということですが、これを活用して実際に研修しているとか、そういう方はいらっしゃるでしょうか。

○議長（沓掛計三君） 花見建設農林課長。

○参事兼建設農林課長兼農業振興係長（花見陽一君） この制度を活用しまして、そちらの里親制度に入りまして利用された方ということですが、それで青木村での研修を卒業された方は6名ございます。

○議長（沓掛計三君） 坂井議員。

○2番（坂井 弘君） 少し焦点を絞りたいと思いますが、ふるさとの風景として……、ごめ

んなさい、その前にもう一点ありました。失礼しました。

昨年5月に、青木村農業現場見学体験ツアーが行われたと聞いておりますけれども、このツアーの様子、実施後の動向、成果などがありましたらお願いします。

○議長（沓掛計三君） 花見建設農林課長。

○参事兼建設農林課長兼農業振興係長（花見陽一君） 昨年、青木村農業現場見学の体験ツアー、農業体験ツアーということで組ませていただきました。

一度という開催でございましたが、当日は1組、お二方の参加がございました。それで、その後、終了した後でございますが、後日ですが、10件ほどの問い合わせがありまして、青木村はどういうところかということがありまして、お電話での問い合わせなど、農業についての就業の関係も含めまして御相談がありました。

その話の中で、ちょうどゴールデンウィーク中だったんですね。ゴールデンウィーク中で期間がなかなかとれなかったから、都合がつけば行くよという方も3人ほどおりまして、その中で大分興味を持たれた方がいらっしゃるのかなと思っておりますので、今後、ことしもできれば開催をしたいというふうに考えております。

○議長（沓掛計三君） 坂井議員。

○2番（坂井 弘君） ふるさとの風景としてなれ親しんできた近くのリンゴ園が、ことしの冬、突如として伐採される光景を目の当たりにして、愕然といたしました。息子は就職して、定年退職するまでにはまだ間がある。御自身は御高齢になり、それまでリンゴ栽培を続ける自信がない。やむを得ない決断であったんだろうというふうに思います。

また、別のリンゴ農家の経営者は、ひところはリンゴの木のオーナー制度が盛んだったが、今ではみんな手を引いちゃって、村中のオーナー果樹園のうち半分以上、1軒の農家で切り盛りしているような状態だと話してくれました。

青木村の果樹園、果樹栽培の実情はどうなっているのでしょうか。果樹農家数、栽培面積、生産量、そういったものの推移、そしてその変化の要因についてお聞かせください。

○議長（沓掛計三君） 花見建設農林課長。

○参事兼建設農林課長兼農業振興係長（花見陽一君） 果樹園につきましては、議員さんおっしゃられましたように、現状は、高齢化が顕著であるというふうに考えております。

青木村の果樹は評判がよい反面、果樹は苗木を置いて実になるまでに時間がかかる上に、水分量、いろいろ育てるには大変な水分量の関係とか、いろいろ農業の関係ということで負担が大きいということがございます。さらに、果樹というだけあって、高い木になると手入

れが手間であり危険が伴うという、元気なうちはいいが、高齢になってくるにつれ敬遠されがちというような状況でございます。

農業従事者といいましても、全体ですと、平均年齢は70代ということになってございますので、その中でも新規就農者育成などが急務な状況というふうに考えております。

果樹部会によります調査でございますが、リンゴに関してでございますが、平成26年と29年の比較で申しわけございませんが、リンゴの農家戸数は26年が19、29年が17件でございます。栽培面積が26年が3.3ヘクタール、29年が3ヘクタール。生産量につきましては26年から75トンが、29年は70トンということでございます。ブドウに関しましては、農家戸数は26年が3件、29年が5件ということでございます。

リンゴ農家につきましては、平成29年に2件減りましたが、平成30年に新たな担い手に引き継ぐことができ、何とか維持ができたところでございます。

ブドウ農家につきましては、平成28年より新規就農者の2名が果樹経営を開始し、栽培面積が拡大しております。

果樹園の一部は、まだ始めたばかりですので、実がつかない状態でございますので、今後、生産の増加が見込まれるということでございます。今後とも、果樹につきましては、いろんな面で村もサポートしていきたいというふうに考えております。

○議長（沓掛計三君） 坂井議員。

○2番（坂井 弘君） 今のサポートですが、村として果樹園、果樹栽培にどのような方策をもってお取り組みいただいているのか、その具体的な取り組みがありましたら教えてください。

○議長（沓掛計三君） 花見建設農林課長。

○参事兼建設農林課長兼農業振興係長（花見陽一君） 今までもそうですが、今後、青木村の農業支援センターが、そういう農業指導の関係とか、いろいろ核になるかと思っております。

農業支援センターが、新規就農者、また果樹、先ほど申しました経営につきまして、今後担い手のことの心配事とか、そういう、よろず相談ではないですが、そんな点でも計画推進センターの方が中心となりまして、農家から新しく継承するという、また、相談に乗りながらどのようにしていったらいいか、また技術的な指導も資源センターを中心に普及センター、またJA、いろんな機関も連携しながら常に踏まえて検討してまいりたいと思っております。

果樹農家の方にもいろいろアンケートを実施する中でもありまして、その中でもいろんな

課題を踏まえて、村としましてもいろいろ考えていきたいと思っております。

○議長（沓掛計三君） 坂井議員。

○2番（坂井 弘君） 農業支援センターを中核とした指導ということで、継承のために取り組んでいただいているということをお礼を申し上げます。

果樹農家の方も、村や農業委員が身近で動き出している、そういうことを感じ始めて勇気づけられた、そういう声を寄せてくれたりもしています。しかしながら、繰り返しますように、リンゴの木が切られてしまっただけでは遅いというふうに思っております。早急な手当をとっていただきたいなというふうに思います。

これまでの方策をさらに強固にさせていただくために、素人考えですが、思いつく2つの提案をさせていただきます。

1つ目、里親制度的取り組み並びにマイスター人材バンク制度のようなものはどうかというふうに思っているところでございます。

私的なことで大変恐縮なんですけども、私は4年前に前職の現場を退きました。その前の年に亡くなった父親の後を受けて、さあこれから農業を始めるぞと意気込んでいたのですが、まず面食らったのは、リンゴの木の剪定です。

父親の野良仕事を手伝わないことが父親を長生きさせる親孝行とうそぶいて、前職を退くまで、さっぱり農業を手伝わなかった親不孝者だったために、剪定の仕方一つわかりません。農協の指導員に来てもらったりもしたのですが、短時間教わったぐらいで身につくものではありません。最後には結局、リンゴの木に虫をつかせ、病気にさせて全滅させてしまいました。身をもって、先達はあらまほしきことなりを痛感した次第です。

県の新規就農里親制度のようなものですが、あらかじめ1年間、農業大学校で研修するというのですが、そうしたことを経なくても、村内で現在果樹園、その他の農業を営んでいる先達者から新規就農者、定年退職就農者が農業技術を伝授していただきつつ、自分の経営農地も並行して管理拡大していけるような取り組みを支援するシステムを、村独自に確立することはできないでしょうか。

先ほどの農業支援センターがその役割を果たしているのかなとも思いますけれども、そうしたシステムをつくりながら、また一方で、リンゴの木の剪定技術などを伝授してやりたいんだけどなと思っている先達者もいらっしゃいます。

そうした、いわばマイスターを村として人材バンク登録して、要請に応じて必要なところに派遣できる、そんな制度も考えてみてはどうかと思っております。いかがでしょうか、お

考えをお聞かせください。

○議長（沓掛計三君） 花見建設農林課長。

○参事兼建設農林課長兼農業振興係長（花見陽一君） 議員さんがおっしゃられましたように、やはりどうしても農業というのは、熟練した農業者の方の技術力というのは大変大切でございまして、それをつないでいかなければいけないというふうに認識しております。

今おっしゃいましたが、里親制度でございますね、それにつきましても、青木村でも里親の方が誕生してくるわけでございますが、長野県としても制度の普及がされてきておまして、平成27年度ですが、長野県の里親制度としまして、修了後の就農者は27年で332人ございます。また、その里親として県全体ですが425人ということで、この事業は里親を使った方、就農された方がほとんどが就農されておまして、やはりふだんから家族同様のおつき合いをなさるといことで、大変温かみのある対応の中で進めておりますので、この事業は、今後も生かしていきたいというふうに考えております。

県、村独自のシステムにつきましては、まだ現在では考えておりませんが、この県の制度を活用することで、情報量もたくさん得られます。また、可能性もたくさん望めますので、また県の制度で足りないところなどは、今後、村で補えるところは補っていきたいというふうに考えております。

○議長（沓掛計三君） 坂井議員。

○2番（坂井 弘君） 2点目です。

今、課長から情報量が多く得られると、そういうお話でしたが、村としての情報発信を工夫していただきたいことを思っております。青木村で農業を始めたいと思う新規就農希望者、その方々を数多く見つけ出さなければならないと思います。

そのための情報発信、県ではインターネット上に長野県新規就農情報のページを開設し、新規就農の手引き「農活！in信州」をPDFで掲載しています。新規就農のノウハウが載せられているお役立ち情報かと思いますが、このアナログ版が村に置いてあるかなと思ったんですが、置いていないということでした。こうした新規就農者向けの情報発信を県に任せるだけでなく、村としても積極的に取り組んでいただけたらと思います。

県が発行して冊子を活用するとともに、村独自の新規就農者向けのパンフレットを作成し、観光パンフ同様に道の駅等に置いて、利用者の就農意欲を喚起させるような仕掛けをつくったり、首都圏でのPRに使ったり、また新規就農を呼びかける映像を制作し、ぷらっと家のVTRで流す、そんなこともしてみてもどうでしょうか。自主制作が難しければ、県で制作

した映像、デジタル農活信州のホームページで、農活！ i n 信州、長野県で農業を始めたい人応援します、レッツ・スタディー信州農業という映像を流しています。こんな映像をぶらっと家で村の情報とともに、交代で流すというふうなこともいいのではないかと考えています。

さらに、先ほど御説明いただきました農業体験ツアー、こうしたことも年に一度と言わず何回か、継続的にできたらいいのかなと、そんなことも御苦労でも思っております。お考えをお聞かせください。

○議長（沓掛計三君） 花見建設農林課長。

○参事兼建設農林課長兼農業振興係長（花見陽一君） 議員さんがおっしゃられましたように、情報発信は大変大切であるということは認識しております。

議員さんがおっしゃられましたように、長野県では新規就農の手引きの冊子ということで、デジタル化された資料がございました。青木村でも、この冊子を用意していなかったんですが、これは本当に農業をこれから始める方にとっては見やすく、大変わかりやすい資料になってございますので、こちらでも印刷して、来た方にこれをお見せすればいいかなというふうに感じましたので、活用させていただきたいと思っております。

また、おっしゃいました村独自でも、ほかの町村でも信州のパンフレットですか、いろんな就農に関するパンフレットもございますが、やはり受け入れの体制、また新規就農の受け入れる場合における農地の問題、住宅、いろんな問題がございますので、その辺は、これからうちの部局でも検討しながら、前向きに考えたいなというふうに思っております。

映像の関係でございますが、県のほうのものが、プラットホームのほうですと大きい画面になるんですけど、デジタルの絵の画素数というか、その辺の関係で難しいようなこともお聞きしておりますので、それに限らず、ほかにもそういう事例がありましたら、活用できるかどうか、その辺もアクションを起こしたいなと思っておりますので、よろしくお願ひします。

農業体験ツアーにつきましても、おっしゃいましたように、できる範囲で何とか対応したいなと思っております。情報発信につきましては、御提案の関係につきまして、いろいろ検討させていただきたいと思っております。

○議長（沓掛計三君） 坂井議員。

○2番（坂井 弘君） これまでも数々の御努力をいただいているところでありますけれども、さらなる取り組みをお願いし、2点目の質問を終わります。

続いて、3点目、空き家対策ならびに放置空き家の整備について質問をいたします。

昨年3月、青木村空き家等対策計画が策定されました。これによれば、青木村の空き家戸数は、平成27年度の予備調査段階で230戸とされており、そしてまた、その計画では、今後の方針と方策及び具体的な取り組み内容として、6つの方策が挙げられておりました。

これら6つの方策が1年間経過した中で、どれだけ進んだのか、それぞれの方策ごとに進捗状況を教えてください。

○議長（沓掛計三君） 新津商工観光移住課長。

○商工観光移住課長（新津俊二君） 空き家対策計画の6つの方策ごとの進捗状況というお尋ねでございますが、6つの方策、6つの観点で空き家をどうしていこうかという管理、考え方を示させていただいております。

数につきましては、平成30年3月時点の数が出ているんですけども、それぞれの空き家の戸数というのは、ふえたり、減るほうはわかるんですけども、時期によりまして空き家がふえていくところを四六時中監視ができていないので、時期が来ましたら、具体的な数字は見ようということで考えております。

ただ、今現在ですが、まず6つあるうちの方策の1つ目が、危ない空き家、解体や除去が必要ではないかといったものが16戸ありまして、それは数は減って変わっておりません。村の中で、区長さんですとか住民の方との情報を共有しながら、適正な管理をしていくという観点で見ているところでございます。

大きく分けて、方策は適正管理をしていこうというのが3つ、それから利活用していこうというのが3つというふうに分けて考えているんですが、今の危ないものというのは、特別な管理が必要ですので、16戸は引き続き注視していきたいと思っております。

その他につきましては、やはり情報を村民の方と共有しながら、売れる物件がないか、活用できるものがないかといったことで、空き家バンク制度を積極的に運用するというところで施策を進めております。

○議長（沓掛計三君） 坂井議員。

○2番（坂井 弘君） 計画に基づいて鋭意対策を進めていただいているというふうに思いますが、管理が不十分な空き家の近くに住まわれている住民からは、嘆きの声が聞こえてきています。

空き家になった御自宅の隣の家は、タヌキの住みかになっている。植木が伸び放題で、裏地の敷地に覆いかぶさってきちゃっている。道端のほうも道路にはみ出しちまって、通行の

邪魔になる。電線にもつきそうだ。仕方なく年に何度も切っているが、よいじゃねえで。こうした管理が行き届かないまま放置されている空き家が、村内のあちこちで見受けられるように思います。

村内では、こうした空き家はどれくらいあり、どんな対策をとっているのか、お聞かせください。

○議長（沓掛計三君） 新津商工観光移住課長。

○商工観光移住課長（新津俊二君） お答えいたします。

先ほど少し答弁させていただきましたが、かなり状態が悪いと思っているものが16戸ございます。そうした住宅を中心に、区長さん、それから住民の方と情報をいただきながら把握をしているところでございます。

特に、生活の安全を脅かすような状態にある空き家については、これまで同様、地域の皆様の安全確保ができますように、村と区と一体となって対応してまいりたいと考えております。

○議長（沓掛計三君） 坂井議員。

○2番（坂井 弘君） 特定危険家屋16戸ということですが、そのみでなくて、まだ十分に使える、新しいなどと思われるようなお宅でも、管理が行き届かずに、先ほど言ったような状況になっていると、そういうお宅はたくさんあるかと思えます。

そうした管理不十分な放置されたままの空き家の近くに暮らす住民は、その空き家の所有者、もしくは管理者の所在が往々にしてつかめずにいます。連絡がとれぬまま、やむを得ず火の粉を払っている状態です。

敷地からはみ出した草や木は切っているんだけど、地面からじゃなくて、上から乗り出してくる木は、本当は他人が切っちゃいけねえだなどと、違法行為になることを懸念しながらの作業をしております。

そこで提案です。

村は、空き家の所有者、もしくは管理者の所在を把握しているかと思えます。所有者、管理者と連絡をとり、木の剪定、草刈りの許可をとっていただけませんか。同時に、その作業料負担を固定資産税に上乗せするとか、そういったことはできないでしょうか。そうした上で、近隣住民の協力を仰ぎ、作業賃を支払う、そういうふうなことができれば、空き家の整備が進むように思われますが、お考えをお聞かせください。

○議長（沓掛計三君） 新津商工観光移住課長。

○商工観光移住課長（新津俊二君） 御提案の木の剪定ですとか草刈りなんかの許可をとれないかということでございますけれども、雑草や樹木の繁茂に対する対策は、空き家に加えて、空き地の対策をどんなふうにしていくかということでもあるかと思えます。

御提案はいただきましたが、村としましては、今のところは、所有者から村が許可をとって対策をしていくといった用意はないわけですが、ただ、今後は空き家や空き地の所有者、それから周辺の住民ですとか住宅事業をやっている事業者さん、不動産業者さんとも協力をして、何らかの仕組みづくりをしていくというのも大切な観点かなとは思えます。

昨年3月に策定しました空き家等対策計画に基づきまして、引き続き所有者は安価でも売却ができないか、不動産事業者さんは法律的なりフォームだとか、移住希望者への照会が積極的にできないかといったようなことで、村と連携した対策を講じられるように取り組んでいきたいと思えます。

○議長（沓掛計三君） 坂井議員。

○2番（坂井 弘君） 今のお答えでは、積極的に村としては管理者等と連絡をとる、伐採する許可をとるという考えはないということでしたけれども、この点については、住民からしてみれば本当に困るわけで、せめてそれくらいの連絡はとれないものですかね。でなければ、本当に違法行為すれすれでやりながら、しかも近所の方が苦勞してやる、それしか方法はないということになります。いかがですか。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） プライバシーにかかわることで、なかなか難しいところもありまして、私も兄弟がいたり、おい、めいがいたりというところへ行ったり、あるいは近所をお願いをするんですが、いろいろ家庭の事情がありまして、もう交渉するのも嫌だわいというようなことで断られたり、電話をしても切られちゃうだわいというようなことがあったりしまして、相当危険なもの、あるいは、というようなものは、私もお願いをしたりしているんですが、それともう一つは、私どもで個人情報、どこにいらっしゃるのか、電話番号は何番なのか、知り得ないところが、そういう家に限ってあるんですよ。

ですから、何市の何番地に住所があって、電話番号は幾つだというのは、我々はなかなか知り得ないところも相当多いですね、調べてみると、というような課題もありまして、積極的にというわけには、なかなかいかないとは思っております。

これ以上ふやさない努力は、たくさんしていきたいと思ひまして、私事でありますけれども、同級会なんかでは空き家を抱えている、あるいは抱えつつあるような人には、こういう事情

だから早くやっただらいいというの言うんですが、なかなか問題意識はないですね、あの人は。あの人たちというか、そういう人たちは。だから、これから今あるものに努力すると同時に、これからふやさない努力もあわせてしていかなければならないなというふうに痛切に感じております。

○議長（沓掛計三君） 坂井議員。

○2番（坂井 弘君） 村長の御答弁で連絡をとれない方も往々にしてあるというお話でしたけれども、そうした方は固定資産税とか、そういう徴収もできていないということになるのでしょうか。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） 法律では、固定資産税とか、そういうところから入り込める法律にはなっておりますけれども、そこへ電話したとすると、何で私の電話番号がわかったかと、こういうふうに言ってくるだろうと思うんですよ。極端なことで言うと、親戚から電話してもらえば一番いいなと思って、何軒か歩いてみましたけれども、やっぱり親戚同士もいろいろありまして、難しいものだなというふうに思っております。

法律上は、そこから入っていきますけれども、プライバシーも一方ではありますので、そのあんばいが、大変私どもは苦慮しているところでございます。

○議長（沓掛計三君） 坂井議員。

○2番（坂井 弘君） そうしますと、近所で自主的にやっている作業ですけれども、そうしたことを援助するような、そういったことというのは、村としてはできないものでしょうか。やらせておけというようなことでいいのかどうか、そのあたりはどうでしょうか。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） 私と私の間に行政が入ってというのは、なかなか難しいわけでありまして、都会に行けば草刈り条例などがありまして、そういうことになっておりますが、青木村でも実は1件、緊急性がありまして、これは通学道の脇、あるいは隣の家へかぶさってくる、あるいはどさっと落ちたというようなことで1例ありました。これは除去しましたけれども、結局として、お金は全くとれませんでした。回収できませんでした。

そういうことを考えると、今の草刈りとは別として、村税をどれだけこのことに使うことが、村民の皆さんの御理解が得られるかというのは、大変厳しいことではないかというふうに思っております。

なかなか私的なところに、どんどん入っていってしまうと。中には、そういう本、資料を

読んでいましたら、更地にしたら、そこは何も自分の権利は侵されていないわけですから、新しい土地利用をしたというような例も、これは都会ですけれどもあって、そのところは慎重に、いわゆる村民から見て公平だと思われるような方策をとっていかなければならないというふうに思っております。

○議長（沓掛計三君） 坂井議員。

○2番（坂井 弘君） 最後になりますけれども、そうしたことにかかわって、条例化に向けた動き、見通しを最後にお聞きをしたいと思うんですけれども、空家等対策計画の中には、その計画の位置づけに、計画策定後に適正管理に関する条例を整備するということが計画されております。

上田市でも、特定空家等判断基準案、あるいは適正管理に関する条例素案が協議されているかと思います。青木村における、この条例化に向けた作業は現在どこまで進んでいるのでしょうか。また、条例には、どんな内容のことが盛り込まれる予定なのでしょう。また、今後どんなテンポでその検討をされていくのか、御説明いただきたいと思います。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） 条例化については、今言ったような課題を解決しながら、同時にあわせてしていかなければならない作業だというふうに思っております。

今、これをする中での課題として、一番は所有者と連絡がとれない。これは条例の中身を議論していく前提として御理解、お聞きいただければと思いますけれども、所有者と連絡がとれないと。相続人が多数いて連絡が大変だ。相続人の特定ができない、これに時間がかかる。それから、私どもが電話でできることをやったり、近所の人からやってもらうんですけれども、所有者の協力が得られないとか、私どもの役場には、危険度を判断できる専門知識を有する職員がいない。それから、仮に撤去する場合に、代執行の具体的な手順がよくわからない。それから、行政で更地にした場合、跡地を活用されてしまうというような例もあるというようなことで、条例が、これはつくるのが目的ではなくて、実効性のあることをやっていくことが目的でありますので、今すぐ上田市の例を倣って、ほかの市町村の例を倣ってつくればいいんですけれども、そのところは実効性のある条例、あるいは実効性のある要綱等をつくるための、今、課題の洗い直し、あるいはどういう方法がいいのか、それから先進事例などを見て、スタディーをしているところでございます。

○議長（沓掛計三君） 坂井議員。

○2番（坂井 弘君） 鋭意御努力いただいていることに感謝申し上げます。

いずれにしても、空き家対策が順調に進んで美しい村づくりが進められるよう、今後とも村行政の御努力をお願いしたいと思います。

長い時間にわたりましたけれども、以上で3点にわたりました私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（沓掛計三君） 2番、坂井弘議員の一般質問は終了しました。

◇ 宮 入 隆 通 君

○議長（沓掛計三君） 続いて、1番、宮入隆通議員の登壇を願います。

宮入議員。

〔1番 宮入隆通君 登壇〕

○1番（宮入隆通君） 議席番号1番の宮入隆通です。

さきに通告しました3点につきまして、御答弁いただきますようお願いいたします。

まず質問の前に、12月議会一般質問にて要望しました乳幼児紙おむつごみ無料化につきまして、出生児世帯おむつごみ補助事業として早速の予算化をいただき、ありがとうございます。子育てするなら青木村ということ、子育て世代の方にさらに実感してもらえたいと思います。また、村外に対してもアピールできる点がふえ、子育て世代の方への移住などのきっかけになってもらえたらと願っております。

それでは、質問に移ります。

まず移住支援について伺います。

現在の村の抱える問題に、少子高齢化と人口減があります。できるだけ、この流れに歯どめをかけるために、どのような対策が必要でしょうか。

青木村第5次長期振興計画にありますとおり、移住、Uターン、Iターン、Jターン、移住したくなる村づくりが掲げられており、さまざまな施策が行われていると思います。

来年度から国の施策による地方創生移住支援制度があります。都心部からの人たちが、この支援制度を使い移住を検討する際に、青木村が候補地として挙がるよう私たちは考えていく必要があります。

まず、この移住支援金の制度ですが、23区内で在住、もしくは通勤している方が対象となっています。移住先で就業した際の支援金は100万円以内、単身は60万円以内とのことです。

また、移住先で起業した場合は、さらに200万円以内の支援金があるということです。

長野県では、23区以外にも区外の都内全域、埼玉県、千葉県、愛知県、また大阪府まで広げて支援を行うこととしています。ということで、東京都心部以外の場所からの移住者も対象となります。

国や県だけの負担ではなく、村としても共同で負担する制度ですが、現在のところ青木村としてはどれくらい、この制度を使った移住者ということを見込んでいるのでしょうか。また、今回の新年度予算には、どのように反映されていますでしょうか。お願いします。

○議長（沓掛計三君） 新津商工観光移住課長。

○商工観光移住課長（新津俊二君） お答えいたします。

このたびの地方創生移住支援の支援金制度を使った移住者の見込みと新年度の予算についてでございますけれども、この制度を受けるための、国からの支援を受けるためのですけれども、県から内閣府へ地域再生計画というものを提出いたしました。それが2月8日付で提出をしまして、現在審査を受けているというところでございます。

県から提出をしました計画上では、2019年度に移住して就業する人が、県全体ですけれども30人、それから移住して起業をする人が3人、合わせて33人ということで見込んで計画を出しましたが、市町村の内訳というのは特に示しておらず、青木村で何人、上田市で何人といったことはございません。

また、4月から制度をスタートするというところで、議員御指摘のように県独自で首都圏以外からの移住も対象にするということで予算化をしておりますけれども、申請への制度設計、それから市町村への説明会というのが、最終的なものはまだされておらず、青木村としましては、移住してから3カ月間定着したことを確認してから申請できるというふうになる見込みでございますので、そこを見きわめて必要な時期に予算化をお願いしたいと思っております。

ですので、今度の新年度の当初予算には、村としては特に計上していないという状況でございます。

○議長（沓掛計三君） 宮入議員。

○1番（宮入隆通君） 詳細なことは、まだ村でどうするのか、そういったところまで決められない状況にあるということだったかと思えます。こういった制度がございますので、ぜひ積極的に対象の方がいらっしゃいましたら、活用していただけたらと思えます。

続きまして、住みやすい村、青木村ということでありまして、これから青木村に移

住したい人たちに対して受け入れがスムーズにうまくできるのか、そういったことも問われてきます。

例えば先日、複数の移住してきた方から要望がありました。それは区費に関してです。区費そのもの自体は各地区のものですが、その地区で区費の制度があるということを、村で説明がなかったということに不満を持っていらっしゃいました。住んだ後から、そういった区費の制度というのを初めて聞いたという移住者の方だったんですね。そういった方が、私の周りに3名ぐらいの方がいらっしゃったんですけども、結構多いのかもしれない。

当然のことながら、私は今、区費の制度の批判をしたいわけではありません。都市部では、こういった制度が少ないため、制度のないところから移住する方にとって、なかなか理解することが難しい場合ということがあります。村内で暮らしていると当たり前のことも、村外ではそうでないということもあります。

移住を決める前に、そのように暮らし全般に関することでお知らせできることについては、なるべく細かく説明してほしいところです。住みやすい村、移住しやすい村として、そういった受け入れ体制について、どのように考えていますでしょうか。お願いします。

○議長（沓掛計三君） 新津商工観光移住課長。

○商工観光移住課長（新津俊二君） 村への受け入れ体制、特に区費を含めた村での暮らし方の説明などについてでございますけれども、村では移住担当の専門の職員も1人置いておまして、村が最初から窓口になって移住の相談に乗っている方には、村での区費のことですとか自治会への参加のお願いですとか、ごみの出し方なども含めて丁寧に説明をしているつもりでございます。

ただ、さまざまな不動産会社を介しまして、村が窓口にならずに村へ移住してこられている方もいらっしゃいまして、そういった方の中で、特に説明が不足されていることもあるかもしれないと思っております。

村では、区長会の会議ですとか、今、村内の不動産業者さんに対しましては、区費も含めて転入される方へ丁寧に説明をしていただくように、会議の場をお願いなどを行っているところでございます。

○議長（沓掛計三君） 宮入議員。

○1番（宮入隆通君） 村へ相談してきた方には、村としては説明していただいているということでした。住民票を移す際などにも、再度そういった、お金に関することですので、できるだけ細かく説明してあげていただけたらと思います。

たくさんの方に住みやすい村、青木村に来て移住してほしいと私は思っているわけですが、全ての人に当てはまるわけではありません。当たり前ですが、都会暮らしを望んでいる方に青木村への移住は不向きです。

では、どのような方が青木村に移住してくるのに適しているのでしょうか。移住者の方のアンケートなどから、統計的に見えてくるものがあるのでしょうか。これまでは移住したい人にどうやって青木村を選んでもらえるかという話ですが、これからは青木村としてどういう人たちに移住してほしいのか、そういったことを打ち出す必要があるのではないかと考えています。

青木村のホームページを見ても、移住者の方の感想の動画がありますけれども、あとは移住してきた方への制度の説明とか制度のリンクしかない、こういった状況であります。やはりこういったことも、ホームページとかパンフレットなどに、青木村からのメッセージとして強く発信してほしいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（沓掛計三君） 新津商工観光移住課長。

○商工観光移住課長（新津俊二君） 移住してきてほしい方へ向けての情報発信の工夫ということでございますが、議員さん御指摘のように、確かに今、ホームページには、先に移住してきた方の体験談の動画が載っている、それからリンクを張ってあるというところでございますが、こうしたところをさらに先輩移住者の声を届けるような工夫をしたりですとか、青木村での実際の生活がイメージできるような情報発信力を高めていきたいと思っております。

具体的には、元気づくり支援金を使って、ことし移住パンフレット、移住してくるとこんないいことがありますよというような制度をまとめたパンフレットをつくったのですが、これを何らかの形でホームページに載せるようなPRをしたいと思っております。

○議長（沓掛計三君） 宮入議員。

○1番（宮入隆通君） わかりました。

また、パンフレット等をホームページにも掲載していただけるということでしたけれども、こういったいろんな制度とか、そういったものはその都度変わっていきたりしますし、何度も私のほうも申し上げているんですけども、ホームページというものをもう少し活用してほしいなと思っています。ホームページというのは固定のものではなくて、常に動いている、もちろん固定のものも必要ですが、新しい情報を上げていくというものですから、そういった情報発信のほうを、ぜひお願いしたいと思います。

今回のこういった移住支援金制度は来年度からありますけれども、起業する場合は最大

300万円の支援があるということです。今後の青木村の未来のためにも起業して、新たな事業が生まれるということはあるがたいと思うんですけれども、青木村で起業する人をふやすにはどういったことが必要だと考えますでしょうか。

○議長（沓掛計三君） 新津商工観光移住課長。

○商工観光移住課長（新津俊二君） 青木村で起業する人をふやすためにどんなことが必要かということですが、まず起業する創業意欲のある方に対しては、県が実施しています信州ベンチャーコンテストというコンテストがありますので、そういったものを紹介したり、地元の青木村商工会を紹介しまして、融資を含めた具体的な相談といったものに乗ってもらえるようにするなど、村が相談を受けましたらば、起業しやすい環境づくりのお手伝いをしたいというふうに考えております。

それから、企業する場所が必要でしょうから、場所の中で青木村の空き家を事業所として活用してもらえるように、空き家バンクの登録物件の紹介も行いたいというふうに思います。

○議長（沓掛計三君） 宮入議員。

○1番（宮入隆通君） 起業した方で、実際空き家を紹介して、そういったところで事業を起こされている方というのは今までにいらっしゃるのでしょうか。

○議長（沓掛計三君） 新津商工観光移住課長。

○商工観光移住課長（新津俊二君） 直近で、空き家そのものを活用して事業所にされているといったのは、今のところ例を聞いておりません。

○議長（沓掛計三君） 宮入議員。

○1番（宮入隆通君） 大都市など県外に居住を持ちつつ、県内の地域に繰り返し訪れて住民とかかわる、つながり人口をふやすために、ほかの市町村でもさまざまな取り組みが行われています。

長野県の総合5カ年計画の中にも、そういったつながり人口の創出ということは、移住や交流事業の柱の一つとして打ち出されておりまして、都市と農村との交流促進に向けた体験機会の充実、そういったことが期待されています。県の事業では、長野市の鬼無里地区、小川村が対象ということで今年度行われ、来年度も継続事業となったとされています。

地域活性化策の検討作業、こういったことに携わっていただきながら、最終的な移住を促す、こういった狙いとともに、地方創生に結びつくことが、こういったつながり人口をふやすということが期待されていますけれども、青木村として、そういったつながり人口をふやす取り組みというのはやっていますでしょうか。お願いします。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） つながり人口、私どもは関係人口とも呼んでおりますし、青木村に何回も来ていただきリピーターのような方というイメージも持っております。

そういう方々に、今御質問にもありましたように、何回かは青木に来てもらったり、青木村の魅力を四季折々に来てもらったりしながら、たくさんの経験、体験をしてもらって、行く行くは定住人口に広げていきたいと、御質問の中にありましたように、そういうことあります。

何をやっているかという、やっている観光を含めて全てそうかなというふうに思うんですけども、特に私が始めておりますのは、観光サポーターズクラブというのがありまして、青木村の情報を発信したり、それから1,000円の地域商品券を配って、それで青木村に来てもらって、それを使って、その10倍も15倍も使っていただくというようなこともやっております。

このつながり人口というのは、最近、関係人口を含めまして、いろいろな国の総務省等々の、あるいは県の公文書の中にも出てきている言葉でありまして、一つの大きな流れの中でこういうことを日本全体で期待し、地方創生につなげていきたいということであろうというふうに思っております。

いろいろな施策を講じながら、このつながり人口、もしくは関係人口というのをふやしていきたいと。本当に最近のこととして、言葉でありますけれども、定住人口につなげる前段階であるというふうに思っております。

○議長（沓掛計三君） 宮入議員。

○1番（宮入隆通君） いきなり、やはり移住ということは、なかなかハードルが高いことですので、こういった地道な活動が将来的な移住者をふやすことになるかと思しますので、今後も引き続きサポーターズクラブをやられているということですので、引き続きこういった事業を行っていただければと思います。

続きまして、次世代の情報伝達の仕組みについて伺います。

情報化社会の現代において、情報技術、こういったものは日進月歩であります。青木村でも多くの管理はシステム化されてきています。今回ここでは情報伝達に関する話をしたいと思えます。

情報は文字や音声、画像であったり、映像、動画などに分類されるかと思えます。現在の青木村で行っている広報に関しては、紙媒体の広報あおき、専用端末を使った情報電話、パ

ソコンやスマホで閲覧する青木村ホームページ、緊急時などに携帯やスマホに連絡するメールシステム、災害時に役場から出動して車からスピーカーでお知らせする広報車、こういったものも挙げられるかと思えます。それぞれの特性から、用途により使い分けているかと思えますが、以前から申し上げておき、青木村のホームページの充実を図るということは必要であります。

青木村のホームページは、村内はもちろんですが、村外の方が青木村とはどういうところなのかを調べる際に、多くの方が最初に見る場所です。もちろんそれが移住するとなれば、細かくチェックするところであります。

昨年3月末にホームページがリニューアルされ、トップページは見やすくなりました。見やすいホームページというのは、とても重要です。しかしながら、コンテンツ、中身は変わらず、デザイン変更のみのように見えます。

また、ホームページのトップページの更新ですが、2年前に比べればトップページの更新はされるようになりましたが、まだ広く知らせるべきものはあったのではないかと考えています。青木村の、こういった情報伝達のあるべき姿とはどのように考えていますでしょうか。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） 青木村の情報伝達のあるべき姿、村がどうやっているかというのは今御質問の中で、るる述べていただいたとおりでありますけれども、基本的なあるべき姿、姿勢としては、世代別に紙ベースが必要だったり、あるいはコンピューターが必要だったり、いろいろするわけですが、そういった世代別のツールを使って、わかりやすく、早く、正確に、必要な方へということさらさら繰り返していくというのが基本的なあるべき姿だというふうに思っております。

残念なことに、私どもはいろいろなことで情報は出しているんですけども、なかなかそれが行き渡っていないというのが残念だなというふうに思うので、私は「村長、そんなことは3回目だわい、聞くの」と言われるぐらいで、ちょうど相当数のところの皆さんに情報が伝わるのかなというふうに思っております。

なかなか見ていただく、知っていただく、理解はしていただくということが必要なんですけれども、それぞれのあるべき姿は、年代別とかそういうところで違っているなというふうに思っております。

○議長（沓掛計三君） 宮入議員。

○1番（宮入隆通君） 村長自身がいろんな方に、いろんな村のことをお話しするという

も情報伝達の一つだとはもちろん思っていますけれども、そういった情報を全ての人に公平に知らせるといことがなかなか難しいわけですが、こういった問題に関しまして、現状のそういった情報が行き渡らないという、そういったことに対しての問題点をどのように考えていますでしょうか。

○議長（沓掛計三君） 片田総務企画課長。

○総務企画課長兼事業推進室長（片田幸男君） 今現在の情報伝達のツールとしましては、先ほど議員さんのほうからお話がありました広報紙ですとか情報電話、あるいはメールですとかホームページなどが主なものになるかなというふうに思います。

広報紙は、基本的に全戸配布ということでございますので、全戸にお届けできる唯一の方法なのかなというふうに理解しております。しかしながら、この情報のスピード感ということになりますと、ちょっとタイムラグが生じて、あしたお伝えしたいことをあした配るということもできないというようなところに問題があるのかなと。また読んでもらえないというような部分、そこは読みやすいものをつくっていかなくちゃいけないという、こちらの責任もあるかもしれませんけれども、そんなことが問題としてあるのかなと思います。

また、情報電話については、こちらは非常に便利なツールだというふうに感じております。最も容易に情報を発信したり、取得することができるものだというふうに理解しておりますけれども、残念ながら、全世帯には御加入いただいていないということと、万が一、停電になってしまったときには利用ができないというような問題点があるかなというふうに認識しております。

また、メールやホームページについてですけれども、こちらは停電時でもある程度の利用は可能になるかなというふうに思いますが、そもそもしないだとかできない、例えば高齢者の方ですとか、そういう方にとっては意味を持たないものになってしまうと、その辺のところは今、それぞれあるツールの中で、それぞれ抱える問題点なのかなというふうに理解しております。

○議長（沓掛計三君） 宮入議員。

○1番（宮入隆通君） 多くの問題点がありますが、一つ一つ解決しながら、また、そういった情報技術、新しいものもできてきていますので、そういったものを利用しながら考えていく必要があるかと思えます。

2年前の議会におきまして、ここ数年のうち情報電話の更新を検討していくという答弁をいただいています。次世代の情報伝達のこういった構想であるとか更新時期、先ほど堀内議

員の質問にもあったかと思いますが、今の状況準備、そういったものがもしありましたら教えてください。

○議長（沓掛計三君） 片田総務企画課長。

○総務企画課長兼事業推進室長（片田幸男君） 情報電話につきましては、先ほどの中にもございましたけれども、8年が経過してきているところでございます。

これまで致命的なトラブルはなく推移してきているところでございますけれども、残念なことに、現在各戸に設置しているその端末ですね、電話機、あれについてはもう既に製造がされてないということで、サポートもそろそろ終わるという状況でございます。

しかしながら、未使用の端末のストックを結構持っております。180台ぐらいありますので、例えば1年に10個とか15個壊れたとしても、向こう10年ぐらいは今の仕組みを継続する、していくことはできるのかなというふうに考えているところでございます。

いずれにしましても、今後のあり方については、検討を始める時期が来ているというふうに認識をしているところでございます。

それに際しましては、もう各戸に光を配線してございますので、今のものを後継機種で更新していくのか、あるいは、まるっきり見方を変えて防災無線みたいな形にしていくのがいいのか、またテレビ放送をやっていくのがいいのか、ラジオがいいのか、メールがいいのかというようなことを、それぞれ長所短所はありますけれども、いずれにしても、これからの考え方としては、各世代、いろんな世代の方や条件なんかを考慮していくと、一つの方法だけじゃなくて、二重にも三重にも、そういう情報をお伝えしていくツールというのは必要であるというふうに考えております。

今はその方向を模索しているということでございますので、これから今後、先進地の様子、あるいはいろんな各事業者、専門業者の方からも情報を取得する中で、具体的な検討に入ってまいりたいというふうに考えております。

○議長（沓掛計三君） 宮入議員。

○1番（宮入隆通君） 私もあえて情報電話の更新ということを申し上げませんでした。次になるものが電話でない可能性も私自身はあると思いますし、その時代のときにどういう形が一番最善なのか、情報をどうやって伝えることがいいのか。単なる情報電話を入れかえるという考え方ではなくて、情報をどうやってみんなに伝えたいのかということ、まず考えた上で、次の仕組み、そういったものを考えていくという、そういう順番で、今すぐ今の情報電話がもうだめになってしまうということはないということはわかりましたけれども、

今後の計画に関しては、考え方ですよね、そういったものをちゃんとしっかりした考え方を持った上での次のシステム、そういった考え方をぜひ持っていただければと思います。

また、そういった更新の構想をする際には、広く村民の方にも伝えていただいて、そういったものを本当に今必要とされているのか。御高齢者の方、若い人たちを含めて、いろいろな意見を聞いた上で検討していただければと思います。

続きまして、若者文化とまちづくりについてということで伺います。

漫画であるとかアニメ、ゲーム、ゲーム機器とかいろいろありますけれども、一昔前のイメージというと、部屋にこもって楽しむものとされてきました。現在では、インバウンド需要の柱の一つとされ、新たな日本の文化として世界的にも魅力のあるソフトとなっています。日本のことが好きな海外の人のほうが、我々よりそういったものに関しては詳しいこともたくさんあります。日本の魅力的な文化の一つとして育てていると言えると思います。

近隣の事例としましては、アニメでいえば、上田市が舞台となった「サマーウォーズ」があります。「訪れてみたい日本のアニメ聖地88」の2019年版に選ばれています。同じく小諸市を舞台にした作品の「あの夏で待ってる」という、そういった作品も選ばれているそうです。

「サマーウォーズ」、これはもう既に10年たったアニメーションの映画でありますけれども、聖地巡礼とあって、実際に映画に出てきた上田の景色を見て、その食べ物を食べて楽しむファン、こういった人たちが後を絶ちません。

また、ゲームでいえば、ポケモンGOというものがあります。一時は世界的に社会現象となり問題視されたこともありますので、聞いたことがある方も多いと思います。休日に上田城の城跡公園などに出かけますと、現在でも10名から20名くらいの団体が、スマホを見ながら移動していく、こういった光景に会うことがあります。聞くところによると、地元の人以外の方も多くて、観光しながら遊ぶというスタイルもあるようです。

このポケモンGOについては、2017年に行われました鳥取県鳥取砂丘で行われた3日間のイベントでは、砂丘の中で8万9,000人、砂丘外で3万人、この3日間のイベントで合計11万9,000人が集まったそうです。それまで鳥取砂丘は、年間150万人ぐらいの訪れる場所だったそうです。そこに3日間で11万9,000人集まったということでした。経済効果は観光消費額18億円、PR効果6億円の合計24億円と試算されているそうです。

予想外の参加者に、周辺の駐車場が間に合わなくて近隣の住民には迷惑がかかってしまった、そういった問題もありましたけれども、大きな成果があったと言えることだと考えます。

ちなみに、道の駅あおきにもポケモンGOの、そういったスポットがあるそうです。これは若者を集めるための一つのアイデアとして話をしています。

今後、青木村で生かせるものはないのでしょうか。婚活の神社としてこれから推していきたい、青木村には恋渡神社がありますが、アニメキャラクターが婚活を応援するような仕組みを考えてみてはどうでしょうか。また、五島慶太翁の記念館、五島慶太未来創造館（仮称）、こういったことを検討するということですがけれども、先日の講演会の話聞きまして、私は人物としての慶太翁のことに、とても興味を持ちました。やはり講演会に来た方も、そういったこと、実際のところどんな人だったんだろうと、そういったことに、やはり関心があるんじゃないでしょうか。

今、慶太翁に書かれている文献などを読みながら、どんな人であったのかを私は今いろいろ考えています。非常に興味深いんですね。そういったソフトとして人物像を描く、こういったところに、今言いましたアニメ、そういったものを使ったらどうでしょうか。アニメ制作をしたらどうでしょうか。もちろん、アニメ制作でなくても、例えば小説化をしてみるとかドラマ化をするとか、いろいろあるかと思います。

せっかく、こういった記念館というか創造館、こういったものをつくれるということですし、やはり皆さん、五島慶太はどんな人なんだろうと思って来るわけですから、それをやはり小さい子供たちから大人の人まで含めて理解していただけるもの、やはりそういったものが必要なんだと思います。使った机とか、何かそういったものは、よくある記念館はあるものですがけれども、そういったことだけではなくて、本当の人物はどういったものなのかということ、ここに来ればわかるんだという、そういうような記念館を私はつくってほしいなと思っていますが、そういった意味合いで、今回アニメとかの話をしていますので、できればアニメとかにしてもらえれば、子供たちにもわかりやすいかなというふうに思っているんですけども、青木村として、五島慶太翁の記念館に限りませんが、現在こういった、若者文化と言われているようなもの、そういったものに対する取り組み状況がありましたら教えていただければと思います。

○議長（沓掛計三君） お諮りします。

青木村会議規則9条第1項では、会議時間が午後5時までとなっておりますけれども、同条第2項の規定に基づき、会議の終了時刻を午後5時半までとしたいが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） よろしいですか。

それでは、5時半まで会議を続けるようにいたします。

それでは、新津商工観光移住課長。

○商工観光移住課長（新津俊二君） 特に若者を集めるために、アニメやアニメキャラクターなどを活用したような施策を展開したらどうかというようなことですが、現在のところは、アニメやアニメキャラクターを用いて、いろいろな各種事業を展開するということは検討はしていないところでございますけれども、頭を柔軟にして多くの若者を集めるということ、アイデアを発想するということは、施策を検討する中では必要な過程の一つかとは思っています。

あらゆる世代にいろんな関心を持ってもらえるように、現在はそばの花見祭りですとか産業祭、道の駅や昆虫資料館の各種イベントなどで、あらゆる施策を講じてはおりますけれども、村の活性化のために若者に関心を持ってもらえるような取り組みというものは、また、わかりやすい情報発信というものにも努めてまいりたいと思います。

○議長（沓掛計三君） 宮入議員。

○1番（宮入隆通君） 村長、すみません。五島慶太の慶太翁の記念館のことで、もし何かありましたらお願いします。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） 五島慶太翁記念館に関して御提言をいただきまして、ありがとうございました。

実は、五島慶太に関してはいろいろ本が出ておりますし、特に東京都市大学の附属中学校、高校の道徳の時間に「五島慶太伝」という、既に冊子があります。役場にも1冊ありまして図書館にも1冊ありますので、またごらんいただければというふうに思っております。これは道徳の時間用に大学が本当に力を入れてつくったものでありますので、そういう視点でも大変できております。

それから、いろいろ五島慶太の人物像をいろいろな形にしてというのがありますが、まさしくこれは来年度、一生懸命やらなければならない内容でありますので、大いに参考にさせていただきたいと思います。

しかし、1年目は、とにかく統括するほうが忙しくて、内容まで入らなければならないんですけれども、この人数でありますので、少し時間はかかるかもしれませんが、そういうような視点でやっていきたいと思っております。

○議長（沓掛計三君） 宮入議員。

○1番（宮入隆通君） ぜひそういった候補として入れて検討していただければと思います。

若者文化、こういったものをまちづくりに生かす自治体も出てきています。

川崎市の事例を挙げたいと思います。

昨年10月に若者文化の発信によるまちづくりに向けた基本方針、こういったものを出して、積極的にまちづくりに若者文化を取り入れていくとのことでした。

内容的には、現在の若者の文化を理解して、才能を生かし、持続可能なまちづくりに向けた取り組みとして、ブレイキンといって、昔ブレイクダンスとよく言っていたダンス、あとBMX、これは自転車の競技ですね。小さい車輪の自転車競技のことを言います。あとスケートボード、よくスケボーと言っているものです。そういったものにまちを挙げて注力できる環境づくりを行おうとしています。BMXは、既に2020年の東京オリンピックでは、レースとフリースタイルという2種目採用されている世界的なスポーツとなっています。

これは先進的な事例ですし、川崎市と規模が違いますから、同じことはできないと思いますが、今後の青木村を考えていく上で、若者たちが何を求めている、行政として何をサポートすることができるのかという考え方の参考にはなるのではないのでしょうか。

このような事例から学ぶべきものがあると考えますが、いかがでしょうか。

○議長（沓掛計三君） 新津商工観光移住課長。

○商工観光移住課長（新津俊二君） 他の自治体からの若者文化の取り入れについて学ぶべきものということでございますけれども、議員のおっしゃるように、若者文化とは、今、御紹介いただいたようなブレイクダンスですとかスケートボードだとか、アニメ巡礼だとか幅広くございますけれども、青木村では、昨年11月の総合文化祭で初めてダンスパフォーマンスというものがステージで披露されまして、存在感があるなというふうに示されたところです。

それから、中学校の文化祭、こまゆみ祭では、毎年やりのテレビ番組を模したような発表だとかに加えて、伝統になりつつある義民太鼓、これを1曲披露するといった継承もなされておりまして、青木村らしい新しい文化と伝統文化の融合が見られているなと思います。

とかく若者文化と言われますと、狭い範囲の若者たちの一定の志向を持った特別な人のひとりよがりというふうにとられるものもありますけれども、いろいろな世代で若者文化と言われる新しい文化を取り入れて、元気な村づくりにつなげていければ幸いだなというふうに思います。

○議長（沓掛計三君） 宮入議員。

○1番（宮入隆通君） ぜひこういった先進的な事例も参考にしながら、今後の村づくりに生かしていただきたいと思います。

若者文化について、我々が理解するということは重要であり、若者自身が熱中できるものがあればサポートしてあげたいところでもあります。若者文化に限ることではありませんけれども、青木村の役場内において、若い職員からの新しい提案、そういったものに対する採用の状況、そういったプロジェクトにおける若い職員をリーダーに置いて登用してあげるとか、そういった状況というのは今どういったことになっていきますでしょうか。教えてください。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） 全体を通して、若者あるいは若者文化という御提言、御質問でありますけれども、一言で言えば多様性ということになりますでしょうか。私は、そのキーワードというのは、楽しい、おしゃれ、明るい、にぎやか、元気、連携、遊び、人の出会い、自由参加、自由解散、出会い、おいしい、新しい仲間、あるいは孤独、ひとり、自発的、たくさん、大きい、ファッション、食べ物、いろいろあるかというふうに思っております。

若い人たちには若い感覚でやってもらうのが一番いいということで、責任を持ってやってもらうのがいいということで、実は青木村では一度、暮らしの便利帳というのをつくろうというふうに思いました。今も少し内容を充実してやっておりますけれども、このとき、やっぱりわからない人がつくったほうが一番わかるんじゃないかということと、若い人たちにも何か参画してやってもらいたいということで、チームを組みまして、3年生、4年生までだったでしょうか、課長補佐をアドバイザーとして立派なものをつくってくれました。

ちゃんと自分で村内の企業を回って、広告とりもしろということで広告までとって、そういう応援もいただき立派なものができる。これは一つの例示でありますけれども、相当自信になっただろうというふうに思っております。こういった発想を、時間的な余裕があればできるわけありますので、しっかり若者たちの意見も聞いていきたいと思っております。

私はいろいろ、村民の皆さんにもそうですけれども、例えば公園をつくる時も村民の皆さんから意見を聞きましたけれども、今の景観条例もそうですけれども、これも役場の職員全員から聞いて、いろんなところに反映をさせていただいております。

全村民の意見を聞くと同時に、特に若い人たちの意見も大切にしていきたいと思っております。

○議長（沓掛計三君） 宮入議員。

○1番（宮入隆通君） 若い職員の方も、青木村の中で、青木村の役場の中で活躍していただいているということだったかと思います。

青木村の役場の職員になるときには、自分で青木村をこういうふうにしたいと多分思いながら入ってこられたと、私自身はそう思っているんですけども、そういった最初のころ思っていたこと、そういったものが少しでも何か実現できるような仕事のやり方というか、そういったことも配慮していただきながら、青木村全体の行政全体がいい方向へ行くことを願っています。

私からの質問は以上です。

○議長（沓掛計三君） 1番、宮入隆通議員の一般質問は終了しました。

これで、通告のありました8人の議員の質問は全て終了いたしました。

◎総括質疑

○議長（沓掛計三君） 続いて会議を進めます。

これより平成31年度一般会計及び特別会計予算についての総括質疑を行います。
質疑のある方。

〔「なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） 以上で総括質疑を終了します。

◎委員会付託

○議長（沓掛計三君） 続いて、委員会付託を行います。

本会議に上程されました議案第10号から第16号までを常任委員会に付託したいと思います。すが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） 異議なしと認めます。

資料を事務局より配付いたします。

〔事務局資料配付〕

○議長（沓掛計三君） 資料が届きましたでしょうか。

それでは、片田事務局長より内容について御説明申し上げます。

○事務局長（片田幸男君） それでは、平成31年第1回定例会、議案等委員会付託明細について御説明申し上げます。

委員会付託する案件につきましては、今お話ございましたけれども、議案第10号から第16号までについて、それぞれの委員会へ付託をいたします。

以下の報告1件、それから議案第1号から9件、請願につきましては、最終日の本会議で御審議をお願いいたします。

初めに、第10号、平成31年度青木村一般会計予算につきましては、次のページをお願いいたします。

歳入につきましては、2枚目と3枚目、次のページまでにわたっております。該当するページについては、左端に記載してあります12ページから31ページまででございますので、よろしくをお願いいたします。

歳出につきましては、4枚目でございます。該当するページは32ページから159ページとなります。

また、特別会計については表のとおりとなります。

なお、付託の委員会名につきましては、右端の欄にそれぞれ記載してございます委員会をお願いいたします。

表に戻っていただきまして、議案第11号と第15号、16号、こちらが社会文教委員会をお願いいたします。議案第12号から第14号につきましては、総務建設産業委員会で御審議をお願いしたいと存じます。

以上、委員会付託分について御説明いたしました。

○議長（沓掛計三君） それでは、事務局長より説明がありました。

何か御不明な点はありますか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） よろしいですか。

以上で委員会付託を終了いたします。

◎散会の宣告

○議長（沓掛計三君） 以上で本日の日程は全て終了しました。

これにて散会といたします。

散会 午後 4時54分

平成 3 1 年 3 月 1 9 日 (火曜日)

(第 3 号)

平成31年第1回青木村議会定例会会議録

議 事 日 程 (第3号)

平成31年3月19日(火曜日) 午前9時開議

- 日程第 1 報告第 1号 専決処分の承認を求めることについて
- 日程第 2 議案第 1号 青木村美しい村づくり条例について
- 日程第 3 議案第 2号 特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について
- 日程第 4 議案第 3号 職員の勤務時間及び休暇等に関する条例の一部を改正する条例について
- 日程第 5 議案第 4号 五島慶太翁顕彰事業基金条例について
- 日程第 6 議案第 5号 寄附採納について
- 日程第 7 議案第 6号 上田地域広域連合ふるさと基金に係る権利の一部を放棄することについて
- 日程第 8 議案第 7号 平成30年度青木村一般会計補正予算について
- 日程第 9 議案第 8号 平成30年度青木村別荘事業特別会計補正予算について
- 日程第10 議案第 9号 平成30年度青木村介護保険特別会計補正予算について
- 日程第11 議案第10号 平成31年度青木村一般会計予算について
- 日程第12 議案第11号 平成31年度青木村国民健康保険特別会計予算について
- 日程第13 議案第12号 平成31年度青木村簡易水道特別会計予算について
- 日程第14 議案第13号 平成31年度青木村別荘事業特別会計予算について
- 日程第15 議案第14号 平成31年度青木村特定環境保全公共下水道事業特別会計予算について
- 日程第16 議案第15号 平成31年度青木村介護保険特別会計予算について
- 日程第17 議案第16号 平成31年度青木村後期高齢者医療特別会計予算について
- 日程第18 請願第 1号 長野県の子ども・障がい者等の医療費窓口完全無料化を求める請願について

出席議員(10名)

1番	宮入隆通君	2番	坂井弘君
3番	松澤正登君	4番	金井とも子君
5番	宮下壽章君	6番	沓掛計三君
7番	居鶴貞美君	8番	小林和雄君
9番	堀内富治君	10番	山本悟君

欠席議員（なし）

地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名

村長	北村政夫君	教育長	沓掛英明君
総務企画課長兼 兼事業推進室長	片田幸男君	参事兼 兼建設農林課長 兼農振係	花見陽一君
住民福祉課長兼 兼保健衛生係	小宮山俊樹君	教育次長兼 兼公民館長	横田孝君
保育園長	若林喜信君	会計管理者兼 兼税務会計課長	多田治由君
商工観光移住課長	新津俊二君	建設農林課長 兼上下水道係	横沢幸哉君
住民福祉課長兼 兼地域包括センター支援長	宮澤章子君	住民福祉課長 兼住民福祉係	上原博信君
総務企画課長兼 兼総務係	稲垣和美君	税務会計課長 兼住民税係	早乙女敦君
総務企画課長兼 兼企画財政係	小林利行君	税務会計課長 兼資産税係	奈良本安秀君
総務企画課長兼 兼事業推進室係	塩澤和宏君	建設農林課長 兼国土調査係	小林義昌君
総務企画課長兼 兼庶務係	小林宏記君	商工観光移住課長 兼商工観光移住係	上原信子君

事務局職員出席者

事務局長 片田幸男 事務局員 稲垣和美

開議 午前 9時00分

◎開議の宣告

- 議長（沓掛計三君） 皆さんおはようございます。
定刻になりましたので、本日の会議を開会します。
-

◎議事日程の報告

- 議長（沓掛計三君） 本日の日程は、最初に委員長報告をいただき、報告第1号から質疑、討論、採決の順で行います。
-

◎委員長審査報告

- 議長（沓掛計三君） それでは、各委員長より、委員会審議の内容について報告を願います。
最初に、総務建設産業委員会における質疑内容等について、委員長より報告を願います。
堀内総務建設産業委員長。

- 総務建設産業委員長（堀内富治君） 委員会の審査報告を申し上げます。

平成31年3月19日、青木村議会議長、沓掛計三殿。総務建設産業委員長、堀内富治。
委員会審査報告。

本委員会に付託の事件につき審査の結果、下記のとおり決定したので、会議規則第74条の規定により報告をします。

議案第10号 平成31年度青木村一般会計予算の認定について、総務建設産業委員会付託分であります。

歳入では、村民税、固定資産税、たばこ税などの増額の要因、地方交付税交付金の算定方法、企業ふるさと寄附金などについて質疑がされました。

歳出では、五島慶太未来創造館（仮称）の建設、ふるさと応援寄附金の返礼品、地域路線バス維持対策負担金、豚コレラ検査実績、国土調査の進捗状況、松くい虫対策や民間賃貸住宅家賃の補助などについて、多岐にわたり活発な質疑がございました。村長初め担当職員が

ら説明がございました。

平成31年度予算につきましては、限られた財源の中、各種補助金、交付金や企業版のふるさと寄附金制度等を活用して、五島慶太未来創造館（仮称）の建設事業を初め、バランスのよい青木村の将来を見据えた予算編成になっております。

今後とも積極的な取り組みを行う中、健全財政を保ち、末永い青木村の存続を期待をするとの賛成討論がございまして、全員賛成にて原案のとおり認定することに決定をしました。

議案第12号 平成31年度青木村簡易水道特別会計予算の認定について、臼川浄水場が稼働してからの水道事業の状況、水道料金の未納者の状況、公営企業移行に向けての業務の内容、村担工事の夫神減圧槽の工事や臼川ダムの水位計の設置等の質疑がされまして、討論なく、全員賛成にて原案のとおり認定することに決定しました。

議案第13号 平成31年度青木村別荘事業特別会計予算の認定について、除雪体制、住所不明者への対応などについて質疑がされ、討論なく、全員賛成にて原案のとおり認定することに決定をしました。

議案第14号 平成31年度青木村特定環境保全公共下水道事業特別会計予算の認定について、下水道使用料の増額の要因や、浄化センター処理、維持管理の委託の内容や、下水道接続状況等の質疑がされまして、討論なく、全員賛成にて原案のとおり認定することに決定をいたしました。

以上で、付託のありました事件につきまして報告申し上げまして、終わりたいと思います。ありがとうございました。

○議長（沓掛計三君） 続きまして、社会文教委員会について、委員長より報告を願います。

あわせて、先日実施されました視察研修についても報告をお願いします。

居鶴社会文教委員長。

○社会文教委員長（居鶴貞美君） おはようございます。

委員長報告をいたします。

青木村議会議長、沓掛計三殿。社会文教委員長、居鶴貞美。

委員会審査報告書。本委員会に付託の事件につき審査の結果、下記のとおり決定いたしましたので、会議規則第74条の規定により御報告を申し上げます。

議案第10号 平成31年度青木村一般会計予算について、社会文教委員会関係部分であります。

教育委員会関係では、障害児教育早期支援事業や移動知事室、小中学校におけるALT派

遺事業の成果、部活動指導員等について質疑応答がなされました。

住民福祉課関係では、紙おむつごみ処理補助金、高齢者生活福祉センター健康寿命延伸プロジェクト、青木診療所整備事業、インフルエンザ予防接種費用補助金等について質疑応答がなされ、国民健康保険特別会計への法定外繰り入れを認め、その財源を計上すべきとの反対討論等、教育福祉の連携による障害児早期教育支援事業など、村全体で子供を育てる仕組みの構築を認め、評価しますとの賛成討論があり、賛成多数にて原案のとおり認定することに決定をいたしました。

議案第11号 平成31年度青木村国民健康保険特別会計予算についてであります。

一部負担金の内容、繰入金の内容、基金の残高と今後の見通し、脳ドックの制度周知、健康診査受診者数の歳入歳出それぞれの算定根拠について質疑応答がなされました。

国保税率の大幅な増額を法定外繰り入れ等を活用して食いとめるべきとの反対討論と、厳しい財政状況では国保税の増はやむなく、会計の独立性を損なう法定外繰り入れを安易に行うべきではないとの賛成討論があり、賛成多数にて原案のとおり認定することに決定をいたしました。

議案第15号 平成31年度青木村介護保険特別会計予算についてであります。

介護保険料の算出根拠及び今後の見通し、介護給付費及び介護予防生活支援サービス事業費の給付見込みについて質疑応答がなされました。

介護給付費の増加に伴う保険料の値上げは再検討をし、給付費を抑えるために現在とは違った取り組みの実施が必要ではないかとの反対討論があり、賛成多数にて原案のとおり認定することに決定をいたしました。

議案第16号 平成31年度青木村後期高齢者医療特別会計予算についてであります。

こちらは、質疑、討論ともになく、全員賛成にて原案のとおり認定することに決定をいたしました。

続きまして、視察研修の報告を申し上げます。

青木村議会議長、沓掛計三殿。社会文教委員長、居鶴貞美。

本委員会における視察研修調査の結果を下記のとおり会議規則第74条の規定により御報告を申し上げます。

平成31年2月5日に、社会文教委員5名、教育長、住民福祉課の課長、センター長、係長、保健師の10名で視察研修を実施いたしました。

最初に、小学校の英語が教科化になったことを受けて、小学校の英語教育を先駆的に扱っ

てきた群馬県の高崎市立中央小学校です。

高崎市は英語教育推進に3つの柱があり、指導体制、指導内容、指導力により高い英語力を持つ児童生徒の育成をし、小学校の早い段階から英語に触れ、親しませております。また、高崎英語指定校で公開授業をしております。階段、壁に英語表記を実践し、日ごろから英語になれ親しむ工夫が見られました。

5年2組の授業参観で、ALTと担任の先生がネイティブな発音で、聞く、読む、話す、書く4技能を繰り返し、高める教育をしております。また、6年生が1年生に絵本の読み聞かせの授業の紹介があり、学校を挙げての英語教育を実感し、大変に参考になりました。

次に、青木村では健康寿命延伸プロジェクトを立ち上げ、2019年より5カ年の計画を策定中ですが、とりわけ壮年期への取り組みが重要であることから、県内でも早くから健康管理事業等に取り組み、成果を上げている佐久穂町へ視察研修を実施いたしました。

1として、健康づくりの事業の取り組みです。現在、保健師は正職員10人、臨時1人、病院からの派遣2人と計13人が配置されております。

生涯を通じた事業の推進のために、1として予防事業の充実、2として食育事業の充実、3として運動事業の推進、4として評価につながる健康づくり活動を柱に据えて、母子から高齢者、地区組織活動、食育に至るまで幅広く活動しております。

2として、特定健診受診状況と受診率向上の取り組みであります。総合検診として、集団検診、町民ドック、施設検診と層を厚くして体制を整備し、受診率向上のため女性限定日、夜間受診日を設けております。特定健診未受診者対策は、人間ドックの自己負担分を町が負担するドッククーポン券の発行や、保健師の個別訪問等にきめ細やかな対応があります。

3といたしまして、健康教育の状況等、町民への事業PRについてであります。

1つとして、夏に健康管理合同会議の開催をしております。2として、保健推進委員は町内に118名が配置され、活動をしております。

佐久穂町は、健康づくりにかかわる専門職のマンパワーが充実しており、地域に出て住民に寄り添い、ともに健康づくりを実践する姿勢や、地域の医療機関と連絡を密にとり、健康づくりを支援する体制が整備されていることに感銘を受け、実りのある研修となりました。

以上であります。

○議長（沓掛計三君） 委員長報告が終了しました。

◎報告第1号の質疑、討論、採決

○議長（沓掛計三君） 報告第1号 専決処分の承認を求めることについてを議題とします。

平成30年度青木村一般会計補正予算（第5号）の質疑に入ります。

質疑のある方。質疑ございませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） 質疑なしと認めます。

討論に入ります。

反対の方の討論を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） 賛成の方の討論を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） 討論終結、報告第1号を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方の挙手を願います。

〔挙手全員〕

○議長（沓掛計三君） 全員賛成。

よって、報告第1号 専決処分の承認を求めることについては原案のとおり承認されました。

◎議案第1号の質疑、討論、採決

○議長（沓掛計三君） 議案第1号 青木村美しい村づくり条例を議題とし、質疑を行います。

質疑のある方。

山本議員。

○10番（山本 悟君） 二、三ちょっとわからないことをお聞きして、あと目的等をお聞きしたいと思います。

6ページをお願いします。

6ページの第9条、終わりのほうなんですけれども、景観資産という言葉があるんですが、ある部分的に何かを特定するという意味なのか。例えば、夫神岳だけなら夫神岳とか、十観

なら十観とか、そういうふうな全体的なものを意味するのかというのを、解釈の仕方についてお聞きします。

それから、7ページの施行につきましてというところがあるんですが、施行は4月1日からで、運用規定は7月1日と。何かおもしろい言い方というか、今までこういうのあったのかなというのが俺の中であったものでお聞きしますが、あえてこういうふうにしたのは、どういう意味なのか。

それから、本条例をつくるについて、1条の目的とも競合するかもしれませんが、一体期待されるメリットって一言でいえば何なんだろう。村民の皆様はどうやって、こういった意識の変革といいますか、考えを持ってもらうかというふうな、その4点ほどについてお尋ねいたします。

○議長（沓掛計三君） 片田総務企画課長。

○総務企画課長兼事業推進室長（片田幸男君） お答えいたします。

景観資産に関する考え方については、今、議員さんおっしゃった特に守るべきようなところを特別に指定してという考え方でございます。例えば、大法寺の三重塔ですとか、そんなようなところを、その周りをとというふうな考え方でよろしかったかと思えます。

施行の期日についてでございます。4月1日から施行するというので、届け出については、一定の周知期間が必要であろうということで、3カ月の猶予を持って7月以降の届け出から適用していくと、そういう考え方でございます。

○議長（沓掛計三君） 山本議員。

○10番（山本 悟君） 今の聞いたメリット、何を一番目的、第1条と同じような意味かもしれませんが、一言で言うと何を一番期待しているんだろう。

簡単な言葉で。

○議長（沓掛計三君） 片田総務企画課長。

○総務企画課長兼事業推進室長（片田幸男君） 御承知のとおり、青木村は美しい自然環境に恵まれた村でございます。これから国道143号のトンネルの開通とかも見据える中で、一番は秩序ある開発といいますか、美しい自然は守り、一方で、開発という言い方は変ですけども、商工業の発展等も見据えた中で、秩序ある開発をとということでございます。今回の条例の制定を一つのきっかけにして、そういう良好な景観づくりに対する意識啓発、そんなようなことを図ったりというようなことを目的としています。

○議長（沓掛計三君） 山本議員。

○10番（山本 悟君） 当村では余り危惧する必要はないかもしれませんが、今の北海道の知床とか、ああいうところでは外国資本が水を求めて、目には日本法人かもしれませんが、裏ではやっぱり外国の資金で何かいろんな自然を買い求めてというような、余りよくない話だと思うんですが、あるんですが、当村はそれほどのことを考えなくてもいいのかもしれませんが、それが1つと。

あと、例えば太陽光なんかの場合、景観の関係でかなりいろいろあると思うんですけども、今のは綱領ですか、何かもうちょっと具体的な何かを村で、条例とか何かつくらなければいけないのかなというふうな、そんなふうだと思うんですが、その辺はいかかでしょうか。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） この美しい村条例は、議会でも何回か議員さんから御質問いただいたり、御要望いただいたり、検討するような御指示をいただいております。

今まで、青木村の土地利用の歴史を見てくると、かつてはゴルフ場の話がありましたし、それから今課長が言いました143号が今後出てくるだろうと。それからもう一つ、やっぱり荒廃地ですよ、遊休荒廃地、遊休じゃなくなるかもしれませんし、それから松林のこともあります。1つは、こういうことをつくることによって、村民の意識を皆さんに、村民の皆さんのみならず行政も、議員さんにもそうなってほしいし、それから外部の開発者にもそういう意識を持ってもらいたい。

そういうようなことから、いろいろ私どもの村では、都市計画区域外ですから都市計画法が適用外になります。ですから、これは積極的に自分たちでやっていかないと、規制と誘導ができないということもあわせて、この考え方、条例を上程した次第でございます。

○議長（沓掛計三君） ほかにございますか。

居鶴議員。

○7番（居鶴貞美君） それでは、第7条についてお聞きをいたします。

この関係につきましては、青木村美しい村づくり条例（概要版）がございます。その関係の4のところで、届出対象行為・規模というところがありますが、ここを読みますと、「長野県景観条例に基づく届出対象行為・規模以外のものになります」と、いわゆる青木村独自の条例だと、このように思うわけですが、この関係におきましてこれを読みますと、まず、エリア区分とかこれを見ますと、長野県の景観条例がございますが、ここに書いてあるのは長野県景観条例と重なるものはないと、こういう解釈でよろしいでしょうか。

おわかりになりますか。例えば、商工業・業務エリアで高さ13メートルまたは建築面積

1,000平米超と、このようになっているんですが、これは県の関係の条例と今先ほど申し上げました青木村独自と、このように解釈をしましたので、それは重なっていないかどうかと、こういうことをお聞きしたいんですが。

○議長（沓掛計三君） 片田総務企画課長。

○総務企画課長兼事業推進室長（片田幸男君） 商工業・業務集積エリアにつきましては、県のものと同様でございます。そのほかの温泉街エリア、また田園・里山エリア等そのほかのエリアについては、それよりもちょっと小さな規模から村のほうで規制をかけているというような状況でございます。

○議長（沓掛計三君） 居鶴議員。

○7番（居鶴貞美君） これを見ますと、県の景観条例と見ると、恐らく田園・里山のその関係が村独自のものかなと、このように解釈できるんですが、今申し上げたように、前の文面を読むと長野県景観条例に基づく以外のものと、このように書いてありましたので、その点を確認をまずさせていただいたということでございます。

ですから、青木村独自でやるものかどうかと、こういうふうに思うんですが、太陽光発電、これを見ますと「築造面積、発電出力問わずすべて」とこれ、要綱にそのようになっておりますので、ここは明らかに県とは違うと、県はもう少し緩くなっております。

ですから、村としてどれを一番ポイントにされているのかなというのが、私のほうで知りたいんですが、県とかぶっているんですが、今の太陽光なんか特にそうだと思うんですが、それ以外には村独自というものはこの中におありなんですか。

○議長（沓掛計三君） 片田総務企画課長。

○総務企画課長兼事業推進室長（片田幸男君） 今回の美しい村条例につきましては、村独自の条例、村は今回は景観行政団体にはならないで、県の条例を補完する形で青木村の美しい村づくり条例を制定したということでございます。ですから、県の条例は大前提にあります。その中で、担保し切れない部分について村のほうで細かく定めたという考え方でございますので、御理解いただければと思います。

○議長（沓掛計三君） 居鶴議員。

○7番（居鶴貞美君） わかりました。

もう一つ教えてもらいたいんですが、この検討委員会というのが3回ほど行われているということですが、このメンバーの中で長野大学の先生がお一人入っております。それで、具体的に数字が上がってきているんですが、これ長野大学の先生のものに基づいてこう

いう数字、例えば高さ10メートルとかもろもろあるんですが、これは今のそのメンバーの方のものによってこの数値は出てきたと、こういう解釈でよろしいでしょうか。

○議長（沓掛計三君） 片田総務企画課長。

○総務企画課長兼事業推進室長（片田幸男君） 数値等につきましては、他市町村の状況等もいろいろと勘案する中で幾つか御提案を申し上げて、その中で、教授、アドバイザーの御意見もそうですし、その委員の皆様御意見も反映する中で決定したということでございます。

○議長（沓掛計三君） 居鶴議員。

○7番（居鶴貞美君） そうしますと、いわゆる民間の業者等への相談とかそういうことはなかったと、こういうことですか。あくまでもメンバーで決めたと、こういうことでよろしいでしょうか。

○議長（沓掛計三君） 片田総務企画課長。

○総務企画課長兼事業推進室長（片田幸男君） そう御理解いただいてよろしいかと思えます。

○議長（沓掛計三君） 居鶴議員。

○7番（居鶴貞美君） これは、第3回の資料をちょっと私お預かりした中に、今なぜ申し上げたかという、ここに株式会社KRCという方がここに載っているんですが、そのためにお聞きしたんですが、こことは、KRCとは関係ないという御答弁ですか。

○議長（沓掛計三君） 片田総務企画課長。

○総務企画課長兼事業推進室長（片田幸男君） 今、おっしゃられたKRCは、私どもがこの条例を制定する上で、コンサルタントとして委託をした業者でございます。条例制定に向けてコンサルタントという形で御協力をいただいた会社でございます。

○議長（沓掛計三君） 居鶴議員。

○7番（居鶴貞美君） ということは、これは費用を伴っておりますよね。どのくらいお支払いになったかどうかおわかりですか。

○議長（沓掛計三君） 片田総務企画課長。

○総務企画課長兼事業推進室長（片田幸男君） 確認いたします。

○議長（沓掛計三君） ほかにございますか。

宮入議員。

○1番（宮入隆通君） 今回、条例案作成に当たって、パブリックコメントを行っていると思います。その結果と、それをどのように今回この案に反映されているのかということをお教えいただきたいのと、もう一点、耕作放棄地、先ほども村長からもありましたけれども、荒

廃地をこれ以上ふやさないようにするためという目的があるかと思いますが、これはこの条例案の中のどこに含まれているのでしょうか。お願いします。

○議長（沓掛計三君） 片田総務企画課長。

○総務企画課長兼事業推進室長（片田幸男君） パブリックコメントにつきましては、5件ほど御意見をいただいております。

あと、耕作放棄地等の関係でございますけれども、その意識を持っていただくというところで書かれております。

○議長（沓掛計三君） 宮入議員。

○1番（宮入隆通君） そのパブリックコメントのその辺がどのように反映されているのか、もしありましたらお願いします。

○議長（沓掛計三君） 暫時休憩といたします。

45分から再開します。

休憩 午前 9時35分

再開 午前 9時40分

○議長（沓掛計三君） 時間ちょっと早いですけれども、準備ができたようですので、再開いたします。

片田総務企画課長。

○総務企画課長兼事業推進室長（片田幸男君） パブリックコメントへの対応ということで、申しわけございません。確認いたしましたところ、3件のパブリックコメントをいただいております。いずれも中身的には、細かいところに踏み込んだ内容ではなくて、むしろ条例制定に肯定的といいますか、賛同するような内容でございました。

また、あわせて、先ほど居鶴議員さんのほうから委託料についてのお話ございましたけれども、業務支援委託料ということで294万8,400円を見積もり入札を行いまして、KRCにお支払いしてございます。

○議長（沓掛計三君） ほかにありますか。

宮入議員。

○1番（宮入隆通君） 先ほど耕作放棄地の件の回答がちょっとよくわからなくて、どの辺に

含まれているのか、その辺回答をお願いします。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） 村の課題として、今後これが大きくなっていくだろうということで、1章の前文に、あるいは目的のところにありますように、保全する、育成する、それから土地利用のことについて保全していきたいというようなことで、全体にわたる課題の中で私どもは承知して、これを前提としています。そういう意味でございます。

○議長（沓掛計三君） 居鶴議員よろしいですか。先ほどの金額の面はよろしいですか。

ほかにございますか。

小林議員。

○8番（小林和雄君） 美しい村づくり条例とか景観条例の場合に、いろんな規制があったり、それから壁とか屋根の色とかそういうのいろいろあるんですが、これの表彰規程というのはいないんですか。割と景観条例なんかでは表彰規程がありまして、それでその場合、他の見本となるようなものをつくった場合に、それを表彰して皆さんに今度はこういう見本となるようなものをつくって、ぜひこのようなものをまねして、まねというのはそれに倣ってつくってもらいたいというようなことがあるんですが、そういうものはないんですか。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） これは議論するときに、当然私ども事務局の段階ではそんな話も出たりしましたけれども、私どもの村はいわゆる民間の建築、住宅以外の建築というのはそうないわけですね。ですから、表彰する対象のものが非常に少ないので、そういうことは今回は落としましたというか、今回の条例には盛り込んでございません。上田の場合でも、結構、建築賞みたいな考え方、あるいは地域づくり賞みたいなことで表彰しているのを新聞等で拝見しますけれども、なかなか青木村全体で見るとそういう例示が少ないことから、今回は対象としてございません。

○議長（沓掛計三君） ほかにございますか。

坂井議員。

○2番（坂井 弘君） 5点ほど質問をいたします。

まず、1点目ですが、第7条、8条にかかわって質問いたします。

8条に助言または指導とございますが、第7条、規則に定める規模を超えた場合について、この8条の助言または指導は、規模を超えた場合の全てにおいて行われると解釈してよろしいでしょうか。すなわち、規則に定める規模を基準として、行為が全て規制されるというふ

うに解釈してよろしいでしょうか。また、助言または指導の解釈ですが、この点は法的拘束力を持つのでしょうか。

1点目、お願いします。

○議長（沓掛計三君） 片田総務企画課長。

○総務企画課長兼事業推進室長（片田幸男君） 議員さん御指摘のとおり、助言、指導については、基準を超えるようなものについては、助言、指導を行っていくということでございます。ただし、罰則規定は設けておりません。必要に応じて勧告等を行っていくという内容でございます。

○議長（沓掛計三君） 坂井議員。

○2番（坂井 弘君） 2点目です。

9条、10条にかかわるかと思いますが、先ほど宮入議員のほうから耕作放棄地についてというふうな御質問あったところでございますが、一般質問で私のほうでは空き家対策というふうなことを話題にいたしましたけれども、この9条、10条の部分にそうした空き家の管理あるいは耕作放棄地、そういったものについての適正管理という部分ではここが適用できるのではないかというふうに思ったわけなんです、それにかかわってはいかがでしょうか。

○議長（沓掛計三君） 片田総務企画課長。

○総務企画課長兼事業推進室長（片田幸男君） 議員さん御指摘のとおり、ここにも書いてございますが、著しく周囲の景観を阻害しているというようなふうに認められるときは、改善要請または勧告をすることができるということでございます。

一方、空き家については、景観というものもございますけれども、そのほかにも環境の関係だとか、安全・安心の関係、防災的な関係、さまざまな要素が考えられますので、空き家については、また空き家対策のほうで踏み込んでいく必要があるかなというふうに理解しております。

○議長（沓掛計三君） 坂井議員。

○2番（坂井 弘君） 3点目であります。

11条にかかわって、先ほど山本議員から御指摘ありました景観資産ということにかかわってでございますが、この部分について、当該区域の景観の保全・育成のために必要な基準を別に定めることができるというふうなうたってあるわけですが、この別に定める基準については、現在まだ定まっておらず、必要に応じて定めるという解釈でよろしいのでしょうか。

○議長（沓掛計三君） 片田総務企画課長。

○総務企画課長兼事業推進室長（片田幸男君） そのとおりでございます。

○議長（沓掛計三君） 坂井議員。

○2番（坂井 弘君） 4点目でございます。

概要版の2のエリア区分の地図にかかわる質問でございます。

国道143号線殿戸停留所から道の駅西端までの間の国道の南側、このみが国道に面した部分では商工業・業務集積エリアから外され、田園・里山環境エリアとなっているかと思いますが、その理由をお聞かせください。

○議長（沓掛計三君） 片田総務企画課長。

○総務企画課長兼事業推進室長（片田幸男君） 国道沿いのエリアの指定という考え方でよろしいかと思えます。国道沿線につきましては、今、御指摘にありました殿戸の入り口のところまでは北側、南側とも商工業・業務集積エリア、その下、道の駅から先は北側だけが一部、それで殿戸の今度上田側の入口のところからは、また上下といいますか、国道北側、南側ともに業務集積エリアというような形になっております。ここは、ふるさと公園からの眺望を意識した設定となっております。

○議長（沓掛計三君） 坂井議員。

○2番（坂井 弘君） 最後にいたします。

概要版の字句・表現に修正すべきかと思われる箇所が散見されますけれども、これについては、条例制定後、御指摘ということでも修正ができるでしょうか、それともここで指摘しておかなければならないでしょうか。

○議長（沓掛計三君） 片田総務企画課長。

○総務企画課長兼事業推進室長（片田幸男君） 概要版につきましては、今議会の終了後、作成をしまして全戸に配布する予定でございますので、ぜひともまた、お気づきの点がございましたら御指摘いただければと思います。

○議長（沓掛計三君） ほかにございますか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） なしと認めます。

ここで質疑を終了します。

討論に入ります。

反対の方の討論を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） 賛成の方の討論を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） 討論終結、採決を行います。

議案第1号は原案のとおり決定することに賛成の方の挙手を願います。

〔挙手全員〕

○議長（沓掛計三君） 全員賛成。

議案第1号 青木村美しい村づくり条例については原案のとおり可決されました。

◎議案第2号の質疑、討論、採決

○議長（沓掛計三君） 議案第2号 特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例についてを議題とし、質疑を行います。

質疑のある方。

〔「なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） 質疑なしと認めます。

これで質疑を終了します。

討論に入ります。

反対の方の討論を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） 賛成の方の討論を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） 討論終結、採決を行います。

議案第2号は原案のとおり決定することに賛成の方の挙手を願います。

〔挙手全員〕

○議長（沓掛計三君） 全員賛成。

議案第2号 特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例については原案のとおり可決されました。

◎議案第3号の質疑、討論、採決

○議長（沓掛計三君） 次に、議案第3号 職員の勤務時間及び休暇等に関する条例の一部を改正する条例についてを議題とし、質疑を行います。

質疑のある方。

坂井議員。

○2番（坂井 弘君） 本条例の改正については、総務省通達を踏まえての提案であるというふうに承っております。改正条文でいうところの、村長が規則で定めるといふ部分の規則の内容が不明確であります。提案説明では、内容については未通知ということであったかと思いますが、現時点でもその規則内容に関する通知はないのでしょうか。

○議長（沓掛計三君） 稲垣総務課長補佐。

○総務企画課課長補佐兼総務係長（稲垣和美君） それでは、お答えを申し上げます。

規則に関しましては、人事院規則をベースに今後一部改正をさせていただき予定で準備を進めてございます。また、長野県のほうでも、規則がこのほど一部改正されたものが公布されましたので、そちらの内容も精査した中で、両方照らし合わせて村としても規則を定めていく予定でございます。

今、想定している内容につきましては、超過勤務命令の上限時間を設定させていただくところがまず1点でございます。内容としましては、任命権者は次に掲げる職員の区分に応じ、それぞれ上限の時間の範囲で超過勤務を命ずることができる。一般的な職員に関してというふうに解釈していただいてもいいと思うんですけども、1カ月について45時間以下、1年について360時間以下というものが一般職員の超過勤務の時間の上限でございます。

他律的な業務、要は比重の高い部署に勤務する職員がいた場合には、1カ月について100時間未満、2カ月から6カ月平均で80時間以下、1年について720時間以下。ただ、1カ月について45時間を超えて超過勤務を命じることができる月数は、1年について6カ月以内に限るといふものが1つ目の改正の予定内容でございます。

上限時間の特例として2つ目に定める予定の内容につきましては、任命権者は大規模な災害等への対処、その他重要な業務に従事する職員に対しては、先ほど申し上げました上限時間を超えて超過勤務を命ずることができる。ただ、この場合においては、当該職員に命ずる超過勤務を必要最小限にとどめるとともに、健康確保に最大限配慮しなければならないという規定を載せる予定が2つ目の内容でございます。

最後、3番目でございますけれども、超過勤務の縮減に向けた対策の実施ということで、任命権者は業務の削減、合理化に取り組むなど超過勤務の縮減に向けた適切な対策を講ずるものとし、上限時間を超えて超過勤務を命じた場合には、少なくとも年1回その要因の整理、分析等を行い、検証を行うものとする。これを盛り込む予定で、今準備を進めてございます。以上です。

○議長（沓掛計三君） 坂井議員。

○2番（坂井 弘君） 詳しく説明をしていただき、概要がわかりました。ありがとうございました。

こうした職員の勤務時間、あるいは待遇、そういったことにかかわる内容につきましては、職員団体の合意に基づくことが原則になっているのではないかなというように理解するところですが、条文にのっとり村長が、先ほど御説明いただいた規則を定めるという場合にあっては、職員団体の合意を得た中で行われるというふうに理解しておいてよろしいでしょうか。

○議長（沓掛計三君） 稲垣課長補佐。

○総務企画課課長補佐兼総務係長（稲垣和美君） そのとおりで結構でございます。今後、制定する前に職員労働組合等と調整を図って進めてまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（沓掛計三君） ほかにございますか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） 質疑なしと認めます。

これで質疑を終了します。

討論に入ります。

反対の方の討論を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） 賛成の方の討論を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） 討論終結、採決を行います。

議案第3号は原案のとおり決定することに賛成の方の挙手を願います。

〔挙手全員〕

○議長（沓掛計三君） 全員賛成。

議案第3号 職員の勤務時間及び休暇等に関する条例の一部を改正する条例については原案のとおり可決されました。

◎議案第4号の質疑、討論、採決

○議長（沓掛計三君） 次に、議案第4号 五島慶太翁顕彰事業基金条例についてを議題とし、質疑を行います。

質疑のある方。質疑ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） 質疑なしと認めます。

これで質疑を終了します。

討論に入ります。

反対の方の討論を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） 賛成の方の討論を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） 討論終結、採決を行います。

議案第4号は原案のとおり決定することに賛成の方の挙手を願います。

〔挙手全員〕

○議長（沓掛計三君） 全員賛成。

議案第4号 五島慶太翁顕彰事業基金条例については原案のとおり可決されました。

◎議案第5号の質疑、討論、採決

○議長（沓掛計三君） 続いて、議案第5号 寄附採納について質疑を行います。

質疑ございませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） 質疑なしと認めます。

これで質疑を終了します。

討論に入ります。

反対の方の討論を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） 賛成の方の討論を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） 討論終結、採決を行います。

議案第5号は原案のとおり決定することに賛成の方の挙手を願います。

〔挙手全員〕

○議長（沓掛計三君） 全員賛成。

議案第5号 寄附採納については原案のとおり可決されました。

◎議案第6号の質疑、討論、採決

○議長（沓掛計三君） 続いて、議案第6号 上田地域広域連合ふるさと基金に係る権利の一部を放棄することについて質疑を行います。

山本議員。

○10番（山本 悟君） 内容については賛成なのですが、手続的なことについてお尋ねします。

かつて、マイカルの社債を事務局が連合長とか副連合長も十分承知しない中で購入をして損害を与えたと。これについての損害は権利放棄という形で充当したという過去の歴史があります。今回の場合は医療圏のことでもって、全体でそれを応援しようというそういう意味なんで、どうしてこの権利放棄という形をとるのか。私は負担金とか、あるいは拠出金とかそういった形で、権利放棄というのはちょっとこういうときに充当するものなのかなという、単なる手続的な、私の主観かもしれませんが、その辺はどんなふうに解釈したら納得できるのかお尋ねします。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） 資料をごらんいただきたいんですけども、上田地域広域連合ふるさと基金に係る権利の一部を放棄することについてのふるさと基金の説明がございます。

これは、上小地域のいわゆる一体的な発展を目指した事業を展開し云々と書いてあります。県からもこの原資をいただいております。そういう中で、これがなければ、今、山本議員がおっしゃったような負担金とかそういう形で出すんですけれども、そういう目的でももちろん青木村もこれに出資しておりますので、ここから出していくということで、そのほかにも基金を使った事業もやっておりますけれども、もともとがそういう目的でつくられたという御理解をいただきたく思います。

○議長（沓掛計三君） 山本議員。

○10番（山本 悟君） ちょっとよく理解できないんですけれども、これは私の考え方かもしれないんですが、何らかの不可抗力とか何かがあってどうしようもないからこれを権利放棄しようというのはわかるんですけれども、あらかじめ計画してやった事業なんだから、私は負担金なり拠出金がいいのかなというふうに思ったんですが、これは考え方の違いですのでわかりました。説明は十分お聞きしました。

○議長（沓掛計三君） よろしいですか。

堀内議員。

○9番（堀内富治君） 内容的には理解はしておりますけれども、私は大変よい方法だというふうに考えております。もう何年になりますか、大分前からでありますけれども、長野病院当時、本当に麻酔医がいなくて手術もできないと、こういうようなことがありまして、病院の医師は30人くらいだろうかと、こんなような評判が立ったときに大変な状況にあったというふうに私は思うわけでございます。

質問したいと思いますけれども、ずっと今まで継続してやってまいりましたけれども、その成果と状況についてをどんなふうに考えておられるのか。それから、佐久総合病院の対応はどう考えておられるのか。まず、お願いをしたいと思います。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） この成果でありますけれども、今、お話ありましたように上田小県地域は大変なお医者さん不足であります。それで、中核病院となりますこの信州上田病院について、お話ありましたようにお医者さんの数が30人台まで下がりましたけれども、今70人近くにふえております。今までできなかった専属の麻酔医、常勤の麻酔医さんですね、周産期の関係、こういうこともできるようになりました。ということで、資料にありますようないろいろな事業ができることになったというのは、このふるさと基金を使った大きな成果であるというふうに思っております。

それから、佐久総合病院、私どもの村は3次医療圏の病院は佐久総合病院になるわけでありませぬけれども、佐久総合病院に救急医療ができたときの負担金を出しておりますので、そういう意味で、私どもが何件か、何割か救急車が佐久まで行くわけですけれども、そういうことの対応をこの基金を使いまして、佐久総合病院に3次医療圏のメンバーとしての義務は果たしているところでございます。

○議長（沓掛計三君） 堀内議員。

○9番（堀内富治君） 病院内部のことは大変立派に整備されているようでありますから、何も言うことはございませんけれども、輪番制病院ですね、輪番制の整備もされておるといふふうに私は承知をしておりますけれども、今、この辺の内容はどのような実態かお伺いをいたしたいと思いますし、もう一つは、産婦人科が非常にとにかく弱体であったというようなことも聞いておるわけでございますけれども、現状、大分回復をして立派にとにかく仕事もされておるといふふうに考えておりますが、この辺はどういう状況であるのかお伺いをします。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） 輪番制病院につきましては、本当にお医者さんたちの献身的な御努力といひましようか、自己犠牲といひましようか、ということで成り立っているなと思ひます。

昨年暮れに輪番病院、それから信州上田医療センター、そして広域連合のメンバーで会合を持ちました。その際も、それぞれが大変御苦勞されているなということを感じたわけでありませぬけれども、その中でいろいろ悩みとか、ああしてほしいというようなお話もいろいろ出ましたけれども、こういった人たちの中核病院の下の病院、民間の病院の皆さんによってこれが成り立っている。さらに、信州上田医療センターがそのバックアップをしているということ、非常にうまい取り組みをしているなというふうに思ひます。

それから、産院のほうもこれは上田一律になりますけれども、いろいろ私どものほうでも財政的な支援をさせていただきますして、周産期の医療もできるようになりました。大分このところは改善されてきたなというふうに感じております。

○議長（沓掛計三君） 堀内議員。

○9番（堀内富治君） 現在、各病院では高度な医療機器を利用しながら仕事を進めておるわけでありませぬが、その辺もこれからの重要な問題だといふふうに私は思ひます。今、私は成果は上がっておるといふふうに聞いてはおりますけれども、これからの対応として、やっぱりこういう方式でそれぞれ問題のないような方向づけをしていくのかどうか、お伺いをした

いと思います。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） 今、この圏域で課題になっていますのは、一つは信州上田医療センターのがんに対する中核病院になってほしいと、これにはお医者さんの数とか機器とかありまして、もう少しこれには課題がございます。

それから、もう一つは、救急部ですよ、救急車が行って緊急手術ができる。そのためには、相当のふだん担当患者さんを抱えていない、診察をしない先生あるいは看護師さんたちを常に持っていなければならないという財政的な相当な負担もあるわけでありましてけれども、この2つが今私ども喫緊の課題であるということで、広域連合と信州上田医療センターで話し合いを進めております。

○議長（沓掛計三君） ほかにございますか。

金井議員。

○4番（金井とも子君） 反対するものではございませんけれども、この原資ですけれども年々減っております、大体年に約1億円近く使っているわけですけれども、あと10年くらいもつかないという感じはありますけれども、その後の増資というものがあるのでしょうか、終わったらもうおしまいということなんでしょうか。その辺教えていただきたいと思います。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） 先ほど山本議員の質問にも関連するんですけれども、坂城町は広域連合のメンバーではありますけれども、このふるさと基金には参画しておりませんので、負担金という形で坂城町は出しております。これも私どもの信州上田医療センターがないときの話なんですけれども、広域連合のメンバーで話したときに、一定限度で周期設定をすべきかなというような話題も出ております。

ただ、全体といいましょうか、上田小県の医師不足というのは相当深刻でありますし、これからも日本全体、長野県が特にそういう状況でありますので、相当私どもも今やっているような財政支援をしないと現状維持もできないのかなと、さらにやっていただきたいところがありますけれども、周期を設けるか、その後どうするのかというのは、そう遠くない将来にもう少し深まった議論をしていく必要があるというふうに思っております。

○議長（沓掛計三君） ほかにございますか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） 質疑なしと認めます。

これで質疑を終了します。

討論に入ります。

反対の方の討論を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） 賛成の方の討論を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） 討論終結、採決を行います。

議案第6号は原案のとおり決定することに賛成の方の挙手を願います。

〔挙手全員〕

○議長（沓掛計三君） 全員賛成。

議案第6号 上田地域広域連合ふるさと基金に係る権利の一部を放棄することについては原案のとおり可決されました。

◎議案第7号の質疑、討論、採決

○議長（沓掛計三君） 続いて、議案第7号 平成30年度青木村一般会計補正予算についてを議題とします。

質疑のある方。

山本議員。

○10番（山本 悟君） 12ページをお願いします。

9の教育費なんですが、その中の節の19負担金補助及び交付金ですが、002の私立幼稚園就園奨励補助金66万7,000円でございますが、もう一度御説明をお願いします。

○議長（沓掛計三君） 沓掛教育長。

○教育長（沓掛英明君） 上田の幼稚園に通っているお子さんに対する奨励補助金であります。それが当初よりも人数がふえたので、見込みより増になったものです。ちなみに、対象者は2つの園で幼児の人数は7名でございます。

○議長（沓掛計三君） 山本議員。

○10番（山本 悟君） 当初予算よりも希望者がふえたから奨励金がふえたと。私はこれ奨励金という言葉は何でくっついているのかわからないんだけど、村の意識とすれば別に

奨励しているわけじゃない。しょうがない負担金というわけにもいかないから、それがつけてあるのかもしれないけれども、当然、私立幼稚園にしてみれば国・県からの補助金もあるんでしょうし、市町村からのこういった形もあるというようなことで、私立幼稚園側から見れば何かいい補助金だなと思うんですが、村としては、例えば、その村の子供さんが上田の私立幼稚園に行きたいという場合に、反対するというわけにはいかないでしょうし、賛成を強くするという事は可能かもしれませんが、その辺、教育長どうなんですか。本音のところを。

○議長（沓掛計三君） 沓掛教育長。

○教育長（沓掛英明君） 奨励という言葉は、国から私立幼稚園就園奨励費補助金という名前で出ているので、その名前をそのまま使ったということではありますが、奨励していいのかというのは私も何度もお話し申し上げているんですが、青木の保育園にぜひ行ってもらいたいという気持ちはもう強く持っておりますし、ちょっと余談になるんですが、きのう知事が来られて、移動知事室がありました。青木の本当にさまざまな取り組みをお聞きいただき、知事も大変感動して帰られたというふう聞いています。

私たちも、改めて青木の子育ての多くの人のシステムができ上がっていること、本当に熱心に取り組んでいただいていることを再確認したので、いろんなところで発信して、青木村の子は村で育てる方向をこれからも頑張っていきたいというふうに思っております。

○議長（沓掛計三君） ほかにございますか。

坂井議員。

○2番（坂井 弘君） 2点お願いします。

1点目ですが、3ページ、繰越明許費の2番、義民太鼓こまゆみ会国際交流事業補助金にかかわるところですけれども、訪問は8月と聞いておりますが、アイルランドへの海外遠征、これにかかわって事前あるいは事後、こうしたこまゆみ会の取り組みに対する村民が応援しているというふうな、そういった催しをする用意があるかどうかお聞かせください。

○議長（沓掛計三君） 北村村長。

○村長（北村政夫君） 義民太鼓のこまゆみ会の皆さんとまた相談してみたいと思っております。

○議長（沓掛計三君） 坂井議員。

○2番（坂井 弘君） 2点目ですが、11ページ、教育総務費の目4 学校施設環境改善事業費ですけれども、この部分、全体が前回、1月臨時議会だったと思いますけれども、そこでは

中学校費として位置づけられていました。小学校区分の空調設備設置工事も中学校での予算措置にするのはなぜかと質問いたしましたが、お答えは一括中学校費に位置づけて工事をしたほうが安価になる、いろんな手続上、そのほうが有利だというふうな御説明であったかと思えます。それから2カ月を経ないうちに、教育総務費に措置がえをした理由は何でしょうか。

○議長（沓掛計三君） 小林企画財政係長。

○総務企画課企画財政係長（小林利行君） ただいまの御質問についてお答えをいたします。

先ほど議員おっしゃられたとおり、12月の補正では教育総務費の中の中学校費のほうに入っていたわけですが、1月に入りましてこちらのほうの財源、起債等を学校教育施設等整備事業債を借りるに当たりまして、やはり小学校のほうの工事費はこちらのほうに分けたほうが良いというような御指導をいただきまして、今回補正をさせていただいた次第でございます。

以上です。

○議長（沓掛計三君） 坂井議員。

○2番（坂井 弘君） 指導があるまでは、こちらのほうに位置づけというふうな見通しは持たなかったのでしょうか。

○議長（沓掛計三君） 小林係長。

○総務企画課企画財政係長（小林利行君） こちらのほうでも十分に確認はしたつもりで、中学校費1本でよろしいんじゃないかというふうに思っていたところですけども、今回の起債を借りるに当たりまして、さまざまな指導をいただく中で分けたほうがよろしいということで御指導いただきましたので、分けさせていただきました。

○議長（沓掛計三君） ほかにございますか。

居鶴議員。

○7番（居鶴貞美君） 10ページをお願いをいたします。

目2の村営バス運行管理費の関係なんですけど、需用費の中に修繕料100万円が出ておりますが、マイクロバスというふうなお話があったと思うんですけど、もう一回説明をお願いいたします。

○議長（沓掛計三君） 片田総務企画課長。

○総務企画課長兼事業推進室長（片田幸男君） バスは、マイクロタイプの大き目のバスとワゴン車タイプのバス、2種類で運行させていただいています。大きいほうのバスというふう

に御理解をいただければと思います。こちらのほうのエンジンのチェックランプが点灯しまして、それによりまして大規模なエンジンの修理が必要になったということをお願いするものでございます。

○議長（沓掛計三君） 居鶴議員。

○7番（居鶴貞美君） この100万円を、多額になるんですが、この車の何年くらい前にお買いになったか、あるいはまた、今後買いかえとかそのようなお考えはどうなんですか。

○議長（沓掛計三君） 片田総務企画課長。

○総務企画課長兼事業推進室長（片田幸男君） 今回の今のバスが平成21年に導入しておりますので、ちょうど10年になろうかと思えます。バスもかなり高価なものでございますので、大事に長寿命化を図りながら、安全第一ですけれども、運行してまいりたいと思っています。

○議長（沓掛計三君） 居鶴議員。

○7番（居鶴貞美君） 大事に使うということは当然のことなんですが、いずれにしてもこのバス1台買うと相当な額が出ると思うんですが、購入あるいはリースということもありますので、その点も、今後ですがお考えいただければというふうに思います。

以上です。

○議長（沓掛計三君） ほかにございますか。

松澤議員。

○3番（松澤正登君） 13ページ、14ページで文化会館の管理費で備品購入費が49万5,000円ほど上がっているわけですが、集音マイクというと何かと、ちょっと聞き漏らしているんですけども、この内容についてもう一度説明をお願いしたいと思えます。

○議長（沓掛計三君） 沓掛教育長。

○教育長（沓掛英明君） 文化会館で講演をしていただいたときに、音がなかなか拾えないという事態がありましたので、もう少し性能のいいマイクを用意させていただきました。

以上であります。

○議長（沓掛計三君） 松澤議員。

○3番（松澤正登君） 私も講演等を聞いていて気がついたり、また聞いた方からもお話を聞くんです。今のお話のようないろんな中でいろんなことを拾って、十分な効果を上げるというお話でしたけれども、マイクそのものももう少し性能のいいマイクにさせていただいて、音量といいますか、そういうものはやっぱり後ろにいる方はいつも聞きにくいと、こんな声を聞いておりますので、その辺の改善もしっかりお願いしたいと思えますが、よろしくお願

します。

○議長（沓掛計三君） ほかにございますか。

堀内議員。

○9番（堀内富治君） 12ページをお願いをしたいと思います。

場合によれば勘違いをしているのかもしれませんが、農林水産費の補助金でありま
すけれども、農技連の補助金ということになっておりますが、これは焼酎の製造にかかわる
お金ですね。

○議長（沓掛計三君） 花見建設農林課長。

○参事兼建設農林課長兼農業振興係長（花見陽一君） これにつきましては、タチアカネの焼
酎の原材料に伴うものでございます。

○議長（沓掛計三君） 堀内議員。

○9番（堀内富治君） たしか1,200個というふうに聞いたというふうに覚えておるんですけ
れども、この数量につきましてどんな考えでこういうような数字の設定をされ、販売対策を
進められておるのかお伺いをしたいと思います。現状、ソバが主力でありますから、場合
によればソバの流通に影響してくる問題があるではないかというふうに思いますが、お願いを
したいと思います。

○議長（沓掛計三君） 花見建設農林課長。

○参事兼建設農林課長兼農業振興係長（花見陽一君） 製品の取り扱いにつきましては、2月
末では材料が63本ということで少なくなっておりましたので、ソバの原料につきましては、
昨年できたソバの原料をほかに必要なものを抜いた中で、残りのタチアカネ焼酎分というこ
とで確保しまして、その分を充当させていただきまして、これは実際持ち込んだ原材料に伴
いでき上がったもので、1,284本できるということの数字でございます。

○議長（沓掛計三君） 堀内議員。

○9番（堀内富治君） 別の形でもソバは流通されているというふうに承知はしておりますけ
れども、将来的に見て焼酎の加工についてはどんなように考えているか、お願いします。

○議長（沓掛計三君） 花見建設農林課長。

○参事兼建設農林課長兼農業振興係長（花見陽一君） ソバ焼酎として、青木村の特産として
ただいま普及させていただいておりますので、これにつきましては、継続して宣伝、また
タチアカネ焼酎は継続して販売をしていきたいというふうに考えております。

○議長（沓掛計三君） ほかにございますか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） 質疑なしと認めます。

これで質疑を終了します。

討論に入ります。

反対の方の討論を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） 賛成の方の討論を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） 討論終結、採決を行います。

議案第7号は原案のとおり決定することに賛成の方の挙手を願います。

〔挙手全員〕

○議長（沓掛計三君） 全員賛成。

議案第7号 平成30年度青木村一般会計補正予算については原案のとおり可決されました。

◎議案第8号の質疑、討論、採決

○議長（沓掛計三君） 続いて、議案第8号 平成30年度青木村別荘事業特別会計補正予算について質疑を行います。

質疑のある方。

宮下議員。

○5番（宮下壽章君） 10ページになりますが、賃金、委託料のところですが、除雪委託料を賃金のほうに振りかえたということですが、内容を御説明いただきたいんですが。

○議長（沓掛計三君） 塩澤推進室係長。

○総務企画課事業推進室係長（塩澤和宏君） それでは、お答えします。

昨年度までですが、入奈良本にお住まいの方に、重機をお持ちの方に業務委託という形でお願いをしておりましたが、本年度から別荘管理事務所のほうの雇った方に、直接、重機を村で買い上げていただいて、その重機を使って除雪を行っている関係で委託料から賃金に振りかえたというものでございます。

以上です。

○議長（沓掛計三君） ほかにございますか。

山本議員。

○10番（山本 悟君） 今回のページなんですけど、15の工事請負費140万円の減ということなんですけど、その理由と、それから積立金が140万円ですけれども、これは剰余金が出たからやるということなのか。その2点お尋ねします。

○議長（沓掛計三君） 片田総務企画課長。

○総務企画課長兼事業推進室長（片田幸男君） こちらにつきましては、工事費の中でトラクター等を格納する倉庫の建設を予定しておりまして、予算を盛り込んでおりました。この建設予定地に水道等の残土が出ましたものですから、盛り土を一部させていただいて、その上に建築しようということで進めておりましたけれども、やはりちょっと盛り土したということもありまして、少し土が落ちついてから建てたほうがいだろうということで、一時的にちょっとこの工事を今年度の中では取りやめをさせていただきまして、その分、基金に積ませていただいて、31年度で改めてその基金の財源等を使う中で、建設のほうは31年度でまた行っていきたいということでございます。

ですので、今申し上げましたとおり、積立金を31年度で工事する財源に使いたいということで、この分は積み立てとさせていただきということでございます。

○議長（沓掛計三君） 山本議員。

○10番（山本 悟君） 宮下議員の関連でお尋ねしますが、除雪を委託したら97万5,000円かかる、今度は機械を買って人を雇ってやると同じ97万5,000円、そっくり人件費に97万5,000円かかるということではなくて、単に振りかえたというふうに解釈すればいいんですか。

○議長（沓掛計三君） 塩澤推進室係長。

○総務企画課事業推進室係長（塩澤和宏君） お見込みのとおり、振りかえたということをお願いしたいんですが、実際の単価も委託をお願いした場合、時間当たり1万9,872円、賃金の場合は時間当たり9,000円ということと、あと2人体制で実施しますので、ほぼ単価としては同額ですので、委託料97万5,000円を落として、賃金97万5,000円に振りかえたということで御理解いただければと思います。

○議長（沓掛計三君） ほかにありますか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） 質疑なしと認めます。

これで質疑を終了します。

討論に入ります。

反対の方の討論を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） 賛成の方の討論を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） 討論終結、採決を行います。

議案第8号は原案のとおり決定することに賛成の方の挙手を願います。

〔挙手全員〕

○議長（沓掛計三君） 全員賛成。

議案第8号 平成30年度青木村別荘事業特別会計補正予算については原案のとおり可決されました。

◎議案第9号の質疑、討論、採決

○議長（沓掛計三君） 続いて、議案第9号 平成30年度青木村介護保険特別会計補正予算について質疑を行います。

質疑のある方。

坂井議員。

○2番（坂井 弘君） 8ページお願いいたします。

款3の国庫支出金の部分の目6の保険者機能強化推進交付金にかかわるところであります。青木村においてはどのような保険者機能強化推進が行われたことに対して、この額が交付されたのでしょうか。また、交付の基準はどう示されているのでしょうか。お願いいたします。

○議長（沓掛計三君） 小宮山住民福祉課長。

○住民福祉課長兼保健衛生係長（小宮山俊樹君） お答え申し上げます。

こちらのほうですが、まず、50万1,000円の根拠ということでございますが、県のほうから調査がございまして、それぞれ町村の取り組みに対する評価指標というものに基づいて、村のほうでは申告したわけでございます。指標の数が61項目ございまして、満点の場合612

点になるというものでございますが、こちら各項目ごとに村の取り組みを調査し、報告した上でこの額が示されたということでございます。

○議長（沓掛計三君） 坂井議員。

○2番（坂井 弘君） 612点中、青木村は何点だったんでしょう。

○議長（沓掛計三君） 小宮山住民福祉課長。

○住民福祉課長兼保健衛生係長（小宮山俊樹君） お答え申し上げます。

青木村は263点でございました。

○議長（沓掛計三君） 坂井議員。

○2番（坂井 弘君） 点数的には、テストで言えば50点以下というふうな点数になるかと思うんですが、その辺の取り組み状況について、なぜそのような数字であるのか、また今後どういうふうなことによってこの数字を上げることができるのか、そういったことについて、事細かくなくて結構ですが、考え方としてお示しいただきたいと思います。

○議長（沓掛計三君） 小宮山住民福祉課長。

○住民福祉課長兼保健衛生係長（小宮山俊樹君） こちら点数、余りいい点数とはなりませんでしたが、その理由につきまして、私どもで若干考察させていただきました。

まず、1つでございますが、地域密着型通所介護施設、こちらが当村にはございません。こちらは18歳以下の小規模な施設でございますが、特にこの施設、村になくとも、レポートの通所サービスで今現在足りているということもございます。こちら、これをやりたいという事業者がございましたら、当然その業者は喜んで受け入れはしたいと考えておるところでございますが、そのもの需要がない部分でございますので、この部分については全く点数が取れていないというのがございます。

それから、人的要件の部分でございますが、こちらはスタッフの中の資格の有無ということでございますが、リハビリテーションを専門とする職員、それから建築を専門とする職員、こちら住宅の改造の部分になりますけれども、こちらはやはり大きな市でないと、なかなかそこまでの専門職を確保できないという現実がございます。

実際、点数を比較いたしますと、長野県の場合ですが、上位5つが全て市でございます。下位の5つは全て村でございます。それで、3カ所、広域で行っている地区がございますが、こちらは全て高得点になっております。ですので、広域でやるような、ある意味、人的規模が整えられるようなところであると自然と点数は高くなっていく、そういった形の採点結果になっているというふうに評価いたしました。

○議長（沓掛計三君） 坂井議員。

○2番（坂井 弘君） 自治体規模によるところが大きいというふうな考察というふうに承りました。その部分についてはやむを得ない部分があるかなと思うわけですが、そうした部分以外で、村の御努力によって改善できるという部分はないのでしょうか。

○議長（沓掛計三君） 小宮山住民福祉課長。

○住民福祉課長兼保健衛生係長（小宮山俊樹君） こちらにつきましてですが、同じ上小の中でともに頑張っている長和町でございますが、結構いい点数が取れております。それほど長和町との間で、住民に対するサービスの差があるとは認識はしておりませんが、長和町がどのような活動をしているのか、規模も割と近いものですから、そこら辺を参考にいろいろ教わって、学ぶべきところは倣っていききたいと、そんなふう考えております。

○議長（沓掛計三君） ほかにありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） 質疑なしと認めます。

これで質疑を終了します。

討論に入ります。

反対の方の討論を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） 賛成の方の討論を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） 討論終結、採決を行います。

議案第9号は原案のとおり決定することに賛成の方の挙手を願います。

〔挙手全員〕

○議長（沓掛計三君） 全員賛成。

議案第9号 平成30年度青木村介護保険特別会計補正予算については原案のとおり可決されました。

ここで暫時休憩といたします。

40分から再開いたします。

休憩 午前10時30分

再開 午前10時40分

○議長（沓掛計三君） 会議を再開します。引き続き審議を進めます。

◎議案第10号の質疑、討論、採決

○議長（沓掛計三君） 議案第10号から議案第16号については、先ほど各委員長から報告が済んでいる案件でございます。

議案第10号 平成31年度青木村一般会計予算についてを議題とし、質疑に入ります。

〔「なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） 質疑なしと認めます。

これで質疑を終了します。

討論に入ります。

反対の方の討論を許します。

坂井議員。

○2番（坂井 弘君） 青木村一般会計予算について一部賛成、一部反対の立場で討論に参加をいたします。

平成31年度青木村一般会計予算には、福祉、医療また教育に関して、これまでになかった新たな施策が幾つも取り込まれています。委員会審議でも申し上げたことと重なりますが、その1つ目として、ゼロ歳から3歳児未満の子のおむつ処理費としてごみ袋支給制度が導入されたこと。この制度は、長野市などで既に実施されてはおりますが、全県的には実施している自治体は少なく、宮入議員の提案を受けた先進的な施策であるとする答弁もいただいたところでございます。さらに、自治体によっては、おむつ代そのものの購入費助成をしている自治体もあると聞いております。今後とも、より一層の子育て支援の充実を図っていただければと思います。

その2、インフルエンザ予防接種の補助を6カ月から3歳までの子並びに中学3年生に拡大し、1シーズン1人当たり3,000円の補助をすることとしたこと。これについては、村も今後さらに対象年齢を拡大する意向を示しています。未就学児、小学生、中学生全員に対象年齢が拡大されることを願ってやみません。

その3、満杯になっている児童発達支援センターにかわる障害児教育支援施設を村内に設置することにしたこと。現段階では、早期発達支援に限った取り組みであると聞いていますが、さらに重度障害のお子さんも通園できる施設になることを期待をします。

こうした画期的な施策を講じるための予算が盛り込まれたことには、大いに歓迎し賛同するものです。

しかし、その一方、看過できない予算案でもあります。

1つ目、国保税に関連する問題です。本年4月より青木村の国保税が1.87%値上げされました。来年度はさらに7.27%値上げされることとなっています。そもそも国保税が高い理由は、国保制度そのものに問題があることは言うに及びません。しかしながら、村段階で国保税の値上げを回避する最も有効な手だては、健康寿命延伸の取り組みを進めるとともに、一般会計からの国保特別会計への繰り出しです。

昨年末には、補正予算で3,000万円の法定外繰り出しが行われました。そのために、値上げ幅を最小限に食いとめることができました。しかし、来年度予算では同様の法定外繰り出しが措置されておりません。県議会での質問に対し、県は、市町村一般財源からの繰り入れも、現時点では引き続き、市町村の判断において行うことが可能と答弁しています。青木村でも昨年度、同程度の法定外繰り入れを予算化するよう求めてきたものであります。

2つ目、五島慶太未来創造館の建設についてです。この記念館の建設については、賛同すべきか否か、実のところ大変迷いました。そこで、何人もの村民の方々にお考えをお聞きしてまいりました。

ある方は、未来創造館の建設によって首都圏や東急グループさんとの太いパイプができる。都市大学ともパイプを太くし、青木村出身者の推薦入学生枠の確保、都市大学生の村への受け入れ、そうしたことも期待できる。未来志向で建設すべきだ。今までできなかったことを村長はよくやったと、大変評価している方もいらっしゃいました。その一方で、道の駅もやっと整備が終わったところだ。これ以上箱物をこしらえたら維持費が大変になる。箱物より、今喫緊に考えなければならないのは、福祉、医療政策だとおっしゃる方も何人もいらっしゃいました。

先般の社会文教委員会で、維持費の見通しを尋ねたところ、算定していないというお答えでしたが、その後、民俗資料館の光熱費が26万円ほどなので、同程度であろうというお答えをいただきました。しかし、維持費は光熱費だけではありません。メンテナンス等にも多くの費用を要するのではないのでしょうか。先ごろ、東御市の高地トレーニングプールの建設費

が問題になりました。想定していた企業からの寄附が集まらない。よって、一般会計からの捻出をするというものです。

五島慶太未来創造館の建設には1億6,600万円が計上され、半分の8,300万円を国からの地方創生拠点整備交付金によって賄い、残りの8,300万円を企業版ふるさと応援寄附金に頼るとしています。果たして寄附金は想定した額が見込めるのでしょうか。その具体的な計画は、議会に示されておられません。

さきの総務建設産業委員会にオブザーバー参加し、質問したところ、村長のお答えは、現段階では公表はできないが、当てはある、一生懸命努力するというものでした。このお答えでは、村長を信用するしかないということになります。もちろん、村長のお人柄、行政手腕には大いに敬服し、信頼を寄せるものですが、だからといって、具体的な事柄が見えないまま賛成するということでは、議会の責任を果たすことにはなりません。寄附金が集まらない場合、東御市のように一般会計で補填することにならざるを得ない危険をはらみながらの状況では、賛成しがたいものがあります。

加えて、五島慶太氏に対する評価についても、村民の一致するところとはなっていません。五島慶太未来創造館が村民の精神的支柱となり得るのかどうか、疑問が残ります。村民挙げて顕彰すべき人間像は、義民に象徴されるように村民の幸福や平和を願い、命をかけて行動し、普遍的にその価値がたっとばれるべき人間なのではないのでしょうか。

以上申し上げ、平成31年度青木村一般会計予算については、承服しがたい部分があることから反対を表明いたします。

○議長（沓掛計三君） それでは、賛成の方の討論を願います。

松澤議員。

○3番（松澤正登君） それでは、平成31年度一般会計予算に賛成の立場で討論をいたします。

平成31年度一般会計予算27億6,000万円の歳入歳出について、総務建設産業委員会から社会文教委員会に付託されました議案について審議をいたしました。総務建設産業委員会では、歳入の部では、村税が前年度比2.7%の増、地方交付税が1.0%の増、国庫補助金は14.8%の増、寄附金については企業版ふるさと応援寄附金が8,300万円で、総額9,792万2,000円の前年度比547.5%の大幅増が見込まれました。

歳出では、総務企画課と商工観光移住課関係では、地方創生プロジェクト事業費の工事請負費として、五島慶太翁の志を未来に引き継ぐ五島慶太翁顕彰プロジェクトの一環として、五島慶太未来創造館（仮称）の建設のために工事請負費として1億6,181万円が計上されま

した。また、公民館等指定避難所への冷暖房工事費、住宅用太陽光発電設備導入補助金の充実等、多方面にわたり編成されており、財政上からも寄附金を充てるなど考慮されております。

建設農林課関係では、松くい虫対策費や有害鳥獣対策は、村民生活を守るため今年度も多額の予算化がされました。農業委員会費では農地情報システム管理委託費として、農地利用状況調査にタブレットパソコンの導入が計上されました。また、農業振興費では、新規就農者支援体制整備事業も盛り込まれ、就農者への支援体制が盛り込まれています。

住民福祉課関係では、日本一住みたい村づくりを掲げる中、インフルエンザ予防事業の充実、出生児世帯おむつごみ処理事業の新設、そして妊婦・出産包括支援委託事業など、子育て支援策の充実に力を入れております。

また、家庭・教育・福祉の連携プロジェクトとして、障害児早期支援事業と関連する補助事業に616万円を計上するなど、青木村のインクルーシブ教育を支える早期支援策として通所施設の開設を図るなど、村の子供は村で育てるという村全体で子供たちの成長を支える仕組みが発揮されています。

教育委員会関係では、小学校ICT教育により充実を図るべく、機器設備の更新に537万1,000円、上田地域図書館情報ネットワークの充実として、図書館システムの更新、児童センター空調設備設置補助工事、また、工場団地の造成が予定されるに当たって、埋蔵文化財試掘調査費が盛り込まれました。インクルーシブ教育、ICT教育の継続で住みよい村づくり、子育て、教育なら青木村と言われる取り組みがなされていると思います。

以上、全般にわたり誠意精査された予算と認め、評価いたします。今後も適正かつ効果的に予算運営がされますようお願い申して賛成討論といたします。

以上です。

○議長（沓掛計三君） 反対の方の討論ございますか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） 賛成の方の討論ございますか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） 討論終結、採決を行います。

議案第10号は原案のとおり決定することに賛成の方の挙手を願います。

〔挙手多数〕

○議長（沓掛計三君） 賛成多数。

議案第10号 平成31年度青木村一般会計予算については原案のとおり可決されました。

◎議案第11号の質疑、討論、採決

○議長（沓掛計三君） 続いて、議案第11号 平成31年度青木村国民健康保険特別会計予算について質疑を行います。

質疑のある方。

〔「なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） 質疑なしと認めます。

質疑を終了します。

討論に入ります。

反対の方の討論を許します。

坂井議員。

○2番（坂井 弘君） 青木村国民健康保険特別会計予算について、反対の立場で討論をいたします。

本予算案は、さきの一般会計予算についての討論でも申し上げたとおり、本年度1.87%、来年度7.27%、通算9.28%国保税を値上げすることを見込んでの予算案となっています。

2年間で1割近い値上げとなる国保税の引き上げは、被保険者世帯の生活に大打撃を与えるものとなります。しかも、本年度の値上げは昨年度の所得割部分の値上げと違い、均等割部分の値上げであり、家族数に応じ家族が多ければ多いほど、子供が多ければ多いほど負担が重くなる値上げです。

1人当たり基礎課税額6,500円、後期高齢者支援金等課税額1,400円、介護給付金課税額3,000円、計1万900円の値上げになります。4人家族ならばその4倍、4万3,600円、6人家族ならば6万5,400円の値上げです。負担増というには余りに高額、過酷な値上げになっているのではないのでしょうか。村では1,500万円の基金繰り入れをし、値上げを抑える努力をいただいているところではありますが、被保険者世帯の立場に立つならば十分とは申せません。

12月議会において、私は、子供の均等割について軽減措置を図るよう提案してきました。全国では、この軽減措置を行っている自治体は、既に少なくとも25自治体を超えています。岩手県宮古市では、来年度予算において18歳以下の子供の均等割を全額免除することにしま

した。しかし、平成31年度青木村国民健康保険特別会計予算では、こうした措置は一切とられておりません。均等割減免措置を検討することなく、国保税値上げを既成事実化する平成31年度青木村国民健康保険特別会計予算については、国の国保制度の抜本的改正を求めつつ反対をいたします。

○議長（沓掛計三君） 賛成の方の討論を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） 反対の方の討論を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） 討論終結、採決を行います。

議案第11号は原案のとおり決定することに賛成の方の挙手を願います。

〔挙手多数〕

○議長（沓掛計三君） 賛成多数。

議案第11号 平成31年度青木村国民健康保険特別会計予算については原案のとおり可決されました。

◎議案第12号の質疑、討論、採決

○議長（沓掛計三君） 続いて、議案第12号 平成31年度青木村簡易水道特別会計予算について質疑を行います。

〔「なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） 質疑なしと認めます。

これで質疑を終了します。

討論に入ります。

反対の方の討論を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） 賛成の方の討論を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） 討論終結、採決を行います。

議案第12号は原案のとおり決定することに賛成の方の挙手を願います。

[挙手全員]

○議長（沓掛計三君） 全員賛成。

議案第12号 平成31年度青木村簡易水道特別会計予算については原案のとおり可決されました。

◎議案第13号の質疑、討論、採決

○議長（沓掛計三君） 続いて、議案第13号 平成31年度青木村別荘事業特別会計予算について質疑を行います。

[「なし」の声あり]

○議長（沓掛計三君） 質疑なしと認めます。

これで質疑を終了します。

討論に入ります。

反対の方の討論を許します。

[「なし」の声あり]

○議長（沓掛計三君） 賛成の方の討論を許します。

[「なし」の声あり]

○議長（沓掛計三君） 討論終結、採決を行います。

議案第13号は原案のとおり決定することに賛成の方の挙手を願います。

[挙手全員]

○議長（沓掛計三君） 全員賛成。

議案第13号 平成31年度青木村別荘事業特別会計予算については原案のとおり可決されました。

◎議案第14号の質疑、討論、採決

○議長（沓掛計三君） 続いて、議案第14号 平成31年度青木村特定環境保全公共下水道事業特別会計予算について質疑を行います。

質疑のある方。

〔「なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） 質疑なしと認めます。

これで質疑を終了します。

討論に入ります。

反対の方の討論を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） 賛成の方の討論を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） 討論終結。

議案第14号は原案のとおり決定することに賛成の方の挙手を願います。

〔挙手全員〕

○議長（沓掛計三君） 全員賛成。

議案第14号 平成31年度青木村特定環境保全公共下水道事業特別会計予算については原案のとおり可決されました。

◎議案第15号の質疑、討論、採決

○議長（沓掛計三君） 続いて、議案第15号 平成31年度青木村介護保険特別会計予算について質疑を行います。

質疑のある方。

〔「なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） 質疑なしと認めます。

これで質疑を終了します。

討論に入ります。

反対の方の討論を許します。

坂井議員。

○2番（坂井 弘君） 青木村介護保険特別会計予算について、反対の立場で意見を申し述べます。

本予算は、介護保険料が本年度より基準額において5,700円から6,000円に値上げされたことに基づいて編成された予算案であり、村民生活を守る上で値上げは認められないという立場から反対を表明します。

○議長（沓掛計三君） 賛成の方の討論を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） 反対の方の討論を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） 討論終結、採決を行います。

議案第15号は原案のとおり決定することに賛成の方の挙手を願います。

〔挙手多数〕

○議長（沓掛計三君） 賛成多数。

議案第15号 平成31年度青木村介護保険特別会計予算については原案のとおり可決されました。

◎議案第16号の質疑、討論、採決

○議長（沓掛計三君） 続いて、議案第16号 平成31年度青木村後期高齢者医療特別会計予算について質疑を行います。

〔「なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） 質疑なしと認めます。

これで質疑を終了します。

討論に入ります。

反対の方の討論を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） 賛成の方の討論を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） 討論終結、採決を行います。

議案第16号は原案のとおり決定することに賛成の方の挙手を願います。

〔挙手全員〕

○議長（沓掛計三君） 全員賛成。

議案第16号 平成31年度青木村後期高齢者医療特別会計予算については原案のとおり可決されました。

◎請願第1号の質疑、討論、採決

○議長（沓掛計三君） 続いて、請願第1号 長野県の子ども・障がい者等の医療費窓口完全無料化を求める請願についてを議題とし、質疑を行います。

質疑のある方。

〔「なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） 質疑なしと認めます。

これで質疑を終了します。

討論に入ります。

反対の方の討論を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） 賛成の方の討論を許します。

坂井議員。

○2番（坂井 弘君） 本請願が12月議会で採択されず、継続審査とされて社会文教委員会に付託されることとなったきっかけは、12月議会における宮下壽章議員の次のような発言からでした。

「入院・通院無料化ということですが、こういったものについては、恐らく年間に200万、300万という金額が村としては必要になってくるかと思うわけでございます。中略。こういったものは、恒久的な事業ということで、毎年かかってくるようになると思うわけでございます。」

以上の発言は、本会議の場でなされたものですから、本日はこの発言に対する見解を述べておく必要があると思ひ、発言をいたします。

本請願が採択された場合、村の負担がどうなるのか明快にお答えをしておきたいと思ひます。住民福祉課の調査では、青木村が18歳まで子供の医療費を引き上げていることによる年間経費は600万円、このうちゼロ歳から6歳の入院・通院分並びに7歳から15歳の入院分に

については、県が2分の1負担していることから110万円が戻り、差し引き490万円を村が財政負担している現状にあるということです。

これに対し、請願事項の2並びに3、すなわち6歳に達する年の年度末までの子供に限らず、18歳に達する年の年度末までの子供の通院医療費を窓口無料化すること及び15歳に達する年の年度末までの子供に限らず、18歳に達する年の年度末までの子供の入院医療費を窓口無料化することの2項目の請願が県に受け入れられた場合は、入・通院ともに18歳まで県が2分の1負担することになります。そのため、先ほどの年間経費600万円の2分の1、300万円が県負担となり、村の持ち出しは300万円となって、現在の490万円より190万円減ることとなります。

一方、請願事項1の子供や障害者等の500円の受給者負担を撤廃することについては、子供に限って言えば、受給者負担を撤廃した場合に上乗せされる経費は、平成29年度実績で算定すると268万8,000円と報告をいただいております、その2分の1の134万4,000円が村負担となります。先ほどの190万円の減額と相殺しても、なおかつ55万6,000円の減額となっています。

さらに、子供だけでなく障害者、母子父子家庭等とも含めて受給者負担を撤廃した場合でも、上乗せされる経費は平成29年度実績で493万3,000円、村で負担するのは2分の1の246万6,500円、190万円の減額分と相殺するならば56万何円がしかの持ち出しになるにすぎません。12月議会で宮下議員のおっしゃった200万、300万という金額にはほど遠い額です。

請願事項4、ひとり親世帯や障害者の医療費についても、現行の自動給付方式を改め、窓口無料にすることについては、現行の自動給付方式を現物支給方式に改めるだけのことであり、新たな財政負担を生むものではありません。

以上の点から、本請願採択により村財政に過大な負担をかけることにはならないことは明白です。

次に、子供の医療費窓口無料化が昨年8月に実現したばかりであり、本請願を採択するのは時期尚早ではないかとする御意見を伺うこともありました。そこで、この点についても一言申し上げておきます。

御承知のとおり、昨年8月に子供の医療費窓口無料化が実現したのは、二十数年来にわたる県民的取り組みによるものです。窓口無料化を求める多くの県民署名を積み上げ、県議会における五十数回にも及ぶ質問・要求、そして市町村議会での質問・要求、このような意見書提出、そうした県民の願いに沿った取り組みを行ってきた成果です。

本請願の趣旨は、そうした取り組みの延長線上にあり、県民要求のさらなる高みの実現を

目指す取り組みです。本請願の趣旨に異を唱える方は誰もいません。そうであるならば、時期尚早という言葉は意味をなしません。道理を貫くのに何をはばかることがあるでしょう。村民の願いに耳を傾け、一日も早くその実現のために奮闘することこそが議会の責務ではないでしょうか。本議会において、多くの議員の賛同が得られ、本請願が圧倒的多数で採択されることを期待し、賛成討論といたします。

○議長（沓掛計三君） 反対討論の方おりますか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） 賛成討論おりますか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） 討論終結、採決を行います。

請願第1号は原案のとおり採択することに賛成の方の挙手を願います。

〔挙手多数〕

○議長（沓掛計三君） 賛成多数。

請願第1号 長野県の子ども・障がい者等の医療費窓口完全無料化を求める請願については原案のとおり採択することに決しました。

◎閉会の宣告

○議長（沓掛計三君） お諮りします。

本定例会に付議されました案件は全て終了しました。

したがって、会議規則第7条の規定によって本日で閉会としたいと思います。これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（沓掛計三君） 異議なしと認めます。

本定例会は本日で閉会することに決定しました。

これで本日の会議を閉じます。

平成31年第1回青木村議会定例会を閉会といたします。

閉会 午前11時08分

以上会議のてん末を記載し、地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

平成 年 月 日

青木村議会議長

青木村議会議員

青木村議会議員

平成三十一年

第一回〔三月〕定例会

青木村議会議録

平成三十一年

第一回〔三月〕定例会

青木村議会議録